

兵庫県立 こども病院 年報 2020 VOL.51

50周年記念特別号

HYOGO PREFECTURAL
KOBE CHILDREN'S HOSPITAL ANNUAL REPORT 20 VOL.51

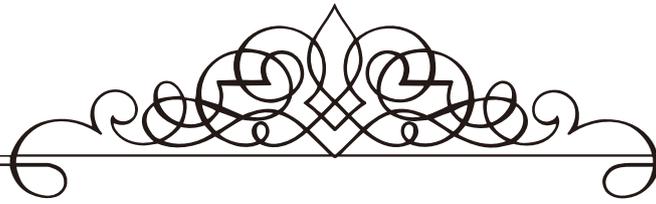


基本理念

周産期・小児医療の総合施設として、母とこどもの高度専門医療を通じて、親と地域社会と一体になってこどもたちの健やかな成長を目指します。

基本方針

- 1 患者の権利を尊重した医療の実践
- 2 安全・安心と信頼の医療の遂行
- 3 高度に専門化されたチーム医療の推進
- 4 地域の医療・保健・福祉・教育機関との連携
- 5 親とこどもが一体となった治療の推進
- 6 こどもへの愛とまことに満ちた医療人の育成
- 7 医療ボランティアとの協調による患者サービスの向上
- 8 継続的な高度専門医療提供のための経営の効率化

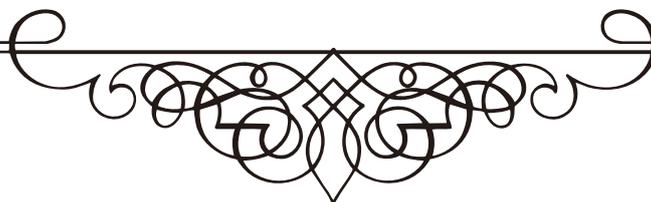


患者の権利

- 1 あなたはひとりの人間として尊重され、おもいやりのある医療を受ける権利があります。
- 2 あなたとご家族は、理解しやすい言葉や方法で十分な説明と情報を得て、治療計画に参加する権利があります。
- 3 あなたとご家族には、治療方針について同意や拒否する権利及びセカンドオピニオンを受ける権利があります。
- 4 あなたとご家族のプライバシーは守られます。

みなさまと私たちがお互いを尊重しあい、良質な医療を実現していけるよう次のことにご協力ください。

- 病気について理解し、安心して医療が受けられるよう、今までの経過・病状の変化や問題について詳しく正確にお知らせください。
- 病院のきまりや約束ごとをお守りください。



目 次

開設 50 周年記念誌

I 祝 開設 50 周年

杉村 和朗 兵庫県病院事業管理者	1
飯島 一誠 院長	2
中尾 秀人 名誉院長	4

II 兵庫県立こども病院の変遷

延べ患者数の推移	5
病床利用率と平均在院日数の推移	7

III 兵庫県立こども病院の思い出

長嶋 達也 名誉院長	9
谷風 三郎 元副院長	10
西島 栄治 元副院長	11
大橋 正伸 元周産期医療センター所長	13
村田 洋 元麻酔科部長・参事	15
藤久保 真季 元副院長兼看護部長	17
上田 美鈴 元看護部主査	18
合田 泰志 薬剤部長	19
松尾 美也子 元検査技師長	20
芦原 龍彦 元放射線技師長	21

IV 写真が語るこども病院の歴史

年報 2020

I 病 院 概 要

1 兵庫県立こども病院の設立目的	31
2 沿 革	31
3 業 務 図	34
(1) 機構一覧表	34
(2) 担当医師表	35
(3) 外来診療スケジュール	36
4 職 員	37
(1) 職種別人員表	37
5 近畿厚生局長への届出に関する事項	38
6 研修・教育認定施設内容	39
7 委員会等一覧	40

II 医事経理関係

III 診 療 統 計

1 総合診療科	61
2 救急科	63
3 代謝内分泌内科	65
4 リウマチ科	66

5	アレルギー科	67
6	神経内科	68
7	血液・腫瘍内科	70
8	循環器内科	74
9	腎臓内科	76
10	感染症科	78
11	臨床遺伝科	80
12	精神科	84
13	小児外科	88
14	心臓血管外科	92
15	脳神経外科	96
16	形成外科	99
17	整形外科	100
18	リハビリテーション科	102
19	眼科	103
20	耳鼻咽喉科	105
21	泌尿器科	108
22	小児歯科	109
23	麻酔科	110
24	新生児内科	112
25	産科	115
26	放射線診断科／放射線治療科	119
27	小児集中治療科	121
28	病理診断科	123
29	看護部	124
30	薬剤部	136
31	検査・放射線部（検査部門）	140
32	検査・放射線部（放射線部門）	143
33	リハビリテーション部	147
34	栄養管理部	150
35	家族支援・地域医療連携部	155
36	ME室	159
37	医療安全管理室	160
38	感染対策室	162
39	褥瘡管理室	167
40	がん相談支援室	168
41	院内学級	169
42	医師事務作業補助者（医師クラーク）	170
IV 学術・研究・教育活動		
1	書籍	171
2	雑誌発表	176
3	学会発表	222
4	報道	237
5	実習生・研修生受け入れ状況	238
6	院内・院外研修	242
V ボランティア		
		259



開設 50 周年 記念 誌





I 祝開設50周年





兵庫県立こども病院開設 50 周年を祝して

兵庫県病院事業管理者
杉村 和朗

兵庫県立病院は、規模、診療内容ともに全国有数の病院群として高く評価されています。今回開設 50 周年を迎える兵庫県立こども病院は、国立小児病院に次ぐ小児専門病院の一つとして、昭和 45 年に須磨に設立されました。私は昭和 46 年に大学に入学しましたので、阪神高速に沿ってそびえる瀟洒な病院を見るたびに、同期生に会うような親しみと、この様な全国有数の病院が兵庫県にあることに、県民の一員として誇らしい気持ちで眺めていました。こども病院が設立 50 周年を迎える時に、病院事業管理者として職員と共に祝いできることを大変嬉しく思っています。

開院後早くから、小児専門の中核病院としての実績をあげ、頻繁に新聞、テレビで報道され、全国の小児医療をリードする最先端の病院としての地歩を固めてきました。本邦のみならず、海外からも来院する患者、全国から集まる様々な職種の研修者、またこども病院を卒業後国内外で活躍する医師達を見て、あこがれを持つ若手も多かったと思います。海側には県民の憩いの場である離宮公園があり、背面には歴史ある山並みが続く、最高の環境に設立された病院は、県民に信頼され、愛され発展していました。しかし小児医療の急速な進歩によって、機能強化のための新病院設立が必須となってきました。院内、院外で様々な議論の後、平成 28 年 5 月 1 日にポートアイランドに日本を代表する最先端のこども専門病院として開院しました。

総合周産期医療センター、小児救急医療センター、小児心臓センターをはじめ、こども病院は小児医療の最後の砦としての役目を果たしてきまし

た。小児がんに関しては、平成 25 年 2 月に厚生労働省が全国で 15 施設を小児がん拠点病院に指定しましたが、近畿圏では兵庫県立こども病院をはじめ、5 施設が指定されました。それに引き続いて、平成 26 年 4 月には小児がん医療センターを開設し、がん医療の中核施設としてきめ細かな集学的治療の提供と他施設との連携強化を進めてきました。多くの小児固形がんに対する放射線治療の有用性はよく知られていますが、近年急速な進歩を遂げている高精度放射線治療でも、小児ならではの問題点があり、その解決のために小児に特化した粒子線治療の設置が待たれていました。平成 29 年 12 月に新こども病院に隣接して、本邦で唯一小児がん専用治療室を有する、神戸陽子線センターを開設し、がん医療に対する存在感がより高まっています。神戸陽子線センター開院後は、予想通り急速に県内外からの治療希望が増加し、西日本での拠点としての役割を果たしています。

新しい 50 年が始まっていますが、開設 100 周年に向けて、先人達が築いた業績を発展させて、県民が拠り所にする病院へ、そして全国、世界から信頼される病院として、より発展していく事を職員一同決意しています。引き続き、兵庫県立こども病院を温かく見守って頂けますよう、県民の皆様方、関係各位にお願い致します。



兵庫県立こども病院開設 50 周年にあたって

兵庫県立こども病院 院長
飯島 一誠

兵庫県立こども病院は、兵庫県政 100 年の記念事業の一環として、昭和 45 年（1970 年）に開設されました。わが国の小児病院としては、国立小児病院（現在の国立成育医療研究センター）に次いで設立された伝統ある小児病院であり、院長として開設 50 周年を迎えるにあたって、大きな喜びを感じると同時に、少子化という逆風のなかで病院経営を担う責任の重大さに身の引き締まる思いです。

当院は、「周産期・小児医療の総合施設として、母とこどもの高度専門医療を通じて、親と地域社会と一体となって、こどもたちの健やかな成長を目指す」という基本理念のもとに、総合周産期母子医療センター、小児がん医療センター、小児心臓センター、小児救命救急センター等を開設、集中治療機能の強化及び救急医療体制の整備を進め、こどもとご家族を支える“最後の砦”として、24 時間体制の診療を行ってきました。一方で、長期にわたり疾患とともに生活していくこどもたちとご家族に対する支援と癒しの場としての機能も併せ持つように、在宅療養移行支援病棟や地域連携部門の充実に努めてきました。

当院は、小児がん拠点病院であり、隣接する神戸陽子線センターと連携し、全国の対象患者を視野に入れ、より高度な小児がん医療を展開しています。また、兵庫県アレルギー疾患拠点病院として、難治性アレルギー疾患に対する最新の医療も提供しています。さらに、当院は未診断疾患イニシアチブ（Initiative on Rare and Undiagnosed Diseases, IRUD）地域拠点病院である神戸大学医学部附属病院の協力病院であり、染色体や遺伝子

に原因があるさまざまな病気を持つ患者さんの診療や遺伝相談にも力を入れています。加えて、がんゲノム医療連携病院として、がんゲノム医療も推進しており、これらのゲノム医療を推進・発展させる目的で、令和 5 年度にゲノム医療センターを開設する予定です。

令和元年（2019 年）12 月に“成育基本法”が施行され、その理念に則って令和 3 年（2021 年）2 月に、“成育医療等の提供に関する施策の総合的な推進に関する基本的な方針（基本方針）”が閣議決定されました。この基本方針では、国及び地方公共団体は、責務として、“成育基本法に定める基本理念に則り、成育医療等の提供に関する施策を総合的に策定し実施する必要がある”と明記されています。また、我々、成育医療に携わる医療関係者も、責務として、“国及び地方公共団体が講ずる成育医療等の提供に関する施策に協力し、良質かつ適切な成育医療等を提供する必要がある”と明記されています。一方で、このような施策の実施に必要な科学的知見（エビデンス）の収集の重要性についても記載されていますが、我々、成育医療に携わる医師が中心となって、そのエビデンスを創出するための研究をしっかりと行っていく必要があると考えます。

最近の医学の進歩は目を見張るものがあり、これまで治らないと考えられていた小児の難病に対しても有効な治療法が次々と開発されています。これまでと同様の診療を行うだけで満足しているようでは、今後も当院がサステナブルに発展することは望めません。臨床医もリサーチマインドを持ち積極的に研究に取り組まなければ、最新・最

良の医療は提供できない時代になっています。少子化が進行するなかで、ブランディングを強化するという意味でも、研究成果を上げて情報発信していくことが重要です。今後は、リサーチマインドの醸成とともに、研究支援体制の整備にも力を入れたいと考えています。

小児・周産期医療のプロフェッショナルとして最新・最良の医療を提供することは当然のこととして、近接する神戸大学や神戸理研との連携をさ

らに深め、いまだに原因も分からず治療もない難病に苦しむ子どもたちやそのご家族に明るい希望を与えられるような研究を行い、積極的に情報発信していくことで、全国や世界から、より一層信頼される病院となることを目指したいと思えます。

今後とも、県民の皆様や関係各位のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



創立 50 周年を迎え、さらなる飛躍を目指して

名誉院長
中尾 秀人

こども病院は、昭和 45 年（1970 年）に、県政 100 周年の記念事業の一環で、日本で 2 番目の小児専門病院として開設されました。令和 2 年（2020 年）に 50 周年を迎えています。この間、小児医療の進歩、医療を取り巻く環境の変化に適応しながら、日本の小児医療の最先端を担うべく全員が心を一つにして参りました。50 年の間に、小児・周産期医療はその対象を、出生前の関わりから、成人への移行期、更には、一生涯を見据えた医療へと広げています。50 年にわたって、小児・周産期医療のノウハウ・知恵が蓄積されている事は大きな誇りであり、無形の財産です。これを皆様に役立つものとして、これからも変容していく時代に合わせて、変化し、蓄積し続けなくてはなりません。

今、私達が充実感をもって、小児医療に勤しめるのは、心血を注いでこども病院の診療を築いてこられた多くの先輩医療関係者の努力と共に、信頼を寄せて治療をお受けいただいた数多くの患者・ご家族のおかげであると深く感謝しております。

2016 年には、神戸医療産業都市の中核施設となるべく、ポートアイランドに移転開院し、総合周産期母子医療センター、小児救命救急センター、小児がん医療センター、小児心臓センターを中心に、こどもとご家族を支える“最後の砦”として、当院での医療を必要とする患者様に、24 時間体制での切れ目のない対応を心がけてまいりました。急性期の高度な集学的治療を行うと同時に、長期にわたり疾患と共に生活しているこども達とご家族に対する支援と癒しの場としての機能の充実も

図っているところです。さらには、小児医療に携わる医療人の教育や、臨床研究の推進、小児・周産期医療に関する社会への情報発信にも力を注いでいこうと考えております。

誰もが感じているように、社会の分断化が進み、少し非寛容になって、医療の現場では困難な状況、心が折れそうになる場面があるかも知れません。しかし、小児・周産期医療、将来の日本を支えるこども達の医療は、なにより大切という揺るがぬ信念で、お互いの考えを理解しあえる医療の現場になるように、努力を続けていく所存です。

病院の理念や基本方針の患者の権利の項に、明記してあるように、患者さんは、人間として尊重され、思いやりのある医療を受ける権利があります。十分な説明と情報を得て、治療計画に参加する権利があります。この事をよくかみしめて、“医療は素晴らしい仕事だ”と心から思えるように、みんなで力を合わせていきたいと存じます。今後とも、どうぞ宜しくお願い致します。



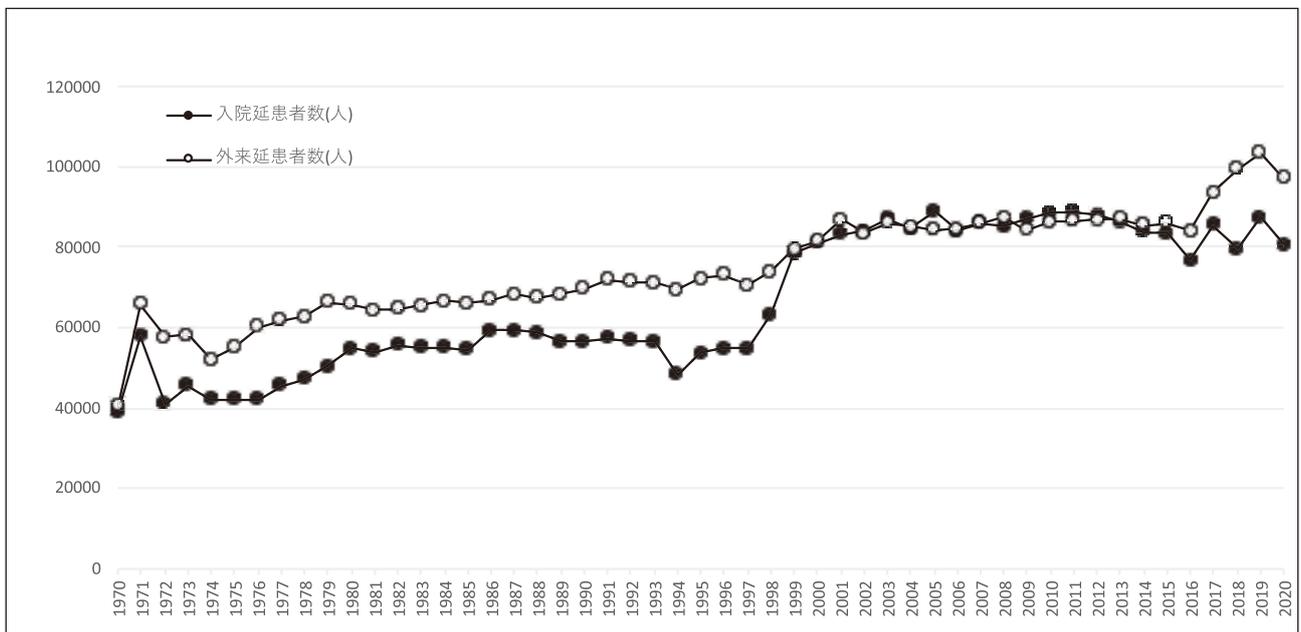
II 兵庫県立こども病院の変遷



延べ患者数の推移

年度	病床数（稼働病床）	入院		外来	
		延患者数	平均患者数	延患者数	平均患者数
1970	290 (290)	39,067	119.1	40,395	165.7
1971		57,795	157.9	65,821	220.1
1972		40,930	112.1	57,503	193.0
1973		45,398	124.4	58,092	196.3
1974		42,126	115.4	52,122	171.9
1975		42,157	115.1	55,078	185.4
1976		42,138	115.4	60,023	202.1
1977		45,523	124.7	61,954	208.4
1978		47,140	129.2	62,801	211.4
1979		50,441	137.8	66,303	223.2
1980		54,872	150.3	65,636	221.7
1981		53,882	147.6	64,350	216.7
1982		55,759	152.8	64,541	217.3
1983		55,094	150.5	65,347	219.3
1984		55,219	151.3	66,613	225.0
1985		54,446	149.2	66,064	222.4
1986		59,276	162.4	66,776	225.6
1987		59,442	162.4	68,389	229.5
1988		58,806	161.1	67,486	228.8
1989		56,590	155.0	68,263	231.4
1990		56,601	155.1	69,570	237.4
1991		57,305	156.6	71,833	242.7
1992	260 (260) → 290 (290)	56,836	155.7	71,346	257.6
1993		56,373	154.4	71,074	291.3
1994		48,321	132.4	69,283	282.8
1995		53,803	147.0	72,316	294.0
1996		54,764	150.0	73,131	298.5
1997		54,888	150.4	70,649	288.4
1998		63,349	173.6	74,034	302.2
1999		78,471	214.4	79,504	325.8
2000		80,997	221.9	81,461	332.5
2001		83,277	228.2	86,804	354.3
2002	290 (260)	84,104	230.4	83,348	340.2
2003		87,001	237.7	85,920	349.3
2004		84,578	231.7	85,089	350.2
2005		88,923	244.0	84,350	346.0
2006		83,985	230.0	84,567	345.0
2007	290 (266)	86,111	235.3	85,922	350.7
2008		85,047	233.0	87,351	359.5
2009		86,991	238.3	84,186	347.9

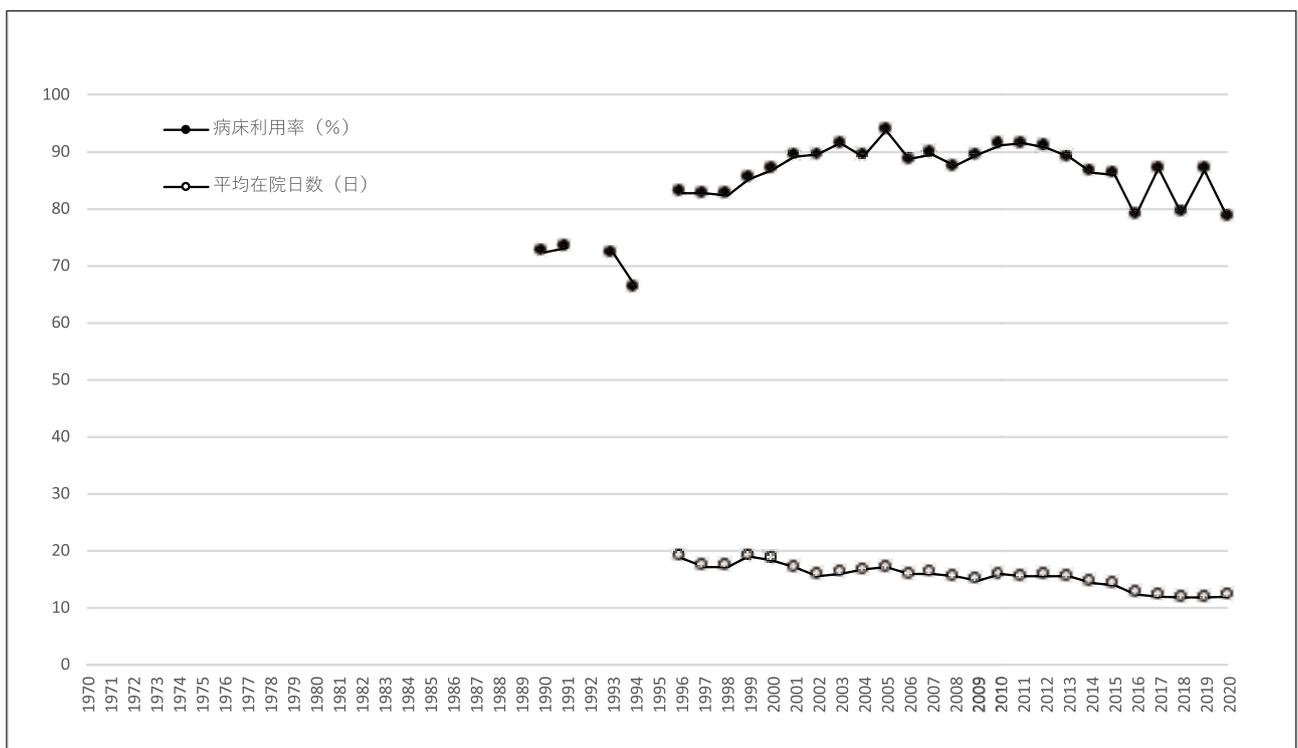
年度	病床数 (稼働病床)	入院		外来	
		延患者数	平均患者数	延患者数	平均患者数
2010		88,487	242.4	86,269	355.0
2011		88,849	242.8	86,464	354.4
2012		88,036	241.2	86,902	354.7
2013		86,385	236.7	87,254	357.6
2014		83,843	229.7	85,527	350.5
2015		83,583	228.4	86,135	354.5
2016	290 (267)	76,733	210.2	84,099	346.1
2017	290 (269)	85,354	233.8	93,614	383.7
2018	290 (275)	79,417	217.6	99,518	407.9
2019		87,299	238.5	103,384	430.8
2020	290 (282)	80,604	220.8	97,305	400.4



病床利用率と平均在院日数の推移

年度	病床利用率	平均在院日数
1970		
1971		
1972		
1973		
1974		
1975		
1976		
1977		
1978		
1979		
1980		
1981		
1982		
1983		
1984		
1985		
1986		
1987		
1988		
1989		
1990	72.4	
1991	73.2	
1992		
1993	72.2	
1994	66.2	
1995		

年度	病床利用率	平均在院日数
1996	82.7	18.9
1997	82.6	17.2
1998	82.3	17.2
1999	85.2	19.0
2000	86.7	18.5
2001	89.1	17.0
2002	89.4	15.6
2003	91.4	16.0
2004	89.1	16.7
2005	93.7	17.0
2006	88.5	15.8
2007	89.5	16.0
2008	87.4	15.5
2009	89.4	14.9
2010	91.1	15.8
2011	91.3	15.4
2012	90.7	15.6
2013	89.0	15.4
2014	86.4	14.5
2015	85.9	14.0
2016	78.7	12.5
2017	86.9	12.1
2018	79.1	11.8
2019	86.7	11.8
2020	78.3	12.1





Ⅲ 兵庫県立こども病院の思い出





兵庫県立こども病院開設 50 周年をお祝いして

名誉院長

現 (公益財団法人) 兵庫県健康財団・理事長

(公益財団法人) 日本二分脊椎・水頭症研究振興財団・会長

長嶋 達也

兵庫県立こども病院の開設 50 周年を心よりお慶び申し上げます。1970 年の開院以来、長きにわたり小児・周産期医療に貢献してこられた多くの関係者の皆様に敬意を表します。当院は 1994 年の周産期医療センター開設、2007 年の第 3 次小児救急医療センター開設、2013 年小児がん医療センター設置、2016 年 5 月のポートアイランドへの新築・移転など、それぞれの時代の要請に応えることによって発展してまいりました。私は 2001 年に脳神経外科医として赴任し、2016 年には院長として新病院開設を担い、その後も兵庫県病院事業管理者として通算 20 年間にわたり歩みを共に出来たことは幸いでした。

1970 年の開院時は年間出生数が 200 万人を超えた第二次ベビーブーム (1971-1974) への対応が課題であったことを振り返りますと、50 年後の 2020 年の出生数が 84 万人と半減以下になったことは衝撃的です。時代が変わったとはいえ、開院以来追求してきた最先端の医療の提供が、これからも第一義的な使命であり続けることに疑いはなく、心臓や脳の低侵襲手術、小児がんのゲノム医療や陽子線治療、胎児治療をはじめ先端的な医療は文字通り日進月歩です。一方、医療を支えるわが国の財政状況を鑑みる時、新しく開発される高度で高価な医療を支える財政の持続性への危惧もあります。2045 年には 1 人の高齢者を 1.4 人の生産年齢人口 (15-64 歳) で支える時代の到来が見込まれます。日本の医療に大きな変化がもたらされることは確実であり、こども病院の将来はその変化にいかに対応できるかにかかっています。

さて、2019 年 12 月施行の「成育基本法」、

2021 年 6 月成立の「医療的ケア児・家族支援法」という二つの法律がこども病院の役割にも大きくかわると思われまます。特に後者は、「医療的ケア児」を法律上で明確に定義し、初めて国や地方自治体が医療的ケア児の支援を行う責務を負うことを明文化した画期的な法律です。小児・周産期医療の守備範囲が出生前と成人への移行時期にまで拡大し、疾患の治療が終わった後も医療的ケアを必要とするこども達への支援にもより大きな責任が求められます。こども病院の医療を専門性の枠に閉じこもらず、広く開かれたものにしていくかどうか問われています。

今、私たちはグローバル化の頂点に達した世界で発生した COVID-19 パンデミックの繰り返す波に襲われるなか、少子高齢化、低成長社会における持続可能な医療の確立に向けての努力を続けています。COVID-19 パンデミックは、教育の混乱、経済低迷に直撃される家庭の弱体化などを通じてこども達にも深刻な影響を与えています。わが国の最大の課題は「安心してこどもを生き育てることのできる国」を作り上げることにより少子化に歯止めをかけることです。こども病院には「高度で専門的な医療」の提供に加えて、「こどもを生き育てることを支える」ための幅広い活躍を期待し、次の 50 年に向けてさらなる発展をお祈りいたします。

こども病院に勤務して：創立 50 周年に当たり

元 副院長

現 公立八鹿病院 泌尿器科

谷風 三郎

私は 1978 年から 2003 年の 25 年間こども病院に勤務しておりました。この間何といっても最大のできごとと言えばあの予想もしていなかった 1995 年 1 月 17 日早朝の阪神・淡路大震災でしょう。当日、自宅にも被害があり、やっと自宅を出たのが午前 7 時頃で、崩落した道路、損壊した建物、火災をおこした家などの間をジグザグに車を走らせ、何とか病院に着いたのは午前 9 時半頃でした。病院外来では当直医や周辺から病院に駆けつけて来られた先生方が運ばれてきた患者さんの蘇生に掛かり切りで、ほとんどは即死状態でした。子供さんは含まれていませんでした。搬送されるも不幸にして死亡が確認された方々は、何とか連絡のついた警察の指示で検案が必要ということで当日夜中にトラックで警察に移送されました。まったく未経験のことばかりで大規模災害時の指揮系統が確立されていないこともあり、診療部長として病院に泊まり込む覚悟をしました。まず困ったことはライフラインで、電気は自家発電に切り替わっており、医療機器優先で暖房はほとんど使えない状態でした。当時病院は旧館と新館になっており、自家発電機は旧館では空冷で問題ありませんでしたが、新生児病棟のあった新館は水冷で地下貯水槽からポンプで送水するタイプで不安定でした。安定した環境にするためには新生児を医療機器ごと旧館に移す必要があり、院内の手の空いている人を集め、旧館で稼働していなかった病棟の清掃を行い、万一の場合を想定して、移動のために全員に待機を依頼しました。幸い、最終的には水が確保でき新生児の移動は不要となりました。当時、病院の敷地内に看護宿舎と医師公舎があり、全員病院に移ってきていただきある程度のマンパワーが確保できたのが助けになりました。当日夜は残っていたいただいた 10 数名の先生方と凍えるぐらい寒

い、暗い医局で固まって過ごしました。その段階ではまだどんなことが起きているか十分な情報はありませんでした。とりあえず入院中のこどもたちに大きな問題はなく、しばらくは手術を含め通常の診療活動は停止しました。しかし翌日からこどもの入院はすべて受けることとし、県に広報を依頼しました（実際には県庁も警察も消防も十分に機能しておらず、救急車も含め搬送手段がなくほとんど来院はありませんでした）。また入院中の妊婦さんは、病院のあった須磨区より西は被害がほとんどありませんでしたので、産婦人科の先生から他の病院に入院依頼をしていただき、病院の救急車で緊急搬送しました。震災翌日から徐々に被害状況が明らかになってきて、神戸市の中心部の甚大な被害が公表され、あまりのことにただただ愕然としたことを昨日のように思い出します。院内が少しずつ落ち着いてきたため、県の要請もあり、あちらこちらにできた避難所に医師、看護師を派遣することになり、輸送には病院の救急車を利用しました。院内の食事は給食課の備蓄冷凍食品を入院していた子供たちと職員に提供いただき、3 日目ぐらいからいろいろな所から食料を含む支援物資が入ってきて食事の問題は解決しました。避難所では食料や市販薬の支援が始まり、最初は傷の処置がメインでしたが震災後 1 週間ぐらいが経過したころから風邪が流行りだし、薬が効果的でした。病院では通常業務に戻るため、職員の確保がもっとも難しい問題でしたが 3 週目過ぎたころから、職員との連絡も付くようになり、看護部のご協力のもと 4 週間目頃から一般外来とともに手術室の稼働が少しずつ可能となり徐々に震災前の状態に戻り始めました。完全に戻るのにさらに 2 か月程度かかり、私の病院生活は計 3 か月に及び、4kg の体重増と痛風発作で終わりを迎えました。



公式記録には載らないエピソード

元 副院長

現 社会医療法人愛仁会高槻病院小児外科
西島 栄治

わたしは1978年（昭和53年）に神戸大学を卒業し、市中病院での小児科研修のあと1979年春に神戸大学医学部第二外科に入局し、その夏に兵庫県立こども病院に異動して1年間の小児外科研修を始めました。もともと、小児科医になりたくて医学部に入学し、ポリクリでの体験で小児外科医を希望して卒業しましたので、希望がなかったわけです。こども病院でのハードな研修はわたしには楽しいことばかりで充実していました。寝袋を持ち込み、しばしば病院内で寝泊まりしていました。レジデントは4名で、わたし以外は外科を3年以上経験している優秀な先輩たちで、スタッフの回診中の議論に加わるために教科書や学術誌を読む時間がほしかったからです。翌年の4月から4カ月間はチーフレジデントとして研修しました。いったん大学に戻り、一般外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科（高槻病院1年を含む）の研修を続け、1985年（昭和60年）にスタッフとして兵庫県立こども病院に就職しました。その後、1年間のオランダ、ロッテルダムのソフィア小児病院外科への留学を含め、2013年（平成25年）の退職までの28年間を高倉台の旧こども病院で働きました。その間のエピソードは実に数多くあり、その中で、公式記録には載らないけれども、こども病院の活動としては意義深い患者会活動と新しいケアの導入例を紹介します。

3つの患者会の創設にかかわりました。ひよこの会は胆道閉鎖症の患児とご家族の会です。黄色く生まれてだんだん白くなりながら成長するひよこに、黄疸がとれて成長していく患児をなぞらえて名付けられたように記憶しています。定例の勉

強会を開催し、そのあとで出席した会員のご家族が年齢別に3グループに分かれて、それぞれ年齢相応の心配事と苦労話を織り込んだ近況を述べ合うようにしました。クリスマス会やピクニックでも、いつでもなんでも相談できるようなスケジュールが組まれていました。胆道閉鎖症のこども達を育てる独特な苦労が参加者全員（多くて25家族ぐらい）に共有される貴重な機会となっていました。

たんぼぼの会は永久・半永久的なストーマを持つ患児や重い排泄障がいを持つ患児とご家族の会で、当初から近畿地方全体まで広げて活動していました。勉強会や交流会を行いながら、夏には定例で1泊の合宿を滋賀県の琵琶湖こどもの国や兵庫県のしあわせの村の宿泊施設で実施しました。一同に会しての近況報告や相談会に加えて、メインイベントは大浴場での入浴です。われわれ賛助会員もボランティアも、ストーマを持つ患児たちといっしょに入浴し、はだかの付き合いを始めます。自分以外にストーマを持つ子供を見たことのない患児たちは、このはだかの付き合いでいっきょに仲良くなり、仲間意識が育まれます。自分たちのストーマバッグを見せ合って、「おんなじだね。」とそれぞれにかばい合っている現場に居合わせるのは貴重な経験でした。現在も賛助会員を続けています。

かくれんぼの会は在宅中心静脈栄養管理（成長に必要な栄養の80%程度を夜間の点滴で投与される治療方法）を受けている患児とご家族の会です。「中心静脈カテーテルはいつ抜けるかなあ？」という質問に絡めて、「もう抜去していいかい？」

「もういいかい?」、「まあだだよ!」、「もういいかい?まあだだよって、なんかかくれんぼみたい。」となって、かくれんぼの会と名付けられました。キャンプや宿泊行事でおたがいの中心静脈カテーテルの管理方法を見せ合ったり、手ほどきをしたりしました。また、カテーテルが入っている状態で入浴や水泳を体験するために、刺入部の消毒方法や防水フィルムの貼付方法のそれぞれの工夫を披露しあったりしました。仕上げは実際に入浴したりプールで水遊びをしたりです。

このような患者会の活動には、賛助会員としての医療スタッフの参加が重要な役割を果たします。そして賛助会員以上に、イベントごとに参加してくれるたくさんのこども病院の医療スタッフがボランティアとして重要な役割をはたしてくださいました。ボランティアの中心メンバーは「こども病院こども応援団」として院内の音楽会や人形劇の開催時の会場設営や入院中のこども達に誘導、病院玄関や外回りの季節の花壇づくりなどに日常的に活躍されていたように思います。

ぜひ紹介しておきたいものの2つ目は新しいケアの導入エピソードです。いまから30年以上前、回腸の人工肛門をドーナツ綿花で管理していた5歳の女兒が兵庫医大病院のストーマ外来を受診して皮膚保護剤とストーマバッグによる管理にコンバートして当院の外科外来に戻ってきました。そのスマートな管理法と患児とご家族の笑顔を見た

有志がただちにストーマケアの勉強会を院内に組織して、さっそく理論と手技の学習に取り組みました。用品メーカーの協力でETナースを派遣していただき、約2か月でこども病院のストーマ管理がドーナツ綿花法からストーマバッグ法に劇的に変貌しました。その後も小児のストーマケア全般の理論と技術の習得が進み、有志による勉強会も継続され、こども病院内から難関の研修を受けてWOCナース(現在の皮膚・排泄ケア認定看護師)が誕生し、現在では日本の小児WOC領域のリーダーのひとりとして活躍されています。

もう一つは小児の摂食嚥下ケアの領域です。NGチューブで栄養管理を受けていた乳幼児のなかにお口から食べることを拒むこどもが出ていることに気付いた有志が「お口の勉強会」を開始しました。まず、大阪教育大学の専門家に講師をお願いして、乳児の摂食嚥下機能の発達理論の勉強からはじめました。同時に標準となるテキストを読み込んで、哺乳時の吸てつ反射は本能だが経口の食事摂取は練習して獲得する技能であること、しかもこの機能の獲得には適切な時期がある(感受期)ことを理解しました。この感受期の視点が看護に組み込まれました。

「こども病院こども応援団」のようなボランティア活動と有志による勉強会が高倉台の旧こども病院の診療とケアを向上させる基盤のひとつだったと思います。



周産期医療センター開設前夜

元 周産期医療センター所長

現 医療法人三友会 なでしこレディースホスピタル 理事長兼院長
大橋 正伸

開設に関わられた方々の大半は現役を退かれておられますので、小生が2008年のこども病院退職前に書き留めてあったことを手短かに紹介させていただきます。

—平田美穂先生のこと—

初代院長・平田先生のご存命中に伺ったことです。平田先生は1970年ごろより周産期医療システムの構想を提唱されましたが、長らく日の目を見ませんでした。ところが1881年に大阪府立総合母子医療センターが全国に先駆けて開設されたことから時節到来したと判断されて、県周産期医療システム検討委員会を立ち上げ、建議書『兵庫県における周産期医療システムについて』を上程されました。

しかしその後の進捗は遅く、ようやく1988年に基本構想検討委員会が設けられ、こども病院の中に周産期医療センター（以下センター）を整備する、新生児病棟60床、産科病棟30床、正常産は取り扱わない、研究教育部門をおくとする内容の答申を出しました。

センターの位置づけについてはこども病院に並列した組織とする意見が委員会の大勢を占めました。医療費抑制が進む中で公的病院といえどもその経営基盤が傾きだした頃であったためか、神奈川県立周産期医療センターを模倣、縮小したものにならざるを得ませんでした。いっそうのこと阪神・淡路大震災後に基本方針が検討されておれば大きな被害を受けたこども病院本館の新築と、センターの開設を並列させた総合母子医療センターとなっていたかもしれません。とはいえ、どのような形になったにせよセンターができて一番喜

んでおられたのは平田先生でした。

—建前と本音—

1992年に小生は神戸大学産婦人科・望月真人教授から予算は充分にある、日本一のセンターを作るようにとの訓令を受けてこども病院に派遣されましたが、『遅れてきた者』の態でありました。建前はセンターの開設、本音はこども病院の老朽化した医療機器の更新と改装にあったのでしょう。基本計画にはこども病院の改修とセンター内へのICU、手術室、検査、放射線、事務部門の移転なども含まれており、さらにリニアックの整備が追加されたため、肝心の周産期部門の予算は全体の半分以下になりました。

リニアック、MRI、CT、麻酔器、ICUの集中監視装置などの総額が機器購入予算を大幅に超えたため、玉木健雄院長も各科の部長との調整にさぞご苦労されたことと思います。病院中がようやく念願の玩具を買ってもらえるようになった子供のごとくであった様をご想像ください。提示された予算では周産期医療どころか、ありきたりの県立病院産科レベルの医療機器を購入するのが精一杯の有様でした。それからの2年間は望月教授とタッグを組んで病院局に掛け合う、いわば予算分捕り合戦を延々としていた記憶しかありません。

—竹峰久雄先生のこと—

竹峰先生は平田先生の愛弟子でした。一時体調を崩されましたがお元気に復帰されました。1993年4月に玉木院長があとは竹峰先生に任せるとご勇退され、竹峰先生が院長に就任されました。センター開設への情熱はすざましく、出来上がるまでは死ねないとおっしゃっていました。工事が終

了し受け渡しが終わったあと、車椅子でセンター内を巡視されました。それから間もなく1994年10月3日の開設記念式典を待たずにお亡くなりになりました。『センターは県の施策病院である。種々不満もあろうが県内のハイリスク母児を救うことを第一義において頑張ってもらいたい』小生が賜った最後の訓示でした。

—おわりに—

開設後は小川恭一院長のご指導と中尾秀人新生児科部長（のち院長）、照井克生麻酔科部長、中

田美千子看護部長ほか実に多くの方々のご支援を賜りました。紙面をお借りして御礼申し上げます。

お陰様でハイリスク母児の取り扱い数が全国有数の周産期医療センターに育ちました。開設5周年と10周年に記念講演会を開催しました。10周年には井戸敏三知事をご臨席されました。記念誌を刊行し、玉木先生と竹峰先生のご遺族にお送りしました。訓示を守ってくれたとあの世で喜んでおられるでしょうか。



こども病院の思い出

元 麻酔科部長・参事
現 県立尼崎総合医療センター麻酔科
村田 洋

昭和45年5月5日に兵庫県政100年記念事業として開設され、初代院長は神戸大学小児科教授・平田先生が就任されました。小児科は助教授以下講師、助手の先生方が移動され、各科の責任医長は平田先生が大学の各科から卒後10年前後の新進気鋭の優秀な先生方を pick up して連れて来られました。新生児科・竹峰、循環器科・三戸、腎臓内科・松山、小児外科・松本、心臓外科・小川、脳外科・坂本、整形外科・香川、眼科・山本、泌尿器科・大島、皮膚科・前田、耳鼻科・木村、放射線科・西山、病理・伊東、麻酔科・堀口の各先生方で、多くの先生が後に大学の教授や助教授に就任されました。形成外科のみ東京警察病院から大原先生が副院長として赴任されました。

私はこの時、大学の麻酔科をローテイトしていましたが、こども病院に興味を持っていました。外科から麻酔科に転科し昭和50年に赴任しました。53年には麻酔科の上2人の先生が辞められ責任医長となりました。この頃は開院当初から各科各先生方が猛烈に働かれた結果、いろいろな弊害が生じていて、組合運動が激しく団交が頻回に行われたり、また看護婦不足で一部の病棟が閉鎖されたりしていました。診療はしっかり行われていましたが、組合運動のため、よくストライキが行われ、その都度診療の停止や手術の延期・時間変更が行われ苦勞の多い時期でした。しかし、医師、看護婦、コメディカルの方々、事務方の仲は良く、夏の中庭でのビールパーティ、秋の旅行、クリスマスパーティ、マラソン大会、各種のサークル活動がさつき会の下で開催され、夜遅くまで騒いで朝方まで芝生の中庭で寝ている猛者もいま

した。また、診療後や休日にテニスコートで遅くまで play する医師や看護婦の姿も見られました。

診療面では病棟閉鎖や看護婦不足などで小児外科や形成外科で手術待機患児が数百人となり、手術予約から実施までに1～2年かかる状態となりました、打開のため侵襲の少ない手術を欧米の様に日帰り手術で行うこととし、昭和53年から試験的实施を行い、安全面や know how を確立し、昭和60年に日本で最初の日帰り手術専用の施設を設立しました。この施設で年間、初期は700例、最終的には1200例の手術を行い、成功を収めました。これにより各科は侵襲の大きな手術のみを入院で行い、入院病棟の運用がスムーズになりました。世界で初めての肋軟骨移植による気管狭窄症の手術の成功や心奇形に対する新しい手術法などが新聞紙上に発表されるなど、各学会で注目されることが多々ありました。

平成6年10月に当時の院長・竹峰先生（直前の8月にご逝去）宿願の周産期センターが完成し、この施設に6室の新しい手術室、ICU・HCUが組み込まれました。産科部門が出来たため、こども病院に大人（妊婦）の入院があり、違和感がありました。平成7年1月に阪神淡路大震災が起りましたが、新病棟は無事で、入院病棟の一部破損と給水施設の破損だけで済み、10日間ほどの診療停止で被害は軽微でありました。

私は初代平田院長から児島、玉木、竹峰、小川、山本、中村、丸尾先生まで8代の院長の下で35年間麻酔科医として自由気儘に働かせて頂き、幸せであったと思っています。

周産期センターの手術・集中治療部門の設計や、

日帰り手術の運営、病棟麻酔の立ち上げなどを自由にさせてもらって、こども病院の発展や子供の医療にいくらか貢献できたかなと思っています。

こども病院を辞するころから新病院への移転が計画され、最終的にポートアイランドへの新設移転に決まり、須磨高倉台の病院は46年間で幕を閉じ、我々のような古い世代の者にとっては、故

郷を失くした感がありました。新病院に何度か訪ねていますが、やはり何か違和感を感じています。施設が大きくなり、年々歳々人も入れ変わるので、変化は当然ですが、設立時からのこども病院の伝統を長く受け継いで行って欲しいと思っています。50年後の100周年に新たな歴史を築いたと誇れる病院に育っていることを願っています。



過去から未来へバトンタッチ

元 副院長兼看護部長
藤久保 真季

50周年おめでとうございます。初めてこども病院に赴任させていただいた際、小児専門病院として、日本で2番目にできたこどもの専門病院という事を知りました。私自身、小児科に関わったことは外来の経験しかなく未知の世界でした。お腹のこどもに障害があると分かった時点でも、産んで育てようと決心をした母親や、障害を持って生まれても頑張っ生きてようとするこども達、重い病気でも頑張っ治療に臨んでいるこども達、病院の中が生活のすべてになったこども達を何としてでも助けようとしている職員がいました。私は、看護師人生の最後の10年間を皆さんから神聖なパワーをもらって、こども病院で仕事をさせてもらっていたのを実感しています。

私は赴任して様々な業務を担当しました。看護次長の時は、オーダーリングシステムの導入、病院機能評価の受審、救急センターの竣工等でした。特に大変だったのが病院機能評価の受審でした。前任の病院で経験があったものの、専門病院たるこども病院の難しさを初めて実感しました。看護関係だけでも、それぞれの病棟の専門性が高く、様々なマニュアルがあり、手順一つを統一する作業に、看護師長と協力しながら、受審当日まで、提示書類の差し替えをしていました。看護部長として再度病院に戻った際は、新病院移転の大きなミッションが待っていました。小児医療を熟知していない自分が、このような大切な仕事に関わるにはとても不安でしたが、責任はすべて自分が取るのだという覚悟を決めてから邁進できるようになったのを覚えています。移転の前には、ヤモリの仕業で停電になり新生児病棟のこども達の無事を考え心臓が止まりそうな思いもりましたが、私には心強い看護次長、看護師長

をはじめ、組織最大のスタッフがいました。また移転に向けては、電子カルテの導入、大量の看護職員の確保も必要になってきました。看護職員の確保において私の心配は、急性期病床の増床に伴い、150人以上の看護職員を増員しなければならず、各病棟3分の1を新人看護師が占めなければならないという事でした。いくら準備をしても専門性の高い看護業務が滞り、こどもの命が守れないと判断したので、開院時の病棟縮小を申し入れました。全病床開院を目標にしていた病院には、受け入れられない申し入れだと思いましたが、受け入れていただき本当に感謝した次第です。また、神戸の中心地に移転することに関して、超重症児を受け入れなければならない病院の責務として、移転時間を深夜からお願いしたいという無理も聞いていただきました。様々な人々の支援によって病院移転が無事に終わられたことにも感謝しています。

移転後、小児医療協議会をこども病院で開催することが出来ました。兵庫県立こども病院は、こどもにとって最後の砦となる病院です。職員もこどもを守ろうと日々努力をしています。私はこども病院で最後の仕事ができることを誇りに思っています。





私の一步は高倉の船から

元 看護部主査
上田 美鈴

この度、兵庫県立こども病院が創立 50 周年を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。

私は、昭和 56 年新卒で入職し退職までの 39 年間でこども病院の歴史と共に歩んできました。初めて目にした病院の外観は神戸の海をイメージする巨大な客船様の建築で、その姿には驚きました。病棟は発達段階別の構成でこどもにとって最も大切な「遊び」の空間（プレイルーム）が確保され、保育士の配置など小児特有の環境に感動し、これから始まる看護にワクワクしたことを思い出します。若い頃は目の前にあるスキルの習得に必死になりがちで、婦長（当時）から「業務がしたいの？看護がしたいの？」と言われたことが心に残り、一つ一つの行為に看護の意味を考え行ってきました。また、先輩看護師が笑顔で「これが看護なのよね」と話す姿や私の看護実践を見て「ああそれはいい看護したね」と声をかけられた事が心に響きやりがいを感じ、私自身も先輩がしてくれた様に後輩と看護の楽しさを分かちあうことを大切にしてきました。

闘病中のこどもと家族からは、多くの事を教わりました。特に忘れられないのは、12 歳のこどもが医療者から治療説明を受けた場面です。「長い人生の 3 年間だけ治療を頑張ろう」と説明を受けた後に、こどもが「長い人生の中のたったの 3 年ではなく僕にとっては 3 年もだ！」と訴える姿を見て、こどもにとっての 3 年間でどれほど重いものかと気づかされました。そして看護師が、小児期の経験の積み重ねが人格形成の基盤になる時期に、関わりを持たせてもらう責任を改めて痛感しました。

私は、新生児、急性期、慢性期、と複数の病棟を経験したことで、様々な症例と向き合い看護の幅を広げましたが、自分の関わりはこどもと家族を支

えることが出来ていたのだろうかと思問自答していました。こどもの支えである家族から「安心して任せられます」「いつも元気をもらえる」と言われた時は自信に繋がり、重度の心身障害児の母親から「どのこどもにも平等やね」と言われた時は、私の看護が認められた様に思いました。このような経験を積むことによって、看護の意味付けが出来たように思います。

社会情勢の動きより小児医療へのニーズが高まり、こども病院の機能も拡充されました。医療ケアを必要とするこども達の在宅療養が進められ、見えなかった家庭での生活が明らかになりこれまでの退院指導は私の価値観や理想を伝えていたのではないかと気づきました。家族を含め多職種と専門的な立場でディスカッションする中で、チームの一員として求められている看護師の役割を認識すると共に、チーム医療の醍醐味を知りました。こども病院の看護師は、地域の期待に応え在宅医療を推進していくことが重要な役目であると考えます。

こども病院ならではの楽しい思い出があります。四季折々の工夫された食事やおやつを提供、数々のイベントが企画され、とりわけ医師がサンタクロースに扮しこども達にクリスマスブーツを手渡している姿は職員にとっても微笑ましい光景でした。限られた環境の中で闘病生活を強いられているこどもや家族には気持ちが和らぐひと時になったのではないかと思います。

人生の大半を過ごしたこども病院での 39 年間は、小児看護の神髄を感じながらの年月でした。私も大切にしてきた看護部のスローガンである「見る・護る・伝える・繋ぐ」は後輩達に託し応援したいと思います。これからも、小児医療を必要とされる方々にとって希望を与える兵庫県立こども病院であることを願っております。

こども病院との関わりと 50 周年に向けて

現 薬剤部長
合田 泰志

令和2年にこども病院に異動となり、薬剤部長を務めています。こども病院勤務は、今回で2回目になります。

1回目は須磨からポートアイランドへの移転前の2年間で、特に2年目は電子カルテや薬剤部門システム仕様書の作成、機器・什器の選定や配置等の移転準備を担当しました。準備が忙しくなってきた時期で、急な資料の作成や提出に追われることも度々でした。しかし、移転の前年に異動になり、最後まで関わるできませんでした。多忙な日々から解放された安堵感もありましたが、薬剤部の中心となって移転をやり遂げようと意気込んでいたこともあり、残念な思いも強くなりました。1回目のこども病院勤務は、不完全燃焼というか？中途半端な思いを残して終わることになりました。

この時の異動先は、粒子線医療センターでしたが、縁があるのか？？平成29年の神戸陽子線センターの開院には、こども病院薬剤部とともに関わることになりました。こども病院と比べると規模は小さいものの、準備には相応の苦労がありました。開院時には、こども病院移転に貢献できなかった穴埋めが少しできような気がして嬉しかったことを憶えています。こども病院と神戸陽子線センターは、廊下で繋がっており、開院以来、多くのこども病院の小児がんの患者さんが陽子線治療を受けています。

その2年後の昨年、こども病院に異動となり、薬剤部長と神戸陽子線センター薬剤科長を兼務することになりました。こども病院とは縁があったのだと思います。

旧病院の薬剤部は、玄関のすぐそばのとてもいい場所にありました。しかし、1階と2階に分か

れていてどちらも狭く、また薬剤師数も少なくでござんまりとしていました。新病院では、ずいぶん広くなり、自動注射剤払出装置や全自動散薬分包機等の調剤機器も整備されました。また、薬剤管理指導件数の大幅な増加、病棟薬剤業務の実施、抗菌薬適正使用支援チームへの参加等の調剤業務以外の業務の拡がりも顕著です。薬剤師も増員され、年齢層が大幅に若返っています。50代の部長と次長以外はすべて20代と30代で、その多くが薬学教育6年制移行後の薬剤師です。薬剤師とその業務に大きな変化があった新病院への移転から開院50周年となる現在は、こども病院薬剤部にとって新たな出発の時期にあると感じています。

1回目の勤務時に新病院の準備を担当しましたが、今になって考えが足りなかったことを反省することがあります。また、移転後5年が経過し、様々な課題や問題も発生しており、コロナ禍による今後の大きな変化も予想されます。こども病院との縁に報いるためにも、これらの課題に取り組むとともに50周年を迎えたこども病院の今後の発展に負けないように、可能性に溢れる若い薬剤師と共に成長していきたいと思っています。





新病院への移転とともに

元 検査技師長
現 県立健康科学研究所
松尾 美也子

兵庫県立こども病院の開設 50 周年を心よりお喜び申し上げます。私は平成 26 年から平成 28 年の 3 年間、検査部技師長として在任しました。ちょうど須磨高倉台から神戸ポートアイランドへの移転期間で、準備から稼働まで本当に大変な作業でした。そこで検査部全員が一丸となって取り組んだ検査部門の移転作業を振り返ってみたいと思います。

着任時は、新病院の建物等のハード面はほとんど決定済みで、システムや運用などソフト面を中心に作業を進めました。

新病院からは電子カルテが導入され、検査の各部門システムも導入や更新となりました。部門システムの選定では、検査部が要望したシステムのいくつかが不採用となり悔しい思いをしました。また検査予約システムの導入では、診療部との調整が難航するなど、計画通りにいかない事も多々ありましたが、その都度、担当部署が責任をもって解決策を導き出し対処していきました。

検査業務の再構築については、①「患者さんに顔が見える臨床検査技師」②「高度先進医療を支え臨床のニーズに応える」③「チーム医療への積極的な参加」、この 3 項目をモットーに進めました。①では、新病院より外来採血業務に参画しました。部員のほとんどが採血業務は未経験で、ましてや小児となると不安の声が上がりました。しかし看護師の方から、「採血は慣れですよ。そのうち看護師よりも上手になりますよ。」と励まされ、全員参加で手技を修得しました。ご指導いただいた診療部や看護部の皆さんに感謝しています。②では、遺伝子検査室を新設し、感染症関連及び血液疾患関連の遺伝子検査（PCR 検査）を開始しました。それまでの外部委託検査では一週間程度の日数を要していた検査結果が、院内実施で

は即日又は翌日に出るため、早期の診断と治療に貢献できました。③では、採血業務への参画をはじめ各種委員会など、検査室から一步踏み出し、検査の専門知識をもって参加、活動することを目指しました。

また業務の見直しを検討する中で、先輩技師の方々の「こども達から採取された血液は 1 滴たりとも無駄にしない」という信念やこども病院ならではの工夫が検査部のいたるところに受け継がれており、その礎のもとに今があることを知りました。

平成 28 年 5 月、兵庫県立こども病院の神戸ポートアイランドへの移転が完了し、新しい検査部に、未来への期待と責任を感じながら、先輩技師の信念と技術を継承することができました。移転後に大きなトラブルもなく円滑に業務を遂行できたのは、移転作業に関わった検査部全員の努力の賜物であり、大変感謝しています。

そして、平成 29 年 3 月、こども病院の移転を見届けて定年退職を迎えることができたことは、大きな喜びとなっています。

あれから 5 年が経過し、新型コロナウイルス感染症の影響で、医療を取り巻く環境や情勢は目まぐるしく変化していますが、小児医療の「最後の砦」としての兵庫県立こども病院の今後益々のご発展をお祈り致します。





こども病院で思い出すこと

元 放射線技師長

現 県立姫路循環器病センター検査・放射線部
芦原 龍彦

この度は、こども病院開設50周年、おめでとうございます。私は、過去に異なる立場で2度、こども病院で放射線技師として勤めさせていただきました。1度目は、須磨の旧病院でしたが、周産期棟が新築されてから間もなくの頃で、その数年後には救急外来が本館3階病棟の一部に開設したことを覚えています。最初の頃は、もちろんデジタル化の前の時代で、長尺撮影では、暗室の闇の中で大きなカセットを開け、長いフィルムを自動現像機に挿入し、新しいフィルムに詰め替える作業を行い、その担当になるとしばらく外界に出ることができませんでした。また、CTはヘリカルではないので、時間もかかり呼吸移動や体動により撮影に苦慮したことを思い出します。2度目は、ポートアイランドへ移設する2年前に管理職として赴任し、まさに移設準備作業の本番に突入しており、毎日が決断と試行錯誤の繰り返しで、最終電車の時間を気にしながらの日々でした。今思い返しても決して満足のできる出来とは言えないですが、何とか無事に開設できたと思います。もう一回やっても、完璧には出

来ない気がします。新病院では、前面フラットパネル化や360列CT、MRIの増設を行い、こどもによりやさしく検査を受けていただき、より治療に有益な画像情報が提供できるようになったと思います。

放射線部の検査や治療は、こども達にも理解してもらい、協力してもらいながら行います。しかし、皆ができるわけではありませんので、時には大人3、4人で押さえて無理やりおこなうこともあります。親御様にもそこを理解してもらい、時には協力もしていただくように話しかけて、ひたすら喋っていたように思います。そして、検査や治療が終われば「僕できたよ!バイバイ!」と部屋を後にするこどもに、ホッとする瞬間でした。

こども病院は、何事にも優れた行動力と共に、高い協調性を持つ特徴があると思います。今後も、未来を支えるこども達を守り育ててくれるものと思います。よろしく願いいたします。写真は1枚目が2004年に放射線部で北海道へ旅行に行った時のもので、2枚目は2015年の24時間リレーマラソンの時のものです。どちらも行動力がありますよね。



2004年 放射線部の北海道旅行



2015年 24時間リレーマラソン 舞洲にて



IV 写真が語るこども病院の歴史



写真が語るこども病院の歴史



✂ 開院当時のこども病院 ✂



✂ 旧病院全景 ✂



✂ 病院全景（現在） ✂



✂ 1973年 院内旅行 ✂



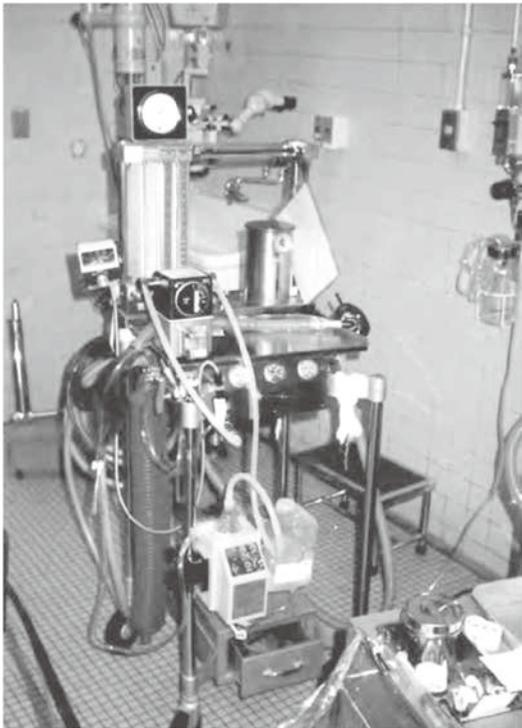
✂ 昭和の単純撮影機 ✂



✂ 1973年12月 放射線科忘年会 ✂



✂ 1992年ごろの麻酔科 ✂



✂ 1992年頃の麻酔器 ✂



✂ 元気がえる ✂

プロ野球選手がやってきた!

① 血液主体病棟 上坂 ひとみ

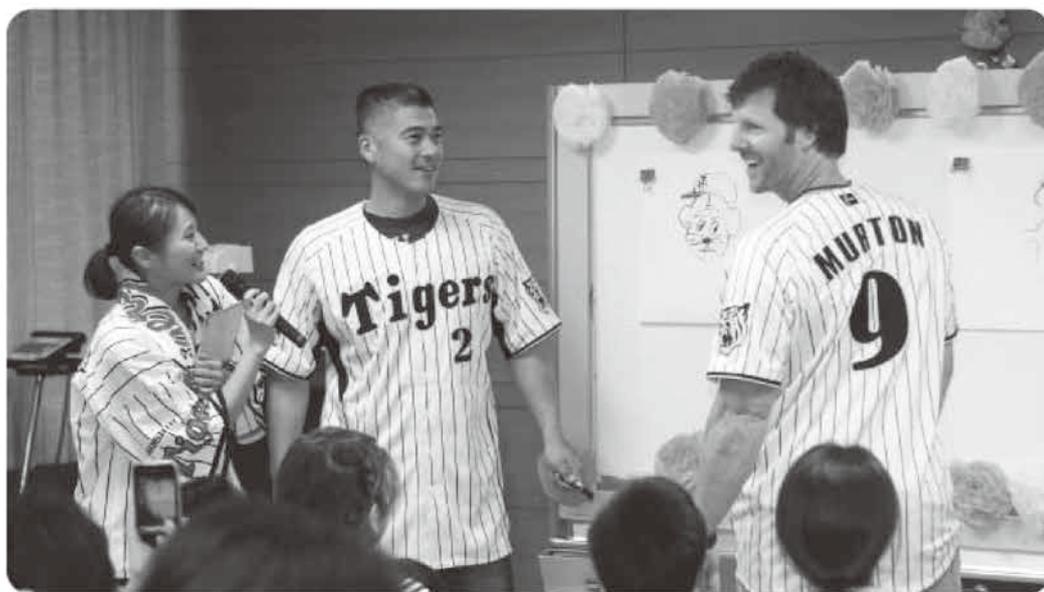
「阪神タイガースの選手が慰問にやってくる!」
うっとうしい梅雨空を切り裂くように、そのニュースが飛び込んできました。それも、今をときめく城島選手とマートン選手の2選手が…。

城島選手といえば、2004年、アテネオリンピックで4番打者を務め、銅メダル獲得。2006年から4年間はアメリカのメジャーリーグ「シアトルマリナーズ」に入団し、イチロー選手と共に活躍しました。昨年阪神に入団し、6番打者として活躍しましたが、今年右肘故障のため現在リハビリ中です。

一方マートン選手は、2003年メジャーリーグ入りし、5つの球団を経て、「その確実性のある打撃は日本向き」と評価され、阪神にスカウトされました。昨年、両リーグ通じての最多214安打を放ち、2年連続オールスターゲームに出場しました。今や、押しも押されぬ「ミスター阪神」です。

待ちに待った7月4日の午後1時。研修室ABに集まった子供たちやご家族の待つ中、二人が現れる

と会場がどよめきました。二人ともでっかい!筋肉の盛り上がった背中やこの腕のせいか、実際より大きく見えました。保育士の司会進行のもと、ゲームやお絵かき、質問コーナーなど、楽しい時間は瞬く間に過ぎました。その後、研修室まで来られなかった子供たちのために、全病棟を訪問していただき、行く先々で歓声が上がりました。病気に苦しむ子供・家族が喜ばれただけでなく、職員も一緒になって楽しめた効果は、慰問された二人の予測をはるかに超えていたに違いありません。そして、さらに嬉しかったことは、入院中の子供たち全員にプレゼントが配られたことです。(二人の直筆サイン入り梅子)この訪問で特に印象に残ったのは、城島選手が子供たちと握手を交わしながら言った「病氣なんかに負けるな!」という力強い言葉と、二人のやさしい笑顔でした。



げんきカエル第35号(平成23年10月1日発行)



岡崎慎司選手、ありがとう!!

看護部次長 大西 美樹

2015年6月22日(月曜日)こども病院に、岡崎慎司選手が慰問に来られました。岡崎選手は、兵庫県のサッカー強豪校である、滝川第二高校の出身で、2005年卒業後に清水エスパルスに入団されました。2011年にドイツ・ブンデスリーガのVfBシュトゥットガルトへ移籍、2013年FSVマインツ05へ移籍し、現在はイングランドプレミアリーグのレスター・シティFCでプレイをされています。2009年には日本代表のA代表に選ばれ、世界大会で活躍され国際サッカー歴史統計連盟(IFFHS)世界得点王に選ばれています。



慰問の当日、岡崎選手は、入院しているこどもとご家族を励ましたいというご希望があり、各病棟を訪問していただきました。どの病棟でも、一人一人丁寧に丁寧に声をかけて回られ、一緒に写真を撮影したり、たくさんのサインをしていただきました。こども達、ご家族の方は、岡崎選手の姿を見ると皆さん明るい笑顔になり、岡崎選手からパワーをもらいとっても元気づけられました。予



定の時間を大幅に延長したにもかかわらず、最後まで気持ちよく丁寧な訪問をしていただきありがとうございました。最後に、ユニフォームにサインしていただきました。

後日、入院しているこども達から、岡崎選手への感謝の気持ちのメッセージがたくさん集まりました。たくさんのこども達、ご家族の皆さんがたくさんパワーをもらって頑張っています。ありがとうございました!! 岡崎選手も、イギリスで頑張ってください。微力ながら兵庫県からエールとパワーを送ります。



「子どもたちの笑顔が弾けた」 東京ディズニーリゾート・アンバサダーとミッキー・ミニーマウスの病院訪問



株式会社オリエンタルランドは、東京ディズニーリゾートを訪れることが難しい子どもたちに「ディズニーの夢」を届けるため、東京ディズニーリゾート・アンバサダーとディズニーキャラクターが全国の施設を訪問する活動を実施されています。東京ディズニーランドオープン前の1982年から継続実施している取り組みで、2015年には24ヶ所の施設を訪問されています。今回5月22日に東京ディズニーリゾート・アンバサダーとミッキー・ミニーマウスにこども病院を訪問して頂きました。

今回の病院訪問は、入院生活を余儀なくされているこども達が、ディズニーDVDや絵本を見ることで心なまし、ディズニーキャラクターのぬいぐるみやグッズなどを持つことで心の支えとしている姿を日々見ていました。アンバサダー、ミッキー・ミニーマウスに病院訪問して頂くことはこども達が楽しい夢を感じ、楽しい時間を過ごす

ことで、笑顔になれるようにという私たちの思いでした。約3年前に看護部の看護師長補佐会で企画し、病院訪問依頼の手紙を株式会社オリエンタルランドへ送ったことで実現へとつながりました。

病院訪問をして頂き、アンバサダー・ミッキー・ミニーマウスと触れ合ったことで、入院中のこども達やご家族は大変楽しい夢を感じられ、笑顔が弾けました。お友達になったことでディズニーランドに遊びに行き再会したいという新たな目標ができ、入院生活や治療に、より前向きになり励みにもなっています。

今回、病院訪問をして頂いた株式会社オリエンタルランドスタッフの皆様には心から感謝致します。

看護師長補佐会
河野 早苗
井口 秀子



げんきカエル第58号（平成29年8月1日発行）



キティちゃんが こども病院に やってきたー



◆キティちゃん生誕**30**年記念のイベントとして、病気のお子様を励ますために、ピューロランドからキティちゃんが、こども病院にやって来ました。

◆子供たちはとっても楽しみにしており、握手をしたり後を付いて来たりで大はしゃぎ。ママたちも一緒に大喜びでした。また、会う時に渡したいと一生懸命似顔絵を書いて待っていた子もいて、これにはキティちゃんの方が感激していましたよ。

キティちゃんに元気を貰えた1日でした。

げんきカエル第16号（平成19年1月1日発行）

皇太子同妃両殿下のご訪問

総務部次長 西森 玲治

8月5日(日)に開幕した第100回全国高校野球選手権記念大会の開会式へのご出席などのために兵庫県入りされた皇太子同妃両殿下が、その前日となる8月4日に、当院及び隣接する神戸陽子線センターをご訪問されました。

両殿下はまず神戸陽子線センターにご到着され、中尾院長及び副島センター長から、こども病院及び陽子線センターの概要や陽子線治療の様子について説明をお聞きになりました。特に、陽子線治療に使用する照射機をご覧になった際には、材質についてお尋ねになる一幕もありました。

その後、当院にご移動され、7階東・西の両病棟及び3階のNICUにおいて、入院しているこども達や保護者とご交流されました。

7階の両病棟では、それぞれのプレイルームで遊んでいたこども達へ「お友達はできましたか」「治療はつらくないですか」などと膝を折ってお声をかけられていました。また、7階西病棟では入院生活などを題材とした絵日記をご覧になり、「薬が苦手と書いていますが、どうやって服用しているのですか」などと語りかけられていました。両殿下と会話を交わしたこどもさんも、「作品を褒めてくださり、うれしかった。応援してくださっている気持ちが伝わりました」と話していました。

両殿下からは、こども病院と陽子線センターの「二つの施設が、緊密に連携をとりながら、小児がんを初めとする子供たちの疾病治療に効果的に取り組み、地域の人々に高度専門医療を提供していることについて説明を伺い、心強く思うとともに、ここに入院し、あるいは通われている子供さんたちが、安心して治療を受けている様子がとても印象的でした」とのご感想をいただきました。

今回の病院ご訪問では、両殿下の優しいお気持ちに触れることができ、入院生活を余儀なくされているこども達、またそれを支えている保護者の皆さんにとって、何よりの励ましになったのではないかと、思います。また、病院職員一同としても激励をいただき、あらためて、こども達が元気になれるように頑張っていこう、という思いを新たにしています。



げんきカエル第63号(平成30年10月1日発行)

「しまじろうの病院訪問」“ありがとうございました”

いっしょに笑おう★キャラバン

この取り組みは、ソニー生命とベネッセコーポレーションの共同プロジェクトが、小児病棟を訪問し、病室のお子さんに会い、キッズスペースで手遊び歌をするなど、「しまじろうと一緒にのかけがえのない時間をお届けしたい!」という目的で活動されています。

こども病院には、平成30年10月25日(木)に訪問

げんきカエル第65号(平成31年4月1日発行)

して頂きました。「しまじろう」と触れあったことで、子ども達やご家族の方も笑顔が弾け、入院生活や治療の励みとなりました。夢を感じることができ、楽しい時間を過ごさせて頂いたソニー生命とベネッセコーポレーション共同プロジェクトのスタッフの皆様から感謝いたします。

©Benesse Corporation/しまじろう





年報 2020



I 病 院 概 要

1. 兵庫県立こども病院の設立目的

こども病院は、小児治療が内科疾患を除いては、成人と同じ環境で診療が行われている現状と、ますます進展しつつある専門化、細分化した医学を基礎とした小児特有の検査、診断、治療を行いうる小児専門病院の設置を望む社会的要請に応えて、県政100年の記念事業の一環として、昭和45年に開設されました。これは、小児病院の業務に加え、異常児の出生予防、小児の精神保健、各科医療に伴う訓練部門等の医療行政もあわせて行う、小児メディカルセンターでもあります。

具体的には、

- (1) 近代小児医療の進歩、在り方に則し、小児疾患の診断と治療に関する高度に専門化、細分化した機能を総合的に発揮できること。
 - (2) 小児に関する医療相談機関であること。
 - (3) 小児の保健衛生に関する行政分野に対して、あらゆる面で協力機関であること。
 - (4) 小児医療従事者の育成研修期間であること。
- などであります。

平成6年10月には、ハイリスク母子の救命を図ることを目的とし、ハイリスク母子の24時間体制受け入れ、妊産婦、胎児、新生児の管理を連続かつ一体的に行うことのできる周産期医療センターをオープンしました。

また、平成14年10月より県下の第3次小児救急の拠点として救急医療室を開設し、その後、平成19年10月に、機能を一層充実させた小児救急医療センターを新たにオープンしました。

さらに、平成25年2月には小児がん拠点病院に指定され、平成26年4月に小児がん医療センターを設置しました。

平成28年5月には、須磨からポートアイランドに移転開院し、その後、平成29年4月には小児救命救急センターに指定されました。

2. 沿 革

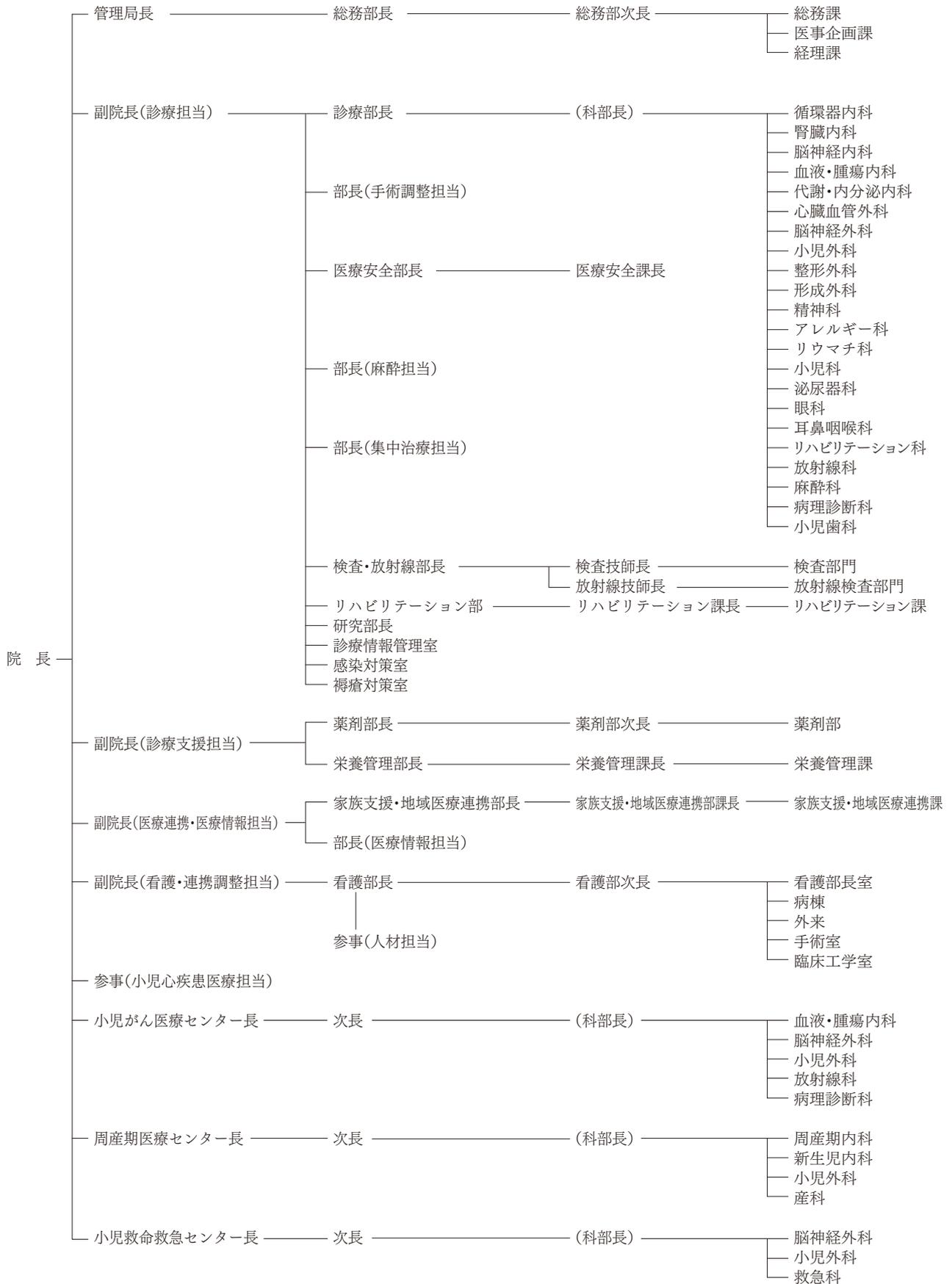
- | | |
|-------------|--|
| (1) 名 称 | 兵庫県立こども病院 |
| (2) 開 設 | 昭和45年4月1日（現管理者 飯島 一誠） |
| (3) 所 在 地 | 神戸市中央区港島南町1丁目6番7 TEL 078-945-7300（代表） |
| (4) 診 療 科 目 | 循環器内科 腎臓内科 脳神経内科 血液・腫瘍内科 代謝・内分泌内科
周産期内科 新生児内科 心臓血管外科 脳神経外科 小児外科
整形外科 形成外科 精神科 アレルギー科 リウマチ科 小児科
泌尿器科 産科 眼科 耳鼻咽喉科 リハビリテーション科 放射線科
麻酔科 病理診断科 救急科 小児歯科 |
| (5) 病 床 数 | 一般290床（稼働282床） |
| (6) 沿 革 | |
| | 昭和45年4月1日 病院開設（管理者 平田 美穂） |
| | 昭和45年4月30日 病院本館完成 |
| | 昭和45年5月8日 診療開始 |
| | 昭和45年7月23日 基準寝具実施（寝第295号） |

昭和 45 年 9 月 17 日	基準給食実施（食第 307 号）基準看護実施（看第 130 号）
昭和 46 年 12 月 28 日	母と子の指導教室完成 現在は母と子の教室と呼称
昭和 47 年 2 月 1 日	基準看護一般特類変更承認（険第 98 号）
昭和 47 年 12 月 1 日	基準看護精神特類変更承認（険第 219 号）
昭和 49 年 10 月 1 日	基準看護一般特二類変更承認（険第 108 号）基準看護精神特一類変更承認（険第 108 号）
昭和 50 年 4 月 1 日	管理者変更（管理者 児嶋 喜八郎）
昭和 54 年 3 月 31 日	全館防災設備工事完成
昭和 54 年 8 月 2 日	日本脳神経外科学会認定医制度による指定訓練場所として認定される
昭和 55 年 4 月 1 日	兵庫県病院事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例（昭和 55 年兵庫県条例第 11 号）により診療科目改正、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科を追加
昭和 56 年 5 月 5 日	シアトル小児整形外科病院医療センターとの間に姉妹病院提携
昭和 56 年 10 月 7 日	日本外科学会認定医制度による指定訓練場所として認定される
昭和 56 年 10 月 12 日	日本麻酔学会認定医制度による指導病院として認定される
昭和 56 年 12 月 6 日	日本胸部外科学会認定医認定制度による指定訓練場所として認定される
昭和 57 年 4 月 1 日	日本小児外科学会認定医制度による認定医育成施設として認定される
昭和 58 年 4 月 1 日	日本病理学会認定病理医制度による認定病院として認定される
昭和 58 年 4 月 11 日	日本整形外科学会認定医制度研修施設として認定される
昭和 58 年 10 月 1 日	日本眼科学会専門医制度による研修施設として認定される
昭和 60 年 3 月 18 日	プリンセス・マーガレット小児病院との間に姉妹提携
昭和 60 年 3 月 28 日	日帰り手術棟完成
昭和 60 年 4 月 3 日	日本形成外科学会認定医研修施設として認定される
昭和 60 年 4 月 15 日	日帰り手術棟手術開始
昭和 61 年 3 月 31 日	日本小児科学会認定医制度による研修施設として認定される
昭和 61 年 4 月 1 日	管理者変更（管理者 玉木 健雄）
昭和 61 年 4 月 1 日	日本泌尿器科学会専門医教育施設として認定される
昭和 61 年 10 月 1 日	日本医学放射線学会専門医制度規定による修練機関として認定される
昭和 62 年 1 月 22 日	自家発電設備改良工事完成
平成元年 2 月 1 日	外国医師臨床習練制度による研修施設として認定される
平成 3 年 5 月 1 日	基準看護一般特三類（一部）変更承認（険第 220 号）
平成 4 年 4 月 1 日	基準看護一般特三類（260 床に）変更承認（険第 363 号）医事会計システムの電算化開始、医療業務・事務当直・警備の全面委託開始
平成 4 年 5 月 9 日	週 40 時間制試行
平成 4 年 5 月 18 日	病床数 260 床に変更承認（精神病棟廃止）
平成 4 年 7 月 6 日	病床数 290 床に変更承認（兵庫県指令医第 1 - 67 号）
平成 4 年 7 月 29 日	周産期医療センター安全祈願祭
平成 4 年 11 月 7 日	週 40 時間制本格実施
平成 5 年 4 月 1 日	管理者変更（管理者 竹峰 久雄）
平成 6 年 7 月 20 日	周産期医療センター定礎式
平成 6 年 9 月 1 日	管理者変更（管理者 小川 恭一）
平成 6 年 9 月 30 日	ドクターズカー購入
平成 6 年 9 月 30 日	周産期医療センター完成

平成6年 10月 1日	行政組織規則の改正（平成6年兵庫県規則第66号）により、周産期医療センターを設置
平成6年 10月 3日	周産期医療センター開設記念式典
平成6年 10月 4日	周産期医療センター診療開始
平成7年 1月 17日	阪神・淡路大震災
平成7年 9月 1日	本館改修工事に着手
平成8年 4月 1日	日本産科婦人科学会認定医制度による卒後研修指導施設として指定される
平成10年 6月 30日	本館改修工事完了
平成11年 4月 2日	管理者変更（管理者 山本 節）
平成12年 3月 1日	総合周産期母子総合医療センターとして指定される
平成12年 4月 24日	慢性疾患児家族宿泊施設（ファミリーハウス）を開設
平成13年 10月 10日	駐車場立体化工事に着手
平成14年 2月 28日	立体駐車場完成
平成14年 4月 1日	臨床研修病院指定（厚生労働省発医政第0401006）
平成14年 4月 1日	地方公営企業法の財務適用から全部適用に移行
平成14年 10月 15日	第3次小児救急開設（稼働病床260床）
平成15年 4月 2日	管理者変更（管理者 中村 肇）
平成15年 10月 30日	臨床研修病院指定（厚生労働省医政発第1030005号 -511,519,526,533）
平成15年 11月 28日	臨床研修病院指定（厚生労働省医政発第1128007号 -330）
平成16年 3月 22日	（財）日本医療機能評価機構による病院機能評価認定（ver.3.1）
平成16年 4月 1日	アレルギー科追加
平成18年 4月 1日	日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設として認定される
平成18年 4月 1日	日本気管食道科学会専門医研修施設（咽喉系）として認定される
平成19年 10月 1日	小児救急医療センターを開設（稼働病床266床）
平成20年 4月 1日	管理者変更（管理者 丸尾 猛）
平成21年 4月 1日	医療法施行令の改正に伴う診療科目標榜名変更
平成21年 7月 3日	（財）日本医療機能評価機構による病院機能評価認定（ver.5.0）
平成21年 12月 16日	地域医療支援病院の名称使用承認
平成21年 1月 4日	「母と子の指導教室」を「研修センター」に改修して供用開始
平成22年 4月 1日	駐車場の拡張（北駐車場増設）と有料化
平成23年 1月 4日	本館玄関周辺及び玄関ロビーを改修して供用開始
平成23年 4月 1日	日本精神神経学会精神科専門医研修施設として認定される
平成24年 4月 9日	中国福利会国際和平婦幼保健院と交流協定締結
平成25年 2月 8日	小児がん拠点病院として指定される
平成25年 4月 1日	管理者変更（管理者 長嶋 達也）
平成26年 4月 1日	小児がん医療センター設置
平成26年 12月 8日	新生児専用ドクターズカー運行開始
平成28年 5月 1日	ポートアイランドに移転開院 リハビリテーション科追加
平成29年 4月 1日	管理者変更（管理者 中尾 秀人） 小児救命救急センターとして指定される
平成30年 2月 1日	兵庫県アレルギー疾患医療拠点病院として指定される
令和2年 1月 1日	がんゲノム医療連携病院として指定される
令和3年 4月 1日	管理者変更（管理者 飯島 一誠）

3. 業 務 図

(1) 機構一覽表 (2021.3.31 現在)



(2) 担当医師表 (2021.3.31 現在)

- (1) 総合診療科 中岸保夫、石田悠介、南川将吾
(2) 救急科 田中亮二郎、林卓郎、松井鋭、竹井寛和、谷澤直子
(3) 感染症内科 笠井正志
(4) 臨床遺伝科 森貞直哉
(5) 新生児内科 中尾秀人、芳本誠司、三村仁美、岩谷壮太、玉置祥子、松井紗智子、生田寿彦、大山正平、武岡恵美子、片岡大丸山あずさ、豊嶋大作
(6) 脳神経内科 城戸佐知子、田中敏克、富永健太、小川禎治、亀井直哉、松岡道生、三木康暢
(7) 循環器内科 貝藤裕史、稲熊洋祐
(8) 腎臓内科 尾崎佳代、永井正志
(9) 代謝内分泌内科 小阪嘉之、長谷川大一郎、森健、石田敏章、齋藤敦郎、神前愛子、田村彰広、中村さやか、宮本真知子
(10) 血液・腫瘍内科 長谷川智巳、黒澤寛史、青木一憲、制野勇介、長井勇樹、宮下徳久
(11) 集中治療科 田中裕也
(12) アレルギー科 中岸保夫
(13) リウマチ科 畠山理、横井暁子、津川二郎、森田圭一、河原仁守
(14) 小児外科 大嶋義博、松久弘典、日隈智憲、松島峻介
(15) 心臓血管外科 河村淳史、小山淳二、阿久津宣行
(16) 脳神経外科 小野田素大
(17) 形成外科 薩摩眞一、坂田亮介、衣笠真紀、河本和泉
(18) 整形外科 小林大介
(19) リハビリテーション科 杉多良文、神野雅、春名晶子
(20) 泌尿器科 大津雅秀、勝沼紗矢香
(21) 耳鼻咽喉科 野村耕治、中野由美子
(22) 眼科 関口典子、持田啓、玉岡文子
(23) 精神科 曾根由美子
(24) 小児歯科 船越徹、平久進也、松本培世、荻野美智、窪田詩乃、金子めぐみ
(25) 産科 赤坂好宣、杉岡勇典
(26) 放射線科 香川哲郎、高辻小枝子、大西広泰、池島典之、鹿原史寿子、上嶋江利、末田グリンドロド彩、廣瀬徹也、藤原孝志、田中康智、小西麻意、神頭彩、南遼平
(27) 麻酔科 吉田牧子
(28) 病理診断科 佐藤聖子、松村治、大竹結衣 (総合診療科)
(29) フェロー 大西康裕、鞍谷沙織 (救急科)
大竹正悟 (感染症内科)
泉絢子、平山健太郎 (新生児内科)
本郷裕斗 (脳神経内科)
堀口祥、永尾宏之、近藤亜耶 (循環器内科)
永井貞之 (腎臓内科)
三星アカリ (代謝内分泌内科)
野口隼、東條龍之介、井上翔太郎、西村明紘 (血液・腫瘍内科)
市坂有基、白澤彩、糸数大吾、先瀆大、花見洋太郎、村田慧、山本和宏、伊藤由作、當間圭一郎 (小児集中治療科)
百々菜月 (アレルギー科)
竹内雄毅、中谷太一、藤枝悠希、黒田靖浩、高成田祐希、矢下博輝 (小児外科)
長谷川翔大、和田侑星 (心臓血管外科)
小林史明 (形成外科)
山本哲也、尾ノ井勇磨 (整形外科)
松崎和炯 (泌尿器科)
松野裕樹 (眼科)
原翔平、盛房禎子、渡邊亮太 (麻酔科)
(30) 専攻医 合田由香利、青木萌子、石田貴裕、井上葵子、岡崎沙也香、近藤友里子、中野友理佳、広田幸穂、太田亮、池谷紀衣子、遠藤理紗、小林孝生、玉城倫、松本泰右、簗下広樹、野谷梨紗子、梶本裕人、斧渕夏那、河合恵、三田淑恵、橋本祐子、堀内克俊、野田祐一、岡彩乃、宮本和徳、中井愛理

(3) 外来診療スケジュール (2020.12.31 現在)

科目	曜日	月		火		水		木		金	
		午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
内科	救急総合診療	◎南川	担当医	1,3週 ◎田中(亮) 2,4週 ◎上月	担当医	◎松村	担当医 在宅外来 (南川)	1,3,5週 ◎佐藤 2,4週 ◎中岸	担当医	◎石田	担当医
	アレルギー		◎田中(裕) 百々	◎田中(裕) 百々	◎田中(裕) 百々				◎田中(裕) 百々	◎田中(裕) 百々	◎田中(裕) 百々
	リウマチ			中岸	◎中岸	中岸	中岸		中岸		
	感染症内科						◎笠井(正)				
	臨床遺伝科			◎森貞	◎森貞			◎森貞	◎森貞		
	神経	◎豊嶋 担当医	丸山 本郷		豊嶋 石田			◎石田 本郷		◎丸山 担当医	
	循環器	田中(敏) ◎亀井	◎田中(敏) 亀井	◎田中(敏) ◎松岡	田中(敏)	城戸 ◎三木	三木		◎城戸 城戸	◎富永 1,3,5週◎松岡 2,4週◎小川	富永 1,3週◎松岡 2,4週◎小川
	循環器特殊	城戸 (思春期)	城戸 (成人先天性)		小川 (OD,不整脈)			田中 (カテ)	担当医(シナジス) ペースメーカー 1,3,5週◎松岡 2,4週◎小川		
	腎臓	◎貝藤 ◎近藤	担当医 担当医	◎貝藤 ◎稲熊	◎貝藤 担当医	◎田中(亮) ◎稲熊	担当医			◎貝藤	◎田中(亮) 1,3週担当医 2,4,5週◎稲熊
	代謝内分泌		検査	◎三星	三星	◎尾崎	尾崎	◎永井	永井	◎尾崎	尾崎
	新生児				◎玉置 三村		◎三村 岩谷		◎芳本 生田		◎大山 片岡
血液・腫瘍	◎小阪 長谷川 神前(長期フォロー)	田村 神前		◎小阪 化学療法のみ	がんゲノム 長谷川 森		◎石田	齋藤	◎長谷川 中村 化学療法のみ	森	
外科	小児外科	◎森田	横井 森田	◎津川	津川	◎河原	河原	◎畠山	畠山	◎横井	横井
	ヘルニア外来	1,3,5週◎畠山 2,4週◎横井						1,3,5週◎畠山 2,4週◎津川			
	特殊外来				在宅/ストマ 担当医/森田						
	心臓		◎大嶋 松久 日隈				◎大嶋 日隈				◎大嶋 松久
	脳神経	◎小山 ◎頭の形外来	小山			◎阿久津 担当医	◎阿久津 担当医			◎河村	◎河村 二分脊椎
	形成			◎小野田 ◎平山 言語療法				◎小野田 ◎平山 言語療法			
	整形		◎小林 ◎坂田	◎薩摩 ◎坂田	◎小林 ◎衣笠 2週側弯外来	◎薩摩 ◎河本			◎衣笠 ◎河本	◎衣笠 ◎河本	二分脊椎
放射線治療科			出水						副島		
眼科	◎野村 松野 橋本 中野			コンタクト 外来	◎野村 松野 橋本 柳沢	検査	◎野村 松野 橋本 中野	検査			
泌尿器科	◎担当医		◎杉多 ◎春名 ◎神野 ◎松崎 三田	検査	◎担当医			検査	◎春名 杉多 ◎神野 ◎松崎 三田	二分脊椎	
耳鼻咽喉科	◎大津	大津	◎勝沼	◎勝沼				◎大津	大津	◎勝沼	◎勝沼
	1週・3週 補聴器 言語聴覚		3週・4週 補聴器 言語聴覚		言語聴覚		言語聴覚		言語聴覚		
歯科	◎曾根	曾根	◎曾根				◎曾根	曾根	◎田村	田村	
精神科	関口	関口	小笠原		◎持田	持田	◎持田	長谷川 持田	◎関口	関口	
	◎持田	◎持田	玉岡	◎玉岡	◎玉岡	玉岡	◎持田	◎持田	玉岡	◎玉岡	
産科	◎船越 金子/窪田	超音波 検査	◎船越 平久/金子	超音波 外来	◎平久 松本/金子	超音波 検査	◎船越 松本/窪田	超音波 外来	◎平久 松本/窪田	超音波 検査	

* 急な学会・出張等で休診・代診になる場合がありますのでご了承下さい。◎印は新患担当医となります。

兵庫県立こども病院

〒650-0047 神戸市中央区港島南町1-6-7

代表 TEL 078-945-7300

予約センター直通 TEL 078-945-7329 (平日9時～16時まで再診、9時～17時まで初診)

予約センター直通 FAX 078-945-7330 (24時間対応 初診のみ)

4. 職 員

(1) 職種別人員表 (2021.3.31 現在)

職 種 別		現 員 [人]	
事 務 職		16	
技 術 職	医 師 ・ 歯 科 医 師	100 (43)	
	薬 剤 師	18 (1)	
	診 療 放 射 線 技 師	11	
	臨 床 検 査 技 師	19	
	栄 養 士	3	
	看 護 師	547 (21)	
	視 能 訓 練 士	3	
	心 理 判 定 員	2	
	精 神 保 健 福 祉 士	1	
	医 療 福 祉 相 談 員	2	
	保 育 士	4	
	言 語 聴 覚 士	4	
	臨 床 工 学 技 士	11	
	理 学 療 法 士	4	
	作 業 療 法 士	1	
	小 計	746 (65)	
	技 能 労 務 職	調 理 員	8
	合 計		754 (65)

注1 「医師・歯科医師」の現員数は、非常勤医師、研修医師を除く。

2 () 外書きは、臨時的任用職員

5. 近畿厚生局長への届出に関する事項（令和3年3月31日現在）

当院は診療報酬の請求に関し、近畿厚生局長へ以下の事項について届出を行っています。

【初・再診料】

オンライン診療料 (オン診)第177号

【入院基本料等の施設基準】

一般病棟入院基本料(急性期一般入院料1)
(一般入院)第1099号

【入院基本料等加算の施設基準】

臨床研修病院入院診療加算(協力型) (臨床研修)第95号
救急医療管理加算 (救急医療)第125号
妊産婦救急搬送入院加算 (妊産婦)第41号
診療録管理体制加算2 (診療録2)第255号
医師事務作業補助体制加算2(20対1) (事補2)第166号
急性期看護補助体制加算(25対1、5割以上) (急性看護)第194号
療養環境加算 (療)第183号
無菌治療室管理加算1 (無菌1)第26号
緩和ケア診療加算 (緩和)第29号
医療安全対策加算1(医療安全対策地域連携加算1含む)
(医療安全)第515号

感染防止対策加算1
(感染防止対策地域連携加算、抗菌薬適正使用支援加算含む)
(感染防止1)第78号

患者サポート体制充実加算 (患サポ)第238号
褥そうハイリスク患者ケア加算 (褥瘡ケア)第54号
ハイリスク妊娠管理加算 (ハイ妊娠)第116号
ハイリスク分娩管理加算 (ハイ分娩)第68号
入退院支援加算1 (入退支)第259号
入退院支援加算3 (退支)第259号
せん妄ハイリスク患者ケア加算 (せハイ)第121号
精神疾患診療体制加算 (精疾診)第34号
地域医療体制確保加算 (地医確保)第47号
呼吸ケアチーム加算 (呼吸チ)第39号
データ提出加算2 (データ提)第180号

【特定入院料の施設基準】

特定集中治療室管理料2
(※経皮的大動脈遮断術、ダメージコントロール手術)
(集2)第2号
(早期離床・リハビリテーション加算含む)
総合周産期特定集中治療室管理料 (※一酸化窒素吸入療法)
(周)第7号

小児入院医療管理料1 (プレイルーム加算を含む)
(小入1)第8号
食事療養費1 (食堂加算を含む) (食)第119147号

【医学管理等】

心臓ペースメーカー指導管理料(遠隔モニタリング加算)
(遠隔ベ)第39号
がん性疼痛緩和指導管理料 (がん疼)第429号
がん患者指導管理料イ (がん指イ)第69号
がん患者指導管理料ロ (がん指ロ)第55号
外来緩和ケア管理料 (外緩)第19号
移植後患者指導管理料(臓器移植後) (移植臓)第10号
移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後) (移植管造)第10号
小児運動器疾患指導管理料 (小運指管)第91号
乳腺炎重症化予防・ケア指導料 (乳腺ケア)第37号
院内トリアージ実施料 (トリ)第75号
開放型病院共同指導料 (開)第72号
ハイリスク妊産婦連携指導料1 (ハイ妊連1)第27号
ハイリスク妊産婦連携指導料2 (ハイ妊連2)第11号
薬剤管理指導料 (薬)第485号
医療機器安全管理料1 (機安1)第170号

【検査】

持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定
(持血測)第51号
持続血糖測定器加算
(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器をもちいる場合)
(持血測2)第11号
遺伝学的検査 (遺伝検)第9号
骨髄微小残存病変量測定 (骨残測)第2号

がんゲノムプロファイリング検査 (がんプロ)第7号
抗HLA抗体(スクリーニング検査及び抗体特異性同定検査)
(抗HLA)第5号

ウイルス・細菌核酸多項目同時検出 (ウ細多同)第4号
先天性代謝異常症検査 (先代異)第8号
検体検査管理加算(IV) (※造血管腫瘍遺伝子検査)
(検IV)第51号

国際標準検査管理加算 (国標)第8号
遺伝カウンセリング加算 (遺伝カ)第6号
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
(血内)第32号

胎児心エコー法 (胎心エコ)第28号
ヘッドアップティルト試験 (ヘッド)第54号
脳波検査判断料1 (脳判)第3号
神経学的検査 (神経)第146号
補聴器適合検査 (補聴)第42号
小児食物アレルギー負荷検査 (小検)第94号

【画像診断】

画像診断管理加算2 (画2)第120号
CT撮影(64列以上)及びMRI撮影(1.5以上3テスラ未満)
(※大腸CT撮影加算)

冠動脈CT撮影加算 (C・M)第898号
(冠動C)第80号
心臓MRI撮影加算 (心臓M)第64号
小児鎮静下MRI撮影加算 (小児M)第15号

【投薬】

抗悪性腫瘍剤処方管理加算 (抗悪処方)第64号

【注射】

外来化学療法加算1 (外化1)第145号
無菌製剤処理料 (菌)第520186号

【リハビリテーション】

脳血管疾患等リハビリテーション料(II)
〔※廃用症候群リハビリテーション料(II)〕
(脳II)第475号
運動器リハビリテーション料(I) (運I)第356号
呼吸器リハビリテーション料(I) (呼I)第231号
障害児(者)リハビリテーション料 (障)第33号
がん患者リハビリテーション料 (がんリハ)第82号
集団コミュニケーション療法料 (集コ)第77号

【精神科療法】

児童思春期精神科専門管理加算 (児春専)第6号

【手術】

頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)(頭移)第5号
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
(※植込型心電図検査)
(ベ)第211号
(※植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術)
大動脈バルーンパンピング法(IABP法) (大)第101号
胎児胸腔・羊水腔シャント術 (胎羊)第2号
医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
(胃瘻造)第217号
輸血管理料I (輸血I)第276号
コーディネート体制充実加算 (コ体充)第5号
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算 (造設前)第77号
凍結保存同種組織加算 (凍保組)第1号

【麻酔】

麻酔管理料(I) (麻管I)第261号
麻酔管理料(II) (麻管II)第24号

【放射線治療】

高エネルギー放射線治療 (高放)第90号

【病理診断】

病理診断管理加算1 (病理診1)第47号
悪性腫瘍病理組織標本加算 (悪病組)第29号

【歯科関係】

歯科矯正診断料 (矯診)第164号

6. 研修・教育認定施設内容

厚生労働省認定病院等	<p>◆ [厚生労働省認定]</p> <p>厚生労働省認定臨床研修指定病院（小児） 厚生労働省認定外国医師臨床研修施設</p> <p>◆ [専門医教育病院学会指定]</p> <p>日本小児科学会専門医研修施設 日本外科学会外科専門医訓練施設 日本脳神経外科学会専門医訓練施設 日本泌尿器科学会専門医教育施設 日本整形外科学会専門医研修施設 日本眼科学会専門医研修施設 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設 日本病理学会登録施設 日本麻酔学会麻酔指導病院 日本医学放射線学会専門医特殊修練機関 日本胸部外科学会認定医指定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本形成外科学会認定医指導施設 日本小児外科学会認定施設 日本産科婦人科学会専門医研修指導施設 日本内分泌代謝科専門医認定教育施設 日本気管食道科学会認定日本気管食道科専門医研修施設 日本周産期新生児医学会専門医研修施設 日本小児循環器学会専門医修練施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本小児血液・がん専門医研修施設 日本小児神経学会専門医研修施設 日本集中治療医学会 集中治療専門医研修施設 日本心臓血管麻酔学会専門医認定施設 日本精神神経学会精神科専門医研修施設</p>
姉妹提携・交流協定病院	<p>シアトル小児病院（アメリカ合衆国） パース小児病院（オーストラリア） 中国福利会国際和平婦幼保健院（中華人民共和国）</p>

7. 委員会等一覧 (2020年4月～2021年3月)

	委員会等名	会長・委員長	庶務担当	2020開催回数	2020活動内容と結果
1	幹部会	中尾院長	総務	毎月 第2月曜日	病院の管理及び運営に関する基本方針等を審議
	(1)運営協議会 (経営実施計画推進委員会)	中尾院長	総務	毎月 第4月曜日	幹部会からの指示事項の調査、検討と職員への周知
	(2)保険診療対策委員会	大嶋副院長	医事	12回 (毎月第4水曜日)	減点内容の精査、返戻に対する対応の検討
	①DPC コーディング部会	薩摩副院長	医事	4回 (メール審議)	①部位不明・詳細不明コードの減少へ向けた取組検討 ②適切な傷病名コーディングの検証 ③DPC 傷病名登録の検討 ④療報酬改定(DPC制度)の動向の情報共有等
	②在宅医療部会	畠山家族支援・ 地域医療連携部長	医事	2回(随時)	①在宅医療中の薬剤、保険材料や物品についての検討
2	医療事故防止対策委員会	田中医療安全部長	医事	毎月 第4月曜日	リスクマネジメント部会からの報告、重点目標の進捗状況等
	(1)リスクマネジメント部会	田中医療安全部長	看護	12回	①各部門の毎月のヒヤリハット発生状況の報告 ②医療安全研修会の開催 ③医療安全推進週間の啓蒙 ④重点取り組み課題の決定と実施、評価
	(2)医療事故対策部会	大嶋副院長	医事	10回(随時)	①事故原因の追及 ②再発防止策の策定
	(3)MET部会	田中医療安全部長	看護	11回	①起動症例の検討とフィードバック
	(4)医療機器安全管理部会	田中医療安全部長	看護	2回	①より安全に医療機器を管理し、効率的・計画的に機器の運用を図る
3	倫理委員会	小阪副院長	総務	7回	詳細は別紙のとおり
	(1)臨床研究専門部会	長谷川小児がん医療 センター次長	総務	32回	32件の迅速臨床研究倫理審査を施行した
	(2)利益相反部会	長谷川小児がん医療 センター次長	総務	0回	
4	臓器提供に関する委員会 (1)臓器提供院内 コーディネート部会	大嶋副院長 長谷川集中治療科部長	総務	0回 8回	臓器移植に係る院内シミュレーション・勉強会の実施
5	脳死判定委員会	小山脳神経外科医長	総務	0回	
6	虐待防止委員会	関口精神科部長	地域	定例3回 事例発生 時26回	年間事例の報告 処遇検討
7	衛生委員会	薩摩副院長	総務	6回	職員の健康障害の防止対策等について審議
8	防災対策委員会	薩摩副院長	総務	2回	防災訓練の実施
9	医師及び看護師の負担等軽減推進委員会	中尾院長	総務	2回	負担軽減計画の策定
10	職務発明審査会	中尾院長	総務	0回	
11	広報委員会	貝藤腎臓内科医長	総務	8回	①ニュースレター「げんきカエル」の発行(年4回) ②2019年報の発行 ③病院ホームページの更新
12	研修教育委員会	中岸総合診療科医長 兼リウマチ科医長	総務	3回	①症例検討会の実施状況について ②症例検討会のWEB化について ③新型コロナ拡大に伴う外部からの研修受入について
	(1)臨床研修病院部会	中岸総合診療科医長 兼リウマチ科医長	総務	0回	
	(2)小児科専門医 研修プログラム部会	中岸総合診療科医長 兼リウマチ科医長	総務	毎月 第3木曜日	小児科専門医研修プログラムの企画・立案と実施の管理 小児科専攻医に対する指導と評価見学説明会の開催 など小児科専攻医のリクルート
13	図書委員会	貝藤腎臓内科医長	総務	4回	①2021年度の電子ジャーナル、購入図書の検討
14	省エネルギー推進委員会	中尾院長	経理	1回	日常の省エネルギー活動の推進と活動結果の検証
15	国際交流推進委員会	田中救命救急センター長	看護	0回	
16	患者サービス向上等 推進委員会	安木総務部長	看護	6回	①ハートメッセージの検討 ②接遇研修の企画・評価 ③きょうだいルーム開催の検討
	(1)接遇部会	松本看護部参事	看護	0回	
17	治験審査委員会	杉多診療部長	薬剤	4回	詳細は別添の通り
18	受託研究審査委員会	杉多診療部長	経理	0回	
19	共同研究審査委員会	小阪副院長	総務	0回	
20	臨床研究支援室運営委員会	長谷川小児がん医療 センター次長	経理	3回	①こども病院・理研ジョイントシンポジウム及びサテライトセミナーについて、 ②診療科横断的包括同意システムの導入について
21	医療の質向上委員会	小阪副院長	医事	0回	活動なし

22	診療材料委員会	杉多診療部長	経理	6回	①新規診療材料採用申請の審議 ②JITSシステムデータに基づく診療材料変更提案の審議
23	医療用ガス安全管理委員会	芳本周産期医療センター次長	経理	1回	①医療用ガス設備に係る定期点検の報告 ②医療ガス安全講習会開催
24	情報システム管理委員会	大津部長 (医療情報担当)	医事	11回	①情報システムに関する要望についての審議と対応 ・電子カルテ共有サーバの更新について ・電子カルテ端末の増設について ・セット・パスの一括変更について ②病棟再編によるシステム変更について ③情報システムの運用状況、障害状況の確認 ④ヘルプデスク対応実績報告
25	診療記録等管理委員会	芳本周産期医療センター次長	医事	6回	同意書(共通ひな形)承認 診療記録等監査の実施
26	院内感染対策委員会	笠井感染症内科部長	検査	毎月第2金曜日	①病院の感染対策に関する審議 ②院内外における感染微生物の発生状況の把握 ③院内発生時の早急な対応と拡大防止
	(1)感染対策チーム(ICT)	笠井感染症内科部長	検査	毎週木曜日	①院内感染に関する情報収集・相談・対策検討・評価 ②感染予防における職員への教育 ③院内ラウンド
	(2)抗菌薬適正使用支援チーム(AST)	垣尾薬剤部次長	薬剤	毎月1回 チーム会議 週1回コア メンバー会議 週3回 ショート カンファレンス	①ケースカンファレンスによる抗MRSA薬、抗緑膿菌薬等の使用状況モニタリング ②抗微生物薬適正使用に関する職員対象研究会を2回開催 ③第3回兵庫抗菌薬適正使用のための地域医療連携研修会を開催 ④抗菌薬供給制限への対応 ⑤薬剤耐性菌対策の推進 ⑥泌尿器科抗菌薬適正使用のための合同カンファレンスの開催 ⑦AST業務手順書の改訂
27	外来運営委員会	田中循環器内科部長	医事	4回	①外来運営指標分析 ②診察待ち時間対策の検討 ③診療科からの外来枠の拡大・新設要望への対応 ④連休の診察対応の検討 ⑤看護相談外来の体制見直しについて
	(1)遠隔診療検討部会	田中循環器内科部長	医事	1回(随時)	遠隔診療に向けての検討
28	病棟運営委員会	江角副院長兼看護部長	医事	7回 (隔月第3木曜日)	①病床利用状況の報告 ②新型コロナウイルス感染症拡大に伴う病床運営の影響について ③ベッドコントロール会議について ④夏休み期間中の病床運営検討 ⑤病床再編(CICUとPICUの統合)について ⑥外泊指示の運用について
29	手術室運営委員会	野村部長 (手術調整担当)	看護	12回	①手術件数報告 ②効率的な手術室運営について ③機種保守点検、更新について ④安全、感染について ⑤手術室関連ヒヤリハット・インシデントの検討
30	集中治療室運営委員会	香川部長 (集中治療担当)	医事	13回 (毎月第3火曜日、 臨時メール 審議)	①病床運用状況報告 ②ヒヤリハット報告 ③新型コロナウイルス対応について ④ICU入室患者のうち特定集中治療室管理料が算定できそうな患者数について ⑤特定集中治療室構造変更工事、特定集中治療室の運用変更(PICUとCICU統合)について ⑥集中治療室内の緊急ブザー・サーベイランスカメラ設置について ⑦術後継続注射の電子カルテ上の改訂 ⑧集中治療室における薬剤師の役割 ⑨臨床工学技士の集中治療業務の拡大について ⑩ECMO コールの集中治療室内での運用について ⑪病棟配置麻薬の運用一部変更について ⑫小児集中治療科内 COVID-19発症時ロードマップについて ⑬集中治療室における災害マニュアルの作成について
31	リハビリテーション運営委員会	小林リハビリテーション科部長	リハ	3回	KCH版早期離床プログラム作成および導入、導入後の評価カンリハ研修の推進

32	薬事委員会	小阪副院長	薬剤	3回	①医薬品の採用・中止の検討 ②医薬品の後発医薬品への切替えの検討 ③新規採用医薬品(23品目)、中止医薬品(37品目)、後発医薬品への切替え(22品目)
	(1)化学療法レジメン部会	長谷川小児がん医療センター次長	薬剤	4回	①新規化学療法レジメンの承認等について ②作成レジメン報告について ③レジメンシステムの体表面積計算式について ④がん化学療法レジメン管理マニュアルの改訂について
33	放射線安全委員会	赤坂検査・放射線部長	放射	1回	①放射線業務従事者管理状況について ②放射線安全研修会について ③放射線障害予防規程の変更について
34	臨床検査委員会	赤坂検査・放射線部長	検査	2回 不定期	①検査項目、運用等の変更に関する承認 ②検査に関する諸問題の解決 ③検査に関する要望
35	栄養給食委員会	小阪副院長兼栄養管理部長	栄養	1回	①令和元年度給食及び栄養指導実施状況報告 ②ニップルの変更について ③食物アレルギー患者様の食事調査兼確認書様式変更(食物追加)について ④院内約束食事基準の改定について ⑤患者持込食パンフレットの改訂について
	(1)栄養給食委員会栄養サポートチーム(NST)部会	小阪副院長兼栄養管理部長	栄養	1回	①栄養指導実施状況報告
36	輸血療法委員会	長谷川小児がん医療センター次長	検査	隔月第1水曜日	①血液製剤の使用状況報告 ②輸血に関連した副作用報告 ③輸血療法マニュアル改定 ④輸血に関する諸問題の対応
37	褥瘡対策委員会	小野田形成外科医長	看護	12回	①院内の褥瘡に関する状況の報告 ②褥瘡に関する研修 ③褥瘡対策患者対象の回診 ④褥瘡に関するデータの共有とケアの評価や対策の検討
38	クリニカルパス委員会	田中アレルギー科医長	看護	9回	①クリニカルパスの広報・作成・運用・管理 ②新規クリニカルパス作成・承認 ③電子パス適応に関する運用決定・マニュアル改訂
39	在宅推進委員会	丸山神経内科部長	地域	7回	①在宅療養支援に関する各システムの運用マニュアル検討・修正 ②地域医療機関との連携 施設訪問・神戸市小児在宅医療研修会開催(1回/年 神戸市医師会と協同)
40	呼吸療法委員会	大嶋副院長	医事	9回	①呼吸ケアサポートチームからの活動(ラウンド・勉強会)報告 ②呼吸障害ケア部会からの活動(ヒヤリハット等)報告 ③気管切開固定具に関する検討 ④在宅呼吸器エンベットの回路取り違えに対する再発防止策の検討 ⑤気切カニューレ予定外抜去時例外対応必要患者に対する注意喚起票の検討 ⑥電子カルテの利用に係る現状調査への回答
	(1)呼吸器ケアチーム	香川部長(麻酔担当)	麻酔	第1,3金曜日	人工呼吸器装着患者に対する①診療支援、②医療安全の向上および環境整備、マニュアル作成、③勉強会などを通じた教育
41	小児がん医療センター運営委員会	小阪副院長兼小児がん医療センター長	医事	1回(随時)	①近畿ブロック小児がん診療病院連絡会/近畿ブロック小児がん拠点病院協議会の案内・報告 ②入院中患者(高校生)への教育・学習支援について ③小児がんに関する研究及び研修会などの案内・報告 ④小児がん拠点病院指定要件等の検討 ⑤がん登録にかかる案内・報告等
	(1)緩和ケア部会	池島麻酔科部長	医事	2回(随時)	①緩和ケアチーム チーム会議検討事項の報告 ②緩和ケアチーム 介入手順の策定 ③緩和ケア加算開始に向けた検討
	(2)アピラランスケア部会	長谷川小児がん医療センター次長	医事	0回	活動なし
42	総合周産期母子医療センター運営委員会	船越周産期医療センター長	医事	12回 (毎月第1月曜日)	①病床利用率等報告 ②周産期医療センター研修会について ③検査オーダーの代行入力について ④産科入院患者のCOVID-19対応について
43	小児救命救急センター運営委員会	田中救命救急センター長	医事	12回	①救急患者受付状況(応需率・患者動向等)報告②ゴールデンウィーク・年末年始期間中の勤務体制検討③救急外来の整備検討 ④新型コロナウイルス患者受け入れ対応の検討 ⑤神戸市医師会急病者診療実態調査への協力 ⑥院内トリアージ実施基準の改訂検討 ⑦小児救命救急センターでのヒヤリハット事例の検討

I 病院概要

44	小児心臓センター運営委員会	大嶋副院長	医事	0回	活動なし
45	予防接種センター運営委員会	笠井感染症内科部長	医事	5回 (隔月第2 金曜日)	①予防接種要注意者に対する接種件数報告 ②医療相談(電話相談)の実施状況報告 ③予防接種外来の運営状況報告 ④ロタウイルスの定期接種への追加に対する対応 ⑤日本脳炎ワクチン「ジェービックV」の供給停止 ⑥感染対策マニュアルの修正 ⑦新型コロナウイルスワクチン接種準備検討
46	小児アレルギー疾患センター運営委員会	小阪副院長	医事	2回	アレルギー疾患医療拠点病院の事業について
47	ゲノム医療センター運営委員会	森貞臨床遺伝科部長	医事	1回	2020.7月ゲノム医療センター会議
48	移行期医療対策委員会	小阪副院長	医事	2回	移行期医療の検討
49	地域医療支援病院委員会	(外部有識者)	総務	1回	地域医療連携実績等の報告
50	病院運営懇話会	(外部有識者)	総務	1回	運営状況等についての報告
51	ハラスメント防止委員会	種池管理局長	総務	0回	
52	仕様策定委員会	中尾院長	経理	8回	医療機器購入のための仕様条件を審議

各種委員会（別紙）

名 称	委員長	開催日時	場 所	出席者数	議 題
倫理委員会	小阪 嘉之	4月8日 9:30～	3階 総務前 会議室	8	1 小児喘息に対するチオトロピウム吸入の効果、安全性についての検討 2 フォンタン術後患者の難治性蛋白漏出性胃腸症へのミドドリン投与量の増量(1日量30mg)まで 3 ファロー四徴症・BWG症候群(左冠動脈肺動脈起始症)術後患者の難治性蛋白漏出性胃腸症へのミドドリン投与量の増量(1日量30mgまで)
倫理委員会	小阪 嘉之	7月8日 9:00～	3階 総務前 会議室	9	1 低心機能、低血圧または気管支喘息合併の心不全患者へのイバブラジン投与 2 低血圧または気管支喘息合併の体位性頻脈症候群患者へのイバブラジン投与
倫理委員会	小阪 嘉之	8月12日 9:00～	3階 総務前 会議室	9	1 プロポフォールの小児集中治療科における限定使用の改訂 2 先天性内反足に対するアキレス切腱における、直視下切腱と皮下切腱の比較 3 A型ボツリヌス毒素製剤(ボトックス)の小児に対する上肢痙縮、下肢痙縮、痙性斜頸に対する使用
倫理委員会	小阪 嘉之	11月11日 9:00～	3階 総務前 会議室	10	1 難治性緑膿菌性肺炎に対するトブラマイシン吸入療法 2 重篤な呼吸不全が予測される Pottersequence の児に対する生直後からの計画的体外式膜型人工肺(ECMO)治療の導入
倫理委員会	小阪 嘉之	1月13日 9:00～	3階 総務前 会議室	9	1 肺動脈弁閉鎖を合併した18トリソミー児に対する、動脈管開存の維持を目的とした経口プロスタグランジンE1誘導体製剤(LimaprostAlfadex)の適応外使用
倫理委員会	小阪 嘉之	2月10日 9:00～	3階 総務前 会議室	9	1 兵庫県立こども病院のカルテ調査研究
倫理委員会	小阪 嘉之	3月10日 9:00～	3階 総務前 会議室	8	1 常染色体劣性多発性嚢胞腎(ARPKD)の出生前検査実施について
治験審査委員会	杉多 良文	6月19日	総務部前 会議室	11	現在進行中の治験5課題の継続について審議した。
治験審査委員会	杉多 良文	8月21日	総務部前 会議室	11	現在進行中の治験4課題の継続について審議した。
治験審査委員会	杉多 良文	10月16日	総務部前 会議室	11	現在進行中の治験6課題の継続について審議した。また、1課題の終了を報告した。
治験審査委員会	杉多 良文	2月19日	総務部前 会議室	10	JR-031継続試験の実施の適否について審議、現在進行中の治験7課題の継続について審議した。また、1課題の終了を報告した。

II 医事経理関係

第1節 患者数統計

1. 総括

(1) 年度別 患者統計

区 分				28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
外 来	a	診 療 日 数	日	243	244	244	240	243
	b	新 患 者 数	人	7,347	10,498	13,019	13,487	11,320
	c	一日平均新患者数	人	30.2	43.0	53.4	56.2	46.6
	d	延 患 者 数	人	84,099	93,614	99,518	103,385	97,305
	e	一日平均延患者数	人	346.1	383.7	407.9	430.8	400.4
	f	平均通院日数	日	11.4	8.9	7.6	7.7	8.6
入 院	g	稼 働 日 数	日	365	365	365	366	365
	h	稼 働 病 床 数	床	267	269	275	275	282
	I	入 院 患 者 数	人	5,681	6,478	6,213	6,814	6,139
	j	一日平均入院患者数	人	15.6	17.7	17.0	18.6	16.8
	k	退 院 患 者 数	人	5,651	6,505	6,203	6,793	6,161
	l	一日平均退院患者数	人	15.5	17.8	17.0	18.6	16.9
	m	延 入 院 患 者 数	人	76,733	85,354	79,417	87,299	80,604
	n	一日平均延患者数	人	210.2	233.8	217.6	238.5	220.8
	o	病 床 利 用 率	%	78.7	86.9	79.1	86.7	78.3
	p	病 床 回 転 数	回	21.2	24.1	22.6	24.7	22.3
	r	日 帰 入 院 患 者 数	人	369	415	393	511	511
	s	N I C U ・ G C U 入 院 患 者 数	人	720	824	797	894	907
	t	平均在院日数	日	12.5	12.1	11.8	11.8	12.1
	u	外 来 入 院 比 率	%	109.6	109.7	125.3	118.4	120.7
v	入 院 率	%	77.3	61.7	47.7	50.5	54.2	
計 算 式	f 平均通院日数 = d/b o 病床利用率 = m / (h × g) × 100 p 病床回転率 = ((I+k) / 2) / h t 平均在院日数 = (m-k) / ((I+k) / 2) u 外来入院比率 = (d/m) × 100 v 入院率 = (I/b) × 100							

(2) 月別患者統計

令和2年度

区 分				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外 来	a	診 療 日 数	日	21	18	22	21	20	20	22	19	20	19	18	23	243
	b	新 患 者 数	人	651	724	1,011	1,027	1,004	1,019	1,059	1,029	935	911	826	1,124	11,320
	c	一日平均新患者数	人	31.0	40.2	46.0	48.9	50.2	51.0	48.1	54.2	46.8	47.9	45.9	48.9	46.6
	d	延 患 者 数	人	6,282	5,856	7,859	8,670	9,369	8,491	8,487	7,900	8,370	8,139	7,383	10,499	97,305
	e	一日平均延患者数	人	299.1	325.3	357.2	412.9	468.5	424.6	385.8	415.8	418.5	428.4	410.2	456.5	400.4
	f	平均通院日数	日	9.6	8.1	7.8	8.4	9.3	8.3	8.0	7.7	9.0	8.9	8.9	9.3	8.6
入 院	g	稼 働 日 数	日	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
	h	稼 働 病 床 数	床	282	282	282	282	282	282	282	282	282	282	282	282	3,384
	I	入 院 患 者 数	人	427	401	491	563	562	572	572	505	505	503	454	584	6,139
	j	一日平均入院患者数	人	14.2	12.9	16.4	18.2	18.1	19.1	18.5	16.8	16.3	16.2	16.2	18.8	16.8
	k	退 院 患 者 数	人	463	399	458	534	609	546	580	526	570	458	450	568	6,161
	l	一日平均退院患者数	人	15.4	12.9	15.3	17.2	19.6	18.2	18.7	17.5	18.4	14.8	16.1	18.3	16.9
	m	延入院患者数	人	6,393	6,268	6,413	7,152	7,474	7,111	7,747	7,015	6,498	5,966	5,872	6,695	80,604
	n	一日平均延患者数	人	213.1	202.2	213.8	230.7	241.1	237.0	249.9	233.8	209.6	192.5	209.7	216.0	220.8
	o	病 床 利 用 率	%	75.6	71.7	75.8	81.8	85.5	84.1	88.6	82.9	74.3	68.2	74.4	76.6	78.3
	p	病 床 回 転 数	回	1.6	1.5	1.7	2.0	2.1	2.0	2.1	1.9	2.0	1.7	1.6	2.1	1.9
	r	日 帰 入 院 患 者 数	人	35	33	40	44	52	39	46	47	51	44	37	43	511
	s	N I C U ・ G C U 入 院 患 者 数	人	85	70	73	70	80	98	89	67	75	70	53	77	907
	t	平 均 在 院 日 数	日	13.3	14.7	12.6	12.1	11.7	11.7	12.4	12.6	11.0	11.5	12.0	10.6	12.1
	u	外 来 入 院 比 率	%	98.3	93.4	122.5	121.2	125.4	119.4	109.6	112.6	128.8	136.4	125.7	156.8	120.7
v	入 院 率	%	65.6	55.4	48.6	54.8	56.0	56.1	54.0	49.1	54.0	55.2	55.0	52.0	54.2	
計 算 式	f 平均通院日数 = d/b o 病床利用率 = m / (h × g) × 100 p 病床回転率 = ((I+k) / 2) / h t 平均在院日数 = (m-k) / ((I+k) / 2) u 外来入院比率 = (d/m) × 100 v 入院率 = (I/b) × 100															

2. 月別科別外来患者数

令和2年度

科名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
循環器内科	新患者数	23	16	38	37	46	48	62	44	60	40	38	42	494
	再来患者数	631	509	753	768	1,001	831	787	725	840	781	681	1,135	9,442
	延患者数	654	525	791	805	1,047	879	849	769	900	821	719	1,177	9,936
腎臓内科	新患者数	6	5	7	9	17	11	14	30	19	21	10	21	170
	再来患者数	153	151	210	254	304	238	186	215	246	244	224	373	2,798
	延患者数	159	156	217	263	321	249	200	245	265	265	234	394	2,968
神経内科	新患者数	6	5	16	7	6	8	19	18	10	11	12	17	135
	再来患者数	290	242	312	302	385	295	340	329	354	290	303	395	3,837
	延患者数	296	247	328	309	391	303	359	347	364	301	315	412	3,972
血液内科	新患者数	4	7	8	9	8	3	8	5	8	8	3	6	77
	再来患者数	331	348	382	455	529	436	457	370	456	398	352	485	4,999
	延患者数	335	355	390	464	537	439	465	375	464	406	355	491	5,076
代謝・内分泌内科	新患者数	8	8	26	25	29	22	35	24	26	21	25	25	274
	再来患者数	491	441	497	600	619	611	553	544	588	588	538	705	6,775
	延患者数	499	449	523	625	648	633	588	568	614	609	563	730	7,049
新生児内科	新患者数	1	1	1	0	0	4	2	4	3	1	2	0	19
	再来患者数	78	116	170	169	138	152	196	162	169	183	183	164	1,880
	延患者数	79	117	171	169	138	156	198	166	172	184	185	164	1,899
心臓血管外科	新患者数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	再来患者数	59	59	81	81	84	69	77	99	72	93	71	106	951
	延患者数	59	59	81	81	84	69	77	100	72	93	71	106	952
脳神経外科	新患者数	23	24	43	41	42	42	51	57	45	50	42	52	512
	再来患者数	302	236	284	384	405	341	326	316	360	281	259	424	3,918
	延患者数	325	260	327	425	447	383	377	373	405	331	301	476	4,430
小児外科	新患者数	26	23	42	36	40	37	35	33	27	30	27	40	396
	再来患者数	337	311	397	433	528	414	400	383	417	387	345	562	4,914
	延患者数	363	334	439	469	568	451	435	416	444	417	372	602	5,310
整形外科	新患者数	42	38	101	77	72	91	86	57	84	73	59	105	885
	再来患者数	424	367	561	613	836	643	582	541	576	571	453	830	6,997
	延患者数	466	405	662	690	908	734	668	598	660	644	512	935	7,882
形成外科	新患者数	19	19	32	35	26	32	28	27	26	26	27	35	332
	再来患者数	163	175	281	283	309	318	318	245	333	311	312	380	3,428
	延患者数	182	194	313	318	335	350	346	272	359	337	339	415	3,760
精神科	新患者数	9	10	13	19	17	11	16	14	14	13	13	19	168
	再来患者数	297	238	317	332	273	322	355	336	336	307	329	395	3,837
	延患者数	306	248	330	351	290	333	371	350	350	320	342	414	4,005
アレルギー内科	新患者数	5	4	13	8	13	9	16	12	8	16	8	13	125
	再来患者数	238	225	268	277	323	287	323	292	334	338	326	432	3,663
	延患者数	243	229	281	285	336	296	339	304	342	354	334	445	3,788
リウマチ科	新患者数	1	0	2	1	3	3	3	0	1	2	2	5	23
	再来患者数	97	80	94	119	86	107	92	84	98	90	77	107	1,131
	延患者数	98	80	96	120	89	110	95	84	99	92	79	112	1,154

科名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
感染症内科	新患者数	0	2	0	0	3	1	1	0	1	1	2	1	12
	再来患者数	4	8	7	11	15	6	9	9	9	10	9	10	107
	延患者数	4	10	7	11	18	7	10	9	10	11	11	11	119
臨床遺伝科	新患者数	4	3	8	9	4	5	4	12	6	4	6	5	70
	再来患者数	46	43	78	86	91	99	91	70	89	79	65	108	945
	延患者数	50	46	86	95	95	104	95	82	95	83	71	113	1,015
泌尿器科	新患者数	25	36	52	57	54	53	55	49	51	53	47	68	600
	再来患者数	280	237	393	431	461	419	440	364	368	412	349	487	4,641
	延患者数	305	273	445	488	515	472	495	413	419	465	396	555	5,241
産科	新患者数	18	15	23	15	11	12	11	14	15	17	13	20	184
	再来患者数	187	239	230	296	242	267	242	199	214	268	247	329	2,960
	延患者数	205	254	253	311	253	279	253	213	229	285	260	349	3,144
眼科	新患者数	31	31	42	45	39	46	49	46	40	43	38	51	501
	再来患者数	445	432	621	715	664	664	683	621	600	563	561	757	7,326
	延患者数	476	463	663	760	703	710	732	667	640	606	599	808	7,827
耳鼻咽喉科	新患者数	27	21	26	33	29	26	38	30	24	28	24	47	353
	再来患者数	328	232	353	401	419	313	319	325	312	361	271	437	4,071
	延患者数	355	253	379	434	448	339	357	355	336	389	295	484	4,424
リハビリテーション科	新患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	再来患者数	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5
	延患者数	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5
放射線科	新患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	再来患者数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	延患者数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
麻酔科	新患者数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	再来患者数	47	32	43	45	46	44	50	42	43	47	44	64	547
	延患者数	47	32	43	45	46	44	50	43	43	47	44	64	548
総合診療科	新患者数	6	14	13	17	12	21	32	19	11	13	13	18	189
	再来患者数	151	161	204	217	242	227	227	226	246	249	230	269	2,649
	延患者数	157	175	217	234	254	248	259	245	257	262	243	287	2,838
救急科	新患者数	302	383	396	465	466	441	394	469	389	358	355	454	4,872
	再来患者数	185	202	224	294	275	269	271	268	257	258	201	279	2,983
	延患者数	487	585	620	759	741	710	665	737	646	616	556	733	7,855
小児集中治療科	新患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	再来患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歯科	新患者数	65	59	109	82	67	93	100	63	67	82	60	80	927
	再来患者数	63	47	88	77	90	100	104	106	118	119	127	141	1,180
	延患者数	128	106	197	159	157	193	204	169	185	201	187	221	2,107
合計	新患者数	651	724	1,011	1,027	1,004	1,019	1,059	1,029	935	911	826	1,124	11,320
	再来患者数	5,631	5,132	6,848	7,643	8,365	7,472	7,428	6,871	7,435	7,228	6,557	9,375	85,985
	延患者数	6,282	5,856	7,859	8,670	9,369	8,491	8,487	7,900	8,370	8,139	7,383	10,499	97,305

3. 月別科別入院患者数

令和2年度

科名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
循環器内科	新規入院患者数	23	18	34	26	34	37	36	36	34	34	27	40	379
	退院患者数	30	22	31	37	47	41	53	44	41	36	31	44	457
	延患者数	436	413	423	503	603	541	636	584	478	457	339	494	5,907
腎臓内科	新規入院患者数	3	3	2	4	10	4	8	7	10	7	9	11	78
	退院患者数	6	3	3	2	12	7	9	7	11	6	8	13	87
	延患者数	99	68	60	58	120	136	138	107	173	108	121	117	1,305
神経内科	新規入院患者数	6	4	8	13	12	9	13	7	5	7	12	13	109
	退院患者数	10	7	11	11	17	10	13	14	9	9	18	12	141
	延患者数	162	161	123	159	136	109	192	197	110	118	166	185	1,818
血液内科	新規入院患者数	84	87	99	103	81	104	98	91	93	96	82	83	1,101
	退院患者数	84	103	83	102	90	101	109	92	112	84	85	77	1,122
	延患者数	1,488	1,480	1,398	1,438	1,608	1,542	1,640	1,490	1,351	1,300	1,251	1,406	17,392
代謝・内分泌内科	新規入院患者数	8	2	3	6	7	7	9	5	6	4	6	8	71
	退院患者数	10	2	5	5	7	8	12	4	7	4	5	7	76
	延患者数	43	8	55	36	47	57	71	33	27	21	41	52	491
新生児内科	新規入院患者数	45	40	39	40	41	54	45	34	37	35	29	36	475
	退院患者数	40	24	32	30	41	42	34	40	43	30	25	34	415
	延患者数	1,125	1,226	1,223	1,318	1,296	1,349	1,223	1,173	1,091	912	815	901	13,652
心臓血管外科	新規入院患者数	5	3	8	12	12	5	11	11	11	14	10	15	117
	退院患者数	6	5	11	8	13	9	8	9	10	11	14	14	118
	延患者数	122	171	153	133	137	100	125	122	123	144	137	182	1,649
脳神経外科	新規入院患者数	8	7	14	17	16	17	13	11	9	15	18	18	163
	退院患者数	8	13	13	16	16	15	16	13	11	13	17	18	169
	延患者数	92	113	126	147	185	106	161	103	103	114	142	166	1,558
小児外科	新規入院患者数	32	34	34	40	60	51	38	51	40	26	36	55	497
	退院患者数	48	35	36	42	66	55	43	47	50	30	38	58	548
	延患者数	434	471	435	498	659	585	581	585	542	389	382	419	5,980
整形外科	新規入院患者数	13	17	25	37	27	36	32	20	25	24	16	44	316
	退院患者数	16	18	28	37	32	29	38	27	31	26	17	38	337
	延患者数	150	211	296	399	344	369	455	325	271	218	177	263	3,478
形成外科	新規入院患者数	7	8	16	26	22	23	19	15	20	22	20	27	225
	退院患者数	12	10	20	22	27	25	19	17	21	24	21	22	240
	延患者数	54	80	139	176	189	140	115	101	121	108	160	203	1,586
精神科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アレルギー内科	新規入院患者数	24	21	31	53	49	38	45	36	46	43	37	57	480
	退院患者数	26	21	32	54	49	39	45	36	46	44	37	57	486
	延患者数	40	22	54	69	57	43	52	44	52	45	42	81	601
リウマチ科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

科名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
感染症内科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
臨床遺伝科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科	新規入院患者数	14	12	23	17	28	28	28	23	23	26	26	28	276
	退院患者数	16	12	18	24	29	30	28	25	25	24	26	28	285
	延患者数	80	79	105	148	132	132	121	106	123	110	147	134	1,417
産科	新規入院患者数	31	26	26	31	26	39	30	27	28	33	17	28	342
	退院患者数	35	21	27	30	33	32	29	31	28	29	20	26	341
	延患者数	617	560	593	634	594	576	660	574	541	618	572	640	7,179
眼科	新規入院患者数	27	24	24	24	29	20	25	17	19	24	24	29	286
	退院患者数	29	22	25	24	31	21	25	15	22	21	24	31	290
	延患者数	114	86	91	101	124	75	95	67	84	93	98	126	1,154
耳鼻咽喉科	新規入院患者数	11	10	16	10	9	7	6	6	5	5	5	8	98
	退院患者数	16	8	16	13	8	8	8	7	5	6	5	8	108
	延患者数	83	67	115	82	65	49	39	38	42	44	36	46	706
リハビリテーション科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放射線科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻酔科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総合診療科	新規入院患者数	70	69	67	77	77	69	91	91	77	78	58	69	893
	退院患者数	66	65	57	73	78	64	85	82	86	59	52	73	840
	延患者数	728	653	502	637	633	612	791	858	791	678	821	762	8,466
救急科	新規入院患者数	3	1	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	7
	退院患者数	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3
	延患者数	5	2	0	2	0	1	0	0	0	0	2	0	12
小児集中治療科	新規入院患者数	13	15	22	26	22	23	25	17	17	10	21	15	226
	退院患者数	4	7	10	4	13	10	6	16	12	2	6	8	98
	延患者数	521	397	522	614	545	589	652	508	475	489	423	518	6,253
歯科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	新規入院患者数	427	401	491	563	562	572	572	505	505	503	454	584	6,139
	退院患者数	463	399	458	534	609	546	580	526	570	458	450	568	6,161
	延患者数	6,393	6,268	6,413	7,152	7,474	7,111	7,747	7,015	6,498	5,966	5,872	6,695	80,604

4. 年度別科別外来患者数

科名	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
循環器内科	新患者数	536	621	501	504	494
	再来患者数	8,525	8,924	8,983	9,048	9,442
	延患者数	9,061	9,545	9,484	9,552	9,936
腎臓内科	新患者数	135	159	176	168	170
	再来患者数	3,103	3,141	3,019	3,087	2,798
	延患者数	3,238	3,300	3,195	3,255	2,968
神経内科	新患者数	110	139	144	142	135
	再来患者数	2,916	3,289	3,707	3,884	3,837
	延患者数	3,026	3,428	3,851	4,026	3,972
血液内科	新患者数	66	71	90	108	77
	再来患者数	4,122	4,156	4,656	4,941	4,999
	延患者数	4,188	4,227	4,746	5,049	5,076
代謝・内分泌内科	新患者数	168	219	191	205	274
	再来患者数	5,373	6,013	6,297	6,709	6,775
	延患者数	5,541	6,232	6,488	6,914	7,049
新生児内科	新患者数	35	29	30	23	19
	再来患者数	2,200	2,271	2,272	1,981	1,880
	延患者数	2,235	2,300	2,302	2,004	1,899
心臓血管外科	新患者数	1	1	2	2	1
	再来患者数	1,330	1,097	925	847	951
	延患者数	1,331	1,098	927	849	952
脳神経外科	新患者数	338	308	340	390	512
	再来患者数	4,048	3,803	3,832	3,991	3,918
	延患者数	4,386	4,111	4,172	4,381	4,430
小児外科	新患者数	539	543	496	543	396
	再来患者数	5,360	5,144	5,027	5,291	4,914
	延患者数	5,899	5,687	5,523	5,834	5,310
整形外科	新患者数	910	1,023	1,061	1,074	885
	再来患者数	5,649	6,617	7,205	7,606	6,997
	延患者数	6,559	7,640	8,266	8,680	7,882
形成外科	新患者数	387	374	403	344	332
	再来患者数	2,858	3,006	3,396	3,595	3,428
	延患者数	3,245	3,380	3,799	3,939	3,760
精神科	新患者数	108	133	199	206	168
	再来患者数	3,782	3,879	3,985	4,243	3,837
	延患者数	3,890	4,012	4,184	4,449	4,005
アレルギー内科	新患者数	54	64	62	214	125
	再来患者数	1,328	1,203	1,430	3,039	3,663
	延患者数	1,382	1,267	1,492	3,253	3,788
リウマチ科	新患者数	14	28	39	37	23
	再来患者数	524	1,171	1,291	1,319	1,131
	延患者数	538	1,199	1,330	1,356	1,154

科名	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
感染症内科	新患者数	6	9	14	9	12
	再来患者数	19	121	101	120	107
	延患者数	25	130	115	129	119
臨床遺伝科	新患者数	21	52	73	73	70
	再来患者数	195	437	702	830	945
	延患者数	216	489	775	903	1,015
泌尿器科	新患者数	729	757	776	671	600
	再来患者数	4,407	4,982	5,182	5,308	4,641
	延患者数	5,136	5,739	5,958	5,979	5,241
産科	新患者数	183	196	147	172	184
	再来患者数	1,779	1,950	2,006	2,186	2,960
	延患者数	1,962	2,146	2,153	2,358	3,144
眼科	新患者数	451	499	505	615	501
	再来患者数	8,456	8,843	8,635	7,806	7,326
	延患者数	8,907	9,342	9,140	8,421	7,827
耳鼻咽喉科	新患者数	436	457	472	484	353
	再来患者数	5,021	4,932	4,908	5,040	4,071
	延患者数	5,457	5,389	5,380	5,524	4,424
リハビリテーション科	新患者数	0	0	0	0	0
	再来患者数	448	550	59	40	5
	延患者数	448	550	59	40	5
放射線科	新患者数	0	0	0	0	0
	再来患者数	15	10	1	0	1
	延患者数	15	10	1	0	1
麻酔科	新患者数	3	4	2	2	1
	再来患者数	842	836	771	695	547
	延患者数	845	840	773	697	548
総合診療科	新患者数	218	215	256	221	189
	再来患者数	1,303	2,082	2,698	2,863	2,649
	延患者数	1,521	2,297	2,954	3,084	2,838
救急科	新患者数	1,154	3,789	6,241	6,416	4,872
	再来患者数	1,846	3,142	3,792	4,127	2,983
	延患者数	3,000	6,931	10,033	10,543	7,855
小児集中治療科	新患者数	1	0	0	1	0
	再来患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	1	0	0	1	0
歯科	新患者数	744	808	799	863	927
	再来患者数	1,303	1,517	1,619	1,302	1,180
	延患者数	2,047	2,325	2,418	2,165	2,107
合計	新患者数	7,347	10,498	13,019	13,487	11,320
	再来患者数	76,752	83,116	86,499	89,898	85,985
	延患者数	84,099	93,614	99,518	103,385	97,305

5. 年度別科別入院患者数

科名	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
循環器内科	新規入院患者数	383	397	445	443	379
	退院患者数	420	456	484	503	457
	延患者数	5,456	5,941	6,134	6,032	5,907
腎臓内科	新規入院患者数	102	92	70	87	78
	退院患者数	136	109	86	104	87
	延患者数	1,746	1,481	1,141	1,155	1,305
神経内科	新規入院患者数	78	101	128	115	109
	退院患者数	163	173	178	181	141
	延患者数	1,847	2,577	1,982	2,464	1,818
血液内科	新規入院患者数	697	954	873	1,086	1,101
	退院患者数	697	965	885	1,106	1,122
	延患者数	11,520	14,642	16,099	18,124	17,392
代謝・内分泌内科	新規入院患者数	66	50	30	81	71
	退院患者数	69	60	42	87	76
	延患者数	420	546	271	510	491
新生児内科	新規入院患者数	423	439	410	447	475
	退院患者数	387	404	357	396	415
	延患者数	15,021	14,185	11,568	13,582	13,652
心臓血管外科	新規入院患者数	144	133	119	104	117
	退院患者数	174	149	141	119	118
	延患者数	2,894	2,554	2,361	1,570	1,649
脳神経外科	新規入院患者数	226	202	176	156	163
	退院患者数	253	234	193	177	169
	延患者数	2,277	1,985	1,815	1,599	1,558
小児外科	新規入院患者数	766	764	707	752	497
	退院患者数	809	793	743	772	548
	延患者数	6,379	6,143	5,312	6,379	5,980
整形外科	新規入院患者数	244	296	296	324	316
	退院患者数	266	331	317	347	337
	延患者数	3,497	4,639	4,331	4,527	3,478
形成外科	新規入院患者数	217	221	238	225	225
	退院患者数	223	229	247	234	240
	延患者数	1,400	1,448	1,572	1,603	1,586
精神科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
アレルギー内科	新規入院患者数	64	119	117	375	480
	退院患者数	81	122	118	392	486
	延患者数	228	205	149	606	601
リウマチ科	新規入院患者数	22	16	24	6	0
	退院患者数	37	17	25	6	0
	延患者数	323	195	317	35	0

科名	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
感染症内科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
臨床遺伝科	新規入院患者数	0	2	0	0	0
	退院患者数	0	2	0	0	0
	延患者数	0	4	0	0	0
泌尿器科	新規入院患者数	264	337	314	318	276
	退院患者数	277	342	317	322	285
	延患者数	1,412	1,695	1,728	1,629	1,417
産科	新規入院患者数	331	345	230	276	342
	退院患者数	319	359	225	274	341
	延患者数	7,626	7,870	4,657	6,448	7,179
眼科	新規入院患者数	425	426	410	349	286
	退院患者数	423	426	410	348	290
	延患者数	1,828	1,805	1,685	1,419	1,154
耳鼻咽喉科	新規入院患者数	104	136	147	171	98
	退院患者数	102	136	147	169	108
	延患者数	725	924	982	1,073	706
リハビリテーション科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
放射線科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
麻酔科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
総合診療科	新規入院患者数	142	926	1,174	1,178	893
	退院患者数	153	1,043	1,204	1,148	840
	延患者数	2,487	8,773	9,723	10,721	8,466
救急科	新規入院患者数	776	206	25	13	7
	退院患者数	570	39	4	1	3
	延患者数	3,447	323	27	13	12
小児集中治療科	新規入院患者数	207	316	280	308	226
	退院患者数	92	116	80	107	98
	延患者数	6,200	7,419	7,563	7,810	6,253
歯科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
合計	新規入院患者数	5,681	6,478	6,213	6,814	6,139
	退院患者数	5,651	6,505	6,203	6,793	6,161
	延患者数	76,733	85,354	79,417	87,299	80,604

6. 年齢別患者状況

令和2年度

年齢区分	外 来		入 院	
	患者数 (人)	構成比 (%)	患者数 (人)	構成比 (%)
0歳～1歳未満	3,622	12.6%	1,014	24.1%
1歳以上～3歳未満	4,374	15.3%	668	15.9%
3歳～6歳未満	5,688	19.9%	730	17.3%
6歳～13歳未満	9,374	32.7%	1,075	25.5%
13歳以上～16歳未満	2,953	10.3%	264	6.3%
16歳以上	2,623	9.2%	459	10.9%
合 計	28,634	100.0%	4,210	100.0%

7. 地域別患者状況

(1) 外来

地域区分	元年度		2年度		
	患者数	構成比	患者数	構成比	
兵 庫	神戸市	17,730	57.0%	16,467	57.5%
	姫路市	1,095	3.5%	1,017	3.6%
	尼崎市	356	1.1%	344	1.2%
	明石市	2,272	7.3%	2,191	7.7%
	西宮市	1,126	3.6%	1,068	3.7%
	洲本市	198	0.6%	178	0.6%
	芦屋市	457	1.5%	429	1.5%
	伊丹市	261	0.8%	239	0.8%
	相生市	55	0.2%	47	0.2%
	豊岡市	303	1.0%	254	0.9%
兵 庫	加古川市	720	2.3%	651	2.3%
	赤穂市	128	0.4%	107	0.4%
	西脇市	173	0.6%	141	0.5%
	宝塚市	382	1.2%	353	1.2%
	三木市	346	1.1%	318	1.1%
	高砂市	234	0.8%	212	0.7%
	川西市	127	0.4%	94	0.3%
	小野市	223	0.7%	194	0.7%
	三田市	652	2.1%	567	2.0%
	加西市	130	0.4%	117	0.4%
兵 庫	篠山市	143	0.5%	116	0.4%
	養父市	86	0.3%	70	0.2%
	丹波市	294	0.9%	246	0.9%

(2) 入院

地域区分	元年度		2年度		
	患者数	構成比	患者数	構成比	
兵 庫	神戸市	2,509	52.9%	2,272	54.0%
	姫路市	143	3.0%	149	3.5%
	尼崎市	61	1.3%	53	1.3%
	明石市	351	7.5%	302	7.2%
	西宮市	173	3.6%	184	4.4%
	洲本市	28	0.6%	38	0.9%
	芦屋市	65	1.4%	71	1.7%
	伊丹市	42	0.9%	20	0.5%
	相生市	6	0.1%	5	0.1%
	豊岡市	63	1.3%	38	0.9%
兵 庫	加古川市	116	2.5%	91	2.2%
	赤穂市	6	0.1%	11	0.3%
	西脇市	24	0.5%	20	0.5%
	宝塚市	33	0.7%	37	0.9%
	三木市	60	1.3%	51	1.2%
	高砂市	29	0.6%	36	0.9%
	川西市	17	0.4%	12	0.3%
	小野市	29	0.6%	23	0.5%
	三田市	100	2.1%	85	2.0%
	加西市	29	0.6%	19	0.5%
兵 庫	篠山市	25	0.5%	15	0.4%
	養父市	13	0.3%	16	0.4%
	丹波市	50	1.1%	40	1.0%

地域区分		元年度		2年度	
		患者数	構成比	患者数	構成比
兵 庫 県	南あわじ市	215	0.7%	177	0.6%
	朝来市	121	0.4%	107	0.4%
	淡路市	284	0.9%	245	0.9%
	宍粟市	72	0.2%	58	0.2%
	加東市	207	0.7%	165	0.6%
	たつの市	167	0.5%	164	0.6%
	猪名川町	27	0.1%	30	0.1%
	多可町	58	0.2%	54	0.2%
	稲美町	117	0.4%	100	0.3%
	播磨町	123	0.4%	100	0.3%
	市川町	24	0.1%	18	0.1%
	福崎町	40	0.1%	39	0.1%
	神河町	27	0.1%	20	0.1%
	太子町	81	0.3%	83	0.3%
	上郡町	23	0.1%	22	0.1%
	佐用町	28	0.1%	24	0.1%
	香美町	48	0.2%	43	0.2%
	新温泉町	29	0.1%	24	0.1%
	その他	39	0.1%	56	0.2%
計	29,221	93.9%	26,949	94.1%	
近畿圏		1,032	3.3%	938	3.3%
近畿圏外		871	2.8%	747	2.6%
総 計		31,124	100.0%	28,634	100.0%

地域区分		元年度		2年度	
		患者数	構成比	患者数	構成比
兵 庫 県	南あわじ市	44	0.9%	31	0.7%
	朝来市	58	1.2%	41	1.0%
	淡路市	23	0.5%	17	0.4%
	宍粟市	7	0.1%	6	0.1%
	加東市	43	0.9%	31	0.7%
	たつの市	20	0.4%	22	0.5%
	猪名川町	3	0.1%	3	0.1%
	多可町	8	0.2%	10	0.2%
	稲美町	16	0.3%	11	0.3%
	播磨町	14	0.3%	11	0.3%
	市川町	2	0.0%	2	0.0%
	福崎町	6	0.1%	8	0.2%
	神河町	5	0.1%	5	0.1%
	太子町	11	0.2%	8	0.2%
	上郡町	2	0.0%	2	0.0%
	佐用町	0	0.0%	0	0.0%
	香美町	10	0.2%	13	0.3%
	新温泉町	3	0.1%	4	0.1%
	その他	11	0.2%	16	0.4%
計	4,258	89.7%	3,829	91.0%	
近畿圏		221	4.7%	190	4.5%
近畿圏外		267	5.6%	191	4.5%
総 計		4,746	100.0%	4,210	100.0%

※実患者数

8. 公費負担患者状況

令和2年度

公費負担制度	件数	構成比
1. 小児慢性特定疾患	567	26.7%
2. 育成医療	66	3.1%
3. 養育医療	205	9.6%
4. 児童福祉（措置）	47	2.2%
5. 特定疾患	40	1.9%
6. 生活保護	56	2.6%
7. 精神保健	40	1.9%
8. 自 費	1,105	52.0%
合 計	2,126	100.0%

9. 時間外患者状況

令和2年度

科名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
循環器内科	外来	1			1	1			1	3		2	1	10
	入院	1												1
	計	2	0	0	1	1	0	0	1	3	0	2	1	11
腎臓内科	外来				1			1						2
	入院						1							1
	計	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	3
神経内科	外来	1	1					1					1	4
	入院	1			1	1				1	1			5
	計	2	1	0	1	1	0	1	0	1	1	0	1	9
血液内科	外来	1	2	4	4	2	1	5	2	2	2	1	2	28
	入院	2		2		1	1		1	1	1			9
	計	3	2	6	4	3	2	5	3	3	3	1	2	37
代謝・内分泌内科	外来										1			1
	入院							1				1		2
	計	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	3
新生児内科	外来													0
	入院	14	13	14	14	16	20	15	8	13	14	6	7	154
	計	14	13	14	14	16	20	15	8	13	14	6	7	154
心臓血管外科	外来	1	1	2					2			1	1	8
	入院													0
	計	1	1	2	0	0	0	0	2	0	0	1	1	8
脳神経外科	外来	2			3									5
	入院										1			1
	計	2	0	0	3	0	0	0	0	0	1	0	0	6
小児外科	外来	3	2	3	3	3	2	4	2	3	3		2	30
	入院	3	6		1	4		2	4	1		6	5	32
	計	6	8	3	4	7	2	6	6	4	3	6	7	62
整形外科	外来	2	1											3
	入院		1	1			1							3
	計	2	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	6
形成外科	外来					1				2	1	1		5
	入院				1									1
	計	0	0	0	1	1	0	0	0	2	1	1	0	6
精神科	外来													0
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アレルギー内科	外来		1				1					1		3
	入院					1							2	3
	計	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	1	2	6
リウマチ科	外来													0
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

科名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
感染症内科	外来													0
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
臨床遺伝科	外来													0
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科	外来	2	3	3	2			1	3	2	3	1	1	21
	入院	1		1		2		1		1	3			9
	計	3	3	4	2	2	0	2	3	3	6	1	1	30
産科	外来	1		3	6	5	3	2	2	6	4	1	4	37
	入院	1			2	2	7	1	2	1	3	1	2	22
	計	2	0	3	8	7	10	3	4	7	7	2	6	59
眼科	外来				2		1		1					4
	入院													0
	計	0	0	0	2	0	1	0	1	0	0	0	0	4
耳鼻咽喉科	外来													0
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
リハビリテーション科	外来													0
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放射線科	外来													0
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻酔科	外来													0
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総合診療科	外来	1								1				2
	入院	18	30	25	19	25	22	26	31	24	22	15	18	275
	計	19	30	25	19	25	22	26	31	25	22	15	18	277
救急科	外来	317	434	400	532	488	473	432	531	431	436	418	468	5,360
	入院	3										1		4
	計	320	434	400	532	488	473	432	531	431	436	419	468	5,364
小児集中治療科	外来													0
	入院	2	8	10	7	5	9	4	7	8	3	6	4	73
	計	2	8	10	7	5	9	4	7	8	3	6	4	73
歯科	外来													0
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	外来	332	445	415	554	500	481	446	544	450	450	426	480	5,523
	入院	46	58	53	45	57	61	50	53	50	48	36	38	595
	計	378	503	468	599	557	542	496	597	500	498	462	518	6,118

10. 小児がん患者入院延べ日数

令和3年度【総計】14,076日

経理状況

区 分		単 位	R 元年度 決 算	R 2 年度				決算評価		
				計 画	決 算	計 画 対 比	前 年 対 比	計 画 対 比	前 年 対 比	
業務量	入院	許 可 病 床 数	床	290	290	290	0	0		
		稼 働 病 床 数	床	275	282	282	0	7		
		病 床 利 用 率	%	86.7	78.3	78.3	78.3	△ 8.4	○	×
		病床利用率(一般のみ)	%	86.7	78.3	78.3	78.3	△ 8.4	○	×
		延 入 院 患 者 数	人	87,299	80,604	80,604	80,604	△ 6,695	○	×
		1 日 当 たり 患 者 数	人/日	239	221	221	221	△ 18	○	○
		新 規 入 院 患 者 数	人	6,814	6,700	6,139	6,139	△ 675	○	×
		平 均 在 院 日 数	日	11.8	12.6	12.1	12.1	0.3	○	○
		入 院 単 価	円	93,241	99,427	100,943	1,516	7,702	○	○
	入 院 単 価 (一 般)	円	93,241	99,427	100,943	1,516	7,702	○	○	
	外来	延 外 来 患 者 数	人	103,385	97,305	97,305	97,305	△ 6,080	○	×
		1 日 当 たり 患 者 数	人/日	431	400	400	400	△ 31	○	×
		外 来 単 価	円	17,569	17,638	18,150	512	581	○	○
		新 規 外 来 患 者 数	人	13,487	12,100	11,320	11,320	△ 2,167	×	×
		紹 介 率	%	86.0	85.5	87.6	2.1	1.6		
	手 術 件 数	件	3,631	2,914	3,075	161	△ 556	○	×	
	救 急 車 搬 送 患 者 数	人	2,016		1,467	1,467	△ 549		×	
収 支	入 院 収 益	百万円	8,140	8,136	8,136	8,136	△ 4	○	×	
	外 来 収 益	百万円	1,816	1,766	1,766	1,766	△ 50	○	×	
	そ の 他 医 業 収 益	百万円	145	149	149	149	4	○	○	
	* 医 業 収 益 *	百万円	10,101	10,501	10,051	10,051	△ 50	○	×	
	医 業 外 収 益	百万円	147	191	191	100	130	○	○	
	長 期 前 受 金 戻 入 額	百万円	755		663	663	△ 92	-	-	
	* 経 常 収 益 計 ① *	百万円	11,004	11,153	13,512	13,512	2,508	○	○	
	給 与 費	百万円	7,784	8,046	8,046	8,046	262			
	(うち退職給与金)	百万円	266	164	164	164	△ 102			
	(うち退職給付引当金)	百万円	144	259	259	259	115			
	(うち賞与引当金)	百万円	346	439	439	439	93			
	材 料 費	百万円	2,153	2,277	2,277	2,277	124			
	(うち薬品費)	百万円	1,304	1,407	1,404	1,404	100			
	(うち診療材料費)	百万円	774	795	795	795	21			
	経 費	百万円	2,022	2,117	2,117	2,117	95			
	減 価 償 却 費	百万円	1,232	1,195	1,195	1,195	△ 37			
	そ の 他 の 医 業 費 用	百万円	59		54	54	△ 5			
	* 医 業 費 用 *	百万円	13,250	13,689	13,689	13,689	439			
	医 業 外 費 用	百万円	201	191	191	191	△ 10			
	* 経 常 費 用 計 ② *	百万円	13,452	13,880	13,880	13,880	428			
繰 入 前 経 常 損 益 ③ (① - ②)	百万円	△ 2,448	△ 2,727	△ 368	△ 368	2,080	○	○		
一 般 会 計 繰 入 金 ④	百万円	2,386	2,360	2,360	2,360	△ 26	-	-		
経 常 損 益 ⑤ (③ + ④)	百万円	△ 62	△ 367	1,992	1,992	2,054	○	○		
特 別 利 益 ⑥	百万円	3	125	125	125	122	-	-		
特 別 損 失 ⑦	百万円	105	424	424	424	319	-	-		
当 期 純 損 益 ⑤ + ⑥ - ⑦	百万円	△ 164	68	1,693	1,693	1,857	○	×		
経 営 指 標	医 業 収 益 比 率	%	77.1	80.0	80.1	80.1	3.0	×	×	
	材 料 費 比 率	%	21.3	22.7	22.7	22.7	1.4	×	×	
	(うち薬品費比率)	%	12.9	14.0	14.0	14.0	1.1	×	×	
	(うち診療材料費比率)	%	7.7	7.9	7.9	7.9	0.2	○	×	
	経 費 比 率	%	20.0	21.1	21.1	21.1	1.1	×	×	
	経 常 収 支 比 率	%	99.5		114.9	114.9	15.4	×	×	

※紹介率=地域支援病院の紹介率

決算の推移

区分	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		(単位:床、%、人、千円)	
	決	算	決	算	決	算	決	算	決	算		
	業	比	業	比	業	比	業	比	業	比		
稼働病床数	床	267	100.4	269	100.7	275	102.2	275	100.0	282	102.5	16
病床利用率	%	78.7	91.6	86.9	110.4	79.1	91.0	86.7	109.6	78.3	90.3	△ 8.1
平均在院日数	日	12.5	89.3	12.1	96.8	11.8	97.5	11.8	100.0	12.1	102.5	△ 2.4
延入院患者数	人	76,733	91.8	85,354	111.2	79,417	93.0	87,299	109.9	80,604	92.3	△ 3,239
(1日当り)	人	210	92.1	234	111.4	218	93.2	239	109.6	221	92.5	△ 9
新規入院患者数	人	5,681	102.4	6,478	114.0	6,213	95.9	6,814	109.7	6,139	90.1	733
延外来患者数	人	84,099	97.6	93,614	111.3	99,518	106.3	103,385	103.9	97,305	94.1	11,778
(1日当り)	人	346	97.7	385	111.3	408	106.0	431	105.6	400	92.8	49
新規外来患者数	人	7,347	95.6	10,498	142.9	13,019	124.0	13,487	103.6	11,320	83.9	3,576
入院収益	千円	6,993,826	80.7	8,041,629	115.0	8,008,664	81.1	8,139,808	80.6	8,136,380	81.0	712,243
(1日1人)	円	91,145	105.8	94,215	103.4	100,843	107.0	93,241	92.5	100,943	108.3	12,395
外来収益	千円	1,545,024	17.8	1,658,986	107.4	1,728,093	17.5	1,816,334	18.0	1,766,075	17.6	45,178
(1日1人)	円	18,371	88.8	17,722	96.5	17,365	98.0	17,569	101.2	18,150	103.3	△ 1,971
その他医業収益	千円	124,591	1.4	127,804	102.6	135,282	1.4	145,252	1.4	148,526	1.5	40,552
* 医業収益計*	千円	8,663,441	100.0	9,828,419	113.4	9,872,039	100.0	10,101,394	100.0	10,050,981	100.0	797,973
医業外収益	千円	405,326	4.7	406,119	101.4	405,753	9.7	402,247	8.9	401,374	34.4	3,032,112
特別利益	千円	856	0.0	20,994	2,452.6	956,288	9.7	2,751	0.0	124,601	1.2	4,529.3
** 収益合計**	千円	9,069,623	104.7	10,752,674	118.6	11,783,080	119.4	11,006,392	109.0	13,636,956	135.7	3,953,423
給与費	千円	7,548,291	87.1	7,733,509	102.5	7,636,742	77.4	7,784,452	77.1	8,045,788	80.0	1,387,133
うち退職給与金	千円	(200,489)	2.3	(346,383)	172.8	(306,010)	3.1	(410,083)	4.1	(163,942)	1.6	40.0
うち退職給与引当金	千円	(157,000)	1.8	(140,353)	100.0	(81,196)	0.8	(144,067)	1.4	(258,546)	2.6	179.5
材料費	千円	2,102,489	24.3	2,091,234	99.5	2,110,350	21.4	2,153,370	21.3	2,277,197	22.7	105.8
経費	千円	1,971,681	22.8	1,944,053	132.0	2,060,295	20.9	2,021,657	20.0	2,117,082	21.1	611,864
減価償却費	千円	242,978	2.8	1,330,259	55.6	1,300,645	13.2	1,231,559	12.2	1,194,835	11.9	604,685
資産減耗費	千円	90,787	1.0	15,599.1	6.5	6,710	0.1	6,219	0.1	17,541	0.2	282.1
研究研修費	千円	60,331	0.7	110.3	0.5	50,370	0.5	53,070	0.5	36,324	0.4	△ 21,442
* 医業費用計*	千円	12,016,557	138.7	13,155,151	109.5	13,165,112	133.4	13,250,327	131.2	13,688,767	136.2	2,698,672
医業外費用	千円	249,709	2.9	265,818	106.5	224,842	2.3	201,464	2.0	190,774	1.9	8,601
特別損失	千円	2,783,070	32.1	25,855.4	0.3	30,881	0.2	104,638	1.0	423,503	4.2	397,342
** 費用合計**	千円	15,049,336	173.7	13,421,850	89.4	13,411,141	135.8	13,556,429	134.2	14,303,044	142.3	3,104,597
差引損益	千円	△ 5,979,713	△ 69.0	△ 2,699,176	△ 42.7	△ 1,628,061	△ 27.5	△ 2,550,037	△ 25.2	△ 666,088	△ 6.6	848,826
一般会計繰入金	千円	2,295,934	26.5	2,321,662	101.1	2,454,642	24.9	2,385,617	23.6	2,360,494	23.5	578,537
経常損益	千円	△ 901,565	△ 10.4	△ 367,627	△ 3.7	△ 108,520	△ 1.1	△ 62,533	△ 0.6	1,993,308	19.8	△ 3,187.6
当期純損益	千円	△ 3,683,779	△ 42.5	△ 4,298.1	△ 0.2	826,581	8.4	△ 164,420	△ 1.6	1,694,406	16.9	△ 1,030.5
経常収支比率	%	92.7	91.9	97.3	105.0	99.2	102.0	99.5	100.3	114.4	114.9	-
医業収支比率	%	72.1	87.6	74.7	103.6	75.0	100.4	76.2	101.7	73.4	96.3	-

III 診 療 統 計

1. 総合診療科

1. スタッフ

総合診療科の科長は田中医師から中岸医師へ交代し、上村医師、津田医師、倉橋医師が退職した。
石田医師、大竹医師、吉野医師が入職した。

科長 中岸保夫（リウマチ科兼務）

小児救命救急センター長 田中亮二郎

医長 石田悠介（神経内科兼務）、南川将吾

フェロー 佐藤聖子、松村 治、大竹結衣、吉野 豪（9月-3月）、

専攻医 柏坂 舞・西藤知城・長谷部匡毅（4-6月）

田中陽菜・原田晋二・夏木 茜（7-9月）

籾下広樹（9-12月）、松本泰右・太田 亮（1-3月）

石田貴裕（4-6月）、広田幸穂（4-5月）、井上葵子（6-8月）、中野友理佳（7-9月）

青木萌子・岡崎沙也香（10-12月）、合田由香利（11-1月）、近藤友里子（1-3月）

2. 活動内容

当院は小児専門病院であるため臓器別、疾患別に専門分野が細分化され、複数の臓器に問題を抱える患者も多い。総合診療科はこのような多様な医学的問題をもつ患者に対して多角的に診療を行うことを目的とした診療科である。具体的には、基礎疾患の有無に関わらず小児救命救急センターから入院となった患者（外傷などの外因性疾患から内因性疾患まで）の入院対応、他科からのコンサルテーション、外科系患者やリウマチ科系患者の内科的管理、集中治療管理後の一般病棟管理、在宅医療の推進などを担っている。当科スタッフはリウマチ学会専門医・腎臓学会専門医・小児神経科などの様々なキャリアをもった医師集団であり、さらにはリハビリテーション科を含めた各診療科、看護部、栄養管理部、家族支援・地域医療連携部とも密に協力してチームとしての診療を行い、こどもにとって最善の医療を提供することを目標としている。

また、専攻医教育の充実も当科における重要な使命である。週に2-3回は専攻医を対象としたスタッフや各診療科医師によるレクチャーと専攻医自身による症例検討会を行い、積極的に学会発表や論文作成も指導している。また、当科スタッフ・フェロー指導の下で積極的に業務を行ってもらうことで On the job training の充実にも力を入れており、当科でのフィードバックシステムも作成・実行している。これらの指導体制により、当院専攻医が必修となっている当科6か月研修の間に、総合的な小児診療が出来る小児科医育成を目指している。

3. 総合診療科患者数

総入院患者数（2020年1月1日-2020年12月31日） 1101人

4. 主要疾患内訳 (DPC 主病名)

下気道感染症 (気管支炎、細気管支炎、肺炎、肺膿瘍など)	129
上気道感染症 (鼻咽頭炎、咽頭炎、扁桃炎、中耳炎など)	84
気管支喘息	54
急性呼吸不全 (ARDS、急性 I 型 / II 型呼吸不全、慢性呼吸不全急性増悪など)	19
消化管感染症 (細菌性、ウイルス性)	47
腸重積症 (非観血的整復症例)	12
熱性けいれん (単純型、複雑型)	93
中枢神経感染症 (無菌性髄膜炎、細菌性髄膜炎、脳膿瘍、急性脳炎 / 脳症など)	10
尿路感染症 (急性巣状細菌性腎炎を含む)	105
川崎病	55
ケトン性・非ケトン性低血糖症	14
化膿性リンパ節炎 (頸部、腋窩、鼠経など)	9
骨折	29
脳震盪	34
熱傷	14
薬物中毒	16

その他疾患

クロストリジウム・ディフィシル腸炎、高安動脈炎、全身型若年性関節性関節炎、ROHHAD 症候群、壊血病、BCG 骨髄炎、肺ヘモジデロシス、腸リンパ管拡張症疑い など

2. 救急科

1. 診療活動

小児救命救急センターは、すべての救急患者さんに対応するため、救急外来を担当する部門、救急外来から入院する比較的軽症の患者を担当する入院部門、重症患者を担当する集中治療部門に分けて運用されてきた。そしてこれまでの三次救急医療の実績を踏まえて平成29年4月から全国で12番目、近畿圏では初めての小児救命救急センターに指定された。救急外来部門（救急科）に関しては、小児救命救急センター長の田中亮二郎、林卓郎、松井鋭、竹井寛和、谷澤直子、大西康裕（フェロー）、鞍谷沙織（フェロー）の計7名が担当した。救急患者の受け入れをより積極的に行うために、救急車の依頼を断らないことを徹底し、2次の患者や初期の患者も来院すれば受け入れることで対応し、毎年救急外来受診者数と救急車による搬送件数は増加してきた。しかし令和2年度は、予想もしなかった新型コロナウイルス感染症の拡大により、総受診者数は9697人、救急車による搬送件数は1293件に減少した。2019年度と2020年度の大きな違いは、外因系疾患の患者の割合が35%から46%に増加したことであった。外科系各科からの指導を受けながらできるだけ救急医が縫合や骨折の固定なども実施するようにした。また神戸市の救急隊からの応需率は100%に近い数字で以前と変わらない。

近隣の医療施設からの出迎え搬送の依頼にもできるだけ対応するようにしているが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、今年度依頼件数も減少した。今後も病院が掲げている「断らない救急」を実現すべく、with/post コロナの時代の体制整備を進めたい。またWebも利用しながら、毎週1回7時30分から専攻医向けの勉強会や月1回科内で半日の勉強会を継続し、専攻医が中心となって救急診療に必要な実技トレーニングも定期的で開催している。

2. スタッフ

救急科：田中亮二郎、林卓郎、松井鋭、竹井寛和、谷澤直子、大西康裕（フェロー）、
鞍谷沙織（フェロー）、鮫島智大（県立淡路医療センター併任）

専攻医：藪下広樹（2020年6月）
松本泰右（2020年7月）
太田亮（2020年8月）
岡崎沙也香（2020年9月）
玉城倫（2020年10月）
野谷梨紗子（2020年11月）
遠藤理沙（2020年12月）

神戸市立西神戸医療センター専攻医 竹本嵩之（2020年1—3月）、神戸市立医療センター中央市民病院
専攻医 佐伯玲（2020年4-5月）

鳥取大学医学部附属病院脳神経小児科から研修 吉野豪（2020年4月—9月）

県立加古川医療センター救急科から研修 森山直紀（2020年11月—2021年1月）

他の県立病院初期研修医の研修（1ヶ月）

山根徹也（県立淡路医療センター）、酒井善紀（県立淡路医療センター）、須藤徳子（県立淡路医療センター）
また神戸大学医学部の学生研修も受け入れた。

3. 診療統計

小児救命救急センター診療統計 2020年1月～12月

(1) 救急外来患者数・救急入院患者数・救急車搬送数

区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
救急外来患者数	1,081	880	757	578	680	725	881	862	816	809	860	768	9,697
救急入院患者数	174	133	144	102	104	113	129	122	109	149	131	122	1,532
救急車搬送数	172	123	111	94	91	105	92	100	93	101	102	109	1,293

(2) 平日・休日別救急患者数

平日・休日	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
平日	567	486	457	381	350	504	547	535	490	554	465	496	5,832
休日	514	394	300	197	330	221	334	327	326	255	395	272	3,865
合計	1,081	880	757	578	680	725	881	862	816	809	860	768	9,697

(3) 時間帯別救急患者数

時間帯	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
0:00～8:45	153	112	82	61	67	79	94	99	89	94	81	76	1,087
8:45～17:30	537	414	369	292	335	348	430	419	396	377	440	407	4,764
17:30～24:00	391	354	306	225	278	298	357	344	331	338	339	285	3,846
合計	1,081	880	757	578	680	725	881	862	816	809	860	768	9,697

(4) 地域別救急患者数

時間帯	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
神戸市	853	720	602	484	593	598	713	725	666	665	709	628	7,956
(東灘区)	(137)	(119)	(90)	(62)	(95)	(90)	(104)	(107)	(81)	(99)	(120)	(108)	(1,212)
(灘区)	(102)	(84)	(81)	(69)	(53)	(67)	(63)	(75)	(68)	(66)	(82)	(64)	(874)
(中央区)	(128)	(92)	(98)	(59)	(100)	(103)	(143)	(111)	(103)	(118)	(108)	(99)	(1,262)
(兵庫区)	(65)	(61)	(58)	(46)	(56)	(52)	(59)	(74)	(70)	(67)	(75)	(62)	(745)
(北区)	(91)	(88)	(67)	(59)	(67)	(56)	(85)	(85)	(86)	(71)	(93)	(79)	(927)
(長田区)	(63)	(49)	(39)	(24)	(37)	(48)	(52)	(53)	(48)	(49)	(50)	(47)	(559)
(須磨区)	(103)	(77)	(69)	(49)	(61)	(58)	(76)	(72)	(77)	(49)	(72)	(66)	(829)
(垂水区)	(93)	(100)	(54)	(68)	(67)	(67)	(69)	(93)	(79)	(101)	(66)	(68)	(925)
(西区)	(71)	(50)	(46)	(48)	(57)	(57)	(62)	(55)	(54)	(45)	(43)	(35)	(623)
阪神南地域	47	45	34	19	13	42	45	41	40	29	35	26	416
阪神北地域	23	11	20	13	13	8	13	15	14	15	13	15	173
東播磨地域	59	43	48	22	28	34	52	26	33	36	41	40	462
北播磨地域	19	15	11	12	13	13	22	7	10	25	15	13	175
中播磨地域	11	8	10	7	6	9	11	12	6	11	6	6	103
西播磨地域	1	3	1	2	3	1	1	3	1	1	4	0	21
但馬地域	3	2	2	1	0	0	2	2	3	1	2	0	18
丹波地域	3	7	6	4	2	3	2	1	5	2	3	6	44
淡路地域	7	4	11	5	4	5	3	9	7	5	9	5	74
兵庫県外	55	22	12	9	5	12	17	21	31	19	23	29	255
合計	1,081	880	757	578	680	725	881	862	816	809	860	768	9,697

(5) ドクターヘリ搬送数

区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
合計	2	3	2	1	2	1	0	3	3	4	3	0	24

3. 代謝内分泌科

1. 人事異動

部長（科長）	尾崎 佳代
医長	永井 正志
	松本 真明（淡路医療センターより週2日）
フェロー	三星 アカリ

本年はスタッフ2名、フェロー1名の3名体制で診療を行った。淡路医療センターから週2回 松本 真明医師が診療応援に入っている。また、専攻医数名が1～2ヶ月間のサイクルで研修を行った。

2. 診療活動

代謝内分泌科は小児における大きな特性である成長と成熟に関わる疾患、すなわち低身長症、肥満、糖尿病、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患、思春期発来異常、性分化異常などを対象としている。本年度の新規外来患者数は388名と44名増加した。全ての分野でまんべんなく増加していた。入院患者数も95名と約20名増加した。地域の専門病院として今後もその役割を果たしていく所存である。施設としては日本内分泌学会の認定教育施設に認定され、内分泌専門医を目指す小児科医の研修支援を行っている。

糖尿病の治療においては、多職種によるカンファレンスを定期的で開催して、すべての職種が知識・技術の向上に務めた。今年度は、社会的背景及び家庭環境の劣悪な家庭、精神状態の不安定な家庭など、当科のみでは対応しきれない症例が増加したため、多職種カンファレンスに精神科にも加わっていただき適時アドバイスをいただいた。そのような症例は増加の一途をたどっているため、今後も定期的で開催予定である。

外来では内分泌に特化したCCS外来を開設した。血液腫瘍科におけるCCS外来とは異なり、内分泌的障害により治療が必要な患者さんを対象として、内分泌分野のきめ細やかな対応を行っていく予定である。

今年度は、患者さんの生命を守るための在宅治療が進歩を遂げた。先天性副腎過形成におけるハイドロコルチゾンの在宅筋肉注射。糖尿病患者さんの低血糖時のグルカゴン点鼻。いずれも外来にて看護師チームが指導を行ったことによって、スムーズな導入を行うことが出来た。

当科は患者様に対する治療法の改善並びに生活の質の向上を目的とした臨床治験に積極的に参加している。本年度は昨年度に引き続きSGA性低身長、成長ホルモン分泌不全性低身長を対象としたLong GH治療の治験に参加した。臨床研究としてXLH(低リン血症性くる病)の研究に参加した。XLHの新薬が発売され、治療を導入することにより、身長伸びが改善した。

近年、病気の原因の解明、病気の予防・診断・治療の改善、患者さんの生活の質の向上を目的とした臨床研究が推進されている。当科も計画的に5年後10年後を見据えた臨床研究を立ち上げていく予定である。

外来患者（新患）

	患者数
低身長症	127
甲状腺疾患	28
性腺疾患	104
副腎	6
糖代謝異常	22
肥満	18
マスキング	

	患者数
クレチン症	20
先天代謝異常症	6
先天性副腎過形成	2
その他	55
計	388

入院患者

	患者数
低身長症	41
糖代謝異常	17
性腺疾患	4
甲状腺疾患	5
副腎疾患	9
その他	19
計	95

4. リウマチ科

1. 人事異動

【スタッフ】

科長 中岸 保夫

2. 診療活動

16歳未満で発症した小児の膠原病・リウマチ性疾患を対象に主に外来で診療している。具体的には、昔は若年性関節リウマチ（JRA）と呼ばれていた若年性特発性関節炎（JIA）、全身性エリテマトーデス（SLE）、若年性皮膚筋炎（JDM）、全身性強皮症、シェーグレン症候群、他にはクリオピリン関連周期熱症候群（CAPS）、家族性地中海熱などの自己炎症性疾患、川崎病や高安動脈炎を含めた血管炎症候群などが対象になる。入院管理は総合診療科が主科として診療にあたり、協力して行っている。

こどもの膠原病・リウマチ性疾患に対しては、標準的な医療のみならず、重症度に応じて適切な免疫抑制薬や生物学的製剤を用いて最新の治療を行っている。

3. 特色

外来診療にあたっては、小児施設には数少ない日本リウマチ財団登録リウマチケア看護師（リウマチケア看護師）が在籍している。患児の気持ちを理解し、患児自身が理解・納得できるようにサポートしている。

4. 診療実績

外来初診 254名（うち初診 40名）

入院患者 総合診療科管理

主な疾患

全身型若年性特発性関節炎	23名（2名）
全身型以外の若年性特発性関節炎	82名（10名）
全身性エリテマトーデス	9名（2名）
若年性皮膚筋炎・多発筋炎	10名（3名）
全身性強皮症・限局性強皮症	1名
シェーグレン症候群	3名
高安動脈炎	5名（1名）
川崎病（冠動脈病変なし）	81名（急性期は総合診療科入院）
クリオピリン関連周期性発熱	2名
家族性地中海熱	1名
他の自己炎症性疾患	6名

川崎病、全身型若年性特発性関節炎、全身性エリテマトーデス、若年性皮膚筋炎など

他の初診患者

不明関節痛・関節炎など

5. アレルギー科

1. 人事異動

変更はない。

【スタッフ】

科長	田中 裕也 日本アレルギー学会専門医 日本小児科学会専門医・指導医
フェロー	百々 菜月 日本小児科学会専門医

2. 小児アレルギー疾患センター

センター長	小阪 嘉之
副センター長	田中 裕也

3. 兵庫県アレルギー疾患医療拠点病院

2014年6月に「アレルギー疾患対策基本法」が設立し、2015年12月末から施行されている。これはアレルギー疾患患者の増加に対応すべく医療提供の均てん化を目指したものである。その一環として2018年度より当院は兵庫県アレルギー疾患医療拠点病院に指定され、診療以外の事業として2020年度はアレルギー相談事業や医療者に向けたアレルギー講習会に携わった。

4. 診療活動

基礎疾患に合併したアレルギー疾患や重症例にも対応しているが、地域の医療機関からのご紹介や当院救急外来受診後のフォローなど、基礎疾患を有しない軽症例にも対応している。新型コロナウイルス感染症の影響は限定的であり外来患者数は増加した。食物負荷試験は外来・入院両方で行っており、本年度も昨年度に引き続き実施件数が増加した。アレルギー疾患の総合的なコントロールを心がけており、スギ・ダニへの皮下・舌下免疫療法などを積極的に取り入れている。アレルギー専門看護師（小児アレルギーエデュケーター）を中心にしたコメディカルが食物アレルギーでのエピペン指導や喘息の吸入指導、アトピー性皮膚炎の皮膚ケア、舌下免疫療法の指導などを行い、より患者に寄り添った医療を行うよう努めている。

当科は日本アレルギー学会で認定された教育病院であり、若手医師への教育を行っている。

3. 診療実績（1月～12月）

- 食物負荷試験 521件
- ダニ・スギ舌下免疫療法 351名
- アトピー・喘息・慢性蕁麻疹に対する生物学的製剤投与継続例 44名（12月時点での累計）
- 新規外来患者 80名（12月時点）

6. 神経内科

1. スタッフ

部長（科長）	丸山 あずさ
医長	豊嶋 大作
	石田 悠介（総合診療科兼務 2020 年 4 月から）
フェロー	徳元 翔一（2020 年 3 月まで）
	本郷 裕斗（2020 年 4 月から）

本年は徳元が3月で退職し神戸大学に連携大学院として異動、本郷が4月にフェローとして赴任した。また本年はフェローが2名から1名と減員となり、総合診療科兼務の石田悠介が外来のみ担当し、4名体制で診療を担当した。児玉荘一先生に月2回、神戸大学小児科の永瀬裕朗先生と西山将広先生に月1回ずつ、診療応援や専攻医教育、臨床研究のアドバイスなどをお願いしている。

2. 活動状況

2020年診療活動は、神経内科外来初診393名、入院新規患者数は98名と、コロナ禍の影響もあり昨年までと比較して、外来入院患者数ともに減少した。一方で、頭痛、拒食などの心身症状をきたす患者が増加し、特に摂食障害に関しては新患が13例と大幅に増えた。児童精神科と連携をとりながら身体管理を行うことができるのは当院の強みであり、今後も近隣の医療機関からの紹介は、積極的に受け入れたい。

けいれん重積や意識障害が遷延する状態については、昨年と同様に、休日夜間を問わずオンコール体制でコンサルトを受けた。PICUのみならず救急外来初療室でも、速やかに脳波モニタリングが出来る体制を整えており、当科で重点的に取り組んでいる救急集中治療領域における持続脳波モニタリングは216件に行った。引き続き、救急総合診療科や集中治療科と連携しながら、神経救急疾患の充実した急性期管理に尽力していきたい。

てんかん診療については、本年は長時間ビデオ脳波が69件と前年より実施回数が増え、診療の質の向上に役立てた。今後も近隣の施設への情報発信を行っていきたい。

当院は小児神経専門医研修施設、日本てんかん学会研修施設に認定されており、小児神経専門医を目指す小児科医の育成にも引き続き取り組んでいきたい。

学術活動については、昨年に引き続き急性脳症を中心とした臨床研究を神戸大学と連携して行っており、2020年は学会発表9件、論文発表7件であった。また急性脳症に関しては多施設共同臨床研究も進行中である。

神経内科初診患者数 393 例

(疾患名には疑いも含む、一部重複あり)

神経内科外来（新患者）	393 例	検査及び治療	
てんかん・失神などの発作性疾患	156 例	脳波	537 件
精神遅滞・発達障害	38 例	持続脳波モニタリング	216 件
熱性けいれん・急性脳症	95 例	長時間ビデオ脳波	69 件
自己免疫性神経疾患	10 例	末梢神経伝導検査	15 件
頭痛・摂食障害・その他心身症	76 例	脳平温療法	6 件

7. 血液・腫瘍内科

【人事】

正規医師については、2019年3月末に岸本健治医長（京都大学大学院）が転出し、松山赤十字病院より宮本真知子医長が転入した。フェロー医師の中谷尚子医師（神戸大学医学部附属病院）、市川貴之医師（和歌山大学医学部附属病院）、血液・腫瘍内科専任後期研修医の片山大資医師（大阪医大附属病院）が転出し、東條龍之介医師（京都市立病院）、井上翔太郎医師（淡路医療センター）、西村明紘医師（こども病院後期研修医）がフェローとして入職し、小阪副院長以下13名の体制で始動した。短期ローテーターの異動については割愛する。

副院長（小児がん医療センター長）	小阪嘉之
科長（部長，小児がん医療センター次長）	長谷川大一郎
部長	森健
医長	石田敏章
医長	神前愛子
医長	斎藤敦郎
医長	田村彰広
医長	中村さやか
医長	宮本真知子
フェロー	野口隼
フェロー	東條龍之介
フェロー	井上翔太郎
フェロー	西村明紘

【診療活動】

小児がん拠点病院として県内10施設を小児がん連携病院に指定した。地域医療圏における診療連携・患者集約化が進んでいる。新型コロナウイルス流行に伴い患者紹介動向に一定の影響がみられたものの、本年度の新患数は堅調に推移している。詳細はそれぞれ別表を参照されたい。腫瘍性疾患に関しては学会登録ベースで全国屈指／西日本最大規模の症例数であり、平均稼働病床も高水準を推移した。また、神戸陽子線センターとの診療連携に伴う陽子線治療照射実績は66例まで増加し、単年度症例数ベースでは小児腫瘍領域では全国最多であった。今後も小児陽子線治療空白地域を中心に患者紹介の増加が見込まれる。また、4床の無菌室増床を精力的に稼働させ難治例に対する難易度の高い造血幹細胞移植症例も増加している。移植数も2020年移植数30例と過去最多であった。その他、小児がん拠点病院として新規治療開発にも力を入れており、小急性骨髄性白血病を対象としたPKC412の第Ⅱ相試験等の治験に取り組むことにより、再発難治例に対してより多くの治療選択肢を提供できるよう努めている。患者集約化に対応し、且つ人材育成のために科内スタッフの専門医取得支援を進めている。本年度新たに取得したものを加えて、小児科専門医10名（指導医6名）、日本血液学会血液専門医8名（指導医5名）、日本小児血液・がん学会専門医4名（指導医1名、暫定指導医1名）、日本造血細胞移植学会移植認定医5名、がん治療認定医6名、日本血栓止血学会認定医1名の体制となった。安全かつ質の高い診療基盤と、小児血液・がん専門医取得を目指す教育施設としてより強固な基盤を築いていけるよう体制を整えていく。

入院患者に占める思春期・若年成人（Adolescent and Young Adult, AYA）の占拠率の増加に伴い、多角的に療養環境の整備に取り組んでいる。特に、兵庫県教育委員会高等教育課の支援により長期療養中の高校生患者に対するインターネット通信を利用した遠隔授業を開始した。県教育委員会の主導で、入院生徒に対する教育機関と医療機関の連携の在り方検討会が設置され医療機関側を代表して当院も参加することとなった。一方、AYA がん患者の妊孕性保存に対しては、兵庫県がん生殖医療ネットワークと連携して、女性患者に対する妊孕性温存のための卵巣組織凍結保存に対する取り組みも継続している。兵庫県においても AYA 世代がん患者の妊孕性温存に対する助成制度も開始された。がん患者に対する晩期障害低減のため今後も努力を続けていく。

日本血栓止血学会より血友病診療連携地域中核病院に指定されたことを受けて血友病診療需要も増加しつつある。本年度新たに1名が日本血栓止血学会認定医を取得したことにより、同学会指定の教育研修施設に指定された。先天性凝固異常症など血栓止血領域においても看護部、地域医療連携部等と連携して患者の生活の質（QOL）を最大化することを目標に、診療の質と地域連携の核として診療連携を深めていく。

【研究・学術活動】

臨床業務と並行して、日本小児がん研究グループ（JCCG）等の委員会活動・研究活動等に従事した。小阪センター長が神戸大学客員教授／JCCG 運営委員、長谷川大一郎部長が JCCG-AML 委員会／ユーイング肉腫委員会／JACLS-ALL 委員会、森健部長が JCCG リンパ腫委員会、石田敏章医長が JCCG 神経芽腫委員会／JCCG 横紋筋肉腫委員会、田村彰広医長が JCCG HLH/LCH 委員会に所属し、臨床試験の計画・実施に携わっている。成果として JCCG 等の臨床試験の結果が報告されたほか、神戸大学や理化学研究所等の近隣研究施設と連携し基礎研究や疫学研究等に取り組んでいる。研究成果の誌上発表にも取り組んでおり、本年の研究成果は英文誌 20 編が掲載された。研究学術活動においても地域を主導する機関として益々実績を積み上げていくことが期待される。

2020年1月から12月 新患

血液腫瘍性疾患	急性リンパ性白血病 (ALL)	
	BCP	15
	乳児 ALL	0
	成熟 B	1
	T	6
	急性骨髄性白血病 (AML)	4
	混合表現型急性白血病 (MPAL)	1
	慢性骨髄性白血病 (CML)	0
	芽球形質細胞様樹状細胞腫瘍 (BPDCN)	1
	悪性リンパ腫	
	HL	1
	LBL	3
	DLBCL / Burkitt	3
	ALCL	2
	骨髄異形成症候群 (MDS)	1
	若年性骨髄単球性白血病 (JMML)	1
	Down 症 TAM	5
	ランゲルハンス組織球症 (LCH)	5
	血球貪食性リンパ組織球症 (HLH)	2
		51

固形腫瘍性疾患	脳脊髄腫瘍	
	頭蓋内胚細胞腫瘍	8
	髄芽腫	12
	非定型奇形腫様 / ラブドイド腫瘍 (AT/RT)	1
	上衣腫	6
	神経膠腫	6
	神経膠芽腫	2
	その他	4
	神経芽腫	11
	網膜芽細胞腫	6
	肝芽腫	2
	腎腫瘍	0
	ユーイング肉腫	8
	横紋筋肉腫	3
	その他の骨軟部腫瘍	7
	頭蓋外胚細胞腫瘍	
	成熟奇形腫	3
	未熟奇形腫	1
	未分化胚細胞腫	1
	卵黄嚢腫瘍	2
	混合型胚細胞腫瘍	1
	血管腫	2
	その他	9
		95

非腫瘍性疾患		
	特発性血小板減少性紫斑病 (ITP)	9
	自己免疫性好中球減少症 (AIN)	4
	好中球減少症	4
	遺伝性球状赤血球症 (HS)	0
	再生不良性貧血	2
	自己免疫性溶血性貧血 (AIHA)	1
	ダイヤモンド・ブラックファン貧血 (DBA)	0
	血友病 A	1
	血友病 B	3
	フォンヴィルブランド病	1
	カサバハ・メリット症候群	1
	組織球性壊死性リンパ節炎 (SNL)	5
	免疫不全症	2
	ドナー (候補含む)	33
	その他	55
		121
	セカンドオピニオン	8
	合計	275

造血細胞移植一覧

番号	疾患	年齢	性別	病期	移植種別	転帰
1	悪性リンパ腫	12	男	非寛解	自家末梢血幹細胞移植	無病生存
2	悪性リンパ腫	13	女	第2寛解	非血縁者間同種骨髄移植	無病生存
3	髄芽腫	18	男	非寛解	自家末梢血幹細胞移植	有病生存
4	急性骨髄性白血病	11	男	第1寛解	臍帯血移植	無病生存
5	急性リンパ性白血病	9	男	第2寛解	血縁者間末梢血幹細胞移植	無病生存
6	神経芽腫	6	女	非寛解	自家末梢血幹細胞移植	無病生存
7	急性リンパ性白血病	7	女	第2寛解	臍帯血移植	無病生存
8	Wiskott-Aldrich 症候群	1	男	—	非血縁者間同種骨髄移植	無病生存
9	髄芽腫	4	男	第1寛解	自家末梢血幹細胞移植	無病生存
10	ユーイング肉腫	14	男	第2寛解	自家末梢血幹細胞移植	有病生存
11	頭蓋内胚細胞腫瘍	10	男	第1寛解	自家末梢血幹細胞移植	無病生存
12	急性リンパ性白血病	21	女	第2寛解	非血縁者間同種骨髄移植	無病生存
13	胎児性脳腫瘍	6	男	非寛解	自家末梢血幹細胞移植	有病生存
14	髄芽腫	2	女	非寛解	自家末梢血幹細胞移植	有病生存
15	髄芽腫	2	女	非寛解	自家末梢血幹細胞移植	有病生存
16	急性リンパ性白血病	6	男	第2寛解	臍帯血移植	無病生存
17	非定型奇形腫様 / ラブドイド腫瘍	6	男	第2寛解	自家末梢血幹細胞移植	無病生存
18	髄芽腫	2	女	非寛解	自家末梢血幹細胞移植	有病生存
19	髄芽腫	2	女	非寛解	自家末梢血幹細胞移植	有病生存
20	神経芽腫	7	女	非寛解	臍帯血移植	無病生存
21	髄芽腫	2	女	非寛解	自家末梢血幹細胞移植	有病生存
22	急性骨髄性白血病	13	女	第2寛解	非血縁者間末梢血幹細胞移植	死亡
23	先天性赤芽球癆	3	男	—	血縁者間同種骨髄移植	無病生存
24	再生不良性貧血	14	男	—	血縁者間同種骨髄移植	無病生存
25	急性骨髄性白血病	8	女	非寛解	非血縁者間同種骨髄移植	死亡
26	骨髄異形成症候群	6	男	—	非血縁者間同種骨髄移植	無病生存
27	髄芽腫	3	女	非寛解	自家末梢血幹細胞移植	有病生存
28	ランゲルハンス細胞組織球症	1	女	非寛解	血縁者間同種骨髄移植	無病生存
29	若年性骨髄単球性白血病	1	男	非寛解	非血縁者間末梢血幹細胞移植	無病生存
30	急性骨髄性白血病	7	男	第2寛解	非血縁者間同種骨髄移植	死亡

8. 循環器内科

【スタッフ・フェロー】

スタッフ	城戸佐知子	フェロー	堀口 祥
	田中 敏克		永尾 宏之
	富永 健太		近藤 亜耶
	小川 禎治		
	亀井 直哉		
	松岡 道生		
	三木 康暢		

非常勤 佐藤 有美 (9月まで)
則武 加奈恵

スタッフ7名、フェロー3名、他に専攻医数名。専攻医は2か月ごとのローテーションで、主に入院患者管理、カテーテル検査の補助などに従事。心疾患患者の扱いに慣れ、心疾患の診断技術として主として心エコーの基礎を習得し、カテーテル検査の結果を読み、軽症では診断から手術適応の判断ができることを主たる目的とする。またフェローは1年単位の比較的長期間循環器診療に携わり、できる限りカテーテル検査、心エコー検査を単独でこなし、軽症から重症の疾患までの治療方針を自身の判断で立てられること、小児循環器学会専門医を取得すること、などが目標である。

【診療活動】

- (1) 外来：月曜日から金曜日まで週5日、基本2診体制で対応している。新規患者は毎日受け入れており、総新規患者数は635名で昨年に比べやや減少した。新患患者の主体は比較的軽症の疾患であり、内訳は心室中隔欠損(96)、心房中隔欠損(55)、肺動脈狭窄(10)、動脈管開存(27)、川崎病(既往含む)(10)、ファロー四徴症(8)、不整脈(40)などであった。カテーテル治療相談外来(木曜午前、担当：田中医師)や移行期外来(月曜午前、担当：城戸)、成人先天性心疾患外来(月曜午後、担当：城戸)、OD・不整脈外来(火曜午後、担当：小川)、昨年度から当科に移行したペースメーカー外来(木曜午後、担当：小川・松岡)など専門外来も紹介患者が増加傾向である。成人に達した患者については、地域との医療連携の必要性を考慮に入れ、兵庫県立姫路循環器病センター、加古川中央市民病院などでの診療応援(外来応援)を続ける一方、2013年1月からは神戸大学附属病院循環器内科において成人先天性心疾患部門を立ち上げ、協力体制を強化している。また胎児心疾患診断についても、産科外来において胎児心エコーを行っているほか、他院にて診療の応援を行い、医療連携にも重点を置いて取り組んでいる。
- (2) 入院：1年間の総入院患者数は504名で、COVID-19流行下であるにもかかわらず、昨年と比べ横ばいであった。6西病棟だけでは収容しきれず、7東病棟・救急HCU病棟・GCUにも入院を受け入れていただいた。また、心疾患の他に他疾患を合併する症例も多く、PICU, HCU滞在期間・入院期間は必然的に長くなっており、昨年に引き続き病棟運営上の問題となっている。
- (3) 生理検査：総心電図件数4063件、Master負荷心電図件数1389件、Holter心電図件数331件、トレッドミル負荷心電図は187件で、昨年と比べ70-80%程度に減少しており、COVID-19の影響が大きいと

考えられた。心エコーは7238件と例年より少なく、COVID-19の影響と思われる。胎児心エコーは240件（担当：佐藤医師、亀井医師 主として木曜日）で、昨年より増加傾向であった。また、2016年に新たに心肺機能検査(CPX)を導入し、2020年は41件施行した。人手と時間を要する検査ではあるが、今後件数を増やしていく予定である。ヘッドアップチルト検査は153件で増加傾向であった。

- (4) 心臓カテーテル検査・治療：総件数263件と減少していたが、カテーテル治療の件数は143件と、昨年に比べほぼ横ばいであった。麻酔科のマンパワー不足から金曜日の検査枠が1日2件から1件に減ったこと、また、急ぎではないフォローアップの検査はCOVID-19の影響で延期されたことが総件数の減少の原因と考えるが、治療を要する患者では必要時に遅滞なく行われ、例年通りの件数であった。今後も治療件数は増加すると予想され、現在検査の待機期間が約3か月となっており、今後、待機期間を短縮するために、昨年同様、木曜日に脳外科がアンギオ室を使用しない時の有効利用を行っていききたい。
- (5) 心臓MRI：毎週火曜日の午後に行っている。総件数は42件で昨年と同等であり、今後は心臓カテーテル検査にとって代わり、増加していくことが予想される。検査枠の拡大が今後の課題である。

【その他の活動】

- (1) カンファレンス：月曜日夕方と木曜日麻に心臓外科との合同カンファレンス、水曜日朝にカテーテル検査前カンファレンス、夕方に心臓外科と合同の抄読会、木曜日にカテーテル検査後カンファレンスおよび心エコー検討会、を行い、討議の時間をもっている。
- (2) 学会参加：小児循環器病学会、JPIC 学会、胎児心臓病学会、成人先天性心疾患学会、HOT 研究会、川崎病研究会、日本循環器学会などへの参加。

【入院患者内訳】

全入院患者の疾患内訳	総数	感染性心内膜炎	0
(カテーテル検査入院含む同一患者の重複あり)	504	不整脈	9
フォンタン型手術関連疾患		エプスタイン奇形	4
(いわゆる単心室型心臓)	148	総動脈幹症	3
ファロー四徴症	36	僧帽弁閉鎖不全	4
肺動脈閉鎖・心室中隔欠損	23	肺動脈弁欠損	1
心室中隔欠損	26	肺高血圧	2
心房中隔欠損	34	大動脈・肺動脈窓	2
動脈管開存	24	修正大血管転位	10
両大血管右室起始	26	その他	23
大動脈弓離断・大動脈縮窄	22	カテーテル治療（カテーテル総数件 263）	143
房室中隔欠損	11	弁形成（大動脈弁・肺動脈弁）	11
大血管転位	16	血管形成	52
心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖	17	ステント留置術	2
肺動脈狭窄	5	コイル塞栓術（動脈管開存）	3
心膜・心筋疾患	8	コイル塞栓術（側副血管・動静脈瘻その他）	28
大動脈弁疾患（狭窄・逆流）	6	バルーン心房中隔裂開術	12
川崎病・冠動脈後遺症	11	心房中隔欠損閉鎖術（Amplatzer, FF-II）	18
総肺静脈環流異常	33	動脈管開存閉鎖術（Amplatzer）	15
両大血管右室起始・房室中隔欠損	0	その他	2

9. 腎臓内科

【人事】

2020年3月末日をもって青砥悠哉医師が転出し、4月1日から近藤淳医師が腎臓内科フェローとして神戸大学から着任した。近藤医師は9月末日をもって神戸大学へ転出し、かわって神戸大学から着任した永井貞之医師が腎臓内科フェローを務めた。2019年度の腎臓内科員は貝藤、稲熊、近藤もしくは永井と、田中亮二郎（小児救命救急センター長）の4名体制であった。

【診療活動】

入院患者数は年度により多少の増減はあるものの、外来紹介患者数は年々増加の一途をたどっている。本年の腎生検は20例と例年に比して少なかった。COVID-19の影響で学校検尿の時期に遅れがみられたことも一因ではあろうが、それ以上に治療効果あるいは副作用評価目的の腎生検が少ない年だったことが影響しているものと考えている。維持腹膜透析については当院で新たに導入した患者はいなかったが、他院から転院し、当院での管理を継続することになった児が1名あった。したがって当院での管理を継続している在宅腹膜透析患児は2名（2020年12月末日現在）となった。先行的腎移植の導入が進み、腹膜透析患児は全国的に減少しているが、当院でも同様の傾向がみられる。一方で、周産期の集学的治療の進歩などによって、複雑な全身疾患を背景に有した慢性腎臓病患児が増加している。このような患児では腎移植が困難な場合も少なくないため、QOLやADLを維持・向上させうる腹膜透析が選択される機会が多い。それぞれの児に適した腎代替療法が選択できるよう、当科が中心となってあらゆる慢性腎臓病患児への関わりを積極的にすすめていきたい。腎移植を要する患児については神戸大学泌尿器科をはじめ、他院にその手術を依頼し、慢性期管理は当院で行うことを原則としている。現在10名の腎移植後患児を外来管理している。急性腎障害の腎代替療法や維持血液透析に移行を要する慢性腎臓病患者の血液浄化療法については集中治療科と連携して診療にあたっている。

【研究・学術活動】

貝藤医長は日本小児腎臓病学会の代議員として小児CKD対策委員会に所属し、また田中部長は同じく日本小児腎臓病学会の代議員として医療安全・倫理・災害対応・COI委員会に所属し、それぞれ委員会活動に従事した。また貝藤医長が委員として参画した小児特発性ネフローゼ症候群診療ガイドラインが発刊された。

当科は従来から医師主導治験や多施設共同臨床試験に積極的に参加してきたが、昨年から引き続き複数の多施設共同臨床研究（医師主導治験）に参加している。当院は全国的にみても、症例が非常に豊富な小児腎臓病の一基幹施設であると自負している。医師主導治験は企業治験と異なり、参加施設への研究費配分が十分とは言えず、薬剤部をはじめとした院内の関係部署に多大なご協力をいただいでようやく実施できている状況である。この場を借りて関係部署の皆様にお礼を申し上げるとともに、院内治験管理部門がより一層充実することを期待したい。

2020年の入院患児内訳

疾患名	人数 (人)
急性糸球体腎炎	2
慢性腎炎症候群	15
IgA 腎症	(9)
紫斑病腎炎	(4)
膜性腎症	(1)
メサングウム増殖性腎炎	(1)
ネフローゼ症候群	41
尿路感染症	7
慢性腎臓病	11
腹膜透析管理症例	(5)
溶血性尿毒症症候群	3
腎臓移植後	7
エルシニア感染症	1
IgA 血管炎	1
ループス腎炎	1
計	89

10. 感染症内科

・スタッフ

科長 笠井正志、フェロー大竹正悟の2名体制であった。

・主な業務内容

1. 感染症診療と相談・支援
2. 感染対策に関するチーム医療（ICT、AST など、愛称 KPIC）推進
3. 県予防接種センター業務

1. 感染症診療と支援

コンサルテーションと外来を行っている。24時間365日体制で各診療科からコンサルテーションを受ける診療スタイルで、院外からも多数コンサルテーションを受けている。2020年1月～12月は605件であった。診療科開設以降のコンサルテーション件数推移は下記の通りである。

コンサルテーション数推移	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
数（件）	518	697	714	847	605

感染症外来では、不明熱、繰り返す発熱・感染症、先天感染症、渡航前後相談、ワクチン接種を行っている。外来入院担当ナースより発疹相談も直接受け付けている。

小児科医として重要な小児感染症に関する教育を院内外で実践し、後期研修医を4名受け入れ、院外研修生を3名受け入れた。院外に向けた教育機会として、小児感染症ウェブ勉強会（毎週水曜日夕方）、姫路赤十字病院小児科臨床カンファレンス（第2火曜日午後）、県立尼崎医療センター小児感染症科・感染症科合同web勉強会（第3火曜日夕方）を実施してきた。

図 当科の Key Performance Indicator（重要業績評価指標）

感染症内科 KPI 2020

KPI : Key Performance Indicator (重要業績評価指標)

大項目	項目	2020年実績	目標値（2021年）
臨床	コンサルテーション数	605 (-29%)	前年比±10%
	コンサルテーションAの割合	282/605 (46%)	50%
	コンサルテーション記載率	42.2%	50%
	外来新患	9名	前年比+10%
	教育カンファレンス数 (レジ+他科+他院)	40回	前年比±5%
アウトプット	全原稿中英語論文割合 (原著+ケース+レター)	2/19 (10.5%)	10%
	全原稿中の原著論文の割合 (英語+日本語)	4/19 (21%)	20%
	査読（日本語+英語）	12本	昨年比+10%
	英語ケースレポート	2本	昨年比+1本
	その他（原稿、日本語ケースなど）	11本	昨年比+10%

2. チーム医療推進：感染症のすべてに関わるチーム医療（KPIC）

Kobe Prevention and control of Infection for Children and family (KPIC) という病院組織図上には存在しない仮定の機能的組織として結成した。感染対策、感染症診療などでスタッフ・患者さんを「迷子」にしないように活動し、各専門部署がそれぞれの分野で責任を持って「自走」できるように体制を構築し、実践している。

なお2020年3月より兵庫県庁病院局より指示を受け新型コロナウイルス感染対策支援のため兵庫県立こころの医療センターで週1回感染対策ラウンドを行っている。特にICTとAST活動詳細は感染対策部の頁をご参考いただきたい。

県予防接種センターとしての業務

相談、接種（接種困難者対応）、教育を行っている。

相談件数の推移	2016年(9月～)	2017年	2018年	2019年	2020年
予防接種相談件数	5	34	46	38	33

接種は他院では対応困難な予防接種要注意者を主に対象に依頼があれば、接種をしている。

11. 臨床遺伝科

臨床遺伝科は常勤医1名（森貞直哉、臨床遺伝専門医）が診療を担当している。また、認定遺伝カウンセラー®（洪本加奈）が診療を補佐している。

【診療活動】

臨床遺伝科は院内外からの紹介を受けた遺伝性疾患の患者（疑いを含む）の診療を行っている。外来日は火曜日と木曜日の終日であるが、そのほかにも入院中の患者や他科診療患者の急な依頼にも可能な限り応じることとしている。

具体的な診療内容

- ・ 遺伝性疾患のトータル管理：ダウン症候群、神経線維腫症1型、Noonan症候群など
- ・ 臨床診断されている患者の原因遺伝子解析：結節性硬化症、Marfan症候群など
- ・ 原因不明患者の網羅的遺伝子解析：神戸大学、未診断疾患イニシアチブ（Initiative on Rare and Undiagnosed Diseases、IRUD）との共同研究
- ・ 他施設で解析された事例の遺伝学的説明：染色体異常、心筋症家系など
- ・ 次子再発率、発症前診断、出生前診断などの遺伝カウンセリング

受診症例、具体的な解析数は別表のとおりである。

【遺伝子解析】

当院症例の遺伝子解析は、保険診療でできるものとできないもの両方を受諾している。

保険診療で対応できるものは各種検査会社（かずさDNA研究所など）に依頼している。

保険診療で対応できないものは、主に神戸大学小児科をはじめとする国内の研究機関との共同研究として行っている。国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）が主導するIRUDの地域拠点病院（神戸大学）の協力病院としても活動している。また慶應義塾大学とは新生児を対象に全ゲノム解析を用いてゲノム情報を診療に役立てるBIRTHDAY projectを行なっている。

【学会、研究活動】

他施設との共同研究を含め活発に行なっている。詳細は別項参照。

【院外講演】

- ・ 逆流性腎症フォーラム（2020年2月、神戸市）
- ・ IRUD全体会議（2020年12月、Web）

【今後の展望】

IRUDや出生前診断、がんゲノムなど、一般診療においても遺伝診療の重要性が高まっており、当科は兵庫県および関西圏のゲノム医療を支える診療科として活動していく所存である。

【別表：症例】

染色体異常

疾患名	症例数
ダウン症候群	37
クラインフェルター症候群	5
ターナー症候群	9
1q21.1 重複	1
2q 中間部欠失	1
3q23 欠失	1
4p 欠失	2
5p 重複	1
5p 欠失	1
6p 中間部欠失	2
7p 欠失	1
9p 重複	1
13 トリソミー	1
13q 中間部欠失	3
14q 欠失	1
18 トリソミー	1
20q 中間部欠失	1
22q11.2 欠失	9
22q11.2 重複	1
22q13 重複	1
22q 欠失	1
22q 重複	1
Smith-Magenis 症候群	2
Williams 症候群	5
Currarino 症候群	1
Prader-Willi 症候群	6
Pitt-Hopkins 症候群	1
Kleefstra 症候群	1
染色体転座	2
Xq 重複	1
Y 染色体異常	1
その他の染色体異常	5

単一遺伝子病

疾患名	症例数
Alagille 症候群	2
Sotos 症候群	6
Kabuki 症候群	14
MCTO	1
Genitopatellar 症候群	1
Bardet-Biedl 症候群	3
Opitz GBBB 2 症候群	1
Noonan 症候群	13
Crouzon 症候群	1
Rubinstein-Taybi 症候群 1	1
Opitz GBBB 1 症候群	1
CFC 症候群	3
口顔指症候群 1 型	1
Cornelia de Lange 症候群	2
顎顔面異骨症 Guion-Almeida 型	1
IFAP 症候群	1
Coffin-Siris 症候群	2
Sniders Blok-Campeau 症候群	1
Young-Simpson 症候群	1
口顔指症候群	1

腎

疾患名	症例数
Bartter 症候群	1
多発性嚢胞腎	1
Dent 病	2
常染色体優性間質性腎疾患	1
鰓耳腎症候群	1
腎性低尿酸血症	3

循環器

疾患名	症例数
NAA10 異常症	1
拡張型心筋症	1
QT 延長症候群	18
その他の不整脈	1

血管奇形・皮膚

疾患名	症例数
Sturge-Weber 症候群	1
RASA1 異常	2
CLOVES 症候群	1
全身性血管腫	1
海面状血管腫	1
小脳血管病 (COL4A1 異常)	3
色素失調症	3

骨

疾患名	症例数
2 型コラーゲン異常症	2
Langer-Giedeon 症候群	1
脚長差	2
多発性骨端異形成	2
骨形成不全症	4
AR-Larsen 症候群	1
Larsen 症候群	1
多関節拘縮症候群	5
関節弛緩	1
上顎骨劣成長	1
脊椎骨端異形成	1
FOP	2
Frontometaphyseal dysplasia	1
軟骨無形成	3
軟骨低形成	1
頭蓋骨早期癒合	1
易骨折	2
骨異形成	2
尺骨欠損	1
軟骨腫	1
下顎顔面異骨症	1
四肢短縮性低身長	2
内反足	2
側弯症	1

血液・腫瘍

疾患名	症例数
網膜芽細胞腫	6
血友病 B	7
VHL 病	1
Wiscott-Aldrich 症候群	1
慢性肉芽腫症	2
Peutz-Jeghers 症候群	1
Li-Fraumeni 症候群	1
Cowden 症候群	1
周期性発熱	2
原因不明の免疫不全	2
遺伝性有口赤血球症 1 型	1
低ガンマグロブリン血症	1
13 因子欠乏症	1
高 IgE 症候群	1

結合組織

疾患名	症例数
Marfan 症候群	18
Ehlers-Danlos 症候群 (EDS)	6
筋拘縮型 EDS	1

代謝内分泌

疾患名	症例数
低リン血症性くる病	1
Tay-Sachs 病	1
シトリン欠損症	1
PTH LH 異常	1
Lesch-Nyhan 病	1
Fabry 病	1
ムコ多糖症	1
モリブデン補酵素欠損症	1

眼

疾患名	症例数
色素性傍静脈網脈略膜萎縮症	1
黄斑形成不全	1

神経発達筋

疾患名	症例数
原因不明の知的発達障害	45
神経線維腫症 1 型	38
Emery-Dreifuss 型筋ジストロフィー	1
GRIN1 異常	1
常染色体優性遺伝型 SMA	1
MEF2C 異常症	1
Angelman 症候群	3
滑脳症	1
神経線維腫症 2 型	1
結節性硬化症	2
MELAS	1
シャルコーマリートゥース病	2
自閉症スペクトラム	3
Joubert 症候群	3
KBG 症候群	1
ネマリンミオパチー	2
滑脳症	2
Rett 症候群	4
CDKL5 異常症	1
家族性対麻痺	1
BPAN	1
X 連鎖性水頭症	1
水頭症	6
孔脳症	1
Duchenne 型筋ジストロフィー	1
その他の神経疾患	16

その他

疾患名	症例数
中枢性低換気	1
オプソクロームス・ミオクロームス症候群	1
遺伝性腭炎	1
ROHHAD 症候群	1
胆汁うっ滞	1
VATER 連合	1
Waardenburg 症候群	3
Usher 症候群	1
Beckwith-Wiedemann 症候群	1
Mayer-Rokitanski-Kuster-Hauser 症候群	1
Silver-Russell 症候群	2
織毛病	1
その他の先天異常症候群	13
Conradi-Hunermann 症候群	1
遺伝性血管浮腫	1
魚鱗癬	1

12. 精神科

【スタッフ】

部長	関口 典子
部長	持田 啓
医長	玉岡 文子
非常勤医師	長谷川 弘子（神戸市こども家庭センター） 小笠原 さゆ里
心理士	藤井 美有 沖村 心 観音堂 千仁
非常勤心理士	4名
精神保健福祉相談員	岩崎 志野

常勤医師は3名、非常勤医師は2名で診療を行った。非常勤医師は長谷川（木曜日）が週1回半コマ、小笠原（火曜日）が月1回半コマ外来を担当している。

心理士の業務量の増加に伴い週1日勤務の非常勤心理士が3名から4名に増員された。

【活動内容】

- 1) 対象疾患は、身体疾患など器質に由来する精神障害から、発達障害、ストレス関連障害を中心として多岐に渡る。年齢は小学生から中学生の学齢期を中心としている。
- 2) 診療活動は外来診療が主であり、初診予約待ちは4週間程度である。急を要する院内紹介には随時対応している。
- 3) コンサルテーション・リエゾン領域では、産科においてメンタルヘルス外来を行っているほか、緩和ケアチームの一員として活動している。その他の分野においても心因性の身体症状や虐待をはじめとして精神科医が必要とされている分野は多く、小児がんや救急患者の家族への支援を期待されることもある。総合病院における精神科の役割として、他科とのより細やかに緊密な関係をとることを目指している。
- 4) 児童精神科領域での啓蒙、教育研修として、心理学大学院生の実習の受け入れを行った。コロナ禍のため医学部の学生実習については中止となった。
- 5) 兵庫県の子どものこころの診療ネットワーク事業に参加し、兵庫県内の関連施設と連携している。

令和2年 新患分布

			1-2	3-5	6-8	9-11	12-17		
			幼児 前期	幼児 後期	学童 前期	学童 後期	中学 高校	18歳 以上	
									計
F0	F05	せん妄、アルコールおよび他の精神作用物質によらないもの	1				1	2	4
	F06	脳損傷、脳機能不全および身体膝下による他の精神障害				1	1		2
	F07	脳の疾患、損傷および機能不全による人格および行動の障害				1	2		3
F1	F19	多罪使用および他の精神作用物質使用による精神および行動の障害				1			1
F3	F32	うつ病エピソード					1		1
	F34	持続性気分 [感情] 障害					1		1
F4	F40	恐怖症性不安障害			2	2	2	1	7
	F41	他の不安障害		1		1	3		5
	F42	強迫性障害			1	4	2		7
	F43	重度ストレス反応 [重度ストレスへの反応]および適応障害	1	2	5	15	31	3	57
	F44	解離性[転換性]障害			7	8	11		26
	F45	身体表現性障害		2	4	8	14		28
	F48	その他の神経症性障害					1		1
F5	F50	摂食障害				2	6		8
	F51	非器質性睡眠障害			1	1	3	2	7
	F53	産褥に関連した軽傷の精神および行動の障害、他に分類できないもの						1	1
	F54	他に分類される障害及び疾患に関連した心理的および行動的要因					1		1
F6	F63	習慣および衝動の障害			1	1			2
	F64	性同一性障害		1					1
F7	F70	軽度精神遅滞[知的障害]		3	7	5	4		19
	F71	中度[中等度]精神遅滞[知的障害]			2			1	3
	F72	重度精神遅滞[知的障害]			1			1	2
F8	F80	会話および言語の特異的発達障害		1	1				2
	F84	広汎性発達障害		9	27	27	13	1	77
F9	F90	多動性障害		1	6	7	2		16
	F91	行為障害		2	1	5	7		15
	F93	小児期に特異的に発症する社会的機能の障害		2	2		2		6
	F94	小児期および青年期に特異的に発症する社会的機能の障害		1	1	2			4
	F95	チック障害		2	3	2			7
	F98	小児期および青年期に通常発症する他の行動および情緒の障害			4	4	2		10
他		その他		2	2	5	6	2	17
計			2	29	78	102	116	14	341

【こどもとおやの相談室について】

心理士、精神保健福祉相談員は、こどもとおやの相談室として活動している。他科からのコンサルテーションに対し、精神科医師、心理士、精神保健福祉相談員でチームとしての相談対応も行っている。今後もより広い診療科と連携を深め、こどもと家族の療養支援を実施することを目指している。

① 心理士

外来では、複数の科と連携し、心理アセスメントや心理治療を中心に行っている。

入院では、小児がん拠点病院として血液腫瘍科との連携を密に行っている。

② 精神保健福祉士

外来、入院において、精神保健福祉に関する様々な相談に対応している。また、患者だけでなく家族や学校、関係機関からの相談にも対応し、院内外との連携の中心として活動している。

心理士

診療科	アセスメント			本人				家族		その他	新患
	知能発達	性格	その他	プレイセラピー	カウンセリング	心理サポート	小児ガンフォロー	相談	結果報告		
救急総合診療科	53	13	9			65		12	1		47
代謝内分泌科	117		44					2			12
神経内科	40		1			1		42			31
血液腫瘍科	20						2287	95	2	3	31
循環器科	9							3	1		9
腎臓内科	1								1		1
臨床遺伝科	8										5
新生児科	110										52
精神科	117	174	135	100	45	38		14			146
脳神経外科	37							2	1	2	26
救急集中治療科											4
整形外科						10			1		1
耳鼻咽喉科	17	5						6			13
その他の科								4	1		1
合計	529	192	189	100	45	114	2287	180	8	5	379

精神保健福祉相談員

相談内容／対象	本人・ 家族	院内	保健福祉 機関	こども 家庭 センター	学校・ 園・ 教育関係	訪問 看護	児童福祉 施設	その他	計
福祉・経済問題	118	108	77	28	9	5	51	21	417
療養問題	33	57	5	1	1	36	1	12	146
教育問題	37	16	1	5	80	0	0	0	139
家庭問題	20	9	1	2	0	0	2	6	40
心理情緒的問題	8	3	0	0	0	0	0	0	11
養育問題	50	109	71	49	10	0	1	4	294
受診援助	332	151	1	73	20	0	40	93	710
その他	2	9	0	7	0	0	0	0	18
計	600	462	156	165	120	41	95	136	1775

支援方法別

面接	257	257	3	11	13	3	4	0	548
電話	334	170	145	101	101	31	90	101	1073
文書	9	35	8	53	6	7	1	35	154
計	600	462	156	165	120	41	95	136	1775

初回相談依頼者	
総合診療科	14
集中治療科	0
代謝内分泌科	2
腎臓内科	2
精神神経科	203
小児外科	2
脳神経外科	1
整形外科	0
院内その他	54
本人・家族	76
学校	10
こども家庭センター	2
市	5
その他	7
計	378

13. 小児外科

小児外科スタッフ

前田貢作（科長・副院長）（3月まで）
畠山理（科長・家族支援・地域医療連携部長兼務）（4月から）
横井暁子（部長）
津川二郎（部長）（4月から）
福澤宏明（医長）（3月まで）
森田圭一（医長）
河原仁守（医長）
鮫島由友（医長）（3月まで）
岩出珠幾（医長）（3月まで）

フェロー

植村光太郎（フェロー）（3月まで）
竹内雄毅（フェロー）
中谷太一（フェロー）（4月から）
藤枝悠希（フェロー）
黒田靖浩（フェロー）
高成田祐希（フェロー）（4月から）
矢下博輝（フェロー）（4月から）

【人事異動】

2020年4月に大幅な人事異動があった。前田診療科長・副院長が3月末に定年退職となり、4月から畠山医師（姫路赤十字病院）が診療科長兼家族支援・地域医療連携部長として赴任した。その他のスタッフでも3月末に福澤医師が姫路赤十字病院小児外科部長として異動、鮫島医師が加古川中央市民病院、岩出医師が大阪赤十字病院に異動、4月から津川医師が高槻病院から当院に赴任となった。

フェローでは3月末に植村医師が神戸大学病院に異動、4月から中谷医師（神戸大学）、高成田医師（神戸大学）、矢下医師（大阪市立大学）が赴任した。チーフフェローは3月末に鮫島医師が退任し、4月から竹内医師が着任した。

【診療活動】

入院手術は762件、日帰り手術147件、総手術件数は909件であった。新生児外科症例は42件のうち新生児外科手術例は50件であった。

カンファレンスについては、科内のカンファレンスは例年通り1)病棟カンファレンス（毎日朝・夕）、2)抄読会（週1回・毎週金曜日朝）を開催し、多職種カンファレンスでは、1)術前カンファレンス（週1回・毎週水曜日朝 放射線科診断医師参加）、2)術後カンファレンス（週1回・毎週火曜日朝放射線診断科医師・病理診断科医師参加）、を開催、その他ICUカンファレンス（毎日朝）、腫瘍カンファレンス（週1回）、循環器カンファレンス（適時）に参加した。また5月以降新生児内科とともに周産期外科カンファレンス（週1回）を開始した。

当科の特色としては

1. 高度専門医療

- ・小児呼吸器外科：気管狭窄症・声門下腔狭窄症の手術に関しては日本で最多の症例数と治療成績を誇っている。小児外科・心臓血管外科・麻酔科・集中治療科が密接に連携、チーム医療を推進し、西日本を中心に全国から症例が集まっている。

2. 新生児外科

- ・総合周産期母子医療センターも一翼を担い、出生前診断症例治療にも積極的に参画している。
- ・3名の新生児認定外科医を中心に、新生児外科症例にも常に万全の体制で対応できるようにしている。

3. 小児救急医療

- ・小児救命救急センターの一員として重要な役割を担い、救急要請には100%対応できているようにしている。
- ・外傷を含めた小児の救急疾患に対して、救急診療科、集中治療科と連携し、いつでも対応できる体制をとっている。

4. 小児がん医療

- ・小児がん拠点病院として多数例の固形腫瘍手術を行っている。3名の小児がん認定外科医を中心に、血液・腫瘍内科、放射線診断科、放射線治療科、病理診断科とチームを組んで最善の治療が提供できるように心がけている。隣接する神戸陽子線センター関連の難治性症例も年々増加している。

5. 日帰り手術

- ・鼠径ヘルニアをはじめとする短時間の手術は麻酔科の協力のもと、できる限り日帰り（入院）手術を推奨している。

6. 障がい児に対する外科治療

- ・障がい児に対する外科治療を積極的に進め、県内の療育施設と連携を取りながら外科治療の部分を担当している。

7. 内視鏡外科手術の推進

- ・内視鏡外科手術をはじめとした低侵襲手術に積極的に取り組んでいる。1名の内視鏡外科技術認定医を中心に病態にあわせたもっともよい治療を選択できるように取り組んでいる。

手術症例

頭頸部	頸部リンパ管腫（硬化療法を含む）	0		イレウス解除術	8
	頸部嚢胞摘出術	0		腸管膜嚢胞摘出術	0
気道	甲状舌管嚢胞摘出術	5		腸管重複症手術	1
	梨状窩瘻手術	1		Hirschsprung 病 / 類縁疾患	
	喉頭気管食道裂手術	1		腹腔鏡補助下手術	1
				経肛門的根治術	0
				開腹根治術	0
	声帯外方固定術	0		直腸生検	2
	声門下腔狭窄症手術			人工肛門増設 / 閉鎖術	1
	喉頭気管形成術	0		腸瘻造設術 / 閉鎖術	
	PCTR	4		消化管穿孔手術	
	バルーン拡張	0		内ヘルニア手術	1
レーザー焼灼	0		腹腔鏡下虫垂切除術		
その他	0		消化管ポリープ切除術	2	
肺	先天性気管狭窄症手術			臍腸瘻手術	
	スライド気管形成術	3	直腸肛門	直腸肛門奇形	
	バルーン拡張	0		PSARP	8
	レーザー焼灼	0		腹会陰式	0
	その他の形成術	0		肛門形成術	3
	後天性気管狭窄症手術	1		人工肛門増設術	1
	気管軟化症手術			人工肛門閉鎖術	5
	大動脈胸骨固定術	1		痔瘻根治術	1
	腕頭動脈離断術	2		肛門粘膜形成術	1
	血管輸手術	0		直腸脱手術	3
胸壁・縦隔	喉頭嚢胞、腫瘍摘出術	0		肛門括約筋形成術	0
	喉頭気管分離術	3		直腸脱手術（腹腔鏡）	0
	気管切開術	21		摘便	7
	気管切開閉鎖術	1			
	その他の形成術	0	肝胆膵	先天性胆道拡張症手術	
	肺部分切除	0		開腹	1
	肺葉切除	5		腹腔鏡下	1
	肺区域切除	0		胆嚢瘻造設術	0
	胸腔鏡下肺切除術	0		胆道閉鎖症手術	2
	胸腔鏡下剥皮術	0		胆嚢摘出術	3
横隔膜	漏斗胸手術			門脈圧亢進症手術 REX シャント術	0
	Nuss 手術	0		肝部分切除	0
	バー抜去	1		脾臓摘出術（腹腔鏡下）	1
	その他の形成術	0	腸壁	大網切除	0
	鳩胸手術	1		臍帯ヘルニア手術	0
	縦隔腫瘍摘出術	0		腸壁破裂手術	1
	乳び胸手術	0		鼠径ヘルニア関連手術	
	膿胸手術	1		鼠径法	118
				腹腔鏡下	96
				臍ヘルニア手術	32
食道	先天性横隔膜ヘルニア手術	1		腸壁ヘルニア手術	0
	胸腔鏡下横隔膜縫縮術	0	泌尿・生殖器		
	先天性食道閉鎖症手術			尿管遺残症手術	1
	一期的根治術	3		卵巣核出術	
	気管食道瘻閉鎖 + 胃瘻	1		その他の手術	
	食道吻合	1	腫瘍	神経芽腫	
	食道延長術	0		肝芽腫	
	その他	3		腎芽腫	
	先天性食道狭窄症手術	0		肺細胞腫瘍	
				肉腫	
胃	胃瘻造設術			その他の腫瘍	
	開腹	5	処置・検査	中心静脈カテーテル留置	114
	腹腔鏡下	2		中心静脈カテーテル抜去	89
	噴門形成術			テノコフカテーテル留置 / 抜去	1
	開腹	5		V-P シャント	1
	腹腔鏡下	6		ドレナージ手術	
	肥厚性幽門狭窄症手術	8		気管支鏡検査	134
	胃固定術	0		消化管内視鏡検査	36
				バルーン拡張術	14
				異物摘出	
十二指腸	先天性十二指腸閉鎖症手術	4		気道	2
	開腹止血術	0		消化管	
小腸・大腸	腸回転異常症手術	5		その他	
	小腸閉鎖症手術	2			
	観血的腸重積症整復術	1			
	メッケル憩室切除術	0			

新生児外科症例 (56 例)

病名	治療
無顎症	気管切開術
右肺上葉腫瘍	右肺上葉切除術
嚢胞性肺疾患	経過観察
嚢胞性肺疾患	経過観察
先天性 C 型食道閉鎖症	先天性食道閉鎖症根治術
先天性 C 型食道閉鎖症、18 トリソミー	食道 banding、胃瘻造設術
先天性 C 型食道閉鎖症、先天性十二指腸閉鎖症、超低出生体重児	胃瘻造設術
先天性 C 型食道閉鎖症、先天性十二指腸閉鎖症	腸瘻造設術
先天性 C 型食道閉鎖症 (Long gap 症例)、先天性十二指腸閉鎖症	TEF 離断、食道延長術 (Foker 法)
先天性 C 型食道閉鎖症 (Long gap 症例)、先天性十二指腸閉鎖症	ダイヤモンド吻合術、胃瘻造設術
先天性 C 型食道閉鎖症 (Long gap 症例)、先天性十二指腸閉鎖症	口側食道端閉鎖術
先天性 C 型食道閉鎖症、18 トリソミー	食道 banding、胃瘻造設術
先天性 C 型食道閉鎖症	先天性食道閉鎖症根治術
先天性 C 型食道閉鎖症、中間位鎖肛、先天性声門下腔狭窄症	先天性食道閉鎖症根治術、人工肛門造設術
先天性 C 型食道閉鎖症、中間位鎖肛、先天性声門下腔狭窄症	硬性気管支鏡検査
食道損傷	胃瘻造設術
先天性横隔膜ヘルニア	サイロ造設術、ECMO
先天性横隔膜ヘルニア	止血術
先天性横隔膜ヘルニア	腹腔ドレナージ
先天性横隔膜ヘルニア	試験開腹術
BPFM	硬性気管支鏡
BPFM	右気管支左気管支吻合
腹壁破裂	サイロ造設術
腹壁破裂	腹壁閉鎖術
肥厚性幽門狭窄症	Ramsted 手術
先天性十二指腸閉鎖症	ダイヤモンド吻合術
先天性十二指腸閉鎖症	ダイヤモンド吻合術
先天性十二指腸閉鎖症	ダイヤモンド吻合術
腸回転異常症	Ladd 手術
腸回転異常症	Ladd 手術
腸回転異常症	Ladd 手術
先天性小腸閉鎖症	先天性小腸閉鎖症手術
先天性小腸閉鎖症	先天性小腸閉鎖症手術
新生児壊死性腸炎	壊死腸管切除、腸瘻造設術
新生児壊死性腸炎	腸瘻造設術
新生児壊死性腸炎	腸瘻造設術
消化管穿孔 (MRI)、超低出生体重児	空腸瘻造設術
消化管穿孔 (MRI)、超低出生体重児	回腸瘻造設術
消化管穿孔 (FIP)、超低出生体重児	回腸瘻造設術
低位鎖肛	肛門形成術
低位鎖肛	肛門形成術
低位鎖肛	経過観察
中間位鎖肛	人工肛門造設術
総排泄腔遺残症	人工肛門造設術
膀胱外反症	人工肛門造設術
神経線維腫	腫瘍生検
仙尾部奇形腫	経過観察
腎不全	腹膜透析カテーテル留置

14. 心臓血管外科

【スタッフ紹介】

部長（副院長兼心臓センター長）	大嶋 義博（昭和 57 年神戸大卒）、 神戸大学医学研究科医科学専攻外科系講座客員教授、 心臓血管外科専門医、同 修練指導者
部長	松久 弘典（平成 11 年神戸大卒）心臓血管外科専門医、 同 修練指導者
部長	日隈 智憲（平成 12 年神戸大卒）心臓血管外科専門医 松島 峻介（平成 20 年大阪大卒）心臓血管外科専門医 同 修練指導者
フェロー（心臓血管外科修練医）	長谷川 翔大（平成 26 年大分大卒）日本外科学会専門医 心臓血管外科修練医 和田 侑星（平成 26 年富山大卒）日本外科学会専門医 心臓血管外科修練医

【診療体制】

外来：月、水、金の午後 2 診

手術：月～金。

地域連携、救急医療の強化も含め、新たな体制づくりが進み、数年後を目途に移行期医療の県を中心施設としての準備を整えている。人事では、松島峻介医師がスタッフ常勤医となり、心臓血管外科修練医資格を取得した。長谷川 翔大、和田 侑星医師は専攻医からフェローに昇格した。

症例数は、総数で 246 例（前年度 260 例）とやや減少、体外循環を用いた手術は 139 例（新生児 17 例）、体外循環非使用の心臓手術は 62 例（新生児 42 例）、その他 45 例で、人工心肺症例が減少している。術後 30 日未満の開心術手術死亡 2 例は、高度の肺静脈閉塞を伴った無脾症と術前 ductal shoc、DIC 合併の大動脈縮窄例であった。毎朝の CICU カンファレンス、麻酔科との術前カンファレンス、毎週月曜朝の術前検討会、夕方の循環器カンファレンス、金曜の術後検討会に加え、循環器科および複数科との audit meeting も定期的に行っている。また、ICT を中心とした SSI サーベイランス活動に加え、縦隔炎合併時に症例検討を含む対策会議を行っている。心臓センターとして、地域連携強化の一環として、紹介元施設を対象として online による勉強会を開催している。

学会活動：Spring 8 における他施設共同研究では、全国学会や海外発表に続き複数の英文掲載など成果を上げている。その他、英文、邦文論文が掲載あるいは投稿中で、海外学会、胸部外科学会、心臓血管外科学会、小児循環器学会、その他、多数の学会、研究会にて主に online による発表を行った。

III 診療統計

術式 (疾患)	28日未満			～1歳未満			1歳～17歳			18歳以上			総数		
	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡
PDA				1	0	0							1	0	0
CoA (simple)				1	0	0							1	0	0
+VSD	3	1	1	4	0	0							7	1	1
+DORV															
+AVSD	1	0	0	1	0	0							2	0	0
+TGA				3	0	0							3	0	0
+SV															
+others				1	0	0							1	0	0
IAA (sinmple)															
+VSD				1	0	0							1	0	0
+DORV															
+Truncus															
+TGA															
+SV															
+others															
Vascular ring															
PS				2	0	0							2	0	0
PPA or critical PS							2	0	0				2	0	0
TAPVR	6	0	1	5	0	0							11	0	1
asplenia				1	0	0							1	0	0
PAPVR ± ASD							1	0	0				1	0	0
ASD							8	0	0				8	0	0
Cor triatriatum				1	0	0							1	0	0
AVSD (partial)							1	0	0				1	0	0
AVSD (complete)															
+TF or DORV															
+others															
VSD (I)				1	0	0	4	0	0				5	0	0
VSD (II or IV)				21	0	0	6	0	0				27	0	0
VSD (III)															
VSD + PS															
DCRV ± VSD				1	0	0							1	0	0
Aneurysm of sinus Valsalva															
TF				5	0	0	1	0	0				6	0	0
(shunt)	1	0	0	2	0	0							3	0	0
PA + VSD (Rastelli)															
(SP shunt)															
(UF ± shunt)				1	0	0							1	0	0
DORV							1	0	0				1	0	0
TGA (simple)	2	0	0	1	0	0							3	0	0
+ VSD	2	0	0										2	0	0
+ VSD + PS				1	0	0							1	0	0
corrected TGA	1	0	0				3	0	0				4	0	0
Truncus arteriosus															
SV (SP shunt)															
(BDG)				5	0	0							5	0	0
(Fontan)							6	0	0				6	0	0
TA (SPshunt)															
(BDG)															
(Fontan)															
HLHS (Norwood)				5	0	0							5	0	0
(BDG)				1	0	0							1	0	0
(Fontan)							1	0	0				1	0	0
Aortic valve lesion (形成)															
(弁置換)										1	0	0	1	0	0
SAS							1	0	0				1	0	0
supraAS															
Mitralvalvelesion (MR形成)				1	0	0				1	0	0	2	0	0
(MR弁置換)															
(MS形成)															
(MS弁置換)							1	0	0				1	0	0
Ebstein															
Coronary disease															
その他	1	0	0										1	0	0
再手術															
VSD再開鎖				1	0	0	1	0	0				2	0	0
PS解除				2	0	0	8	0	0	3	0	0	13	0	0
RV-PA導管再置換															
(PVRを伴う)				2	0	0				1	0	0	3	0	0
その他															
総数	17	1	2	71	0	0	45	0	0	6	0	0	139	1	2

術式 (疾患)	28日未満			～1歳未満			1歳～17歳			18歳以上			総数		
	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡
PDA	21	1	1	3	0	0							24	1	1
CoA (simple)							1	0	0				1	0	0
+VSD	1	0	0										1	0	0
+DORV	1	0	0										1	0	0
+AVSD	1	0	0										1	0	0
+TGA	3	0	0										3	0	0
+SV															
+others															
IAA (sinmple)													1	0	0
+VSD	1	0	0												
+DORV															
+Truncus															
+TGA	1	0	0										1	0	0
+SV															
+others															
Vascular ring	1	0	0	2	0	0	1	0	0				4	0	0
PS															
PPA or critical PS				1	0	0							1	0	0
TAPVR															
asplenia															
PAPVR ± ASD															
ASD															
Cor triatriatum															
AVSD (partial)															
AVSD (complete)	1	0	0	2	0	0							3	0	0
+TF or DORV															
+others															
VSD (I)															
VSD (II or IV)	3	0	0	4	0	0							7	0	0
VSD (III)															
VSD + PS															
DCRV ± VSD															
Aneurysm of sinus Valsalva															
TF															
PA + VSD				1	0	0	1	0	0				2	0	0
DORV															
TGA (simple)															
+VSD															
+VSD+PS				1	0	0							1	0	0
corrected TGA															
Truncus arteriosus															
SV (shunt)				1	0	0							1	0	0
(PAB)	1	0	0										1	0	0
TA (shunt)															
(BDG)															
(Fontan)															
HLHS (bil.PAB)	4	0	0										4	0	0
(shunt 追加)															
Aortic valve lesion (形成)															
(弁置換)															
SAS															
supra AS															
Mitral valve lesion (MR形成)															
(MR 弁置換)															
(MS 形成)															
(MS 弁置換)															
Ebstein															
Coronary disease															
その他															
再手術 VSD 再閉鎖															
PS 解除															
RV-PA 導管再置換															
(PVR を伴う)															
その他	3	0	0	2	0	0							5	0	0
総数	42	1	1	17			3	0	0	0	0	0	62	1	1

	症例数	死亡	在院死亡
皮下膿瘍、デブリードメント	7	0	0
ペースメーカー植え込み	4	0	0
ペースメーカー電池交換	4	0	0
心嚢ドレナージ	4	0	0
胸腔ドレナージ	3	0	0
ECMO 装着 (ショック)	6	2	2
ECMO 装着 (気管形成術等)	2	0	0
横隔膜縫縮	1	0	0
気管腕頭動脈瘻	2	0	0
縦隔炎手術	2	0	0
大動脈 / 肺動脈吊上げ	2	0	0
気胸手術	1	0	0
血腫除去	2	0	0
その他	5	0	0
総計	45	2	2

在院死亡は死亡を含む

15. 脳神経外科

当科では2017年11月から日本こども病院神経外科医会事務局を置くこととなり、全国の小児医療施設、あるいはこれに準ずる施設に現在在籍している、または過去に在籍経験のある小児脳神経外科医間の円滑な情報交換を担う基幹施設となっている。

2020年度の脳神経外科スタッフは、河村淳史(小児がん医療センター次長 診療科長兼任)、小山淳二(部長)、阿久津宣行(医長)の指導医、神戸大学医学部脳神経外科教室ローテーション医師と診療に従事した。脳神経外科専門医研修の一環として、2020年2月1日—2020年5月31日に井村 準先生、2020年4月1日—9月30日に中原正博先生、2020年6月1日—2020年12月31日に三浦伸一先生、2020年9月1日—2021年3月31日に梶本裕人先生がフェローまたは専攻医として着任した。またCOVID-19の蔓延により開始時期が遷延したが2020年7月から2年間の予定で産業医科大学脳神経外科教室より長坂昌平先生が見学派遣医師として小児神経外科の研修を行っている。

診療活動では2020年初頭からCOVID-19の全国的な波及により殆どの地域で県外移動の自粛を余儀なくされたため、昨年度に比して、新規入院患者数、手術件数は1割強ほど減少したが、外来新規患者数、再診患者数はむしろ増加しており、非常事態宣言などがあつたにもかかわらず比較的堅調であつたと言える。当施設脳神経外科の特色は、複数科との緊密な連携によるチーム医療であり、特に小児がん拠点病院として血液腫瘍内科・放射線科・臨床病理部と、隣接した神戸陽子線センター放射線治療科との連携で、集学的治療を必要とする小児脳脊髄腫瘍の治療をはじめ、整形外科・泌尿器科・育児内科との密な連携が必要な二分脊椎例やキアリ奇形、水頭症、側弯例の治療・外来管理、また救急・集中治療科をはじめ多数の関連科との協力が必要な頭部外傷・多発外傷症例を主とした救命救急診療などを中心に継ぎ目のない積極的な診療に取り組んでいる。

特に小児脳・脊髄腫瘍に関しては小児がん拠点病院として患児・家族に対して全人的医療を実施するために必要な部署と連携して治療チームを編成し、入院・外来で安心して頂けるよう診療に従事している。更に外来では、青年期AYA世代に至るまで長期の追跡・病態・生活評価・支援、移行期医療を担っている。

また広く普及し始めた毎週月曜日の『頭の形外来』では、ヘルメットによる矯正の適応、また外科的治療の適応症例を対象に治療を行っている。

現在、注目されている陽子線治療は、小児脳・脊髄腫瘍に対する放射線治療として晩期合併症を軽減できると期待されている新しい放射線治療法で、2020年度は他施設からの症例も増加して、30例脳脊髄腫瘍に対して照射を行った。隣接する神戸陽子線センターで小児専用の照射室で照射を行うが、当院1階の渡り廊下で往来できるため当施設に入院しながら治療が可能である。隔離された小児専用の照射室、診察室を備えており、当院入院のままで化学療法を受けながら、また常駐小児麻酔科による毎日の鎮静による、照射治療も可能となっている。2019年度後期からは従来のブロード照射に加えて、詳細な照射の調整が可能で、全脳全脊髄照射に有利なスキャン照射が可能となった。

各症例においては地域小児医療各方面と密な連絡・連携を保ちながら、成人した時点でのQOLの向上を目指しており、神経奇形、頭部外傷、脳腫瘍を中心に国際的な水準を維持する手術・治療成績を積み重ねていく所存である。

脳神経外科手術ナビゲーションなど、最新手術機器導入により困難な手術を支える施設面も充実した。今後も24時間365日、あらゆる小児の脳神経外科手術に対応するという体制を維持している。

その他の活動

- (1) カンファレンス；毎週水曜日 腫瘍治療検討会、月1回 二分脊椎カンファレンス、
随時 頭部外傷カンファレンス、陽子線治療検討会
- (2) 学会参加；日本小児神経外科学会、脳神経外科学会学術総会、日本脳神経外科コンgres、日本脳神経外科学会近畿支部学術集会、日本二分脊椎研究会、日本こども病院神経外科医会、日本脳卒中学会学術総会、日本脳腫瘍学会、小児血液・がん学会学術集会、日本脳腫瘍病理学会、日本神経内視鏡学会、日本粒子線臨床研究会、日本神経外傷学会などへの参加

脳神経外科的手術の総数

件数

脳神経外科的手術の総数		件数	その他	0
1	脳腫瘍		4	奇形
	摘出術	17		頭蓋・脳
	開頭生検術	1		脊髄・脊椎
	定位的生検術	1	5	水頭症
	経蝶形骨洞手術	1		脳室シャント術
2	脳血管障害			内視鏡手術
	バイパス手術	7	6	脊髄・脊椎
	破裂動脈瘤	1		腫瘍
	開頭血腫除去術	3		脊髄空洞症
	脳血管奇形手術	2		その他
3	外傷		7	その他
	急性硬膜外血腫	2	8	血管内手術
	急性硬膜下血腫	3	9	定位放射線治療
	減圧開頭術	0	10	陽子線治療
	慢性硬膜下血腫	2		163

日本脳神経外科学会の分類に準ずる

脳神経外科 専攻医指導記録

専攻医 井村 準
 研修期間 2020/02/01-05/31
 指導医 河村 淳史、小山 淳二、阿久津 宣行

症例	執刀	助手
脳腫瘍摘出術		4
動脈瘤・脳動静脈奇形ほか		1
開頭脳内血腫		
バイパス手術		
急性硬膜外血腫		
急性硬膜下血腫		
慢性硬膜下血腫・水腫		
頭蓋・脳奇形		5
脊椎・脊髄奇形		2
水頭症脳室シャント	1	3
神経内視鏡手術		2
脊椎・脊髄腫瘍		2
脊髄空洞症		
その他		7
血管内手術		
計	1	26
合計		27

専攻医 中原 正博
 研修期間 2020/04/01-09/30
 指導医 河村 淳史、小山 淳二、阿久津 宣行

症例	執刀	助手
脳腫瘍摘出術		7
動脈瘤・脳動静脈奇形ほか		1
開頭脳内血腫		
バイパス手術		3
急性硬膜外血腫		2
急性硬膜下血腫		
慢性硬膜下血腫・水腫		2
頭蓋・脳奇形		6
脊椎・脊髄奇形		10
水頭症脳室シャント		11
神経内視鏡手術		2
脊椎・脊髄腫瘍		2
脊髄空洞症		
その他	1	10
血管内手術		
計	1	56
合計		57

専攻医 三浦 伸一
 研修期間 2020/06/01-12/31
 指導医 河村 淳史、小山 淳二、阿久津 宣行

症例	執刀	助手
脳腫瘍摘出術		12
動脈瘤・脳動静脈奇形ほか		
開頭脳内血腫		
バイパス手術		6
急性硬膜外血腫		1
急性硬膜下血腫		1
慢性硬膜下血腫・水腫	1	
頭蓋・脳奇形		5
脊椎・脊髄奇形		9
水頭症脳室シャント	1	14
神経内視鏡手術		0
脊椎・脊髄腫瘍		4
脊髄空洞症		
その他	3	10
血管内手術		0
計	5	62
合計		67

専攻医 梶本 裕人
 研修期間 2020/10/01-2021/03/31(19)
 指導医 河村 淳史、小山 淳二、阿久津 宣行

症例	執刀	助手
脳腫瘍摘出術		7
動脈瘤・脳動静脈奇形ほか		1
開頭脳内血腫		1
バイパス手術		5
急性硬膜外血腫		
急性硬膜下血腫		
慢性硬膜下血腫・水腫		
頭蓋・脳奇形		4
脊椎・脊髄奇形		4
水頭症脳室シャント		6
神経内視鏡手術		2
脊椎・脊髄腫瘍		1
脊髄空洞症		
その他		14
血管内手術		
計	0	45
合計		45

16. 形成外科

2020年は体制メンバーの変化はなく、以前と同様の3人体制により診療の継続を行った。緊急事態宣言下の診療制限のため4月と5月は一時的に意図的な手術件数の低下が見られたが、以後は速やかに回復し夏休みは例年通りの手術件数にて推移した。11月以降は中央手術室の人員不足による手術枠の縮小があり、それに伴い当科の手術枠も制限せざるをえなくなった。県外からの紹介患者も増加傾向であり、手術枠の有効活用が来年度以降の課題となる。

年間の患者数及び手術件数 2020年1月1日～12月31日

手術内容区分

形成外科新患者数	310名	†
形成外科入院患者数	244名（延べ人数ではない）	

形成外科手術件数

入院手術	全身麻酔	257件（合計257件）
	腰麻・伝達麻酔	0件
	局所麻酔・その他*	0件
外来手術	全身麻酔	124件（合計262件）
	腰麻・伝達麻酔	0件
	局所麻酔・その他*	138件 *その他には無麻酔や分類不明を入れる

区 分	件 数						計
	入 院 手 術			外 来 手 術			
	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	
I. 外傷	11			1			12
II. 先天異常	167			48		2	217
III. 腫瘍	57			34		3	94
IV. 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	11			1			12
V. 難治性潰瘍							0
VI. 炎症・変性疾患	4						4
VII. 美容（手術）							0
VIII. その他							0
Extra. レーザー治療	7			40		133	180
大分類計	257	0	0	124	0	138	519

17. 整形外科

2019年度の整形外科は劉正夫医師が転出し、新たに尾ノ井勇磨医師が赴任した。これにより、薩摩眞一（部長）、小林大介（リハビリテーション部長と兼任）、坂田亮介（医長）、衣笠真紀（医長）、河本和泉（医長）に尾ノ井医師（専攻医）を加えた6人体制にて診療を開始した。2021年12月で河本医師が産休に入ることに伴い、神戸大学より山本哲也医師を迎え、診療を実施した。

従来より、股関節、足部疾患を中心に、兵庫県内のみならず他府県よりの紹介患児を幅広く受け入れ、多彩な小児整形外科疾患の診療を行ってきた。外来診療として月曜日午後、火曜日終日、水曜日午前、金曜日午前の外来を稼働し、増加する外来患児の診療にあたっている。また、他院では手術が困難な全身状態を含めたハイリスク患児の手術も、集中治療部や麻酔科、外科、循環器内科などの関係各科との連携に支えられ、多数行なっている。これまで小児先天疾患、慢性疾患などの疾患群の治療を中心に行ってきたが、新病院への移転以来、増加し続ける救急外傷診療に対応すべく救急診療部や麻酔科を含めた関連各科との連携を深め、チーム医療を推進してきた。本年はコロナ禍の中、4月5月の大幅な診療、手術制限を行ったものの、年度末の集計としてはほぼ前年並みの実績となった。

これらの診療経験及び実績を蓄積し、専攻医を含めた後進の指導を行なう一方で、日本小児整形外科学会を中心とした学術研究を推進している。さらに、は足の外科学会専門医研修施設としての認定を受け、小児足の外科治療の教育施設として、一層強力な診療体制を求めていく。

本年度の手術実績は、下記の通り359件であった。今後も手術、救急症例の増加が予想されるため、スタッフの教育、確保を含めた診療体制のさらなる整備が今後の課題となっていく。県内、近隣の小児整形外科患児のため今後も様々な面でのレベルアップを目指していく所存である。

2020年整形外科手術・検査内容区分

		病名	術式	手術数	小計
体幹		側 弯 症	矯正術	9	17
		斜 頸 症	切腱術	3	
		側 弯 症	その他（ロッド切除、除圧など）	4	
		脊椎疾患（側弯を除く）	頸椎固定術 など	1	
股関節	先天性股関節脱臼など （麻痺性除く）		観血的整復術	5	19
			大腿骨骨切り術	1	
			白蓋形成術（ソルター骨盤骨切り術以外）	1	
			ソルター骨盤骨切り術	1	
	ペルテス病	大腿骨骨きり術	3		
	大腿骨頭すべり		ピン入れ替え	0	
			ピンニング	2	
	麻痺性股関節脱臼など、先天性股関節脱臼以外の疾患	大腿骨骨切り 骨盤骨切り術など（大腿骨切り合併含む）	0 6		
膝関節	膝関節脱臼、膝蓋骨脱臼 関節炎、円板状半月板など		観血整復	2	3
			鏡視下手術など	1	
足部	先天性内反足		アキレス腱皮下切腱術（Ponseti）	14	59
			軟部組織解離術 腱移行術エバンス手術など	9	
	麻痺性変形（症候性）		足根骨骨切り（トリプル骨切り術など）	0	
			軟部組織解離術 腱移行術など	16	
			それ以外の変形矯正（創外固定、骨切り術含む）	0	
	垂直距骨	変形矯正術など	2		
	下腿内捻	下腿回旋骨切り	3		
尖足	アキレス腱延長	15			
下肢	脚長差変形など		脚延長，変形矯正（創外固定使用）	4	56
			成長抑止術（8プレート）	11	
			変形矯正（創外固定使用以外）	1	
			ボトックス注射	33	
	足根骨癒合症	癒合部切除	0		
	外脛骨	摘出など	0		
下肢変形	矯正、切断など	7			
上肢	橈骨頭脱臼	観血的整復術	1	3	
	上肢短縮	上肢骨延長術（上腕、前腕）	0		
	内反肘	矯正骨切り術	2		
外傷	上肢骨の骨折脱臼（顆上、外顆など）	整復固定術	60	76	
	下肢骨折	整復 固定	14		
	骨折後偽関節	骨接合術など	0		
	骨折など	鋼線牽引	1		
炎症・腫瘍	腱断裂，外傷	腱縫合など	1	17	
	化膿性関節炎 脊椎炎	病巣搔爬、洗浄 穿刺	7		
	腫瘍 骨髄炎，LCH，病態不明など	生検術 病巣搔爬	1		
手指・足趾	多・合指（趾）症		骨	4	17
			軟部	5	
	手指（足趾含む）変形	余剰指（趾）切除 指（趾）間形成	14 2		
その他	手指（足趾含む）変形	矯正、骨切り術など	1	63	
	癭痕拘縮 先天性拘縮	形成術	3		
	剛直母指	腱鞘切開	7		
				53	63

総数

年間手術件数		330	330
--------	--	-----	-----

検査

部位	方法		
股関節	アルトロ	23	29
股関節（先天性股関節脱臼）	牽引後、整復ギブス	6	
その他	アルトロ	0	
		29	

18. リハビリテーション科

2020年度はコロナで始まりコロナで終わった年という感じがする。これほど世界規模でパンデミックが起こったことは自分の中では記憶に無くそれこそ歴史の教科書に記載される年度になるだろう。

当院ではクラスターの発生などはなかったが入院患者の減少に伴い、リハビリテーション科でも業績が悪化した。ワクチンの普及に伴う感染者数の減少を切に願う。

また今年度はスタッフの移動のあった年でもあった。長年当院に寄与してくれていた小松 ST が県立尼崎病院に転出し代わりに姫路循環器病センターから森 ST が転入した。また新規に河村 PT が増え念願の 1 名増を達成できた。これでもまだまだ small group なので今後も増員してもらえよう交渉を続ける。

19. 眼 科

今年度の眼科医師の異動は以下の通り。4月、専攻医として橋本祐子医師が着任、欠員が補充された。これに伴い月曜日、木曜日の午前診、外来診察の応援として神戸大学からの医師派遣は終了。6月末、中村礼恵医長が異動。代わりに育休から中野由美子医長が勤務条件付きにて復帰した。水曜日の午前診については、引き続き、柳沢翠芳先生に出務をお願いしている。

新型コロナウイルス感染症の影響は眼科診療にも少なからず影響があった。当初は他府県、特に感染者数が少ない地域からの受診控えや手術延期の希望などにより、外来、入院患者数ともに減少した。しかし、1回目の緊急事態宣言解除後は徐々に患者数などは回復し、その後、年末の感染拡大期にも外来、入院ともに患者数に大きな変化はなかった。対外的には学会や講演会は全てリモートとなった。業績面などへの影響はなかったと考えるが、人的交流がなく学問的刺激を受ける機会が減ったことで、専攻医などの学習意欲には少なからずブレーキとなったのではないかと心配している。

2020年 眼科 新患統計

病名	新生児	乳児		幼児		学童		思春期	合計
		1～5ヶ月	6～11ヶ月	1～3歳	4～6歳	7～9歳	10～12歳	13歳以上	
屈折異常	0	40	54	380	218	144	74	27	937
弱視	1	0	1	37	32	10	3	1	85
斜視及び疑い	0	22	35	165	142	57	37	8	466
未熟眼底	0	0	0	0	0	0	0	0	0
未熟児網膜症	0	1	2	6	1	0	2	0	12
眼瞼疾患	1	17	9	59	28	29	13	8	164
涙器疾患	1	8	8	12	4	0	1	0	34
結膜疾患	0	1	4	5	9	3	6	0	28
角膜・強膜疾患	1	7	2	7	15	12	7	4	55
ブドウ膜疾患	0	4	2	13	4	3	2	2	30
網膜・硝子体疾患	0	11	3	19	20	16	3	8	80
水晶体疾患	1	8	11	14	9	5	7	2	57
眼窩疾患	1	0	1	0	0	1	0	0	3
遺伝疾患	0	0	0	0	1	1	0	1	3
視神経・視路疾患	1	2	6	17	8	13	6	6	59
眼振	0	7	2	6	3	5	0	0	23
緑内障	0	5	4	20	2	9	5	7	52
外傷	0	0	0	7	3	3	2	2	17
症候群	0	15	10	21	9	5	7	4	71
心因性視力障害	0	0	0	0	1	14	4	0	19
腫瘍	1	6	0	8	2	0	1	0	18
その他	1	5	2	12	8	2	1	4	35
小計	9	159	156	808	519	332	181	84	2248

(2) 入院手術

	新生児	乳児		幼児		学童		思春期	計
		前期	後期	前期	後期	前期	後期		
斜視	0	0	5	8	38	41	34	51	177
内反症	0	0	0	1	12	15	19	4	51
眼瞼下垂	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼瞼・眼窩疾患	0	0	2	11	20	5	6	4	48
結膜疾患（腫瘍）	0	0	0	1	0	0	0	1	2
角膜疾患	0	0	0	0	1	0	0	0	1
網膜疾患（腫瘍）	0	1	0	1	0	0	0	0	2
硝子体	0	0	0	0	0	0	0	0	0
鼻涙管閉鎖及び異常	1	0	1	5	1	0	1	0	9
眼瞼形成	0	0	0	0	0	0	0	0	0
緑内障	0	0	0	0	1	1	0	0	2
白内障	0	1	2	2	4	2	0	0	11
未熟児網膜症	0	8	0	0	0	0	0	0	8
眼球振盪症	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外傷・検査・その他	0	1	0	0	1	1	2	0	5
合計	1	11	10	29	78	65	62	60	316

(3) 日帰り手術

	新生児	乳児		幼児		学童		思春期	計
		前期	後期	前期	後期	前期	後期		
検査	0	0	1	5	4	2	2	1	15
抜糸	0	1	3	10	20	15	15	3	67
鼻涙管チューブ抜去	0	0	0	0	3	0	0	0	3
合計	0	1	4	15	27	17	17	4	85

2019年 訓練及び検査人数（合計 1007名）初診患者数 738名

PAT（プリズム検査）	78名
視野検査（GP）	214名
視野検査（ハンフリー）	57名
PL検査・TAC	316名
OCT	184名
ヘス（眼球運動検査）	19名
色覚検査	15名
合計	883名

実習生受け入れ状況（合計2名）

学校名	人数	期間	実習場所
大阪医療福祉専門学校	2名	2月20日～2月28日	外来及び手術室（見学）

20. 耳鼻咽喉科

1. 外来診療

新病院に移転して常勤医2人体制となり4年が経過した。外来診療は変わりなく、月曜・木曜が天津、火曜・金曜は勝沼がそれぞれ終日担当している。年間の新患数は807名（前年917）、延べ患者数は4640人であった。4月以降に限ると初診患者は約2割減、再来患者も15%の減少である。夏以降も回復の兆しが見られていないのは他の耳鼻咽喉科施設と同様である。これは、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、生活様式が変化し人と人との接触機会が減少、ひいては上気道感染の頻度・程度が減少したことが一因ではないかと推察している。一方、難聴精査・管理について受診する人数は著変なく、初診全体における紹介割合としては増加していた。当科では週に1回、当院リハビリテーション科所属の言語聴覚士・認定補聴器技能者、院外の補聴器技能者ととも補聴器外来を行っている。また、先天性感音難聴の原因の約半分は遺伝子が関与していると報告されている。当科では、先天性難聴の遺伝子解析（保険診療）を、臨床遺伝科と連携しながら行っている。

2. 手術・入院診療

手術枠は、日帰り手術枠が火曜に3件、水曜に1件、入院手術枠が水曜に1件、金曜に2件である。術式は、例年通り、扁桃摘出術、アデノイド切除術、鼓膜チューブ挿入術が多いが、前年に比較し3割以上減少した。上述のように、新型コロナウイルス感染症の流行に伴うものと推察している。3歳未満の重症閉塞性睡眠時無呼吸症候群に行う扁桃摘出術・アデノイド切除術は、周術期管理が重要であり術後数日間挿管管理を要することも多い。そのため、地域の基幹病院でも術後の安全性が確保できないため手術待機となることも多い中、当院では、麻酔科、集中治療科、総合診療科ならびに集中系病棟看護スタッフの協力により、手術適応を厳選して行っている。引き続き安全性に十分配慮しつつ手術治療に取り組みたい。

入院手術（併施含む）

扁桃摘出術	92
アデノイド切除術	92
鼓膜チューブ挿入術	34
鼓室形成術、乳突削開術	1
鼻・副鼻腔内視鏡手術	2
舌根嚢胞開放術	1
鼻涙管チューブ挿入	8
その他	6
合計症例数（他科入院15名含）	138

日帰り手術（併施を含む）

鼓膜チューブ挿入術	100
鼓膜穿孔閉鎖術・鼓膜形成術	3
鼓膜肉芽切除術、鼓膜切開等	9
舌小帯形成術	1
舌腫瘍切除	1
異物摘出術	1
その他	4
合計症例数	107

【学術活動・地域医療】

日本耳鼻咽喉科学会学術講演会、日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会などで発表を行った。また他施設との共同研究にも複数参加している。これまで年1回、兵庫県下の聴覚特別支援学校（神戸、姫路、豊岡、こばと）の先生方と、難聴児についてカンファレンスを行ってきた。2020年は新型コロナウイルス感染症の流行により中止となったものの、随時電話で情報交換をしており、療育・教育との連携を継続している。

【今後の展望】

新生児聴覚スクリーニングの普及により、高度以上の難聴のみでなく、軽度・中等度難聴や片耳難聴も早

期に発見されるようになり、小児の聴力評価と管理はますます重要性を増している。小児の聴力評価と管理は、聴力検査、他覚的聴力検査、家庭での音反応、言葉の発達、遺伝学的検索など、多面的にクロスチェックし、フィードバックしながら診療することが重要である。これには、一定の設備や経験のあるスタッフを要するため、当院当科の果たすべき役割は大きくなっているといえよう。ただ、補聴すればきこえの問題がすべて解決されるわけではなく限界もあり、周囲環境のサポートは必須である。補聴の目的は児の健全な発育である。保護者と本人に、難聴とその対応について理解を深めてもらうこと、また難聴児通園施設や聴覚特別支援学校、難聴学級の先生と連携し、難聴児ひとりひとりに最適な療育や教育の環境を整えることができるよう、地域社会の枠組み形成にも貢献していきたい。

3. 言語聴覚療法について

【人員】

言語聴覚士（以下、ST）は年間を通して正規職員4名体制で従事した。平成28年5月の移転に伴い、STの所属はリハビリテーション科となったが、耳鼻科診察日は予約状況に応じ1～3名が外来業務に出務した。

【主な業務】

耳鼻科外来では①聴力検査、②補聴器外来を行った。健診でことばの遅れが指摘された児についてはその場で医師がリハビリテーション科のST処方を出し、耳鼻科外来で対応した。

【業務詳細】

①聴力検査

一般病院では行うことの難しい聴性行動反応聴力検査や条件詮索反応、遊戯聴力検査などを対象児に合わせて実施している。各種聴力検査の結果、補聴器適応となれば、補聴器外来での予約をとるよう勧めている。

②補聴器外来

週一度実施している。新生児聴覚スクリーニング検査の普及により、早期からの補聴器装着ケースが増えているのにくわえ、これまで補聴器装用を勧めてこなかった軽度の難聴や、一側難聴であっても学習面での困難さや学校生活での不自由さから補聴器を求めるケースが増え、患者は増加傾向にある。補聴器を装用すれば聞こえの問題がすべて解決されるわけではなく限界もあることなどを保護者や本人に説明し、効果判定を含めながら支援を行っている。補聴器外来では各人の予約時間を長めに設定し、慎重な評価、親への心理面を含めたサポート、難聴児通園施設や聴覚特別支援学校など適切な機関への橋渡しがタイミングよく行えるように心がけている。

表1【2020年聴力検査件数】

2020年1月－12月	件数
標準純音聴力検査	922
標準語音聴力検査	80
気導純音聴力検査	12
遊戯聴力検査	1866
補聴器適合聴力検査1回目	36
補聴器適合聴力検査2回目以降	339
発達および知能検査	19
	3274

2020年新患集計

	症例数	院内	耳鼻科	小児科	産科	健診	聾学校	その他	なし
言語発達遅滞	71	19	40	5	1	5	1		
構音障害	27	5	11	8	1	2			
耳介奇形・小耳症	16	5	4	2	4	1			
外耳道閉鎖・狭窄	25	11	7	4	3				
副耳	2	1	1						
先天性耳ろう孔	7	1	4	2					
外耳道異物	1	1							
外耳道損傷	2	2							
外耳炎	11	8		2				1	
耳垢栓塞	14	9	1	2		1			1
急性中耳炎	25	22	3						
反復性中耳炎	14	12	2						
滲出性中耳炎	148	29	106	10	1	2			
慢性中耳炎	8	1	7						
真珠腫性中耳炎	4		4						
癒着性中耳炎	1		1						
先天性難聴(疑い含む)	128	39	27	33	27	2			
ムンプス難聴(疑い含む)	2		2						
心因性難聴	28		26	1			1		
突発性難聴	2	1	1						
高音障害型難聴	5	2	2	1					
低音障害型難聴	5	2	3						
難聴	193	38	137	11	3	4			
難聴(疑)	131	71	35	15	1	8	1		
後迷路性難聴	9	2	4	1	2				
内耳奇形	4		1	2	1				
中耳奇形	3	1	2						
側頭骨骨折/耳小骨離断/鼓室内血腫	1	1							
聴覚過敏	3	1	2						
耳鳴	2	2							
めまい	15	8	2	5					
顔面神経麻痺/顔面痙攣/下口唇麻痺	9	7		2					
慢性鼻・副鼻腔炎	75	42	26	6					1
急性鼻・副鼻腔炎	20	13	7						
アレルギー性鼻炎	111	23	61	24				2	1
鼻出血	10	8	2						
鼻腔異物	1	1							
鼻咽腔閉鎖不全	1	1							
後鼻孔閉鎖・狭窄/鼻腔狭窄	2	2							
アデノイド肥大	231	51	133	41		1		3	2
扁桃肥大	152	32	79	35		1		3	2
扁桃炎	13	6		7					
睡眠時無呼吸症候群	137	29	71	33				3	1
咽頭外傷/口腔内損傷	14	14							
気道・咽・喉頭熱傷	4	4							
舌腫	3			2		1			
口内炎	1		1						
口唇粘液のう胞	2	1		1					
舌小帯短縮症	6		1	4		1			
がま腫	1	1							
耳下腺炎/顎下腺炎	1			1					
耳下腺腫瘍/顎下腺腫瘍	4	2	1	1					
頸部膿瘍/咽後膿瘍/扁桃周囲膿瘍	6	6							
咽喉頭炎/声門下喉頭炎/声門下浮腫等	11	11							
咽・喉頭異物	8	8							
喉頭軟化症	47	31	1	15					
反回神経麻痺	50	47		3					
声帯ポリープ/喉頭肉芽	8	2	4	2					
嚥下障害	38	30	3	5					
正中顎のう胞/側顎のう胞/甲状舌管嚢	3	1		2					
頸部腫瘍	2	2							
頸部リンパ節炎	11	6	4	1					
口蓋裂	6	5		1					
顔面外傷/鼻骨骨折	4	4							
サイトメガロウイルス感染症	2	2							
PFAPA症候群	6	3		3					
感染症チェック	32	32							
健診	81	6	55	6		12	1		1
新スク後精密検査	105	25	23	29	28				
その他	23	16	4	3					
新患数(重複除く)	807	353	285	119	29	13	2	3	3

21. 泌尿器科

2020年3月に波越朋也、安食淳、山下遥介が退職し、4月に神野雅、松崎和炯、三田淑恵が入職したため、2020年度も引き続き5人体制（杉多、神野、春名、松崎、三田）で診療を行った。

外来新規・再診患者数、入院患者数、手術件数は例年と比較して減少した。COVID-19の蔓延による受診制限、手術制限などが影響したと考えている。2021年度はCOVID-19が終息し、通常の診療を行うことができるように期待する。

学術活動においても、COVID-19の影響により、学術集会はすべてWEBまたはHybrid開催となり、春に開催される予定の学会が延期となった。日本泌尿器科学会中部総会、日本泌尿器科学会総会、日本泌尿器内視鏡学会総会に参加した。

2020年度も引き続き、県民に安心・安全で良質な医療を提供できるように精進し、学術活動においても、当科の治療成績などを発表したい。（杉多記）

2020年手術実績【入院/269 外来/131】

【尿路系】

VUR手術（開腹）	46
VUR（気膀胱）	3
デフラックス注入	5
尿管尿管吻合	1
膀胱尿管新吻合	3
膀胱自己拡大術	3
尿管カテーテル抜去	31
開腹腎盂形成	15
腹腔鏡下腎盂形成	9
腎摘出	1
内尿道切開	3
腎瘻造設	2
膀胱鏡（ステント留置含む）	28
膀胱結石摘除	1
尿管瘤切除	1
腎外傷	3
その他	20
合計	175

【性器系】

尿道下裂形成	52
陰茎形成外	7
精巣固定	81
精巣捻転	5
停留精巣摘除	5
腹腔鏡下精巣血管結紮（F-S1期目）	3
腹腔鏡下精巣固定術（F-S2期目）	6
陰嚢水腫根治術	15
ヘルニア手術	3
包皮形成術	11
包茎手術	20
陰嚢形成	5
精巣腫瘍核出	2
顕微鏡下精巣静脈低位結紮術	6
膣切開	2
外陰部腫瘍切除	1
その他	1
合計	225

22. 小児歯科

診療内容として、全身疾患を有する患児や心身障害児の齲蝕予防・治療を行うことが大きな柱となっていることに変化はない。特に院内において先天性の疾患を有する患児に対しては低年齢（乳前歯萌出時期）からの定期受診により歯科疾患予防を積極的に行っている。

本年はコロナ禍の影響を受け、新患数が3月以降減少したが、7月以降には回復し、年間通しての総数は例年と変わりなかった。手術件数は大きく減少した。

また、周術期における口腔管理が保険に組み込まれ数年たち周知されたことにより、歯科衛生士による周術期口腔ケア介入症例は、ここ数年新患数の内訳のトップを占めている（年間60例程度）、毎週火曜日に、歯科衛生士による病棟ラウンドを引き続き行っている。

人事面においては、変わりなく、常勤歯科医師一名（曾根由美子）の体制ではあるが、非常勤歯科医師として、田村あゆみ歯科医師が引き続き、毎週金曜日の外来診察を担当している。

新患内訳 (2020)		院内紹介	院外紹介		紹介なし	計
			歯科	医科		
小児歯科関連	口腔内検診希望	44	3	0	0	47
	齲蝕	20	47	1	0	68
	乳歯晚期残存	8	5	0	0	13
	先天性歯	0	0	2	0	2
	その他	4	1	0	0	5
矯正歯科関連	不正咬合	6	1	0	0	7
	術前顎矯正	4	0	0	0	4
口腔外科関連	外傷	11	6	0	0	17
	埋伏歯・過剰歯	1	6	0	1	8
周術期口腔機能管理		64	0	0	0	64
その他（小児歯科以外）		2	0	0	0	2
計		164	69	3	1	237

全身麻酔下処置	歯科単独	他科合同	計
入院手術	0	0	0
外来手術	20	0	20
計	20	0	20

23. 麻酔科

1. 2020年の人事異動

医師の異動としては、神戸大学からは原医師、田中めぐみ医師、盛房医師、岡医師が転入した。香川大学から可児医師、大阪市大から渡邊医師、大阪医大から野田医師、兵庫医大から佐藤医師、兵庫県所属麻酔科医師から南医師を迎えた。集中治療科からの麻酔科研修として、花見医師、當間医師、糸数医師、村田医師を迎えた。他、短期研修として、当院小児科から中野医師、鞍谷医師を迎えた。

2020年12月末の時点では香川、高辻、大西、池島、鹿原、上嶋、末田、廣瀬、藤原、田中康智、小西（育休）、神頭（産休）、中山、佐藤、渡邊、原、野田、盛房、南、岡、村田（集中治療科）が従事している。

2. 活動状況

- (1) 新型コロナウイルスへの対応と麻酔件数：気管挿管や人工呼吸管理はエアロゾルを発生させる医療行為であり、麻酔科医を含めた医療従事者がウイルスに暴露されることのないよう、準備と対応を行った。一時的な手術の制限、家族に咳や発熱症状のある場合の手術延期、COVID19陽性もしくは疑い患者の受け入れの準備やシミュレーションを行った。2020年の段階では小児のCOVID19患者は少なくかつ軽症であり、12月末までの手術患者で発熱等によりCOVID19疑いとして対応した症例は8例であったが、全て以後の検査で陰性と判明した。コロナウイルスに関連する手術制限、手術延期の影響、および後述する手術列減により、2020年の麻酔件数は4165件となり、前年度に比べて10%減であった。
- (2) 手術列の調整：当院で行われる手術の麻酔には高度な専門的知識と、緊急手術を含めて24時間365日対応が求められており、これに継続して対応し、かつ安全を担保するために、予定手術列を1列減らした。またPACUは看護部が主体となって運営するようになった。このため麻酔科としては平日1日当たり、小児手術7列（入院4列＋日帰り手術＋アンギオ＋病棟麻酔）、産科手術、術前診察、術後回診、慢性痛や緩和ケアへの対応、および麻酔科統括の業務を行っている。
- (3) 学術活動：当院スタッフと神戸大学麻酔科とで執筆している教科書が6月に上梓された。当院での麻酔のマニュアルであると同時に、小児を扱う麻酔科医や医療従事者にも診療のガイドとなり、安全・快適な小児麻酔の一助となれば幸いである。

3. 展望

当院麻酔科の使命として、①患者様に安全・快適な麻酔を提供すること、②手術・麻酔を必要とする患者様をいつでも受け入れるような体制を維持していくこと、③若手麻酔科医に対する教育や、よりよい麻酔に向けての研究を継続して行い、安全・快適な小児麻酔を提供することができる医師を育成すること、の3点が重要であり、継続して取り組んでいきたい。

4. 麻酔科 診療統計

年間総麻酔件数は4165件です。

麻酔法の内訳としては全身麻酔(主に小児)が4007件、脊椎麻酔・硬膜外麻酔(産科)が144件、伝達麻酔・その他が14件でした。

場所の内訳として、手術室内で行われた麻酔は3423件(アンギオ室、日帰り手術を含む)、手術室外で行われた麻酔は742件(うちMRI検査26件、病棟での麻酔687件)でした。

年齢の区分では、新生児症例(生後1ヵ月未満)が131件、乳児症例(生後1ヶ月以上1才未満)が504件と全体の15%を占めています。

診療統計

【総麻酔件数】(麻酔科管理症例数) 2020.1.1 ~ 12.31

4165 件

【ASA PS】(米国麻酔学会による麻酔のリスク分類)

予定手術 1	2	3	4	5	合計
1612	1884	298	5	0	3799
緊急手術 1E	2E	3E	4E	5E	合計
114	150	93	8	1	366

【手術部位】

a.脳神経・脳血管	98	h.頭頸部・咽喉部	1001
b.胸腔・縦隔	52	k.胸壁・腹壁・会陰	714
c.心臓・血管	363	m.脊椎	44
d.胸腔+腹部	3	n.股関節・四肢(含：末梢神経)	404
e.上腹部内臓	126	p.検査	810
f.下腹部内臓	313	x.その他	101
g.帝王切開	136	合計	4165

【麻酔法による内訳】

A.全身麻酔(吸入)	1735
B.全身麻酔(TIVA)	1688
C.全身麻酔(吸入)+硬・脊、伝麻	137
D.全身麻酔(TIVA)+硬・脊、伝麻	447
E.脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔(CSEA)	0
F.硬膜外麻酔	0
G.脊髄くも膜下麻酔	144
H.伝達麻酔	14
X.その他	0
合計	4165

【年齢別内訳】

	男性	女性	合計
A. ~ 1ヶ月	75	64	139
B. ~ 12ヶ月	299	197	496
C. ~ 5歳	978	665	1643
D. ~ 18歳	918	753	1671
E. ~ 65歳	35	181	216
F. ~ 85歳	0	0	0
G. 86歳~	0	0	0
合計	2305	1860	4165

24. 新生児内科

1. 医師の異動

前年より引き続き片岡 大、松井紗智子、玉置祥子、岩谷壮太、三村仁美、芳本誠司、が在任した。4月より正規スタッフとして大山正平医師。以前スタッフとして勤務していた生田寿彦医師が神戸大学大学院を卒業して着任した。フェローとして泉絢子医師、平山健太郎医師が新生児専門医としての研修を開始した。

3年間勤務した横田知之医師は愛仁会千船病院 NICU チーフとして異動した。フェロー、およびスタッフとして4年間勤務した山内貴未医師は7月に一般小児科医として異動した。ローテート専攻医(後期研修医)として、田中友里佳、田中陽菜、夏木茜、原田晋二、柏坂舞、西藤知城、長谷部匡毅、石田貴裕、松本泰右、各医師が3か月ずつ研修をおこなった。NICU21床、GCU24床を管理する総合周産期母子医療センターとして懸案であった夜間2人新生児専任医師体制について、内科系スタッフ、専攻医の協力により1月から開始している。これにより安全な病棟運用と当直日以外のオンコール呼び出し解消による医師の働き方改革は一步前進した。当科の特徴として女性医師も活躍できる診療体制をめざしており、育児短時間勤務、夜間宿直免除などライフワークバランスを保ちながら勤務を継続している。

2. 診療活動

新生児病棟の診療統計は別表の通りである。神戸市内では新型コロナウイルス感染拡大による地方への里帰り分娩控えの影響で、夏ころから出生数が一時的に著明に増加し、病的新生児入院数が増加した。神戸市内のNICU4施設はほぼ満床状態が持続し各施設間での入院調整が必要であった。当センターでの院内出生児の急性期管理のため急性期離脱後の安定した児について他NICUへの転院を依頼する事態が初めて発生した。ただし、11月以降は全国的な出産控えの影響が出始め新生児入院数は減少傾向となっている。

ドクターカーによる新生児迎え搬送可能施設は2020年から神戸市内では当センターのみとなっている。搬送要請から契約運転手の到着に約30分を要しており迅速な出動体制の整備が必要である。淡路、豊岡など遠隔地からの搬送依頼については兵庫県・神戸市防災ヘリにより当院スタッフピックアップ迎え搬送が定着しつつあり2020年は9件の搬送をおこなった。

3. 研究学会活動

日常診療における疑問の解決、稀な疾患管理、治療法の工夫などを臨床研究として医療チーム全体で取り組んでいる。それらの結果は順次、国内外の多くの学会で発表、および論文化しており、当院での成果を世界に発信する努力を続けている。

2020年新生児内科統計

I. 新生児病棟統計

1) 月別入院数

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
47	36	42	45	40	41	40	40	54	46	35	37	503

2) 診療科別入院数

新生児内科入院	500	新生児科からの転科	65
循環器内科	3	集中治療科	43
		循環器内科	10
		小児外科	4
		総合診療科	2
		血液腫瘍科	2
		脳神経外科	2
		脳神経内科	1
		代謝内分泌科	1

3) 新生児内科入院形態と紹介医療機関地域

	神戸	阪神南	阪神北	東播磨	中播磨	西播磨	北播磨	淡路	丹波	但馬	県外	
院外出生	215	178	10	1	10	1	1	0	0	1	4	0
一次搬送	153	138	9	0	6	0	0	0	0	0	0	0
(14日以上)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
二次搬送	62	40	1	1	4	1	1	0	5	1	4	4
院内出生	283	275	2	0	2	0	0	0	0	0	0	4
緊急母体	52	52	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
非緊急母体	231	223	2	0	2	0	0	0	0	0	0	4
院内出生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日齢14未満一次搬送+院内出生	436	413	11	0	8	0	0	0	0	0	0	4

II. 新生児科統計

対象：新生児内科入院（日齢14未満一次搬送入院及び院内出生，転科例を含む）

1) 院内出生と院外出生

出生体重	患者数	院内	率	帰院	産科
500 g 未満	4	4%	100%	0	0
500-749 g	14	14	100%	0	0
750-999 g	9	9	100%	0	0
1,000-1,499 g	28	28	100%	0	0
1,500-1,999 g	61	54	88.5%	0	0
2,000-2,499 g	90	75	83.3%	0	15
2,500 g 以上	230	99	43.0%	18	39
計	436	279.04	64.0%	18	54

週数	患者数	院内	率	帰院	産科
22, 23	5	5	100%	0	0
24, 25	8	8	100%	0	0
26, 27	12	12	100%	0	0
28, 29	6	6	100%	0	0
30, 31	22	22	100%	0	0
32, 33	28	28	100%	0	0
34-36	102	87	85.3%	0	1
37以上	253	115	45.5%	18	53
計	436	283	64.9%	18	54

2) 分娩方法・出生前ステロイド

出生体重	患者数	帝切	率	ANS	率
500 g 未満	4	2	50.0%	2	50%
500-749 g	14	11	78.6%	12	85.7%
750-999 g	9	8	89%	8	89%
1,000-1,499 g	28	24	85.7%	22	78.6%
1,500-1,999 g	61	49	80.3%	26	42.6%
2,000-2,499 g	90	57	63.3%	15	16.7%
2,500 g 以上	230	80	34.8%	8	3.5%
計	436	231	53.0%	93	21.3%

週数	患者数	帝切	率	ANS	率
22, 23	5	1	20.0%	2	40.0%
24, 25	8	6	75%	7	87.5%
26, 27	12	11	91.7%	10	83.3%
28, 29	6	4	66.7%	6	100.0%
30, 31	22	20	90.9%	17	77.3%
32, 33	28	25	89.3%	19	67.9%
34-36	102	76	74.5%	27	26.5%
37以上	253	88	34.8%	5	2.0%
計	436	231	53.0%	93	21.3%

3) 生存率, 死亡率

出生体重	患者数	死亡数	生存率
500 g 未満	4	2	50.0%
500-749 g	14	0	100%
750-999 g	9	1	88.9%
1,000-1,499 g	28	1	96.4%
1,500-1,999 g	61	1	98.4%
2,000-2,499 g	90	2	97.8%
2,500 g 以上	230	0	100%
計	436	7	98.4%

週数	患者数	死亡数	生存率
22, 23	5	0	100%
24, 25	8	1	87.5%
26, 27	12	1	91.7%
28, 29	6	0	100%
30, 31	22	3	86.4%
32, 33	28	0	100%
34-36	102	2	98.0%
37 以上	253	0	100%
計	436	7	98.4%

4) 多胎割合 (品胎 3 組, 要胎 1 組)

出生体重	患者数	多胎	率	品胎	要胎
500 g 未満	4	4	100%	0	0
500-749 g	14	1	7.1%	0	0
750-999 g	9	4	44.4%	0	4
1,000-1,499 g	28	15	53.6%	5	0
1,500-1,999 g	61	32	52.5%	4	0
2,000-2,499 g	90	37	41.1%	0	0
2,500 g 以上	230	17	7.4%	0	0
計	436	110	25.2%	9	4

週数	患者数	多胎	率	品胎	要胎
22, 23	5	2	40.0%	0	0
24, 25	8	2	25.0%	0	0
26, 27	12	4	33.3%	0	4
28, 29	6	1	16.7%	0	0
30, 31	22	13	59.1%	3	0
32, 33	28	18	64.3%	6	0
34-36	102	56	54.9%	0	0
37 以上	253	14	5.5%	0	0
計	436	110	25.2%	9	4

5) 人工呼吸管理の割合

出生体重	患者数	MV	率	HFO	CPAP
500 g 未満	4	4	100%	3	2
500-749 g	14	14	100%	12	13
750-999 g	9	8	88.9%	0	8
1,000-1,499 g	28	20	71.4%	1	22
1,500-1,999 g	61	17	27.9%	1	32
2,000-2,499 g	90	15	16.7%	2	24
2,500 g 以上	230	26	11.3%	2	44
計	436	104	23.9%	21	145

週数	患者数	MV	率	HFO	CPAP
22, 23	5	5	100%	5	5
24, 25	8	8	100%	5	7
26, 27	12	12	100%	4	10
28, 29	6	5	83.3%	1	6
30, 31	22	17	77.3%	3	18
32, 33	28	9	32.1%	0	23
34-36	102	21	20.6%	1	34
37 以上	253	27	10.7%	2	42
計	436	104	23.9%	21	145

6) 特殊治療

PDA 閉鎖術	14例 (二次搬送 6 例)	低体温療法	3例
NO 吸入療法	14例	生後ステロイド全身投与	21例
NICU 内手術	2例	在宅酸素療法	4例
ECMO	1例	ROP レーザー	2例
CHDF	0例	ROP 抗 VEGF	3例 (転院例)
PD	1例		

7) 新生児搬送出勤回数 90 回

入院	74	(ヘリ 9 回)	分娩立合い	1
転院	16		時間外搬送	17

8) 多胎生存率, 死亡率

出生体重	患者数	死亡数	生存率	品胎	要胎
500 g 未満	4	2	50%	0	0
500-749 g	1	0	100%	0	0
750-999 g	4	0	100%	0	4
1,000-1,499 g	15	0	100%	5	0
1,500-1,999 g	32	0	100%	4	0
2,000-2,499 g	37	0	100%	0	0
2,500 g 以上	17	0	100%	0	0
計	110	2	98.2%	9	4

週数	患者数	死亡数	生存率	品胎	要胎
22, 23	2	0	100%	0	0
24, 25	2	1	50%	0	0
26, 27	4	0	100%	0	4
28, 29	1	0	100%	0	0
30, 31	13	1	92.3%	3	0
32, 33	18	0	100%	6	0
34-36	56	0	100%	0	0
37 以上	14	0	100%	0	0
計	110	2	98.2%	9	4

25. 産科

Covid-19（コロナ禍）で2020年の日本ならびに世界は大きな試練を受けましたが、幸い当科では大きな問題は発生しませんでした。

2018年春の医師の大量退職とその後の欠員状態が解消されていないため時間外の母体搬送受け入れを制限していましたが、段階的に緩和し9月以降は常勤医師が当直をしていない時間外（月7日の夜間と月2日の休日日勤帯）以外は、空床がある限り受け入れております。

今年も医師不足で厳しい状況でしたが大きなトラブルや事故もなく無事1年を終えることができ、産科スタッフ一同ならびに関連・関係各位に感謝いたします。

2020年は、船越 徹周産期医療センター長、産科科長兼部長、平久 進也病棟医長、窪田詩乃医長（週3日勤務）、金子 めぐみ医長（週3日勤務）、益子 沙友里医長の5人体制で始まりました。3月末に益子医長が退職し、4月1日から松本 培世医長が入職しました。9月1日から荻野医長が育休から週3日かつ時短勤務で復帰して、結果、6人体制となりました（ただし当直、オンコールを含めたフルワークが可能な者は3名です）（総合周産期母子医療センター産科には当直が可能な医師が8人以上必要とされています）。

医師の補充については公募ならびに神戸大学産科婦人科医局にお願いしておりますが、全国的に産婦人科医師（特に分娩を取り扱う医師）が不足しており厳しい状況が続いております。私立病院に比べて国公立病院には制約があり医師募集や勤務継続に対する方策（24時間保育、病児保育）やincentive的施策がとりにくいため苦戦が続いております。

9月1日以降のスタッフは

船越 徹 周産期医療センター長、産科科長兼部長 昭和60年卒

平久 進也 医長、産科病棟医長 平成15年卒

松本 培世 医長 平成21年卒

荻野 美智 医長 平成23年卒

窪田 詩乃 医長 平成24年卒

金子めぐみ 医長 平成24年卒

となりました。

当院は総合周産期母子医療センターとしてハイリスク妊産婦のみを受け入れる紹介型医療施設です。病床はMFICU（母体胎児集中治療室）6床を含めて22床です。LDR 1室、侵襲的検査処置室（羊水穿刺、羊水除去、胎児胸水穿刺等を施行する処置室）1室、陣痛室1室、分娩室2室あり、外来と病棟が隣接しています。また、産科専用手術室1室を有し、4D超音波断層装置が3台あり、2人当直制（第1当直の20～23%と第2当直の100%は院外医師が担当）です。染色体異常を含めた遺伝相談も行っております。また、「近畿ブロック周産期医療広域連携事業」における兵庫県の拠点病院として他府県からの母体搬送にも対応しております。

入院理由の上位は切迫早産、胎児形態異常、胎児発育不全、前期破水、多胎です。

本邦の出生数の減少（2020年87.3万人）、当院の須磨区からポートアイランドへの移転（2016年5月）に伴う西区、垂水区、須磨区、長田区からの紹介患者の減少の上に、2018年4月から医師退職・欠員に伴って産科病床数・看護師数が減少したため診療制限を行ってまいりました。しかし2018年10月より診療制限を段階的に緩和したため、診療統計は2018年以降毎年増加しております（次ページの表参照）。

分娩母体数（22週以降）234（正期産111、早産123：早産率52.6%）、多胎分娩（22週以降）52（DD双胎：25、MD双胎：22、MM双胎：1、品胎：3、要胎：1）、経膈分娩（22週以降）99、帝王切開術135（帝切率63.9%）（選択61、緊急74）、出産児数（22週以降、死産含む）291、正期産117、早産児174、低出生体重児（2500g未満）190（率65.3%）、22週未満死産児16、22週以降死産児8。

病床稼働率1～12月85.4%、緊急母体搬送の受け入れ87件（受け入れ率78.0%）。

妊娠25週未満の頸管短縮・胎胞形成例の治療的頸管縫縮術も行っております（13例）。また、小児救急の外陰部裂傷縫合術が5例ありました。

胎児機能不全等の適応があれば手術決定から15分以内の児の娩出を目指す「超緊急帝王切開」を関連部門・スタッフの協力を得て行なっております。2020年の超緊急帝切は4例（31週1例、33週2例、37週1例）でした。症例が豊富で2年で産科の教科書に出てくるほとんどの症例を経験できます。当院は「周産期新生児医学会専門医制度」の母体胎児研修の基幹施設であり「周産期・新生児医学会専門医（母体・胎児）」を育成しております。

10月25-31日にコロナ禍のためWEB配信となった「第142回近畿産科婦人科学会学術集会」にて船越が発表した「妊娠28週未満胎胞形成例の検討」が「優秀演題賞」に選ばれました。12月12日に当院講堂で「令和2年度兵庫県立こども病院周産期医療センター研修会」をコロナ禍のためWEB開催し、日本周産期新生児医学会新生児蘇生法委員会委員長、自治医科大学附属さいたま医療センター周産期科新生児部門教授の細野茂春先生から「NCPR2020の改訂のポイントとSERS-CoV-2流行下での新生児蘇生の留意点」の特別講演をいただきました。初めてのWEB開催でしたが、多数の参加者を得ることができました。

放射線科医師と胎児MRIを撮影した症例の経過とMRIの読影、その後の経過を検討する「MRIカンファレンス」を1月20日、7月31日に開催しました。新生児内科医師も参加しております。報告書からだけでは伺えないMRIの読み方について研修することができます。

「感染症内科との合同カンファレンス」を2月3日、3月9日、7月20日に開催しました。

英文雑誌の抄読会を行っております（2020年18回開催）。

学会活動を奨励しています。医師不足に今年はコロナ禍も加わり学会・研究会が中止・延期され発表回数が減少しています。

病状が落ち着いた方や、紹介元で対応可能な妊娠週数となれば、紹介元へ戻っていただいております。2020年のバックトランスファー（紹介元へ戻れた方）は157名でした（外来レベルで行われたものも含む）。また、当院には産科以外の成人を診る常勤の専門医がおりませんので、母体合併症に関しては神戸大学医学部附属病院や神戸市立医療センター中央市民病院等をご紹介します。隣接する神戸市立医療センター中央市民病院も総合周産期母子医療センターですが、中央市民病院は母体合併症を、当院は胎児・新生児にフォーカスした診療の棲み分け、病病連携を行っております。両院で「県立こども病院と神戸市立医療センター中央市民病院との連携会議」を年4回開催しております。紹介患者の電子カルテも相互に閲覧可能なシステムが構築されております。

産科病棟の取り組みとして9月より切迫早産等で長期間入院加療された方に「産後リハビリテーション」を導入しました。長期の安静入院に伴い足腰の筋肉が衰えますので患者様から高評価を得ております。帝王切開分娩が予定されている方へ外来にて帝王切開のオリエンテーションを行う「帝王切開クラス」を開始しました。また、本年は2003年以来の要胎（四胎）がありましたので「要胎の帝王切開シミュレーション」、「超緊急帝王切開シミュレーション」を産科、麻酔科、新生児内科、手術室が協力して行いました。超未熟児出生が予想される症例や生後児に何らかの加療（処置、手術）を受ける症例に対し「プレネイタルビジット」の充実化を行っております。Covid-19対策も感染症内科、感染対策室と協力して行いました。

1) 2020年産科診療状況

入院患者数*	333
うち緊急母体搬送によるもの	83
紹介元へ戻すまたは他院紹介**	157
分娩母体数(22週以降)***	234
正期産	111
早産	123
過期産	0
多胎妊娠	52
DD 双胎	25
MD 双胎	22
MM 双胎	1
品胎	3
要胎	1
経膈分娩(22週以降)	99
うち吸引分娩	11
うち骨盤位牽出術	2
帝王切開術	135
選 択	61
緊 急	74
うち超緊急	4
出産児数(22週以降、死産含む)***	291
正期産児	117
早産児	174
過期産児	0
低出生体重児(2,500g未満)	190
巨大児(4,000g以上)	0
そ の 他	
22週未満死産児	16
22週以降死産児	8

* 入院患者数は2020.1-12入院したもの
 ** 紹介元へ戻すまたは他院紹介は、外来で行なわれたものも含む
 *** 分娩母体数、出産児数は2020.1-12に出産したもの

2) 紹介元施設所在地別入院件数

大分類	地区	件数	率	大分類	地区	件数	率
阪神南	尼崎市	1	0%	中播磨	姫路市	5	2%
	西宮市	15	5%		神崎郡	0	0%
	芦屋市	4	1%		小 計	5	2%
	小 計	20	6%	西播磨	相生市	0	0%
阪神北	宝塚市	0	0%		たつの市	0	0%
	三田市	1	0%		赤穂市	0	0%
	川西市	0	0%		揖保郡	0	0%
	伊丹市	0	0%		赤穂郡	0	0%
	川辺郡	0	0%		佐用郡	0	0%
小 計	1	0%	宍粟市		1	0%	
神戸市	中央区	79	24%	小 計	1	0%	
	西区	42	13%	但馬	豊岡市	2	1%
	須磨区	35	11%		美方郡	0	0%
	東灘区	27	8%		養父市	0	0%
	北区	16	5%		朝来市	0	0%
	灘区	16	5%	小 計	2	1%	
	垂水区	8	2%	丹波	篠山市	1	0%
	長田区	5	2%		丹波市	4	1%
	兵庫区	0	0%		小 計	5	2%
	小 計	228	68%	淡路	洲本市	3	1%
東播磨	明石市	31	9%		淡路市	2	1%
	加古川市	5	2%		南あわじ市	0	0%
	高砂市	1	0%	小 計	5	2%	
	加古郡	0	0%	他府県	大阪	13	4%
	小 計	37	11%		京都	2	1%
他	3	1%	小 計		18	5%	
北播磨	西脇市	0	0%	海外	0	0%	
	三木市	0	0%	院内紹介	4	1%	
	小野市	3	1%		なし	1	0%
	加西市	0	0%	計	333		
	加東市	0	0%				
	多可郡	0	0%				
	小 計	6	2%				

救急隊はその所属地域にカウントした

3) 取り扱い疾患（重複あり）

疾患名*	件数	率
切迫早産	148	44%
高齢妊娠(35歳以上)	117	35%
胎児形態異常	107	32%
胎児発育不全	59	18%
多胎	57	17%
前期破水	41	12%
頸管無力症	32	10%
妊娠高血圧症候群	25	8%
既往帝王切開	21	6%
B群溶連菌保菌者	17	5%
胎児機能不全	15	5%
胎位異常	15	5%
羊水過少	15	5%
羊水過多	11	3%
切迫流産	11	3%
胎児染色体異常	11	3%
甲状腺疾患	9	3%
羊水染色体検査	9	3%
絨毛膜羊膜炎・子宮内感染	8	2%
胎児死亡	8	2%
妊娠糖尿病	7	2%
胎児不整脈	6	2%
心疾患	5	2%
双胎胎児発育不均衡	5	2%
他科併症(GDM、甲状腺、心疾患以外)	4	1%
胎児水腫	4	1%
その他感染	3	1%
常位胎盤早期剥離	2	1%
その他	35	11%
計	807	

入院時、入院中に診断された疾患名患者一人当たり2.4の疾患名を有した

4) 入院時間帯

時間帯	件数	率
時間内	250	75%
平日日勤帯		
時間外	83	25%
平日夜勤帯	40	12%
休日日勤帯	24	7%
休日夜勤帯	19	6%
計	333	

6) 分娩時間帯（流産、死産含む）

時間帯	件数	率
時間内	158	63%
平日日勤帯		
時間外	92	37%
平日夜勤帯	53	21%
休日日勤帯	16	6%
休日夜勤帯	23	9%
計	250	

8) 分娩時妊娠週数（流産、死産含む）

週数	件数	率	累積率
～21週	16	6%	6%
22～24週	10	4%	10%
25～28週	18	7%	18%
29～32週	29	12%	29%
33～36週	66	26%	56%
37～41週	111	44%	100%
42週～	0	0%	100%
不明	0	0%	100%
計	250	100%	

5) 入院時妊娠週数（母）

週数	件数	率	累積率
～21週	41	12%	12%
22～24週	32	10%	22%
25～28週	54	16%	38%
29～32週	49	15%	53%
33～36週	47	14%	67%
37週～	102	31%	98%
不明	0	0%	98%
産後	8	2%	100%
非妊娠	0	0%	100%
計	333		

7) 帝王切開時間帯

時間帯	件数	率
時間内	108	80%
平日日勤帯		
時間外	27	20%
平日夜勤帯	15	11%
休日日勤帯	6	4%
休日夜勤帯	6	4%
計	135	

9) 出産時児体重（流産、死産含む）

児体重	件数	率	累積率
～499g	25	8%	8%
500～999g	25	8%	16%
1000～1499g	28	9%	25%
1500～1999g	55	18%	43%
2000～2499g	73	24%	67%
2500～2999g	58	19%	86%
3000～3499g	34	11%	97%
3500～3999g	9	3%	100%
4000～4499g	0	0%	100%
4500～4999g	0	0%	100%
計	307	100%	

26. 放射線診断科／放射線治療科

放射線診断科

1. 人事異動

放射線診断科のスタッフは赤坂好宣、杉岡勇典の2名。

4月より1年間、堀内克俊医師が奈良医大の放射線科研修プログラムで専攻医として採用となった。

藤本雄介医師（月・木・金 AM：超音波検査担当）、乗本周平医師（金曜）による応援は昨年と同様。

2. 検査の動向

2020年の各検査の読影（施行）件数は以下の通り。

超音波検査	7005（前年比 101.3%）
CT	2511（89.4%）
MRI	3244（99.1%）
RI	225（82.1%）
消化管造影	203（96.7%）
合計	13188（97.8%）

読影（施行）件数の総計では新型コロナウイルス感染症の影響で前年数を若干下回った。

その中でも超音波検査は7000件を突破し、年々増加している。簡便、低侵襲で小児診療のとっかかりに最適な診断ツールとなっている。その他の検査も感染状況が回復すれば前年以上に増えてくるものと思われる。

3. 学術・研修・その他

小児科医の放射線科研修が院内から3名（石田貴裕、井上葵子、中野友理佳）、尼崎総合医療センターから2名（内田伊織、澤村桃子）あり、コンスタントに研修の需要がある。主に超音波検査の習得を基盤にした画像に基づく間違いのない小児診療体系の確立が彼らの目的となっている。

放射線科医の研修としては淡路医療センターから2名（馬渕真衣、高橋拓也：週1日）あり、苦手領域のない general radiologist の育成に有用である。

その他では西宮病院の初期研修医からの研修依頼と北野病院からの研修依頼があったがその時の新型コロナウイルス感染症対策の理由で受け入れ禁止となった。

2月に小児放射線教育セミナーの遠隔会場として2階講堂を利用して開催し、18名の参加があった。

赤坂医師が尼崎総合医療センターへ（木）、杉岡医師が加古川中央市民病院へ（月）出張応援を続け、主に読影や消化管造影、膀胱造影の施行を業務とするが、出張先の小児診療に画像診断で貢献している。

放射線治療科

1. 人事異動

放射線治療科のスタッフは、副島俊典、福光延吉、出水祐介、美馬正幸の4名で2018年1月に福光医師が加入して以降変化なし。4名とも、隣接する県立粒子線医療センター附属神戸陽子線センター放射線治療科と兼務である。

2. 2020年の動向

副島医師と出水医師が放射線治療外来を担当しているが、陽子線センターでの小児治療開始（2018年3月）

以降、従来は当院のリニアックで治療していた症例の多くを陽子線センターで治療することになったので、症例数は減っている。しかし、陽子線センターでは対応が難しい全身照射、また、対応が難しいことが多い全脳照射、全肺照射、全腹部照射といった照射範囲の広い治療法が必要な症例は一定数いるので、リニアックの必要性は損なわれていない。

4名とも当院腫瘍カンファレンスに出席し、積極的に議論に参加している。小児がんには放射線治療が必要な疾患が多く、当科医師の意見が治療方針を左右することも珍しくない。

陽子線センターには神戸大学の学生が定期的に見学に訪れるが、当院リニアックも見学コースに含め、小児放射線治療に対する理解を深めてもらっている。

放射線治療件数（2020年）：19例

（内訳）

全身照射	10例
局所照射	5例
全脳照射	3例
全脳照射+全身照射	1例

【参考】

陽子線治療件数（2020年）：62例

27. 小児集中治療科

【スタッフ】

2020年度の常勤医は黒澤寛史（診療科長）、長谷川智巳、青木一憲、制野勇介、長井勇樹、宮下徳久。フェローは花見洋太郎、山本和宏、市坂有基、白澤彩、糸数大吾、村田慧、先瀆大、伊藤由作、當間圭一郎、増井美苗（非常勤）、染谷真紀（非常勤）。集中治療の研修として、麻酔科への短期研修を行った。専攻医（後期研修医）は2～3ヶ月の短期研修を3名受け入れた。

【資格】

集中治療専門医4名、小児科専門医13名（指導医4名）、麻酔標榜許可2名、救急科専門医2名（指導医1名）、外科学会専門医・心臓血管外科専門医・循環器専門医・脈管専門医・移植認定医 各1名（重複あり）

JPLS 講師1名、PALS インストラクター2名

【診療体制】

CICU 8床、PICU 8床（運用6床）、ICU 11床の25床を担当し（Closed ICU）、関係各科と連携をとりながら重篤な症例の診療に当たった。CICUとPICUの病棟統合工事が完了し、2020年9月からはPICU 16床（運用14床）と変更した。ICUはHCUと改称した。統合工事と同時期に、COVID-19対応のための陰圧個室2床と陰圧処置室（器材保管庫を改修）を設けた。

平日日中は6～7名、夜間は3名体制。休日は日中5～6名、夜間3名体制

【施設認定】

- 集中治療医学会専門医研修施設
- 日本急性血液浄化学会認定指定施設
- 呼吸療法専門医研修施設

【集中治療科診療実績】

		2016年*	2017年	2018年	2019年	2020年
入室患者数		628	1,025	964	1,025	912
月齢（中央値，平均）		29, 55	25, 57	24.5, 54	25, 60.4	25, 57.4
予測死亡率（%）		2.6	2.6	1.8	2.2	2.7
実死亡率（%）		1.9	1.5	1.1	0.8	2.1
MET コール後入室		NA	NA	NA	13	8
滞在日数（中央値，平均）		4, 8.2	4, 7.3	4, 7.3	4, 6.7	4, 7.6
搬送手段	院内	503	797	735	765	732
	転院（迎え搬送）	16	18	7	15	2
	転院（他院同乗）	35	83	78	87	55
	救急車（現場）	32	41	59	59	49
	ヘリコプター	20	19	21	19	15
	その他	22	67	64	80	59
入室理由	術後管理	394	634	570	565	532
	呼吸不全	90	156	160	200	153
	循環不全	53	53	47	66	74
	中枢神経系の異常	41	65	68	76	59
	心停止蘇生後	7	15	8	3	5
	モニタリング	31	86	96	108	80
	その他	12	16	12	7	7
治療内容	人工呼吸管理	280	452	381	415	367
	NPPV	69	75	61	40	40
	HFNC	16	130	192	222	190
	HFO	2	4	3	1	1
	iNO	58	59	60	68	75
	ECMO	10	10	13	6	9
	CRRT	2	3	11	7	10
	PEX	3	7	4	8	12
県外から直接入院		27	29	38	29	11

* 2016年は8ヶ月間

28. 病理診断科

病理診断科では、胎盤病理などの周産期の病理診断、小児外科領域の病理診断、小児固形腫瘍の病理診断を主体として、小児期の病理診断全般を行っている。小児固形腫瘍は日本小児がん研究グループ（JCCG）の病理委員会事務局である国立成育医療センターに病理標本や凍結腫瘍組織を送付して、中央病理診断や分子生物学的診断を受けている。腎生検は、電子顕微鏡の所見を加えた最終診断は腎臓内科が行っている。病理診断科では検体のマクロ検索からミクロ検索までを一連の業務として取り組み、一例一例を大切に丁寧に診断することを心がけている。必要に応じて免疫染色や特殊染色、外部委託や小児固形腫瘍観察研究による分子生物学的検索、他施設へのコンサルテーション依頼等を行い、客観的で再現性のある標準化に則った病理診断を目指している。臨床カンファレンスを通じて、診断名のみならず所見の詳細を臨床に伝えることで診療に病理診断結果を活かしてもらえるように努めている。また病理診断は一時期の病変部のみの検索であるが、診療過程の全体を把握して病理診断にフィードバックしたいと考えている。大学のカンファレンスや全国の講習会や研究会に積極的に参加している。

2020年の動向

2020年の第40回日本小児病理研究会の世話人を兵庫県立こども病院病理診断科が担当した。コロナウィルスによる社会情勢から集会形式での研究会の開催は困難であったため、演題スライドのPDFを収載したDVD-Rの郵送配布と、教育講演、特別講演、記念講演は2020年9月5日（土）にZOOM配信を行った。ZOOM配信のホストは九州大学形態機能病理が担当された。

がんゲノム医療が開始され、兵庫県立こども病院では2020年は9件が対象となった。兵庫県立がんセンターや神戸大学医学部附属病院に依頼する形で行われた。

兵庫県立こども病院検査・放射線部検査部門がISO15189認定を取得した。

2020年の件数

組織診断件数	1058件（うち迅速55件、胎盤250件、腎生検20件、他院からの持ち込み32件、他院1件）
細胞診断件数	274件
剖検件数	6件（新生児科4件、血液腫瘍科1件、集中治療科1件）

29. 看護部

看護部理念

命を守り、育てることに努力し、安心と満足が得られる看護の提供に努めます。

看護部のスローガン

「小児看護」→「笑児看護（しょうにかんご）」

「みる・まもる・つなぐ・つたえる」で、こどもと家族の輝く笑顔を引き出そう！！

看護部方針

- こどもの権利を守り、患者・家族の思いを尊重した看護を提供します。
- 看護の質の向上を目指し、安全と安心に繋がる看護を提供します。
- 患者を中心としたチーム医療の調整役として、主体的に行動します。
- 真の優しさと逞しさを備えた人間性を養い、自己研鑽に努めます。

看護の体制

- より安全で質の高い看護を提供することを目的とし、パートナーシップ・ナーシング・システム（PNS）看護提供方式を取り入れています。
- 患者さんが治療や検査を理解し、確実に行えるように、プレパレーションやディストラクションを取り入れた看護を実践しています。
- 保育士と協働し、患者さんの成長発達に応じた療育への支援を行っています。
- 患者さんに少しでも快適で豊かな入院生活を送っていただけるよう様々なボランティアの方と季節折々の行事を実施しています。
- 看護系大学との事例検討会や共同研究を推進し、看護の質向上に向けて取り組んでいます。

看護部目標

MISSION 遂行へ！安定と進化の探求

「共働・共育・共創」

1. 互いに尊重し、支え合うチームをつくり、専門性の高い看護を実践する
 - 1) PNS の充実を図る
 - 2) 看護の質評価指数を明確にし、各部署緒強みの強化を図る
2. 全看護職が教え育む力を発揮し、共に成長する
 - 1) 「看護の核となる力」を活用した看護リフレクションが定着する
 - 2) クリニカルラダーによるキャリア開発の促進を図る
3. 「魅力ある働き方」を実現する
 - 1) “働きやすさ”と“働きがい”のある職場を創る

“常に3C（チャンス！チャレンジ！チェンジ！）道標”
みちしるべ

看護部の活動

5階西病棟

小児外科・泌尿器科疾患を中心とした混合病棟として、周術期看護と内科系疾患の看護、確実な治療の提供、退院を見据えたセルフケアの支援など、短期入院、長期入院にかかわらず、診療科や多職種と協働し取り組んだ。泌尿器科のクリニカルパスを積極的に導入、新たに作成するなど看護の標準化を強化した。

5階東病棟

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、家族の面会制限、外泊禁止など在宅支援にも影響があった。その中でも感染防止に努め在宅支援を継続している。在宅移行患者数は少なかったが、患者、家族の状況に応じた支援を継続している。また、感染症病床として、新型コロナウイルス感染症対策にスタッフで取り組み、患者の受け入れを行った。在宅支援と感染症病床の両面の役割があるため、部署のみでなく院内全体で取り組めるよう、情報の発信を行っていく。

6階西病棟

安心で安全な看護の提供を目指し、互いに尊重し合いながら共に育つことを念頭に教育をすすめた。チーム医療の推進に努め、多職種との協働、病棟間・外来・地域との連携の強化を図り、継続した看護ケアを提供することができた。また、心臓カテーテル検査・治療のクリニカルパスを積極的に活用し、看護の標準化を図ることができた。

6階東病棟

内科外科混合病棟として代謝内科の糖尿病教育入院や腎臓病患者の看護、整形外科、脳神経外科の周術期看護、血液腫瘍科の陽子線治療の看護を行いこどものセルフケアの向上に向けた支援や退院支援に取り組んだ。安全で安心な看護を目指し、各診療科や他部門と連携し勉強会やカンファレンスを実施した。

7階西病棟

小児がん拠点病院として、血液腫瘍科の患者を受け入れ、化学療法や造血細胞移植を安全に行い、患者、家族の不安や苦痛の軽減を図る看護ケアに取り組んだ。多職種と協働し、患者の自立を目指した生活支援や復学カンファレンス、退院支援、終末期ケアを行った。

7階東病棟

多職種と協働しながら、子どもにとっての最善を目指し、確実な治療と症状緩和、日常生活・療養環境の整備に取り組んだ。中でも、陽子線治療においては、陽子線センターと毎月定期カンファレンスを開催し、連携を図った。多職種とともに、症状緩和や環境調整、意思決定支援、地域との連携等を行い、終末期ケアの充実に努めた。また、きょうだい支援として、病棟独自にツールを作成し、成果がみられた。

PICU

より質が高く効果的な集中治療が行えるよう、CICUとPICUが統合し、2020年9月からPICUとして一体化運用を開始した。対象疾患を限定することなく、内科系、外科系を問わず重篤な急性機能不全に陥った患者により良い看護を提供できるよう、教育支援を行いスタッフ全員がトレーニングやシミュレーションに取り組んだ。また日々医師とのベッドサイドカンファレンスを行い、理学療法士とも連携し早期リハビリテーションの実施を図るなどチーム医療も推進している。

HCU

全診療科を対象に、急性期から回復期に向かう状態が不安定な患者の受け入れをおこない、その子らしい生活ができるよう一般病棟と連携し継続看護を進めた。指差し呼称の定着や手指衛生、環境整備などリスク感性を高め、安全な看護の提供に取り組んだ。PNSを活かし、リフレクションを行う中で、看護を語り合い、お互いの成長を目指し、

HCU 病棟における実践力の向上に努めた。

NICU

NICU での PNS 体制を見直し、ガイドラインに沿った実践と PNS マインドを再確認した。結果、教育支援が円滑に行えるようになり、実践経験が増えた。また、医師・GCU 病棟との話し合い・調整を重ねて面会時間の拡大を実現し、ファミリーセンタードケアの充実に努めた

GCU

GCU での PNS の充実に向け、看護のリフレクションが定着するよう取り組みを行った。日々の看護を振り返り、質の高い看護の提供につなげた。面会制限がある中、家族が不安なく退院を迎えることができるよう、早期から計画的に退院支援を行った。また外来や地域とも連携し、継続看護の充実に図ることができた。児の成長発達への支援として、タッチケアの継続、リハビリ科との連携を行い、「赤ちゃんに優しい 家族に優しい」看護ケアの提供ができるよう取り組んでいる。

産科

妊娠中から、母子への切れ目のない支援対策を行っている。出生前診断を受けた患者・家族に対し、新生児内科・循環器科と連携し、出生後の児の状態・育児に関する不安の軽減に繋がるようプレネイタルビジットを実施している。また、妊婦が主体的に分娩に臨めるよう、バースプランを聞き、ケアに繋いでいる。継続的に支援の必要な褥婦には、養育支援ネットを用いて地域へ繋いでいる。長期入院により、筋力低下した褥婦には、産後リハビリを行った。母乳外来では、他院で分娩された母親も対象とし、母乳栄養指導だけでなく母親の精神面での支援や、育児不安の緩和に努めている。

外来と連携し、思春期移行期支援対策として性教育を中心に指導を行っている。

手術室

WHOの指針に基づいた「手術室安全チェックリスト」を用い、安全な手術環境を整えると共に、チーム医療の質の向上に取り組んでいる。また、他職種、他部門と協働し、手術後回復期のPACU運用など、術前・術中・術後の安全と安心に繋がる看護を推進している。

外来

在宅療養中の患者・家族の安全と多様化するニーズに対応していくことを目標とし、安全な外来診療と患者・家族からの相談に対応できる人材育成を目指した。各診療科での移行期支援・看護相談の充実に向けて、現在準備を進めている。

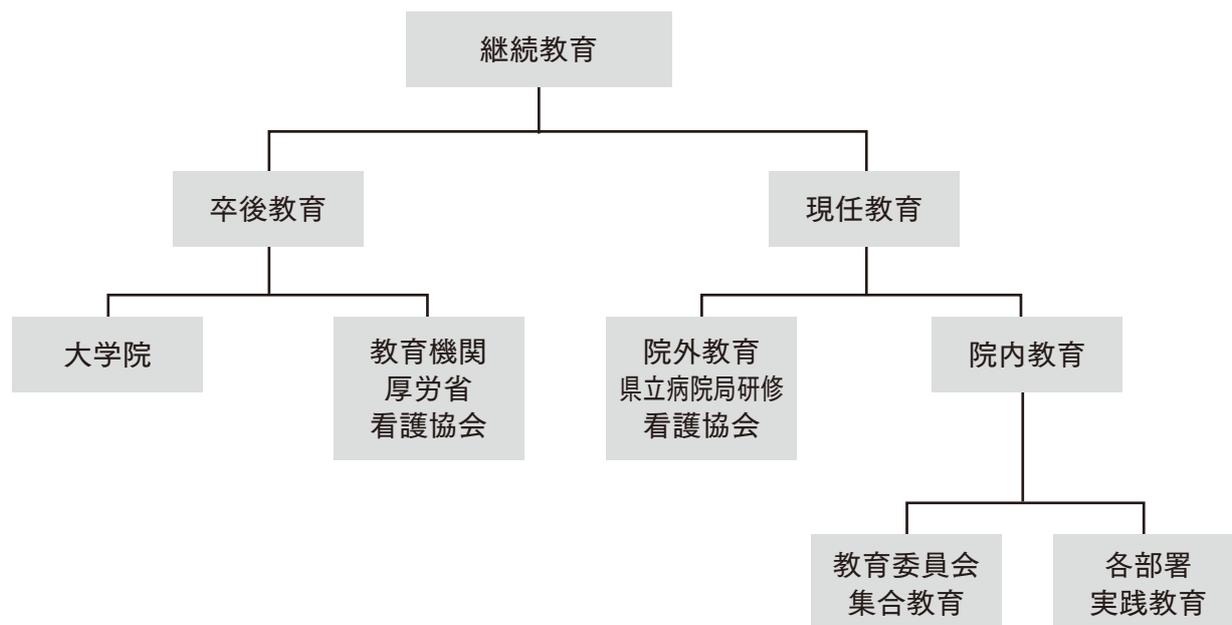
救急・HCU

救急外来患者及び救急・HCU 病棟に入院する患者・家族に対して、受診時から地域での生活を見据えながら必要なニーズ・支援を見だし、看護を提供することによって、子どもの安寧と健やかな成長発達を支援した。特に、療養環境の整備にも取り組み、遊びを通して「一緒にがんばり、こどもたちを笑顔にする」ことを実践できている。また、多職種連携により専門的な医療の提供を推進し、地域との連携を強めている。

こども病院看護部教育方針

1. 高度専門的な母子看護の知識・技術をもち、エビデンスに基づいた看護実践ができる看護師の育成
2. こどもの権利を守り、患者家族の思いを尊重できる看護師の育成
3. チーム医療の調整役として行動できる看護師の育成
4. 研究的視点で看護実践の改善がはかれる看護師の育成

こども病院看護部継続教育の位置づけ



看護部委員会

委員会名	開催回数	活動内容と結果
看護師長補佐会	12回	<p><目的> 各看護単位の円滑な運営と看護の質向上を図ることができる</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. PNSマインドを醸成し、ガイドラインに沿った行動がとれることで、PNSが定着する 2. 災害に対するスタッフの意識向上が図れ、（シミュレーションでの）初動がとれる 3. 患者サービスに対する意識の向上を図り、患者・家族が安心、満足できる看護が提供できる 4. 入院・手術を受けることもと家族が心身共に安心できる治療・看護を提供する 5. 患者・家族が安心して入院生活や外来受診の時間を過ごすために、スタッフ一人ひとりが接遇に関して意識を高め実践する <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. パートナシップナースングシステム実践ガイドの啓蒙後、自主看護師長会のPNSグループと連携しPNS監査を行い課題を抽出した。また各部署でPNSの啓蒙を継続しながら、PNS大会や院内スタッフ向けのマインド研修を開催しPNSの推進を図った 2. 防災対策チェックリスト・災害ケアパッケージ・アクションカードなどのツールを用いた部署内での災害トレーニングや机上シミュレーションの推進を行った。また、防災設備に関する勉強会をEラーニングを用いて実施できる体制を整えた 3. 患者様アンケート活用フロー・ハートメッセージ活用フローを作成し、看護師長補佐会内での共有や各部署へのフィードバックをフローに沿って行える体制を構築した。また、患者様アンケートの配布数をあげる取り組みを行った 4. 部署間・院内での取り組みは、①専門看護師・認定看護師活動②病棟間での実際の連携についての新聞を作成し、取り組み状況の共有を行うことで連携推進に努めた。また、手術室と外来が連携し、休日前の入院予定患者に対する術前プレパレーションを外来で受けることが出来る体制を構築した 5. 年間2回の接遇自己評価・他者評価の実施を行った。その結果から課題を抽出し、身だしなみのポスターの修正、電話の受け取り方法の提示など啓蒙活動ができた。また、患者サービス向上委員会と共同で接遇研修の企画・運営を行うことができた
教育委員会	12回	<p><目的> 看護職員のキャリア開発を支援するとともに、良質な看護を提供するための教育体系を整備、実践する</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日々の経験から看護実践を振り返り、共に学び成長する教育環境を作る 2. 研修-OJT-ラダーの連動を促進する支援ができる 3. 教育委員と教育担当者が互いに認め合い、共に成長する
教育担当者会	14回	<p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内集合研修の企画・運営・評価 2. OJTとリンクした継続性のある教育の検討と実施 3. 看護師個々のキャリアに応じた支援の検討と実施 4. 全スタッフで新人看護師を育成し、また共に学び続ける風土づくり・体制整備

<p>臨床実習指導者会</p>	<p>6回</p>	<p><目的> 臨床指導者の育成と学生の効果的な臨床実習ができる</p> <p><目標> 1. 病棟内の実習環境を整え、病棟間連携をはかり、学生の学びを継続的に支援することができる 2. 臨床指導者の指導のスキルが向上する</p> <p><活動内容> 1. 各学校と実習内容の調整や目的の共有を行い、各病棟で実習を受け入れた。COVID-19による影響で実習時間の短縮や中止がある中、リモートでのカンファレンスや質疑応答を取り入れ、可能な限り学生が学べる場を提供した 2. 説明内容を統一するために、昨年作成したツールを使用し学生へのオリエンテーションを行った。各病棟の特徴を反映させて活用していく 3. 学生の状況を把握し継続した臨床指導を行うため、実習経過表を使用し、記載率の向上に努めた。記載内容を検討し修正していく 4. 「周手術期看護実習における取り決め」「手術室見学申し込み用紙」に沿い、機会を逃さず手術室見学を行うことができた。集中系病棟の実習は1件であったが、学生実習に関するポスター掲示を行いスタッフへの意識向上をはかった</p>
<p>看護の質向上委員会</p>	<p>9回</p>	<p>看護の質向上委員</p> <p><目的> 看護の質向上に向けて、看護者の倫理綱領に基づき、患者の安全で安楽、権利と尊厳を守るケアを提供する</p> <p><目標> 1. 倫理問題をカテゴリー化し各部署で類似事例に気付き発信する 2. 事例検討を通して、分析方法の理解が進み解決策を立案実践し評価する 3. 事例検討を通して、ファシリテーターを育成する 4. 修正が必要な看護手順を修正する</p> <p><活動内容> 1. ペーパーペイシエントで事例検討を2事例行い分析方法、解決策の立案、ファシリテートに必要な力を実践で学んだ 2. 上半期は倫理問題をカテゴリー化し自部署の類似事例を挙げた。下半期は各部署で事例検討を行った 3. 経管栄養物品の規格変更に伴い経管栄養の手順と、今年度のヒヤリハットからレベルの高い事象を選択し関連する看護手順を修正した</p>
<p>プレパレーション部会</p>	<p>6回</p>	<p>プレパレーション部会</p> <p><目的> 看護の質向上委員会の下部組織として活動し、プレパレーションについて考え、プレパレーションの質向上を図る</p> <p><目標> 部署のプレパレーションについての課題を明確にし、課題の解決に向けて取り組む</p> <p><活動内容> 1. 勉強会を3回開催し、その学びを部署に還元した 2. 事例検討を3回開催し、日々の実践の振り返りを行った 3. 各部署の課題を明確にし、課題解決に向け取り組んだ 4. 今年度より、保育士が参加し保育士との連携を進めた</p>

<p>感染対策委員会</p>	<p>11回</p>	<p><目的> 感染防止対策の周知徹底を図り、院内感染を防止する</p> <p><目標> 1. 感染症及び耐性菌のアウトブレイクが昨年度より減少する 2. 感染対策委員は、リンクナースとして感染対策における実践モデルとしての役割がとれる</p> <p><活動内容> 1. 手指衛生遵守率80%以上維持することを目指し、2回/月の手指衛生直接監査や感染対策推進員の育成を行った 2. 手指衛生消毒剤の使用量調査を行い、使用量増量のための対策に取り組んだ 3. 感染防止を考えて患者のケアが行えるようベストプラクティスや「防護具が必要な場面」「手袋着脱ルール」の遵守について監査を行い、結果を分析し、対策を考えた 4. ICTランドに同行し、環境に対する各病棟の問題の改善を行った 5. 感染管理者認定看護師による3回/年のミニレクチャーの内容を各病棟に浸透させるよう活動した 6. 全職員対象の感染対策研修会に向けて「適切な防護服の着脱」について視覚的教材の作成を行った 7. 「手指衛生」「環境整備」「防護具の着脱」などをテーマに「インフェクションコントロール」を参考に根拠に基づく教育や指導、勉強会の開催など自部署の感染対策を行った</p>
<p>安全対策委員会</p>	<p>10回</p>	<p><目的> 看護事故防止対策を検討し、全看護職員のリスク感性向上に向けて取り組むことを目的とする</p> <p><目標> 1. 内服・注射に関する与薬の手順を遵守する 2. リスク感性を高め、安全な療養環境の提供を行う 3. マニュアルの改定を行うことで、安全な医療を推進する</p> <p><活動内容> 1. 6Rの監査を行い、遵守率の低い患者確認の項目に対し、ネームバンドで確認を遵守できるよう強化月間を設け啓発を行った。看護手順の与薬の内容に6Rの確認を追加し、6Rの確認を推進する内容のポスターの作成を行った 2. 静脈ラインの安全確認を記録より監査を行い、同時に啓発活動を行った 3. 環境ラウンドを実施し、監査した結果を各病棟へフィードバックを行い、改善が必要な内容で各部署KYTカンファレンスを開催した。ヒヤリハットレベル0の件数増加を目指し、事例集や媒体を作成しレベル0に対する理解と共有を委員会より発信を行った 4. 安全マニュアルと監査用紙・チェックリストを整理し、目次の割り付けを行った</p>

<p>看護記録管理・クリニカルパス推進委員会</p>	<p>9回</p>	<p><目的> 1. 看護記録の質の管理を行い、看護実践の一連の過程の記録を実現する 2. 看護記録の倫理的側面の管理を行い、適切な看護記録を実現する 3. 医療の質改善に寄与するクリニカルパスを推進する <目標> 1. 医療の質向上に向けた個別性のある看護計画が立案できる 2. 看護記録の質向上と正しく確実な記録ができる 3. クリニカルパスを推進し、医療内容の標準化とパス作成を通しての業務改善を図る <活動内容> 1. 標準看護計画を新たに7項目作成した 2. 看護記録の監査を機械的・質的・セキュリティ・タイムリーールの側面で各2回、計6回実施した。監査を行うことでスタッフ全員が記録を見直し、看護記録について考える機会ができたことは、日々の看護記録の質向上に繋がった 3. 各診療科と協働して新規6個のクリニカルパスを作成、運用を開始できた。患者用パスの整理・作成ができた。次年度、活用していく。看護部のパスのマニュアルが作成できた。次年度、活用していく</p>
<p>看護記録管理・クリニカルパス推進部会</p>	<p>10回</p>	<p><目的> 看護部看護記録管理・クリニカルパス推進委員会の下部組織として、業務上看護が取り扱う情報を以下の2点に基づき、委員会と連携し管理することを目的とする 1. 看護実践用のシステム（看護支援システム・病院情報システム）を活用し、その改善に関わる 2. 情報管理に関する法令遵守及び、施設のセキュリティーポリシーに基づいたシステムの安全管理に関わる <目標> 1. 看護実践用のシステムにおける用語の標準化と統一 2. 院内・看護部クリニカルパス推進委員会との連携し、クリニカルパスの作成及び活用支援 3. 看護情報の2次利用 <活動内容> 1. 看護部記録管理・クリニカルパス推進委員会と連携し、看護計画が実際に活用出来るよう、電子カルテのマスターメンテナンスを行った 2. プロファイルとアセスメントシートの見直しを行った 3. 皮膚排泄ケア委員会、呼吸障害ケアと連携し、観察項目の追加、計画の修正を行った 4. テンプレートの作成を行った 5. クリニカルパス作成のサポートを行った</p>
<p>地域連携委員会</p>	<p>6回</p>	<p><目的> 在宅療養支援に関する院内外の現状を知り、地域連携推進に取り組む <目標> 1. 退院支援の見える化を図り、継続した退院支援ができる 2. 委員が在宅医支援に関する知識が向上し病棟へ還元できる 3. 地域の医療スタッフとの交流を図り、地域との繋がりを深めスムーズな連携に繋げる <活動内容> 1. 医療的ケアが必要な児の退院支援確認表の運用マニュアルを検討し作成した。3月から使用していく。 2. 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、院内外での研修や交流、委員会での勉強会も自粛となり、学びの場は少なかった。しかし、退院支援ケアマップ作成に全員が取り組むことで共通認識につながった。次年度に向けて退院支援に向けた連携を強化する</p>

<p>専門・認定看護師会</p>	<p>8回</p>	<p><目的> 医療・看護の質向上に向け、専門看護師・認定看護師が連携して問題解決への取り組みや支援を行う</p> <p><目標> 【CNS】 1. 所属部署または依頼のあった部署を中心に課題の明確化と問題解決に向けての取り組みができる 2. 専門看護師として自身の実践能力を向上させ、現場の看護の質を向上させる</p> <p>【CN】 1. 各認定分野において、組織・チームのリソースとなる 2. 研修を通してスタッフの人材育成を行う 3. 認定看護師として、自身の実践力を向上させ、現場でのケアの成果をあげる</p> <p>【CNS・CN】 1. CNS・CNがコラボレートすることで、ケアの発展ができる 2. 各専門・認定分野において地域のリソースとなる</p> <p><活動内容> 【CNS】 1. 依頼に応じて部署カンファレンスに参加した。倫理カンファレンスは院内倫理研修後、カンファレンスの支援を全例行った 2. 院内CNSで院外発表の研究の支援を行った</p> <p>【CN】 1. スキルアップ研修（創傷ケア/感染管理/集中ケア/摂食嚥下障害ケア）の開催と教育委員主催院内研修を担当し行った 2. 委員会内で各領域毎で活動報告を2回実施した</p> <p>【CNS・CN】 1. 月間の活動報告の共有を行った 2. オンライン形式による研修会を外部と実施できた</p>
<p>研究支援委員会</p>	<p>4回</p>	<p><目的> スタッフが看護研究を意欲的かつ適切に実施できるように、研究の全過程にわたって支援する</p> <p><目標> 1. 看護研究の計画や実施において、スタッフが適切な倫理的配慮を行えるよう支援する 2. スタッフが、看護に関して科学的方法を用いて探求し、新しい知見を得るために、適切な指導と支援を行う</p> <p><活動内容> 1. 看護研究の倫理的配慮に対する指導・教育 2. 看護研究の計画・実施プロセスにおけるスタッフの支援</p>
<p>皮膚・排泄ケア部会</p>	<p>9回</p>	<p><目的> 皮膚・排泄における専門知識を習得し、ケアの質向上を図る</p> <p><目標> 1. 部会員が、皮膚・排泄ケアに関する知識を習し部署に還元する 2. 褥瘡に関連するアセスメント記録の現状を発信し、振り返りを行う事で正しく記録ができるようになる 3. MDRPUの看護計画を作成することで、標準化した看護が提供できる 4. 院内勉強会を開催することでスタッフのスキンケア関連に関する知識が増える</p> <p><活動内容> 1. 皮膚・排泄ケア認定看護師が部会員対象に勉強会をし部会員は自部署のスタッフへ伝達講習を実施した。また、部会内で事例検討を実施した 2. 広報誌を発行しアセスメント記録の強化月間を設け、各部署で取り組み分析結果を踏まえ正しい記録の周知を行った 3. MDRPUの計画を立案し、今後運用を行う。MDRPUについては、各部署で対策を検討し取り組んだ 4. スキンケアの勉強会を開催し参加はコロナの関係で参加人数を制限し30名であった。参加者の100%が理解できたとの回答であった</p>

呼吸障害ケア部会	9回	<p><目的> 1. 呼吸障害における専門知識を習得する 2. 呼吸障害におけるケアの質の向上を図る</p> <p><目標> 1. 呼吸障害におけるリスク感性を高め安全な呼吸ケアを提供できる 2. RST リンクナースとしての RST 活動の周知、知識の向上と定着化ができる 3. 事例検討を通し全スタッフの知識・技術の向上を図り質の高いケアを提供できる</p> <p><活動内容> 1. 呼吸管理に関するヒヤリハットを共有し分析をもとに対策検討と周知を図った。ヒヤリハットをもとに呼吸器安全チェックリストの修正、気切帯・マジックテープの安全性、院内対応の統一について検討した 2. RST と連携をとり、呼吸管理に関する勉強会の開催をした 3. 各部署の困りごとと疑問点を集約し事例検討を行った。RST とも連携し必要な内容は各部署へフィードバックした</p>
摂食障害ケア部会	10回	<p><目的> 摂食障害における専門知識を習得し、ケアの質向上を図る</p> <p><目標> 1. 摂食に関する知識を学び、各委員がリンクナースとしての役割を担うことができる 2. 事例検討を通して実際のケアを学び、病棟間及び外来との連携を充実させることで継続看護ができる 3. 口腔ケアが摂食ケアの基本の一つであることを全看護師が理解できる</p> <p><活動内容> 1. 各委員が自主的に摂食ケアについて学び、部会内で委員が講師となって担当項目の講義を行った 2. グループ活動として、①記録の充実に向けた啓蒙、②間接訓練(マッサージ・口腔ケア)、③食形態・強化母乳について取組み、各部署での啓蒙を行うためのツールを作成した 3. 毎回の部会で、部署での取り組みを発表し情報の共有をはかった。事例検討を計画通りに実施したことで情報交換ができ、さらに知識向上に繋げることができた</p>
緩和ケア部会	10回	<p><目的> 緩和における専門知識を習得し、ケアの質向上を図る</p> <p><目標> 1. 緩和に関する最新の知識を学び共有する 2. 事例検討を行い、質の高い看護を提供する 3. 院内緩和ケア部会、緩和ケアチームと連携し、院内の緩和ケアの向上を図る</p> <p><活動内容> 1. 部会内緩和ケア勉強会の開催と各部署への伝達 2. 部会内事例検討の実施と各部署へのフィードバック 3. 院内緩和ケアチーム事例検討会への参加と事例提供</p>

令和2年度 看護部院内研修

	研修会名	日程	時間	ねらい	参加数	講師
新人	フォロー研修①	4月3日(金)	1日	<p>1. 必要な看護知識と技術を段階的に身につけることができる</p> <p>2. 同期との就職後の思いを共有し、今後の意欲に繋げる</p> <p>3. 看護実践について振り返り、自己の看護師像を明らかにし、次のステップへの目標を見い出せる</p>	54名	武田看護部次長、栗林 CNS、清水看護師長、教育担当
	フォロー研修②	4月6日(月)	1日		54名	竹井医療安全課長、中島 CN、教育担当者
	フォロー研修③	4月7日～9日	3日		48名・47名・47名	
	フォロー研修④	4月10日(金)	1日		47名	谷澤医師、放射線部、栄養管理課、(AM69名)
	フォロー研修⑤	4月13日(月)	1日		48名	森本 CN、鎌田 CN、教育担当者
	新人フォロー研修	5月11日～19日	45分ずつ×7日		49名	谷本看護部次長、教育担当看護師長
	フォロー研修⑦	6月26日(金)	0.5日		50名	新井 CN、吉村 CN、ME、教育担当者
	フォロー研修⑧	6月26日(金)	0.5日		50名	教育担当者
	フォロー研修⑨	7月30日(木)	0.5日		49名	藤原 CN、教育担当者
	フォロー研修⑩	7月30日(木)	0.5日		49名	浅井 CNS、越後看護師長、教育担当者
	新人フォロー研修	8月20日(木)	0.5日		45名	長谷臨床心理士、教育担当者
	フォロー研修⑩	8月20日(木)	0.5日		44名	深江家族支援地域連携部課長、保育士、教育担当者
	フォロー研修⑪	9月25日(金)	1日		44名	栗林 CNS、教育担当者
	フォロー研修⑫	10月23日(金)	1日		43名	栗林 CNS、教育担当者
	フォロー研修⑬	11月27日(金)	PM0.5日		42名	教育担当者
	フォロー研修⑭	1月21日(木)	1日		40名	教育担当者
フォロー研修⑮	3月8日(月)	1日	40名	教育担当者		
フォロー研修⑯	12/17・12/18・12/21・2/17・2/18・2/19	各1日	44名	藤原 CN、坂本 CN、インストラクター他		
既卒	既卒者研修①	6月18日(木)	2時間	<p>1. 子どもの生理学的異常兆候を察知し、報告することができる</p> <p>2. 小児の救急蘇生場面において、迅速な役割行動をとることができる</p>	16名	江角副院長兼看護部課長、長谷臨床心理士
	既卒者研修②	7月6日(月)	2時間		16名	浅井 CNS
	既卒者研修③	9月17日(木)	2時間半		17名	深江家族支援地域連携部課長
	既卒者研修④	2月18日(木)	2時間		12名	教育委員
	メンバートレーニング	9月23日(水)	2時間		38名	武田看護部次長
	2年目 看護倫理	2月22日(月)	0.5日		34名	栗林 CNS
	フィジカルアセスメント研修	7月31日(金)	0.5日		37名	藤原 CN
	リフレクション研修	3月10日(水)	0.5日		24名	東めぐみ教授 (DVD)
	看護倫理	11月9日(月)	0.5日×2回		62名	栗林 CNS
	退院支援研修	6月23日(火)	2時間		19名	深江家族支援地域連携部課長
ラダーII 研修	ケーススタディ発表	1月18日(月) 1月29日(金)	1日	<p>1. 事例を通して自己の看護を振り返り、大切にしていく看護を明確化できる</p> <p>1. プリセプターとしての役割を理解し、アソシエイトプリセプターの支援の もと、プリセプティと共育できる</p> <p>1. プリセプターとしての役割を理解し、アソシエイトプリセプターの支援の もと、プリセプティと共育できる</p> <p>1. プリセプターに必要な知識を習得し、看護実践につなげる</p> <p>1. 小児も病院に必要な知識を習得し、看護実践につなげる</p> <p>1. メンバートレーニング・リーダーシップの基本を理解し、看護チームの中で自立した看護を実践し、自己の役割に応じたメンバートレーニングを発揮する</p>	59名	
	プリセプターフォロー研修①	6月29日(月)	2時間		40名	松下看護師長
	プリセプターフォロー研修②	10月30日(金)	2時間		40名	伊丹看護師長
	実践力UP！「ポジショニング研修」	10月30日(金)	2時間		14名	福田 PT
	実践力UP！「家族看護」	8月27日(木)	2時間		18名	浅井 CNS
	チーム医療推進 I	9月29日(火)	6時間		29名	佐藤看護師長 (外部講師)

ラダーIII 研修	リーダーシップ	8月27日(木)	0.5日	1. 看護チームの中でリーダーシップが発揮できる 2. 自部署のPNSにおけるロールモデルになることができる 1. シミュレーション教育の知識を習得し、研修の企画運営に活かすことができる 2. シミュレーション教育の知識を習得し、自部署でシミュレーション教育が実施できる	29名	清水看護師長
	シミュレーション研修	6月29日(月)	0.5日	1. 倫理原則・倫理綱領に基づき、意識して行動でき、部署の倫理問題に気づき、支援を受けながら問題解決に向けて取り組むことができる 1. 退院後の生活について、患者・家族と相談しながら個別性をふまえて、必要な介入を考え実践できる 2. 退院支援における意思決定に必要な情報提供や場の提供ができる	27名	井谷 CN
	看護倫理	9月28日(月)	2時間	1. 臨床実習指導者・実地指導者が役割を認識し、学習者の特徴を理解することができ、また、人材育成のための基礎的知識を習得し、対象に合わせた学びの場を作ることができる 1. 部署の課題を把握し、自己の役割に応じて解決策にむけた計画立案・実践・評価ができる	21名	中谷 CNS
	退院支援研修	8月25日(火)	2時間	1. 看護リフレクションについて体験を通じて学び、ファシリテーションを学ぶことができる 2. 省察的実践者を育成していくための方法を知り、動機付けができる	13名	深江家族支援地域連携部課長
	臨床実習指導者研修	10月6日(火)	5時間	1. 退院調整のプロセスを経験し、退院支援における病棟看護師の役割を理解する 2. 自身の課題と部署の課題を明確にし、部署における退院支援推進者としての役割を理解する	16名	内正子教授(外部講師)
	マネジメント研修	9月28日(月)	0.5日	1. 看護実践における意思決定支援プロセスについて考え、部署やチームのスタップが患者の生命や人権を尊重することができるよう支援・推進をする 1. 日々の看護実践において、PNSがより円滑に機能するために、パートナーシップマインドの醸成を図る	16名	松本看護部参事
	リフレクション研修	3月15日(月)	4時間	1. 摂食・嚥下の基本的なメカニズムについて知り、子どもにとっての食の意 味や食行動の理解を深めることができる 2. 当院に入院中の子どもたちの摂食・嚥下障害の原因について理解・推測し、必要時、看護計画を立案及び実施・展開することができる	28名	東めぐみ教授(DVD)
	アドバンス研修	6月23日(火)	2時間	1. 小児によく見られるスキントラブル(褥瘡・医療関連機器圧迫創傷・肛門周囲皮膚炎・胃腸周囲皮膚炎・テープ貼付による皮膚炎)に適切に対処するために必要な知識と技術を習得する	13名	深江家族支援地域連携部課長
	アドバンス研修フォローアップ	2月25日(木)	2時間	1. 適切な病態アセスメントと情報の共有、報告のスキルを身につけ、患者への適切なケアや治療につなげることで、児の急変や重症化、合併症を予防することができる	13名	深江家族支援地域連携部課長
	看護倫理	11月2日(月)	0.5日	1. ラダーII以上の看護師の感染対策に対するレベルが向上する 2. 現場における感染対策の風土を改善する 3. 受講者が、感染対策の基礎知識を基盤に、根拠を理解して看護ケアを展開できる 4. 受講者が、役割モデルとして感染対策を実践、推進、スタッフへの指導ができる 5. 受講者が、常に問題意識をもって行動し、感染防止対策の改善策について考えることができる	13名	中谷 CNS
ラダーIV 研修	看護倫理	10月1日、5日、15日	各1時間	1. 摂食・嚥下の理解を深めることができる 2. 当院に入院中の子どもたちの摂食・嚥下障害の原因について理解・推測し、必要時、看護計画を立案及び実施・展開することができる	134名	補佐会
	PNS マインド	8月24日(月) 10月26日(月) 2月8日(月)	各0.5日	1. 小児によく見られるスキントラブル(褥瘡・医療関連機器圧迫創傷・肛門周囲皮膚炎・胃腸周囲皮膚炎・テープ貼付による皮膚炎)に適切に対処するために必要な知識と技術を習得する	9名	森本 CN
	摂食・嚥下障害看護	7月20日(月) 9月30日(水) 1月25日(月)	各0.5日	1. 適切な病態アセスメントと情報の共有、報告のスキルを身につけ、患者への適切なケアや治療につなげることで、児の急変や重症化、合併症を予防することができる	9名	鎌田 CN
	創傷ケア	7月27日(月) 10月19日(月) 2月15日(月)	各0.5日	1. ラダーII以上の看護師の感染対策に対するレベルが向上する 2. 現場における感染対策の風土を改善する 3. 受講者が、感染対策の基礎知識を基盤に、根拠を理解して看護ケアを展開できる 4. 受講者が、役割モデルとして感染対策を実践、推進、スタッフへの指導ができる 5. 受講者が、常に問題意識をもって行動し、感染防止対策の改善策について考えることができる	14名	坂本 CN
	集中ケア	8月31日(月) 10月28日(水) 1月27日(水)	各0.5日		15名	中島 CN・新谷 CN
	感染管理					
	スキルアップ研修					

30. 薬剤部

1 薬剤部員異動

【転出者】	部長	福井 由美子	県立加古川医療センター	(令和2年4月1日付)
	次長	石田 達彦	県立西宮病院	(令和2年4月1日付)
	課長補佐	寺崎 展幸	県立姫路循環器病センター	(令和2年4月1日付)
	主査	藤永 仁美	県立がんセンター	(令和2年4月1日付)
	主任	坂本 有里恵	県立西宮病院	(令和2年4月1日付)
【転入者】	部長	合田 泰志	県立姫路循環器病センター	(令和2年4月1日付)
	次長	太田 あづさ	県立西宮病院	(令和2年4月1日付)
	職員	陣田 剛志	県立淡路医療センター	(令和2年4月1日付)
	職員	多々見 俊輔	県立がんセンター	(令和2年4月1日付)
	職員	松谷 春花	新規採用者	(令和2年4月1日付)
	職員	山田 怜奈	新規採用者	(令和2年4月1日付)
【退職】	職員	秋田 紗由里		(令和2年3月31日付)
	職員	乗松 耕平		(平成2年2月29日付)

2 2020年度活動報告

本年の主な取り組み概要を下記に記す。

(1) 薬剤管理指導業務、病棟薬剤業務実施加算の算定による薬剤の適正使用の推進

薬剤管理指導、病棟薬剤業務実施加算業務による病棟での活動を通じて、患者指導や医療従事者への情報提供を行うことで医薬品の適正使用を推進した。コロナ禍及び薬剤師の確保が困難な中、薬剤管理指導業務の実施に努め、実施率は前年と同程度の約60%を達成した。

(2) 抗菌薬適正使用支援チーム(AST)の事務局としての活動

平成30年度の抗菌薬適正使用加算の算定開始以来、薬剤師がチームリーダーを務め中心となって活動している。前年同様に院内外の勉強会の講師を務める等、抗菌薬の適正使用支援に努めた。また、新型コロナウイルス治療薬に関する情報を収集し、情報提供を行った。

(3) 薬物治療の安全確保のためのヒヤリハット防止への取り組み

過去の類似事例を参考として、より効果的な対策立案に努めた。また、従来から導入している原因分析手法(Safety-I)を用いた対策立案に加え、新たなアプローチ方法である“Safety-II”の習得に取り組んだ。処方箋と調剤した薬品を確認する上で最も基本的かつ重要な手順である“音読照合”の実施について、11月を強化月間として徹底を図った。

(4) 地域連携への取り組み

昨年度、調剤薬局から病院薬剤部への患者情報伝達方法として「トレーシングレポート」の仕組みを整備したが、本年度は、退院時薬剤情報連携加算の新設に応じて病院薬剤師から調剤薬局への情報提供の仕組みや運用方法を整え、調剤薬局と病院薬剤部間の相互連携の基盤を構築した。

(5) 薬学生の長期実務実習及びレジデントの受け入れ

長期実務実習生6名、レジデント1名を受け入れ、教育、指導を行った。

(6) 人材育成と自己研鑽の推進

部員の経験年数や適正に応じた業務分担を行い、必要な経験が得られ、また自主性を持って取り組み

るよう配慮した。日病薬病院薬学認定薬剤師資格を2名が取得し、渡邊の論文「小児泌尿器科における周術期経口第3世代セファロスポリン系抗菌薬削減および静注抗菌薬適正使用の効果」が医療薬学雑誌に採択された。

3 今後の展望

小児薬物療法に必要な知識や技術の習得を推進し、適正使用に貢献できる薬剤師の育成を図るとともに病棟薬剤業務やチーム医療での実践を目指す。また、業務改善による効率化や効果的な対策立案によるヒヤリハットの再発防止を進める。

(1) 調剤件数

区 分	処方箋 枚 数	合 計			内用薬			外用薬		
		処方数	調剤数	延調剤数	処方数	調剤数	延調剤数	処方数	調剤数	延調剤数
入 院	63,743	91,633	103,156	662,590	56,943	60,489	335,723	34,690	42,667	326,867
外 来	15,000	17,540	28,640	199,310	7,297	16,259	105,363	10,243	12,381	93,947
計	78,743	109,173	131,796	861,900	64,240	76,748	441,086	44,933	55,048	420,814
一日平均	326.73	453	546.87	3,576.35	266.56	318.46	1,830.23	186.44	228.41	1,746.12

(2) 注射薬取扱件数

区 分	注射薬	
	処方箋枚数	延 本 数
入 院	126,297	800,683
外 来	11,423	21,268
計	137,720	821,951
一日平均	571.5	3,410.6

(3) 薬剤管理指導関係件数

診療科	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
薬剤管理指導	657	656	731	456	396	688	722	723	662	642	543	618	7,494
麻薬加算	1	2	1	2	0	1	10	4	4	2	1	0	28
退院指導	100	100	111	75	46	99	116	107	85	98	66	87	1,090

(4) 薬剤情報提供料 件数

診療科	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
全 科	484	379	316	239	253	261	356	355	340	281	376	315	3,955

(5) 無菌製剤調製業務

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
抗がん剤	425	502	476	541	428	465	371	440	420	525	503	359	5,455
高カロリー	117	162	123	150	88	127	115	103	128	147	161	97	1,518
計	542	664	599	691	516	592	486	543	548	672	664	456	6,973

(6) TDM 件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
全件数	35	21	5	6	18	12	12	23	15	25	36	16	224

(7) 院内DI業務

① 電子メール・電子カルテ掲示板掲載による情報提供

掲 載 日	件 名
2020.1.20	医薬品・医療機器等安全性情報 No.369
2020.3.6	医薬品安全対策情報 No.286
2020.3.6	医薬品・医療機器等安全性情報 No.370
2020.4.1	医薬品安全対策情報 No.287
2020.4.1	医薬品・医療機器等安全性情報 No.371
2020.6.2	医薬品安全対策情報 No.288
2020.6.2	医薬品・医療機器等安全性情報 No.372
2020.8.24	医薬品安全対策情報 No.289
2020.8.25	医薬品安全対策情報 No.290
2020.8.26	医薬品・医療機器等安全性情報 No.373
2020.8.26	医薬品・医療機器等安全性情報 No.374
2020.9.15	医薬品安全対策情報 No.291
2020.9.28	医薬品・医療機器等安全性情報 No.375
2020.10.30	医薬品安全対策情報 No.292
2020.11.12	医薬品・医療機器等安全性情報 No.376
2020.11.26	医薬品安全対策情報 No.293
2020.11.26	医薬品・医療機器等安全性情報 No.377
2020.12.22	医薬品・医療機器等安全性情報 No.378

② 主な問い合わせ内容

問 い 合 わ せ 内 容	
<ul style="list-style-type: none">・注射薬配合変化について・注射薬溶解後の安定性について・注射薬のフィルター透過性について・食品と薬剤の相互作用について・内服薬の飲み易い飲み方について・冷所保存医薬品の常温での安定性について	<ul style="list-style-type: none">・抗がん剤の適切な投与方法について・医薬品の副作用について・血液製剤の投与方法について・小児薬用量について・錠剤の粉砕可否について

(8) 院内製剤

① 内用液剤

製 剤 名	製 剤 量 (単 位 /mL)
内服用ルゴール液	225
0.1%ミダゾラムシロップ	9000

② 軟 膏

製 剤 名	製 剤 量 (単 位 /g)
10% テストステロン軟膏	1620
0.4% エストラジオール軟膏	230

③ 外用液剤

製 剤 名	製 剤 量 (単 位 /mL)
アセモトール	4000
1/2 カプトドロップ	2080
25% グリセリン液	43600
30% 硝酸銀	40
10% ピオクタニン青液	150
0.2% ピオクタニン青液	200
ツェンテール液	50

④ 予製剤

製 剤 名	製 剤 量 (単位 /g)	製 剤 名	製 剤 量 (単位 /g)
(倍散→倍散)		ベラプロスト (× 50000)	2000
0.01% ジゴシン散	0	ヒドロクロチアジド散 (× 10)	750
(錠→散)		フラジール散 (× 4)	0
インデラル散 (× 100)	600	オキシブチニン散 (× 100)	1200
グリチロン散	300	コートリル散 (× 20)	2400
ロンゲス散 (× 100)	2100	デカドロン散 (× 1000)	250
レバチオ散 (× 50)	4500	カタプレス (75 μ g/g)	2500

31. 検査・放射線部（検査部門）

1. 人事異動（令和2年4月1日付）

【転出者】

検査技師長	幸福 淳子	がんセンターへ
主任検査技師	八杉 秀美	ひょうごこころの医療センターへ
職員	亀山 和明	淡路医療センターへ

【転入者】

検査技師長	千田 園子	西宮病院より
主任検査技師	嵯峨 加津子	淡路医療センターより
職員	琉 隼人	姫路循環器病センターより

2. 活動報告

(1) 臨床検査業務の充実

新型コロナウイルスの流行に対応するため、迅速抗原検査とPCR検査を導入した。迅速抗原検査は24時間対応し、PCR検査は新型コロナウイルスを含む21種類のウイルスを同時検出可能なフィルムアレイを導入した。

また、小児がん拠点病院、がんゲノム医療連携病院として、病理検査システムの更新、密閉式自動固定包埋装置および凍結切片作成装置を更新し、病理検査室のさらなる充実を図った。

加えて、全自動血液凝固分析装置を2台体制とすることで、手術前や分娩時、DICの診断に欠かせない凝固検査の24時間至急対応の安定稼働が出来るようになった。

(2) ヒヤリハット防止への取り組み

ヒューマンエラーや環境・設備の不備に対する感受性を高めるため、危険予知トレーニング（KYT）を行い、行動目標を立案した。また、医療安全リーダーを中心に「確認行動の徹底」を目指し、医療安全の向上に努めた。

(3) 院内感染対策

感染対策委員会事務局として本委員会を定期開催（年12回）した。感染対策チーム（ICT）の活動に力を入れ、感染管理加算I取得を継続している。

(4) 安全な輸血療法

輸血療法委員会事務局として本委員会を定期開催（年6回）した。適正な輸血療法の推進、血液製剤の有効利用を図り（廃棄率1.1%）、輸血管理料I取得を継続している。

(5) 人材育成

新型コロナウイルス流行の影響により、多くの学会や研修会・セミナー等が中止やWEB開催となった。WEB開催された学会や研修会は積極的に視聴し、検査技術の維持向上に努めた。

(6) ISO 15189 認定取得

ISO 15189 とは、臨床検査室に特化した国際的な第3者認定で、認定取得は検査結果の信頼性の向上や医療安全への貢献に繋がる。また、がんゲノム医療連携病院の「望ましい要件」となっている。2年前から受審準備を進め、2020年10月に初回審査を受審した。2021年1月22日付で認定を取得することが出来た。

〈認定・資格〉

超音波検査士（循環器）	5名	超音波検査士（消化器）	4名
超音波検査士（体表臓器）	1名	超音波検査士（血管）	1名
超音波検査士（産婦人科）	1名	超音波検査士（泌尿器）	1名
血管診療技師	1名	細胞検査士	2名
認定血液検査技師	2名	認定輸血検査技師	2名
臨床工学技士	1名	管理栄養士	1名
二級臨床検査士（微生物）	1名	二級臨床検査士（血液）	1名
有機溶剤作業主任者	1名		
特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者	4名		

3. 次年度の課題

引き続き新型コロナウイルス検査を実施し、診療および感染対策に貢献していく。また、小児がん拠点病院、がんゲノム医療連携病院の検査部門として、ISO 15189 認定を継続する。2021年度には定期サーベイランスの受審が控えており、品質マネジメントシステムの継続的な改善に取り組む。

(1) 臨床検査実施状況

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
一般	3,535	3,284	4,004	2,884	2,544	3,110	3,581	4,337	3,690	3,647	3,456	3,892	41,964
血液	14,228	13,030	14,911	13,636	12,024	15,271	15,600	15,991	15,407	17,445	15,047	15,202	177,792
細菌	1,855	1,636	1,679	1,600	1,406	1,638	1,641	1,708	1,689	1,922	1,851	1,560	20,185
血清	5,712	5,080	6,027	5,227	4,690	5,877	5,834	6,118	5,874	6,141	5,500	5,438	67,518
生化学	56,878	52,331	60,481	53,268	47,612	56,757	60,515	65,210	62,124	66,000	59,355	59,264	699,795
病理	182	191	215	156	78	163	159	173	159	195	164	170	2,005
生理	1,209	1,208	1,715	1,067	906	1,386	1,434	2,013	1,512	1,350	1,178	1,481	16,459
外部委託	4,637	4,077	5,139	3,992	3,049	4,770	4,193	5,938	4,311	4,532	4,026	4,336	53,000
合計	88,236	80,837	94,171	81,830	72,309	88,972	92,957	101,488	94,766	101,232	90,577	91,343	1,078,718

(2) 時間外（日、当直）検査実施状況

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年度累計
休日日勤帯	1,033	802	720	641	828	544	722	955	894	816	939	789	7,128
準夜帯	954	728	846	685	672	826	797	837	833	890	691	644	6,875
深夜帯	2,009	1,854	2,175	2,535	2,096	2,190	2,434	2,355	2,372	2,690	1,987	2,196	20,855
合計	3,996	3,384	3,741	3,861	3,596	3,560	3,953	4,147	4,099	4,396	3,617	3,629	34,858

(3) 血液製剤使用状況

製剤		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
RCC	使用量 単位数	216	215	268	231	228	319	267	294	294	344	268	246	3,190
	廃棄量 単位数	2	0	4	6	6	4	4	2	0	4	0	4	36
	廃棄率 %	0.9%	0.0%	1.5%	2.5%	2.6%	1.2%	1.5%	0.7%	0.0%	1.1%	0.0%	1.6%	1.1
FFP	使用量 単位数	69	72	197	48	89	256	119	132	104	331	90	128	1,635
	廃棄量 単位数	2	2	0	2	0	4	0	6	0	1	3	2	22
	廃棄率 %	2.8%	2.7%	0.0%	4.0%	0.0%	1.5%	0.0%	4.3%	0.0%	0.3%	3.2%	1.5%	1.3
PC	使用量 単位数	795	915	1,120	1,095	500	1,371	950	1,360	1,625	1,743	1,590	1,065	14,129
	廃棄量 単位数	0	0	0	0	0	0	10	25	0	11	10	0	56
	廃棄率 %	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%	1.8%	0.0%	0.6%	0.6%	0.0%	0.4
ALB	単位数	641	622	711	651	664	762	779	699	517	785	611	636	8,078
FFP/RBC 比		0.31	0.33	0.69	0.21	0.39	0.80	0.45	0.45	0.35	0.76	0.32	0.52	0.34
ALB/RBC 比		2.97	2.76	2.65	2.82	2.78	2.26	2.84	2.07	1.76	2.26	2.25	2.31	2.88

(4) 血液培養検査

実施件数	3223 件
陽性率	6.4%

(5) 薬剤耐性（2019年の薬剤感受性試験実施株を対象）

黄色ブドウ球菌に占める MRSA 率	40.5%
大腸菌に占める ESBL 産生率	26.8%
緑膿菌のイミペネム耐性率	2.8%
腸内細菌科細菌および緑膿菌のカルバペネマーゼ産生菌分離率	0.0%

32. 検査・放射線部（放射線部門）

1. 人事異動 令和2年4月1日付

【転出者】	放射線技師長	中島 宏樹	丹波医療センターへ
	主査	田島 将行	病院局経営課へ
【転入者】	放射線技師長	岸本 欣也	姫路循環器病センターより
	職員	牧 千晴	尼崎総合医療センターより
		令和2年11月1日付	
【転出者】	主査	平井 政嗣	丹波医療センターへ
	主査	西本 美香	淡路医療センターへ

2. 活動状況

1) 放射線検査業務実績（表1、2、3）

令和2年の放射線検査実績は、総検査人数44,469人で、前年より2,620人減少した。外来患者数が2,096人減少し、入院患者数も524人減少した。

時間外検査人数は5,364人で、前年より598人減少した。日勤帯で290人、準夜帯で192人、深夜帯で116人減少した。

2) 機器の更新（表4）

被ばく線量管理システムとしてDose Watch(GEヘルスケアジャパン)が導入された。

3) 医療事故防止の取組み

バーコードリーダーの使用、指さし呼称等、患者確認のさらなる徹底を図り、ポータブル撮影における患者・部位間違いの防止に取り組んでいる。

また、MRI室への金属持ち込みの防止のため、金属探知機の適正使用に関する詳細な講義・実習を診療放射線技師や看護師に対して開催し、事故のない検査実施に努めている。

造影剤投与時の安全確認の徹底に取り組む、担当医は、看護師と共に、輸液または生食シリンジを用いたルートテストを行う。診療放射線技師は、ルートテストの最終確認として声かけを行うようにし、安全性向上に努めている。

4) チーム医療の推進

チーム医療推進の一環として疑義照会や依頼内容の確認を積極的に行っている。本年度はパニック画像に新型コロナウイルス性肺炎を加え、臨床画像や画像所見の共有とともに教育資料を作成し、全施設で共有を行った。

5) 資質向上と教育

今年はコロナのため、学会・研修会（WEB開催）へ積極的に参加している。

- ・学会・研修会発表 : 2演題
- ・学会・研修会等への参加 : 成育医療研修会（診療放射線技師コース）、
日本放射線技術学会学術大会、日本核医学技術学会、
日本磁気共鳴医学会、県立病院放射線技師部会

<認定資格>

第1種放射線取扱主任者	1名	放射線機器管理士	2名
医療画像情報精度管理士	2名	臨床実習指導教員	1名
救急撮影認定技師	1名	放射線治療専門放射線技師	1名
放射線治療品質管理士	1名	X線CT認定技師	1名
肺がんCT検診認定技師	1名	超音波検査士（循環器消化器）	1名

検診マンモグラフィ撮影診療放射線技師3名

3. 令和3年の課題

医療法施行規則の一部を改正する省令に基づき、診療用放射線に係る安全管理体制を整備した。現在は各施設に導入された医療被ばく線量管理システムを使用し継続的に被ばく線量データを集積している。今後は解析結果の見方や活用方法を検討していく。

放射線機器の更新、管理を適正に行い、チーム医療の推進を図り、医療事故防止について取り組み、機器の安定稼働および安心安全な検査を継続する。

(1) 放射線検査人数 (表 1)

区分		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
単純撮影	X線撮影	外来	1429	1276	1784	968	961	1464	1492	1942	1535	1441	1289	1434	17015
		入院	96	93	93	81	104	111	104	118	109	109	86	82	1186
		計	1,525	1,369	1,877	1,049	1,065	1,575	1,596	2,060	1,644	1,550	1,375	1,516	18,201
	ポータブル	外来	52	48	46	34	34	37	56	42	32	54	53	41	529
		入院	910	831	849	869	882	1,016	1,096	920	986	1,093	827	793	11,072
		計	962	879	895	903	916	1,053	1,152	962	1,018	1,147	880	834	11,601
単純撮影合計		外来	1,481	1,324	1,830	1,002	995	1,501	1,548	1,984	1,567	1,495	1,342	1,475	17,544
		入院	1,006	924	942	950	986	1,127	1,200	1,038	1,095	1,202	913	875	12,258
		計	2,487	2,248	2,772	1,952	1,981	2,628	2,748	3,022	2,662	2,697	2,255	2,350	29,802
造影撮影	消化器	外来	29	21	30	14	17	25	29	22	36	29	32	30	314
		入院	21	18	27	16	24	18	15	22	15	13	19	10	218
		計	50	39	57	30	41	43	44	44	51	42	51	40	532
	脳血管	外来													0
		入院	0	1	0	2	0	2	1	1	3	1	0	1	12
		計	0	1	0	2	0	2	1	1	3	1	0	1	12
	心臓血管	外来													0
		入院	20	24	29	22	14	26	23	28	26	27	23	27	289
		計	20	24	29	22	14	26	23	28	26	27	23	27	289
	その他血管	外来													0
		入院	1	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	4
		計	1	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	4
	泌尿器系	外来	36	31	24	18	15	24	46	35	35	27	34	32	357
		入院	4	4	9	1	4	1	8	2	2	4	2	2	43
		計	40	35	33	19	19	25	54	37	37	31	36	34	400
	その他造影	外来	2	4	2	4	3	2	2	2	4	1	0	1	27
		入院	2	1	6	1	1	5	7	4	2	4	2	1	36
		計	4	5	8	5	4	7	9	6	6	5	2	2	63
造影撮影合計		外来	67	56	56	36	35	51	77	59	75	57	66	63	698
		入院	48	48	71	42	43	52	55	58	49	49	46	41	602
		計	115	104	127	78	78	103	132	117	124	106	112	104	1,300
CT検査		外来	120	109	155	91	104	108	128	137	109	109	104	101	1,375
		入院	117	80	98	117	81	111	109	97	80	102	79	70	1,141
		計	237	189	253	208	185	219	237	234	189	211	183	171	2,516
MRI検査		外来	206	171	234	187	126	170	237	257	244	224	191	211	2,458
		入院	70	67	66	67	72	71	56	51	78	79	59	58	794
		計	276	238	300	254	198	241	293	308	322	303	250	269	3,252
核医学検査		外来	14	17	20	5	8	16	15	16	13	25	11	10	170
		入院	5	4	7	5	2	3	7	3	6	3	6	5	56
		計	19	21	27	10	10	19	22	19	19	28	17	15	226
放射線治療		外来												0	
		入院	0	1	31	0	1	7	17	22	1	0	3	1	84
		計	0	1	31	0	1	7	17	22	1	0	3	1	84
超音波検査		外来	483	446	536	322	311	483	552	658	535	491	473	494	5,784
		入院	93	88	95	141	84	91	80	119	114	113	94	110	1,222
		計	576	534	631	463	395	574	632	777	649	604	567	604	7,006
骨塩定量		外来	21	16	28	14	18	11	20	36	18	13	18	22	235
		入院	6	5	2	3	4	3	3	4	4	6	1	7	48
		計	27	21	30	17	22	14	23	40	22	19	19	29	283
総合計		外来	2,392	2,139	2,859	1,657	1,597	2,340	2,577	3,147	2,561	2,414	2,205	2,376	28,264
		入院	1,345	1,217	1,312	1,325	1,273	1,465	1,527	1,392	1,427	1,554	1,201	1,167	16,205
		計	3,737	3,356	4,171	2,982	2,870	3,805	4,104	4,539	3,988	3,968	3,406	3,543	44,469

(2) 時間外 時間帯別検査人数 (表 2)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
日勤帯検査人数	273	249	190	199	274	199	286	255	258	241	265	217	2,906
業務時間(時)	48	43	38	33	14	32	44	42	38	36	48	32	448
準夜帯検査人数	186	156	169	148	180	190	185	153	151	143	138	122	1,921
業務時間(時)	52	47	52	45	19	61	54	46	45	44	44	38	547
深夜帯検査人数	46	39	48	52	55	58	48	42	34	47	47	21	537
業務時間(時)	21	19	22	24	4	27	23	18	18	24	23	11	234
検査人数(計)	505	444	407	399	509	447	519	450	443	431	450	360	5,364
業務時間(計)	121	109	112	102	37	120	121	106	101	104	115	81	1,229

(3) 時間外 検査種別検査人数 (表 3)

区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
ポータブル	361	324	293	291	374	335	391	336	344	347	340	274	4,010
一般撮影	77	79	55	56	87	62	73	66	63	46	63	59	786
C	57	33	48	50	47	42	48	45	29	32	40	27	498
T	5	6	5	2	1	4	7	3	3	4	4	0	44
M	5	2	6	0	0	3	0	0	4	2	3	0	25
アンギオ	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
合計	505	444	407	399	509	447	519	450	443	431	450	360	5,364

(4) 新病院放射線機器 一覧表 (表 4)

機器名	製造・販売業者	装置名	購入年月
MRI 装置	フィリップス	Ingenia 1.5T CX	H28年3月
MRI 装置	フィリップス	Achieva 1.5T Nova Dual	H19年11月
全身用 CT 装置 (320 列)	東芝メディカルシステムズ	Aquilion PREMIUM	H23年3月
放射線治療位置決め用 CT 装置 (80 列)	東芝メディカルシステムズ	Aquilion PRIME	H28年3月
血管連続撮影装置	フィリップス	Allura Xper FD20/20	H21年11月
FPD システム (12 式)	富士フイルムメディカル	CALNEO Smart	H28年3月
長尺 FPD 装置 (2 台)	富士フイルムメディカル	CALNEO GL	H28年3月
泌尿器用 X 線テレビ装置	東芝メディカルシステムズ	Ultimax-i	H28年3月
消化器用 X 線テレビ装置	日立メディコ	CUREVISTA	H24年9月
診断用 X 線撮影システム (2 台)	島津製作所	RADspeed Pro	H28年3月
医用画像システム	富士フイルムメディカル	VINCENT	H31年2月
被ばく線量管理システム	GE ヘルスケア・ジャパン	Dose Watch	R2年3月
パノラマ・セファロ X 撮影装置	モリタ	Veraviewepocs 2DB	H28年3月
ガンマカメラ	GE 横河メディカル	Infinia	H20年12月
リニアック	シーメンス旭メディテック	ONCOR Impression	H22年3月
治療計画装置	ELEKTA	Xio	H22年3月
移動型 X 線撮影装置 (2 台)	日立メディコ	Sirius 130HP	H28年3月
移動型 X 線撮影装置 (3 台)	日立メディコ	Sirius 130HP	H23年2月
線量モニタリングシステム	米国 Sun Nuclear	1137 型 IVD2	H28年3月
RI 対応安全キャビネット	日本エアーテック	BHC-1307 II A2-RI-S	H28年3月
X 線骨密度測定装置	HOLOGIC	Horizon W	H28年3月
アンギオ用動画サーバー	ネクシス	Nahri AQUA	H28年3月
超音波画像診断装置	日立アロカメディカル	Ascendus	H28年3月
超音波画像診断装置	GE ヘルスケア・ジャパン	LOGIQ E9 with Xdclear	H25年12月
超音波画像診断装置	GE ヘルスケア・ジャパン	LOGIQ S8	H24年3月
外科用 X 線 C アーム装置	シーメンス	SIREMOBIL Compact-L	H23年2月
外科用 X 線 C アーム装置	シーメンス	ARCADIS Orbic	H26年4月
造影剤自動注入器 (アンギオ)	シーマン	ZONE MASTER MODELA	H21年12月
造影剤自動注入器 (MRI)	根本杏林堂	Sonic Shot GX	H19年11月
造影剤自動注入器 (MRI)	根本杏林堂	Sonic Shot 7	H28年3月
造影剤自動注入器 (CT)	根本杏林堂	Dual Shot GXV	H23年9月
造影剤自動注入器 (CT)	根本杏林堂	Dual Shot GX7	H28年3月
造影剤自動注入器 (TV)	シーマン	ZONE MASTER SR Fusion	H28年3月
キュリーメータ	アロカ	IGC-7E	H20年12月
分注器	安西	AZ-2000N	H20年12月

33. リハビリテーション部

【スタッフ】

平成 28 年 5 月こども病院移設とともに理学療法士 2 名、作業療法士 1 名、言語聴覚士 4 名の体制で開設。
平成 30 年度理学療法士 1 名増員。

平成 31 年度（令和 1 年度）診療部より独立。リハビリテーション部となり、部長に小林 大介先生就任。
令和 2 年度理学療法士 1 名増員。

令和 2 年度 4 月現在

	人員	備考
医師	1 名	リハビリテーション科・部 部長
理学療法士	4 名	
作業療法士	1 名	
言語聴覚士	4 名	

【診療活動】

施設基準として開設時、脳血管疾患リハビリテーション料Ⅱ、運動器疾患リハビリテーション料Ⅱ、呼吸器疾患リハビリテーション料Ⅰ、廃用症候群リハビリテーション料Ⅱ。

平成 28 年度 9 月障害児リハビリテーション料取得。

平成 29 年度がんのリハビリテーション料取得。

平成 29 年運動器疾患リハビリテーション料Ⅰ取得。

平成 30 年度早期離床リハビリテーション加算取得。

令和 2 年度 施設基準別患者数および単位数（令和 2 年 1 月～ 12 月）

1. 理学療法

	施設基準	患者数	単位数
入院	脳血管疾患等リハ料（Ⅱ）	1,221	2,134
	運動器疾患リハ料（Ⅰ）	281	580
	呼吸器疾患リハ料（Ⅰ）	1,359	1,783
	障害児リハ料 6 歳未満	873	1,310
	障害児リハ料 6 歳以上 18 歳未満	118	224
	障害児リハ料 18 歳以上	18	31
	廃用症候群リハ料	133	264
	がんリハ料	743	1,222
外来	脳血管疾患等リハ料（Ⅱ）	11	22
	運動器疾患リハ料（Ⅰ）	135	234
	呼吸器疾患リハ料（Ⅰ）	19	21
	障害児リハ料 6 歳未満	231	537
	障害児リハ料 6 歳以上 18 歳未満	57	128
	障害児リハ料 18 歳以上	4	11
計		5,203	8,501

早期離床リハビリテーション加算

	件数	保険点数
早期離床リハビリテーション加算（令和 2 年 1 月～ 12 月）	2,562	1,281,000

2. 作業療法

	施設基準	患者数	単位数
入院	脳血管疾患等リハ料（Ⅱ）	987	1,728
	運動器疾患リハ料（Ⅰ）	52	67
	呼吸器疾患リハ料（Ⅰ）	18	31
	障害児リハ料 6歳未満	190	309
	障害児リハ料 6歳以上 18歳未満	56	139
	障害児リハ料 18歳以上	0	0
	廃用症候群リハ料	36	56
	がんリハ料	672	989
外来	脳血管疾患等リハ料（Ⅱ）	5	12
	運動器疾患リハ料（Ⅰ）	15	35
	呼吸器疾患リハ料（Ⅰ）	0	0
	障害児リハ料 6歳未満	1	6
	障害児リハ料 6歳以上 18歳未満	0	0
	障害児リハ料 18歳以上	0	0
計		1,524	2,538

3. 言語聴覚療法

	施設基準	患者数	単位数
入院	脳血管疾患等リハ料（Ⅱ）	1,396	1,952
	運動器疾患リハ料（Ⅰ）	0	0
	呼吸器疾患リハ料（Ⅰ）	29	36
	障害児リハ料 6歳未満	451	754
	障害児リハ料 6歳以上 18歳未満	42	62
	障害児リハ料 18歳以上	0	0
	廃用症候群リハ料	10	17
	がんリハ料	168	259
外来	脳血管疾患等リハ料（Ⅱ）	297	578
	運動器疾患リハ料（Ⅰ）	0	0
	呼吸器疾患リハ料（Ⅰ）	0	0
	障害児リハ料 6歳未満	70	130
	障害児リハ料 6歳以上 18歳未満	0	0
	障害児リハ料 18歳以上	0	0
計		2,463	3788

4. 言語聴覚士耳鼻咽喉頭科関連業務件数

検査項目	件数
標準純音聴力検査	922
標準語音聴力検査	80
気導純音聴力検査	12
遊戯聴力検査	1,866
補聴器適合検査 1回目	36
補聴器適合検査 2回目以降	339
発達および知能検査	19
計	3,274

診療科別リハビリテーション科処方数

診療科	入院			外来		
	PT	OT	ST	PT	OT	ST
循環器内科	16	5	15	3	0	3
腎臓内科	2	0	3	2	0	1
神経内科	17	6	16	15	1	4
血液腫瘍内科	182	174	32	6	1	4
代謝・内分泌内科	6	0	2	1	0	2
新生児内科	55	44	56	9	8	3
心臓血管外科	5	1	6	0	0	1
脳神経外科	38	28	27	5	4	2
小児外科	36	5	27	3	0	6
整形外科	124	2	3	70	3	0
形成外科	1	0	2	2	3	10
精神科	0	0	0	0	1	9
リウマチ科	0	0	0	1	0	0
耳鼻咽喉科	0	0	2	0	0	40
救急科総合診療科	92	9	38	25	6	23
集中治療科	483	10	470	1	0	1
臨床遺伝子科	0	0	0	1	0	1
産科	20	12	0	0	0	0
合計	1,077	295	699	144	27	108

34. 栄養管理部

1. 人事異動 令和2年4月1日付

【転出者】	栄養管理課長	木下 修	県立ひょうごこころの医療センター経理課へ
【転入者】	栄養管理課長	小坂 直美	県立丹波医療センターより
	主任技師	角谷 芳久	県立淡路医療センターより
	主任技師	上宮 育子	県立淡路医療センターより

2. 主な活動報告

- ・平成29年5月より管理栄養士1名の増員を図り、アレルギー科患者等の栄養指導の充実を図った。
- ・チーム医療の円滑な推進
- ・医療事故防止対策に関する取り組み（ヒヤリハット報告）
- ・褥瘡対策委員会及びクリニカルパス委員会への積極的な参画
- ・IT化の推進（給食オーダーリングシステムの安定稼働）
- ・患者給食のサービス向上のための給食イベント「病棟夏祭り」等の実施や産科の出産「ねぎらい膳」の提供
- ・知識や技能の資質を向上させるための調理・栄養関係研修会への参加と課内研修会の充実
- ・栄養管理業務に関する研究の成果として学術学会等への積極的な参加と発表

3. これからの展望

令和3年に向けては、引き続き「安全な食事の提供」という栄養管理部の基盤業務において医療事故防止の取り組みを強化すると共に診療部門との更なる連携を図った栄養指導・相談を行うなど患者サービスの充実・向上に努める。

3. 給食

(1) 調製乳 月別延数

① 調製乳 人数

(単位 人)

区分	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計	%
調乳のみ人員(人)		1,501	1,345	1,356	1,349	1,379	1,392	1,560	1,626	1,739	1,556	1,571	1,583	17,957	76.8
調乳食事人員：調乳(人)		42	48	52	43	34	48	51	41	43	39	43	37	521	2.2
小計		1,543	1,393	1,408	1,392	1,413	1,440	1,611	1,667	1,782	1,595	1,614	1,620	18,478	79.0
調乳・食事人員(食事)		408	351	450	350	389	470	378	425	452	445	407	374	4,899	21.0
計		1,951	1,744	1,858	1,742	1,802	1,910	1,989	2,092	2,234	2,040	2,021	1,994	23,377	100.0

(注) 調乳・食事人員・・・調乳(人) 調製乳と食事が重複するもの

② 調製乳 種類及び本数

(単位 本)

種類	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計	%
13% レーベンスミルク		8,573	7,139	7,857	8,014	7,652	7,334	7,333	9,254	10,865	8,440	8,352	7,695	98,508	55.1
15% LW		1,643	1,611	2,069	2,102	3,060	2,581	4,293	3,401	2,497	2,360	2,440	1,703	29,760	16.7
特殊乳	10% レーベンスミルク				2									2	
	11% レーベンスミルク						48	48	14	18		10	25	163	
	14% レーベンスミルク		4	12		108	162	16	2	3				307	
	15% レーベンスミルク	404	939	463	187	58	648	516	909	807	1,571	1,309	1,301	9,112	
	16% レーベンスミルク		98	94	75	60	50	30		20	7			434	
	17% レーベンスミルク	714	541	398	249	548	451	648	531	355	678	444	558	6,115	
	18% レーベンスミルク				41		64	16							121
	19% レーベンスミルク	18				9	216								243
	12% E赤ちゃん	50		75			31	20		5	10				191
	13% E赤ちゃん		159	136			28	63	51	24	22				483
	17% E赤ちゃん									14	42	77	35		168
	13% ARミルク	128	54	214	312	169	152	80			294	451	286	185	2,325
	15% ARミルク	59	21									9			89
	17% ARミルク	270	261	279	264	217	14								1,305
	13% MA -1			18		6				9					33
	14% MA -1											1			1
	15% MA -1	422	320	218	359	172	395	254	672	546	392	395	672	4,817	
	17% MA -1	333	177												510
	18% MA -1												18	72	90
	10% MCTフォミュラ											45			45
	14% MCTフォミュラ	909	400	393	569	440	807	1,009	546	748	1,030	1,105	956	8,912	
	16% MCTフォミュラ	279	324	108							9	29	81	162	992
	17% MCTフォミュラ											252	270	270	792
	18% MCTフォミュラ													117	117
	14% 必脂MCT										9			216	225
	7% エレンタール													96	96
10% エレンタール									28					28	
13% エレンタール			31		87	76	235	78						507	
15% エレンタール						49							16	65	
18% エレンタール						32								32	
20% エレンタール		6											18	24	
26% エレンタール													11	11	
27% エレンタール		6	64										77	147	
10% エレンタールP	115	216	126				135	9	83	92	50	58	115	999	
12% エレンタールP													14	14	

種類	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計	%
特 殊 乳	13% エレンタールP	58	54	413	144				99	75		116	6	965	
	15% エレンタールP			173	244	279	108	9		165	9	152	173	1,312	
	17% エレンタールP									108			21	129	
	18% エレンタールP		28	42	224	65	60	28		9	16			472	
	20% エレンタールP		18	99						4			120	241	
	25% エレンタールP	10											25	35	
	26% エレンタールP											36	46	82	
	12% ケトンフォーミュラ												15	15	
	10% エレメンタルフォーミュラ				42								72	114	
	13% エレメンタルフォーミュラ				81									81	
	14% エレメンタルフォーミュラ												99	99	
	15% エレメンタルフォーミュラ				45	50								95	
	17% エレメンタルフォーミュラ					229	270	213			96			808	
	15% 低カリウム中リン	117												117	
	16% 低カリウム中リン												91	126	217
	17% 低カリウム中リン	108	261	14										383	
	18% 低カリウム中リン			184	180	180	150	90			63	77	35	959	
	20% 低カリウム中リン											70	84	154	
	15% ML-3													20	20
	15% MM-4 低カルシウム	48											46	94	
特殊乳 小計	4,042	3,887	3,554	3,018	2,705	3,981	3,272	3,009	3,490	4,774	4,571	5,604	45,907	25.7	
濃厚 流動食	G F O	18	30	45	33	46	104	50	39	64	41	61	67	598	
	アイソカルジュニア	245	250	241	145	139	122	224	152	139	169	128	120	2,074	
	MA-ラクフィア	62	85	91	65	65	60	88	103	66	63	76	62	886	
	ペプタメン スタンダード	19	25	2	0	0	0	5	0	0	2	0	0	53	
	濃厚流動食 小計	344	390	379	243	250	286	367	294	269	275	265	249	3,611	2.0
滅菌水	37	31	30	39	8	37	41	59	24	59	299	205	869	0.5	
合計	14,639	13,058	13,889	13,416	13,675	14,219	15,306	16,017	17,145	15,908	15,927	15,456	178,655	100.0	
空瓶 大 200 c c	8,040	7,193	6,651	6,051	6,876	7,840	8,784	8,270	8,847	8,145	8,240	6,843	91,780	57.5	
空瓶 小 100 c c	5,328	5,808	5,956	5,376	5,232	5,088	5,592	6,024	5,448	5,328	6,168	6,456	67,804	42.5	
合計	13,368	13,001	12,607	11,427	12,108	12,928	14,376	14,294	14,295	13,473	14,408	13,299	159,584	100.0	

(2) 患者食事数

① 患者食事数

(単位 食)

区 分		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
常食	学 童 食	2,206	2,253	2,982	2,670	2,425	2,412	2,670	3,707	2,630	3,287	2,818	3,188	33,248
	妊 産 婦 食	1,207	1,155	1,526	1,519	1,490	1,540	1,678	1,564	1,402	1,679	1,545	1,399	17,704
	小 計	3,413	3,408	4,508	4,189	3,915	3,952	4,348	5,271	4,032	4,966	4,363	4,587	50,952
軟菜・幼児・ 離乳	幼 児・ 離 乳 食	3,140	3,273	3,371	2,936	3,200	2,627	2,675	3,103	3,421	3,631	2,739	2,346	36,462
	軟 菜・ 流 動 食	1,135	1,063	1,008	946	830	717	918	1,133	667	869	829	867	10,982
	小 計	4,275	4,336	4,379	3,882	4,030	3,344	3,593	4,236	4,088	4,500	3,568	3,213	47,444
非加算特別食	ペ ー ス ト 食	244	133	241	107	72	99	55	33	79	108	110	51	1,332
	ア レ ル ギ ー 食													0
	自 由 食													0
	口 蓋 裂 食	10	9	19	16	12		51	123	39	22	45	8	354
	扁 摘 術 後 食	157	158	182	139	122	221	152	120	83	59	57	69	1,519
	移 植 対 応 食	305	156	420	346	371	538	533	526	288	482	589	683	5,237
	ク ロ ー ン 病 食													0
	低 残 査 食	8	2	2	6		39	30	9	44	20	22		182
	肥 満 食		6	69						23	41	22	62	223
	ケ ト ン 食	2	51					73	14			12		152
	減 塩 食													0
	そ の 他 特 別 食	534	443	528	426	458	432	398	415	419	422	337	337	5,149
小 計	1,260	958	1,461	1,040	1,035	1,329	1,292	1,263	993	1,135	1,234	1,148	14,148	
加算特別食	腎 臓 食	88	106	107	42	106	29	64	30	71	48	124	336	1,151
	肝 臓 食			68	78	21		123	211	299	263	147	62	1,272
	糖 尿 病 食	28	41	48	9		38	60	73	49	74	47	13	480
	乳 び 胸 食			17	11								11	39
	心 臓 食													0
	低ナトリウム食													0
	検 査 食 (加)													0
	妊 娠 中 毒 症 食	78	84	46	57			32	27	63	115	24		526
	妊 産 婦 糖 尿 病 食													0
	妊 産 婦 肝 臓 病 食													0
	高 尿 酸 血 症 食													0
小 計	194	231	286	197	127	67	279	341	482	500	342	422	3,468	
合 計	9,142	8,933	10,634	9,308	9,107	8,692	9,512	11,111	9,595	11,101	9,507	9,370	116,012	
検食等	保 存 食	186	174	186	180	186	180	186	186	180	186	180	186	2,196
	検 食	261	245	260	251	262	250	260	261	252	259	253	261	3,075
	合 計	447	419	446	431	448	430	446	447	432	445	433	447	5,271
総 合 計	9,589	9,352	11,080	9,739	9,555	9,122	9,958	11,558	10,027	11,546	9,940	9,817	121,283	

② 患者おやつ数

(単位 食)

区分	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
おやつ数	2,209	2,209	2,501	2,141	2,192	2,021	1,750	2,789	2,441	2,710	2,262	2,351	27,576

(3) 患者外食事数 (保育食)

(単位 食)

区分	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
保育児食	163	150	250	187	189	131	120	114	108	113	96	133	1,754

4. 栄養指導 月別種類別件数

(単位 件)

種類	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
1型糖尿病		41	38	44	37	32	40	39	42	41	44	42	41	481
2型糖尿病		9	5	10	2	5	8	7	11	9	15	10	11	102
妊娠糖尿病			2	1	1				1	1		1	1	8
肥満		15	14	12	6	13	18	12	20	15	13	18	11	167
腎臓病		2	1	3		2	5	1		3	1	2	2	22
妊娠高血圧症候群				1					1					2
心臓病		4	3	2	1	3	3	2	3		6	3	2	32
肝臓病				2					1	2	1	1	3	10
膵臓病		1		1							2			4
フェニルケトン尿症		2	1	2	1	2		3		3		2		16
ガラクトース血症		1									1			2
脂質異常症		8	7	4	4	8	3	8	6	9	4	6	7	74
高尿酸血症														0
胃潰瘍食														0
低残渣食										1				1
小児食物アレルギー		40	45	43	25	17	46	61	47	47	43	41	49	504
貧血食		2		1			1	1				1		6
移植対応食		1	3	3	3	6	4	12	3	6	4	5	3	53
てんかん食(ケトン食)		1	2	2				2	1		1	1		10
がん		9	9	11	6	3	10	3	16	6	17	7	8	105
摂食・嚥下機能低下		2				2	2	3		1	2	1		13
ミキサー食(胃ろう)			3	2		3	1	1	1	2	1	1		15
低栄養		8	10	7	7	7	8	8	11	9	6	6	11	98
調乳(標準ミルク)														0
調乳(高濃度ミルク)								2	3	1		1		7
調乳(特殊ミルク)						1	1						1	3
その他		13	12	12	15	7	17	14	16	15	19	18	11	169
合計(件)		159	155	163	108	111	167	179	183	171	180	167	161	1,904
件数	外来	118	113	114	76	81	116	117	115	117	115	115	110	1,307
	入院	41	42	49	32	30	51	62	68	54	65	52	51	597
合計(件)		159	155	163	108	111	167	179	183	171	180	167	161	1,904
人数	外来	229	238	241	156	156	237	246	244	245	239	229	226	2,686
	入院	99	91	114	63	57	119	130	137	126	141	103	107	1,287
合計(人)		328	329	355	219	213	356	376	381	371	380	332	333	3,973

(注) 件数に比べ人数が多いのは、患者1人1件において、本人以外の親等にも栄養指導を行い、その人数に含めているためである。

35. 家族支援・地域医療連携部

I. 組織

2020年は、新型コロナウイルス感染症による医療体制の変化の中、受診や受療における患者・家族の不安など様々な相談対応を行った。地域医療機関との連携は対面が困難な中、可能な限り対面で行えるよう工夫をし、通信手段を活用しながら連携強化や情報交換に努めた。また、返書状況を把握し返書率向上に努めている。

入退院支援に関しては、入院時から退院後の生活を予測した支援が行えるように各病棟との連携を強化し、早期から支援の介入が出来るように努めている。

部長	畠山 理（小児外科部長）
課長兼看護師長	深江登志子（看護師）
看護師	渡邊千恵 坂本郁子 山田純子 藤定睦子
MSW	小橋諒子 松尾さおり

予約センターでは、委託業者が前方連携・後方連携の業務を担っている。

II.2020年活動

< 2020年の主な活動 >

1. 在宅療養支援の推進

- 1 訪問看護ステーションとの連携強化（カンファレンス開催・研修会開催）
- 2 地域医療機関との連携強化（カンファレンス開催・病院訪問）
- 3 生活支援センターや福祉事業所など地域関連機関との連携（カンファレンス開催）
- 4 制度活用支援・医療機器等の購入支援
- 5 周産期センターからの退院児への支援
- 6 在宅支援病棟での在宅支援の後方支援

2. 院内各科の診療支援

- 1 院内他部署への連絡調整・院外関係機関への連絡調整
- 2 返書作成の支援
- 3 家族背景へのケースワーク

3. 患者・家族の不安への対応

- 1 医療制度・福祉制度の説明
- 2 在宅での医療資源・福祉資源の紹介
- 3 各種手続きのサポート
- 4 その他、治療や生活全般の不安に対する不安の解消への手助け

4. 発達支援・養育支援

- 1 虐待防止活動（委員会開催、地域との連携、家族支援）
- 2 事故予防活動（事故予防相談・地域との連携）
- 3 育児相談活動（評価、関わり方指導）

5. 教育支援

- 1 教育機関とのカンファレンス

<今後の活動目標>

- 1 医療的ケアを必要とする子どもと家族が安心して在宅生活を送れるように地域（医療・福祉・教育・行政）と連携し支援する
- 2 高度専門医療機関としての役割の広報に務め、地域との連携を強化していく
- 3 地域医療支援病院として、地域医療機関の研修に貢献するよう努める
- 4 疾病を抱えた子どもと家族の育児支援に努める
- 5 事故予防・虐待予防を含めた子育て支援に努める
- 6 患者相談窓口として患者・家族の不安の解消に努める
- 7 入院時から退院後の生活を見据えた退院支援を行い、地域とともに子どもと家族の生活を支える
- 8 広報活動を強化し、地域の医療機関との連携・信頼関係の構築に努める

家族支援・地域医療連携部

表1 支援内容別業務統計

	内 容	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年同月累計
1	療養中の心理的・社会的問題の解決・調整援助	276	241	261	256	175	309	287	280	292	311	319	349	3356	2930
2	退院援助	31	27	27	21	24	35	34	27	39	61	56	30	412	397
3	社会復帰援助	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
4	受診・受療援助	25	16	17	8	11	16	22	15	22	16	17	21	206	236
5	経済的問題の解決・調整援助	52	47	52	60	41	66	63	64	84	62	54	50	695	721
6	地域活動	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	98
7	養育支援(虐待予防を省く)	7	7	10	3	10	8	11	3	5	3	3	2	72	72
8	虐待・虐待予防関連	3	0	6	0	3	5	10	2	5	19	9	6	68	38
9	一時保護	1	0	4	1	0	0	1	2	1	0	0	3	13	8
10	がん患者の社会的問題の解決・調整	95	69	71	84	78	73	82	87	86	65	65	68	923	754
11	その他	1	0	0	0	0	0	3	0	2	0	0	0	6	25
	合 計	494	407	451	433	342	512	513	480	536	537	523	529	5759	5281

表2 機関別延べ連絡調整数

	機 関	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年同月累計
1	教育機関	10	5	5	3	0	1	6	6	4	6	7	7	60	61
2	保健所・保健センター	46	49	39	35	25	55	48	56	62	73	75	46	609	616
3	福祉事務所	4	8	9	3	7	6	12	5	9	8	12	17	100	89
4	こども家庭センター(児童相談所)	11	7	26	34	17	20	21	38	29	18	18	45	284	165
5	児童福祉施設	23	8	6	3	15	5	15	22	8	17	11	25	158	143
6	訪問看護ステーション	74	75	58	77	49	60	56	61	58	55	69	92	784	633
7	地域医療機関	49	61	49	35	17	66	72	51	68	56	41	67	632	659
8	地域生活支援センター	5	5	3	1	2	2	2	1	5	7	1	3	37	37
9	相談支援専門員連携数	0	2	3	5	1	0	1	1	2	0	6	5	26	36
	合 計	222	220	198	196	133	215	233	241	245	240	240	307	2690	2439

表3 関係機関カンファレンス件数

	内 容	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年同月累計
1	被虐待児等症例検討会	1	0	1	0	1	1	2	1	1	2	3	1	14	16
2	施設入所カンファレンス	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2
3	在宅病棟移行前カンファレンス	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	4	14
4	在宅病棟カンファレンス	21	16	13	2	7	8	15	17	24	20	17	0	160	200
5	外泊前カンファレンス	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	2
6	退院前カンファレンス	3	3	5	3	3	3	2	3	1	3	5	0	34	38
7	教育機関カンファレンス	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1
8	臓器提供Aカンファレンス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	その他	1	2	0	2	0	1	6	2	0	1	2	0	17	17
	合 計	26	22	20	8	11	14	25	25	27	26	28	1	233	290

4. その他

	機 関	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年同月累計
1	入退院支援加算Ⅲ介入件数	37	35	39	42	32	36	35	35	53	37	29	30	440	399
2	入退院支援加算Ⅰ介入件数	20	11	12	18	16	22	31	31	30	51	37	34	270	140
3	電話相談(入力分以外)	8	3	3	4	4	11	9	7	3	7	6	6	71	126
4	患者サポート相談件数	21	17	23	20	13	34	27	27	38	33	36	36	325	

2020年は心理的・社会的問題の解決・調整、退院支援、虐待関連、がん相談などが増加し、全体的な業務内容の増加となっている。新型コロナウイルス感染症対策の影響によりカンファレンスの件数は全体的に減少しているが、各機関との連絡調整件数は増加している。患者サポート相談件数も増加傾向にあり、今後も患者・家族の様々な相談窓口としての役割を果たしていきたい。

家族支援・地域医療連携部（予約センター）

予約センターは委託職員が従事し、主に初診患者の予約や受診報告書の発送、再診患者の予約業務などを行っている。

2020年度は新患患者の受付件数が減少しており再診の予約件数は増加している。返書率については、診療部の協力もあり90%以上を維持できており、

平均返書率は昨年度を上回った。今後も迅速な返書、中間報告の管理を行い地域医療機関とのより良い連携に努めたい。

1. 業務内容

延べ数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計・平均	前年度
メール相談対応数	5	4	7	6	5	12	12	8	5	6	6	3	79	89
（内訳）各科医師相談	2	1	2	1	2	2	1	0	0	0	0	0	11	20
地域医療連携・他 部署で返答	3	3	5	5	3	10	11	8	5	6	6	3	68	69
セカンドオピニオン数	3	4	3	2	1	2	4	0	0	3	2	2	26	49
受診報告書発送数 （紹介状件数）	476	432	447	312	307	485	501	488	492	582	492	465	5479	5924
紹介元医療機関新規登録数	26	16	22	12	9	19	18	12	14	19	19	13	173	248
新患 FAX 予約受付件数	357	346	311	224	250	408	469	410	469	492	404	357	4497	5210
新患電話予約受付件数	274	242	261	217	190	270	274	246	265	313	254	258	3064	3513
新患予約キャンセル受付件数	11	14	15	21	8	7	8	9	14	21	11	12	151	204
再診対面・電話予約件数	2177	1941	2318	2062	2324	2763	2356	1949	1956	2087	1720	1743	25396	24460
その他 予約日確認な どの電話件数	669	724	977	698	648	921	955	748	661	608	574	673	8856	8477
返書率	91.1	92.8	92.1	95.2	93.9	94.6	91.5	92.5	92	93.3	94.2	95.5	93.2	91.6

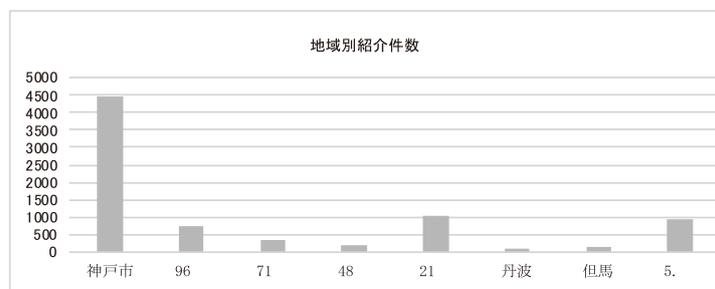
※新患、再診ともに予約受付件数内に変更件数含む

2. 地域別紹介元医療機関新規登録数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	前年度
神戸市	8	2	4	0	3	6	7	3	1	4	8	0	46	68
阪神	2	3	5	1	0	3	4	2	3	4	1	3	31	58
西播	0	0	1	2	0	1	1	0	0	1	0	0	6	11
淡路	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	4
東播	2	0	3	1	1	2	1	1	0	1	1	1	14	26
丹波	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
但馬	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	3	0
県外	13	9	9	7	5	7	5	5	9	10	8	6	93	105

3. 地域別患者紹介件数

	神戸市	阪神	西播	淡路	東播	丹波	但馬	県外
地域別紹介件数（紹介状数）	4445	751	362	213	1022	95	167	947



新規の紹介医療機関に関しては県外の医療機関が多く全体の約47%、紹介件数では、近隣の神戸市内に次いで東播圏域、県外、阪神圏域となっており、例年同様、県外からの紹介が多い状況である。県外の場合、医療や福祉、行政の状況が異なるため密な調整や連携が必要となっている。

36. ME 室

【スタッフ紹介】

課長補佐 土井 一記 体外循環技術認定士 3学会合同呼吸療法認定士
 木場 貴子 透析技術認定士
 三坂 勇介 体外循環技術認定士 3学会合同呼吸療法認定士
 秋山 正太 3学会合同呼吸療法認定士
 土谷 海雲
 井原 智弘
 橋本 健太郎
 川相 俊太
 西田 匡志
 阿部 翔吾
 大頭 弘章

【業務実績】

医療機器管理業務

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
院内修理	5	3	12	10	8	14	13	9	6	10	9	6	105
終業点検	1776	1694	1906	1804	1463	1782	2140	1896	1928	2122	1685	1614	21810
定期点検	329	297	336	305	332	347	346	394	324	314	301	400	4025
メーカー修理・点検	3	3	9	15	1	11	11	6	6	8	8	11	92
CICU・PICU・ICU呼吸器ラウンド	208	175	167	166	120	133	190	150	189	175	183	149	2005
病棟ラウンド	8	7	9	1	1	1	1	4	5	4	4	4	49
NICU呼吸器ラウンド	80	90	105	105	90	110	115	95	95	105	95	90	1175

臨床業務

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
体外循環	11	11	12	9	11	11	16	13	11	16	11	15	147
ECMO	0	1	1	1	0	3	0	1	0	3	1	0	11
人工心臓・ECMOスタンバイ	1	2	0	3	2	4	2	0	1	3	2	4	24
血液浄化	0	5	16	2	3	3	5	11	3	19	8	4	79
自己血回収	12	12	12	9	12	11	16	13	12	17	12	15	153
MEP	2	1	0	0	1	1	0	0	1	1	2	0	9
BCR	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	3
PBSCH	0	2	3	2	3	2	0	1	4	0	1	0	18
BMP	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
PE(遠心分離法)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	4	14

各種委員会活動

仕様策定委員会 リスクマネジメント委員会
 感染対策委員会 手術室運営委員会
 集中治療室運営委員会 医療ガス安全管理委員会
 在宅医療機器検討委員会 呼吸療法委員会 (RST)
 呼吸ケア部会

37. 医療安全管理室

医療安全管理室は、医療安全部長を室長、管理局長、看護部長を副室長、副院長、診療部長、薬剤部長、医療安全対策担当課長、実働メンバーとして13名の総括リスクマネージャーと総務部長、総務部次長で構成され、院内の安全管理を担っている。

I. 主な活動内容

1. ヒヤリハット報告書に基づく評価・対策・周知について

- 1) 総括リスクマネージャー会議を毎週木曜日に開催し、送られてきたヒヤリハット報告書に基づき評価・分析、解決策の検討を行った。
 - 2) 月1回のリスクマネジメント部会では、各部門が前月分のヒヤリハット内容と評価・対策を報告し、院内で起こったヒヤリハットについて集約し検討を行った。改善策を手順化し共有した。今年度医療安全の取り組みとして、各科・各部門毎に安全確認行動の遵守について目標・対策を立案し、毎月報告・検討した。
 - 3) リスクマネジメント部会での報告・検討結果を、医療事故防止対策委員会（1回/月）に報告した。
- #### 2. 今年度よりMET（院内救急対応チーム）部会が医療事故防止対策委員会の下部組織に新設された。MET事案発生1週間以内に病棟カンファレンスで振り返りを行い「METコール記録」に記載し、月毎のMET事案をMET部会で検討した。その結果をリスクマネジメント部会で報告した。
- #### 3. 医療の高度化が進む中、集約化を促進し、より安全に医療機器を管理し、効率的・計画的に機器の運用を図ることを目的として、医療事故防止対策委員会の下部組織として「医療機器安全管理部会」を立ち上げた。
- #### 4. 患者が重症化するまでに早期に異常を察知し、METコールを行い対応することでコード99症例は、今年度は0件で年々減少している。
- #### 5. コード99のシステムを利用し、急変時対応システムを導入した。ECPRも含めた蘇生チーム（ECMOチーム）招集コールで、患者急変時に対応できるコアメンバーで構成され、患者急変、ECMO導入等に対応する。
- #### 6. 院内ラウンドは、COVID19により今年度は実施できなかった。
- #### 7. ヒヤリハット報告
- 1) 2020年のヒヤリハット報告件数は、3893件で前年度より210件増加した。
 - 2) レベル別報告数においては、レベル0は1004件26%（前年度より148件減）、レベル1は2482件64%（前年度より247件増）、レベル2は293件8%（前年度より98件増）、レベル3aは46件1.3%（前年度より6件増）であった。
 - 3) レベル3b以上の医療事故報告が2件と前年度より1件減少した。内容はアレルギーのある患者への誤配膳と、手術に関連するものであった。
 - 4) 部門別にみると、看護部3042件78%（前年度より129件増）、診療部414件10.6%（前年度より66件増）、薬剤部38件0.9%（前年度より7件減）、放射線部200件5.1%（前年度より7件減）、検査部86件2.2%（前年度より23件増）、リハビリ51件1.3%（前年度より8件増）、栄養管理課29件0.7%（前年度より8件減）、臨床工学技士25件0.6%（前年度より4件増）、医事企画課6件0.1%であった。
 - 5) ヒヤリハット報告において診療部の報告が10.6%（前年度9.4%）と上昇した。オカレンス報告も58件1.4%と報告件数は増加した。

- 6) ヒヤリハットについてリスクマネジメント部会で報告を行っているが、今後は部門・科を超えて検討する場を持ち安全な医療の提供を目指すことが課題である。

【レベル別報告件数】

レベル0	レベル1	レベル2	レベル3a	レベル3b	オカレンス
1004件(26%)	2482件(64%)	293件(8%)	52件(1.3%)	2件(0.05%)	52件(1.4%)

【部門別ヒヤリハット報告件数】

診療部	看護部	検査部	放射線部	薬剤部	臨床工学技士	リハビリ	栄養指導課	医事課
414件(10.6%)	3042件(78%)	86件(2.2%)	200件(5.1%)	38件(10.9%)	25件(0.6%)	51件(1.3%)	29件(0.7%)	6件(0.1%)

8. 医療安全地域連携加算 相互評価

- 1) I-I連携：川崎病院・三菱神戸病院（11月22日）WEB会議実施
- 2) I-II連携：2021年度よりみどり病院と実施

II. 主な改善に向けた取り組み

1. 今年度の医療安全の取り組みとして「安全確認行動の遵守【指差し呼称・復唱確認（チェックバック）患者確認】」とした。各科・各部門の昨年度のヒヤリハット報告等から安全確認行動で何が問題かを分析し、目標・対策を立案し取り組んだ。毎月のリスクマネジメント部会で報告・情報共有を行った。今後も啓発活動を継続し、ヒヤリハットの減少を目指す。
2. 多職種連携カンファレンスシートの作成：複数の診療科を受診している患者について、手術前に各科においてカンファレンスを実施していたが、児の重症度を含めた病態の共有が不十分だった。その為、カンファレンスにおいて検討すべき内容の抽出や記録方法について検討し作成した。
3. 医療事故より、OP室においての応援医師を呼ぶシステム、ECPRも含めた蘇生チームの導入の必要性を感じ、新たな急変時対応システムを導入した。

III. 医療安全研修会、勉強会の開催

テーマ	開催日	参加者
第1回 医療安全研修会(eラーニング 2項目) ①医療安全の基本を知る「最近の医療安全」 ②心理的安全性①「心理的安全性と現場に心理的安全性がないとき」	5月18日～ 7月31日	全職員 846名(100%)
第2回 医療安全研修会(eラーニング) 各部門の取り組み(8部門+MET部会)	3月9日～ 3月31日予定	全職員 811名(100%)
新採用医師安全教育	4月1日	43名
新採用看護師安全教育	4月6日	54名
新採用看護師静脈注射研修	4月13日	58名
新採用補助者教育	採用時	6名

IV. 医療安全情報の提供

日本機能評価機構からの医療安全情報の提供を月1回行った。

38. 感染対策室

今年度、感染対策部長を副院長が担う感染対策部が院内組織図に明記された。

感染対策委員会は、委員長を感染症科部長、副委員長を集中治療科科長および看護部次長とし、委員を院長、感染対策部長、総務部長、検査技師長、薬剤部長、栄養管理課長、看護部長、医療安全対策担当課長、感染管理認定看護師2名の他、診療部8名、看護部3名、検査部3名、薬剤部1名、放射線部1名、臨床工学技士1名、リハビリ部門1名、医事企画課1名で構成され、院内感染予防対策に関する最高諮問機関としての役割を担っている。

感染対策チーム（Infection Control Team; ICT）は、看護部2名、診療部3名、検査部1名、薬剤部2名で、感染対策の実働部隊として活動している。

抗微生物薬適正使用チーム（AST）は、薬剤部4名、診療部9名、検査部1名、看護部2名で構成されている。そのうち薬剤部2名、診療部4名、検査部1名、看護部1名がコアメンバーとして抗菌薬治療の適正化を支援・推進する実働部隊として活動している。

活動内容

1. 定期的な会議、ラウンドの実施

1) 院内感染対策委員会（毎月開催。原則第2金曜日）

病原微生物の検出状況、抗緑膿菌薬の使用状況、ICT および AST 活動などを報告し、その活動に対して助言や指示をしている。

2) ICT 関連

・ ICT 会議（毎週木曜日）

病原微生物の検出状況、ICT ラウンド結果の共有と検討、その他事項について検討している。

・ ICT ラウンド（毎週木曜日→年度途中で火曜日に変更）

手指衛生の実施状況や環境ラウンドを実施している。

・ デバイスサーベイランスカンファレンス（毎週水曜日→年度途中で火曜日に変更）

デバイス関連感染症の判定の他、感染対策の評価、改善策の検討と実施を PICU スタッフとともに実施している。

・ 微生物検査室ミーティング（毎日）

血液培養陽性例、迅速グラム染色結果、培養結果、ウイルス迅速検査結果、感染対策が必要な患者などについて情報共有している。

3) AST 関連

・ AST 定例会議（毎月第1月曜日）

DOT、ケースカンファレンス、その他抗菌薬適正使用のための取り組みについて報告している。

・ AST コアメンバー会議（毎週火曜日）

抗菌薬適正使用のための取り組み、AST 研修会の企画検討している

・ AST ケースカンファレンス（毎週月・水・金）

特定抗菌薬（抗緑膿菌薬、抗 MRSA 薬）使用患者及び抗菌薬長期使用患者の抗菌薬適正使用について検討している

2020 実績（2020 月 4 月～ 2021 年 2 月）

抗緑膿菌薬使用症例	抗 MRSA 薬使用症例	抗菌薬長期使用症例	その他
360	63	104	24

2020年度に取り組んだ事項

- 1 ショートカンファレンスによる抗 MRSA 薬、抗緑膿菌薬等の使用状況モニタリング
- 2 抗微生物薬適正使用に関する職員対象研修会を2回開催した。
- 3 第3回兵庫抗菌薬適正使用のための地域医療連携研修会を開催した。
- 4 抗菌薬供給制限に対応した。
- 5 薬剤耐性菌対策の推進をした。
- 6 泌尿器科抗菌薬適正使用のための合同カンファレンスを開催した。
- 7 AST 業務手順書を改定した。

2. 職員教育

4月	新規採用医師および看護師感染対策オリエンテーション 新規採用者防護具着脱演習、新型コロナ関連レクチャー（6職種対象、7回）
6月～8月	AST 研修会① e-learning
8月～9月	第1回全職員対象感染対策研修 e-learning
11月	新型コロナ研修会（外部講師）
12月～1月	AST 研修会② e-learning
12月	AST セミナー

3. 新型コロナウイルス感染症対策

	マニュアル・ガイド	開始・実施	変更履歴
診療関連	COVID-19 対策ロードマップ	2020/8/6	2020/8/6Ver.18/18Ver.1.18/27Ver.210/15Ver.312/3Ver.3.1
	COVID-19 感染対策ガイドライン	2020/3/6	2020/3/6 国内発生早期、4/3 県内発生早期、4/17 市内発生早期、7/22 県内感染警戒期、8/7 感染拡大期①②、9/7 感染小康期～増加期、11/27 感染拡大特別期
	COVID-19 感染対策マニュアル	2020/3/12	2020/4/1Ver.25/1Ver.2.15/11Ver.2.27/22Ver.38/7Ver.3.1
	5 東入院診療マニュアル	2020/11/17	
	COVID-19 診断ガイド	2020/3/6	2020/3/19Ver.23/30Ver.34/14Ver.44/20Ver.55/29Ver.67/22Ver.78/5Ver.7.1
	疑い症例分類フローチャート	2020/4/23	2020/5/29Ver.27/22Ver.3
	新型コロナウイルス感染症の検査をしたいと思ったら	2020/8/6	2020/8/6Ver.18/11Ver.1.18/18Ver.1.28/27Ver.29/30Ver.2.1
	新型コロナ感染症迅速抗原検査陽性例における入院先決定までのフローチャート	2020/10/16	
	職員の症状判断フローチャート	2020/2/18	2020/3/2Ver.23/31Ver.34/7Ver.45/11Ver.55/29Ver.67/22Ver.77/31Ver.7.18/24Ver.8
	発生時の対応チェックリスト	2020/5/1	改定 2020/11/20
	職員のコロナ陽性対応者関連図 & ToDo	2020/12/28	
	曝露者対応ガイドライン	2020/3/17	2020/4/17Ver.24/24Ver.3
	COVID-19 に関する FAQ	2020/5/25	改定 2020/7/22、12/10
	患者向け説明文書	2020/3/2	2020/4/16Ver.2
	感染対策レクチャー スライド	2020/3/30	
	疫学分析スライド	2020/3/30	毎週更新 2020/5/15 最終回
シミュレーション	PPE 着脱シミュレーション	2020/1/31	

診療関連	シミュレーション	CICU 入院シミュレーション	2020/3/16	
		5 東入院シミュレーション	2020/3/6	
		麻酔科 PPE 着脱シミュレーション	2020/4/6	
	部署別レクチャー	集中治療科医師	2020/3/13	
		集中治療室看護師	2020/3/25	
		ER、救急病棟スタッフ	2020/4/5	
		一般外来スタッフ	2020/4/8	
		放射線部	2020/4/10	
		院内学級	2020/4/6	
		委託窓口職員	2020/4/6、4/8	
連携チーム	CCT (COVID-19 Core Team)	2020/8/7		
患者の問診	問診チェックリスト	2020/3/1	2020/3 救急外来・麻酔科、7/6 一般外来、7/22 一般外来変更、8/24 一体化	
面会	面会制限	2020/3/4	改定 2020/4/13、6/1、6/10、6/24、11/20、11/26、12/8	
	面会者確認証	2020/12/16		
診療制限	OP 制限		第 1 波の緊急事態宣言中	
飛沫 & エアロゾル対策	ビニールカーテン、アクリル板		入院受付、予約センターなど	
	処置時のヘッドボックス		救急外来、PICU、手術室	
情報関連	情報伝達	週間 ICT News (COVID-19 特集)	2020/2/13	毎週発行 2020/6 月 - 月 1 回 + α
		職員へのお知らせ週報	2020/1/9	2020/1/24 第 2 報 (以降毎週配信)
		病院入口・病棟入口のポスター	2020/1/31	以降 4 回更新 (2020/2/132/193/24/8)
		ホームページに掲示	2020/2/13	更新 2020/2/19、2/21、3/2、4/17、6/1、6/10、6/24、8/6、11/20、11/25、12/7、2021/2/1、2/5、3/1
		ホームページに院長コメント	2020/4/8	
職員関連	会議、カンファレンス	対策本部会議	2020/4/10	2020/4/154/204/24 (以降週一回定期開催) 5/29 最終 7/22 再開 9 月から月 1 ~ 2 回
		コアメンバー会議	2020/4/9	2020/4/9- 毎日、4/15- 本部会議毎、4/24- 週 1 回 5/29 最終 7/15 再開 (週 1 回) 9 月から月 1 ~ 2 回
		コビッドアワー (平日 1 日 2 回)	2020/4/10	2020/4/27-1 日 1 回午後のみ 5/22 終了 7/20 再開 -9/2 終了 11/12 再開 -2021/2/26 終了
		こまかいぎ (平日毎日)	2020/4/16	2020/5/18- 週 2 回 (火・木) 9 月から月 1 回 2021/3/1 終了
		ER カンファ (平日 1 日 2 回)	2020/3/26	2020/5/11-1 日 1 回朝のみ 5/22 終了 7/20 再開
	院内 3 密 防止	院内の会議・集会	2020/3/28	2020/5/11 (5/12 に 6/30 まで延長) 7/1 変更以降ロードマップへ
		食堂ルール	2020/4/3	改定 2020/10
	行動自粛	院外における行動	2020/3/27	5/11 (5/12 に 6/30 まで延長) 7/1 変更 以降ロードマップへ
		海外渡航	2020/3/19	
	体調確認	症状経過確認票	2020/5/1	
		検査を受ける職員の報告用紙	2020/12/1	改定 12/21、12/24
	出入り外部者	健康チェック強化	2020/12/16	
	研修生	研修生受け入れ中止	2020/3/27	7/1 変更以降ロードマップへ
	帰国者	海外からの帰国・入国者への対応策	2020/3/19	
	ユニバーサルマスク	一部一斉マスク	2020/4/9	患者に濃厚接触する職員はサージカルマスク
		全職員何かしらマスク	2020/4/15	サージカルマスクか布マスク着用
		全職員何かしらマスク + 飛沫感染予防は交換	2020/5/15	事務系は布マスク、飛沫感染予防で使用したら都度交換
		全職員何かしらマスク + 標準予防策も交換	2020/6/5	上記に加え、標準予防策で使用した後も都度交換
	手指消毒剤	間引き配置	2020/2/21	8/24 病棟の間引き終了

4. 手指衛生遵守率向上のための取り組み

看護部感染対策委員会と連携して直接観察を実施し、結果を院内全体に広報した。現場での直接指導は看護部感染対策委員が行った。並行して手指消毒剤の使用量調査も継続した。

手指衛生遵守率の推移 (%)

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
75	74	67	78	—	72	64	71	69	75	75	74

手指衛生使用量の推移 (ml/患者)

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
40	39	20	32	36	33	32	32	31	30	34	30

5. 各種サーベイランスの実施

・PICUにおけるデバイスサーベイランス

中心静脈カテーテル関連 血流感染症発生率 (/1000 デバイス日)				尿道留置カテーテル関連 尿路感染症発生率発生率 (/1000 デバイス日)				人工呼吸器関連肺炎発生率 (/1000 デバイス日)			
2017	2018	2019	2020	2017	2018	2019	2020	2017	2018	2019	2020
0.0	0.4	0.0	0.7	4.0	6.3	5.6	8.2	4.6	4.4	2.8	2.6

集中治療室感染対策チームおよび現場スタッフとともに尿道留置カテーテル関連尿路感染症予防バンドルの運用を継続、尿道留置カテーテル挿入時の手順遵守の徹底を行い、また、麻酔科や手術室の協力を得て手術時の尿道留置カテーテル挿入の手順見直しを行ったが、尿道留置カテーテル関連尿路感染症は増加した。

・7F病棟における中心静脈カテーテル関連血流感染症サーベイランス

中心静脈カテーテル関連 血流感染症発生率 (/1000 デバイス日)	2019	2020
	1.29	1.3

看護部感染対策委員と連携し、ポートの適切な消毒の徹底を行った。

・心臓血管外科 SSI サーベイランス

	2016	2017	2018	2019	2020
表皮 SSI (件)	0	0	0	0	3
深部 SSI (件)	1	1	0	2	0
体腔 SSI (件)	2	1	1	4	1

手術室内の環境整備の徹底と清掃しやすい環境を整えた。また、清掃委託業者と連携し手術室の高所清掃の頻度と精度を高めた。これらの結果、昨年と比して縦隔炎の発生は減少した。

・一般外科消化器手術 SSI サーベイランス

	2016	2017	2018	2019	2020
発生件数 (件)	1	0	1	1	0
感染率 (%)	2.1	0	1.3	1.6	1

・その他：AUR サーベイランス

6. 感染症発生時の対応

- ・新型コロナウイルスを始め流行性感染症のアウトブレイクは発生しなかった。
- ・感染経路別予防策が必要な患者の発生時、適宜対応した。3月12日より症状別飛沫感染予防策を開始した。

飛沫感染予防策	275件	呼吸器症状 236、インフルエンザ 35、RS ウイルス感染症 4
接触感染予防策	30件	ウイルス性胃腸炎 27、腸管出血性大腸菌感染症 3
空気・接触感染予防策	5件	水痘疑い 1、播種性帯状疱疹 4
飛沫・接触感染予防策	17件	救急病棟における RS ウイルス感染症 3、新型コロナウイルス感染症疑いおよび偽陽性 14
標準予防策	11件	帯状疱疹 4、ヒトメタニューモウイルス 5、単純ヘルペス 2

職員のインフルエンザ発症は 21 例 (アウトブレイクや患者への伝播なし)

7. 感染対策に関する各種相談への対応

新型コロナ関連 494 件、患者・家族の感染症 11 件、職員の感染症 9 件、予定入院患者の水痘ワクチン関連 4 件、患者ケア 3 件、害虫 3 件、その他 24 件

8. 各種啓発活動

新型コロナに関する職員へのお知らせ(毎週)や ICT NEWS の発行(21 回)、市中の感染症情報配信(毎週)

9. ファシリティマネジメントとして、ファシリティ部門への助言と感染対策の強化各種業務（清掃、リネン、滅菌）の定例会への出席

10. 職業感染防止の活動

- 新規採用職員の抗体検査とワクチン接種を実施

抗体採血	麻疹ワクチン	水痘ワクチン	風疹ワクチン	おたふくワクチン
40 名	30 名	3 名	8 名	23 名

- 職員対象のインフルエンザワクチンの接種（11 月）
- 職員対象の B 型肝炎ワクチンの接種 37 名（新規 19 名、その他 18 名）
- 針刺し・切創、血液・体液曝露についての事象発生時の対応
30 件（針刺し 16 件、切創 6 件、血液・体液曝露 2 件、咬傷 11 件）

11. 院外活動

- 感染防止対策加算関連

加算 1：相互ラウンド実施（10 月に川崎病院を訪問、神戸労災病院が来院）

加算 2：みどり病院と施設間 Web カンファレンス開催（2 月、6 月、9 月、12 月）

- 小児総合医療施設協議会（JACHRI）小児感染管理ネットワーク多職種会議（2 月）

39. 褥瘡管理室

褥瘡対策委員会は、委員長を形成外科医師、副委員長を看護部次長とし、委員として小児外科医師、看護師、薬剤師、検査技師、管理栄養士、医事課職員により構成され、院内の褥瘡対策及び創傷ケアを検討し、トータルケアを行うことにより、創傷ケアの効果的な推進を図ることを目的としている。平成24年度より褥瘡管理者を置き、褥瘡ハイリスクケア患者ケア加算を導入した。

主な活動内容

1. 褥瘡対策状況

褥瘡対策委員会を月に1回開催し、褥瘡対策に関する報告、情報の共有を行い、褥瘡ケアの評価や対策の検討をおこなう。

1) 褥瘡発生率

2.79%（発生率は過去18年で6番目に低い値。過去の発生率は2.35%～4.0%）

褥瘡発生率 = 褥瘡発生数 ÷ 総新規入院数

2) 褥瘡推定発生率

1.63%（過去14年で6番目に低い値 過去の発生率は1.4～2.7%）

月の1日を調査日とし、

褥瘡推定発生率 = (調査日に褥瘡を保有する患者数 - 院外発生患者数) ÷ 調査日の入院患者数

3) 褥瘡リスクアセスメント実施数 6355件（月平均530件）

4) 危険因子評価を実施した患者のうち褥瘡に関する危険因子を有す、或いは

既に褥瘡を有していた患者数 3023人（月平均252人）

5) 褥瘡ハイリスク項目に該当する患者数（特定数）1033件（月平均86件）

6) 褥瘡予防治療計画件数 1033件（月平均86件）

7) 褥瘡ハイリスク患者実施件数 971件（月平均81件）

8) 褥瘡発生詳細

褥瘡発生件数 177件

褥瘡発生個数 206個（自重関連褥瘡は58個、医療関連機器圧迫創傷は148個）

褥瘡発生件数の多い部署（10件以上）

PICU（90）、5西（14）、手術室（12）、HCU（11）、NICU（10）、6東（10）、5東（10）

2. 褥瘡回診・カンファレンス状況

週1回木曜日午後に形成外科医師と皮膚・排泄ケア認定看護師（月1回は褥瘡対策委員会のメンバーも加わり拡大褥瘡回診としている）により、褥瘡発生者を中心に『褥瘡回診』と『カンファレンス』をおこなっている。回診、カンファレンスでは褥瘡予防治療計画書をもとに、褥瘡予防、治療方法を評価・検討している。

褥瘡回診・カンファレンス実施回数 49回 患者数 286名（のべ）

3. 新人看護師対象の褥瘡講義の実施

4. 領域別看護ケア向上委員会における事例検討と勉強会の実施

5. 各部署カンファレンスや病棟会における褥瘡勉強会の実施

40. がん相談支援室

がん相談支援室は、小児がん医療センター長のもと、血液腫瘍科医師、小児看護専門看護師、医療福祉相談員が小児がんに関する相談に応じている。

スタッフ

医師 石田敏章（血液腫瘍内科医師）
 看護師 中谷扶美・栗林佑季（小児看護専門看護師）
 医療福祉相談員（MSW） 松尾さおり
 医師クラーク 松本、窪木、仲渡

令和2年 主な活動内容

1. 院内外の小児がんと診断された子どもと家族に対する対面相談、電話相談
 - ・小児がんの病態、標準的治療法等小児がん診療等に関する一般的な情報の提供
 - ・小児がん患者の発育、教育及び療養上の相談
 - ・地域における小児がん診療の連携協力体制の事例に関する情報の収集、提供 等
2. 小児がんの子どもと家族の療養環境の改善
 - ・がんサロン（名称：nanaくつろぎサロン）の開催（COVID19の影響により今年度は一部のみ開催）
 - ・県教育委員会との高校生の学習支援体制の検討、復学支援カンファレンスへの参加
 - ・相談室通信の発行（2か月に1回）
3. 院内外の医療従事者への小児がんに関する情報提供
 - ・小児がん看護研修会の企画運営（COVID19流行予防対策として、院内緩和ケア研修に変更し開催）
 - ・近畿ブロック小児がん拠点病院相談員研修の開催（近畿ブロック4病院共催）
 - ・問い合わせに対する相談対応
4. 小児がんを対象とする患者会との調整窓口
5. 相談支援室会議
 - ・月1回開催、小児がんに関する情報の共有、相談支援室の活動の評価・検討
6. 小児がん中央機関、その他の小児がん拠点病院、成人がん診療病院との連携体制強化
 - ・小児がん拠点病院連絡協議会相談支援部会への出席、メーリングリストへの参加
 - ・中国四国ブロック小児がん相談支援部会（TV会議）への参加
 - ・兵庫県がん診療連携協議会情報・連携部会、神戸市がん相談支援センター連絡会への参加
 - ・近畿ブロック小児がん拠点病院及び連携病院グループメール作成

令和2年 がん相談支援室相談対応件数

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
がん相談件数 (院内)	相談総件数	78	49	68	83	75	86	107	110	117	104	78	86	1041
	1) 対面相談	78	49	67	82	71	84	104	108	108	97	77	81	1006
	2) 電話相談	0	0	1	1	4	2	3	2	9	7	1	5	35
院外相談		0	7	3	0	0	0	0	1	2	3	7	5	28
計		78	56	71	83	75	86	107	111	119	107	85	91	1069

41. 院内学級（神戸市立友生支援学校 病弱部門 みなと分教室・わらび訪問学級）

1. 体制

従前までは長期入院のため登校できない小中学生に、友生支援学校「わらび訪問学級」としてこども病院にも訪問指導を行っていたが、こども病院のポートアイランド移転(2016年)に伴い、友生支援学校の病弱部門の教員がこども病院の院内学級「みなと分教室」として常駐するようになった。こども病院に入院中の小中学生は院内学級「みなと分教室」に在籍し、市内の他病院に入院中の児童生徒は従前通り訪問指導として「わらび訪問学級」に在籍している。

院内学級の児童生徒は教室で授業を受けられるようになったとは言うものの、児童生徒の病状からほとんどがベッドサイドでの訪問指導を受けている状況であった。2017年度より、それまで教室に登校することを許可されていなかった児童生徒も、一定以上の抵抗力がある状態になれば、主治医の判断により登校できるようになり、教室での授業もかなり多くなった。しかし、2020年度より、新型コロナウイルスの感染拡大により、ほとんどが、ベッドサイドのマンツーマン授業か、オンラインの授業となった。

保護者への入級説明、小中学校との連絡調整などについては主治医や病棟の紹介を経て当部署が行っている。

なお、院内学級の職員は、こども病院外で入院治療中の児童生徒に対しては、従前通り訪問指導を継続している。

2. 在籍状況

2020年度 院内学級（みなと分教室） 在籍状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間実在籍者数
小学部	18	18	17	16	13	10	22	23	22	18	14	13	54
中学部	6	6	6	6	6	8	7	6	7	6	6	6	16
合計	24	24	23	22	19	18	29	29	29	24	20	19	70

※その月に1日でも在籍していれば1人と数える。

3. 次年度の課題

2021年度より、GIGAスクール構想が本格的にスタートする。日本全国の子供1人に1台の端末が用意され、ICTを活用した教育活動ができるようになる。とはいえ、様々なWi-Fi環境の課題もあり、院内学級に限らず、どの学校園でも様々な課題に対応しながら、個々の学びの保障に取り組んでいるところである。院内学級においても、2020年度より、新型コロナ感染拡大の影響から、準備を進めてきた。在籍している児童生徒の多くは、教室登校が難しいため、ほぼベッドサイドでの授業である。そのため、端末を活用し、離れた病室を繋いで授業を行えることは児童生徒の学びの可能性を広げることにつながった。また、退院後すぐに原籍校へ登校できない児童生徒に対しても、オンライン授業を行うことで、今までできなかった学習サポートも可能になっている。そのうえ今後は、病室から原籍校の授業に参加することも可能になってくると思われる。近い将来、院内学級として、従来の対面授業だけではなく、原籍校とのオンライン授業とも両立させた、ハイブリッドな学習支援が必要になってくると想定される。いずれにせよ、各児童生徒の状況に応じた柔軟な対応で、きめ細やかな学習サポートを行っていきたいと考えている。

42. 医師事務作業補助者（医師クラーク）

医師の業務負担軽減を図り、診療に専念できる環境をつくることを目的に、2008年の診療報酬の改定に伴い医師事務作業補助体制加算が定義された。施設基準を満たした場合、医師事務作業補助者を採用することにより診療報酬の対象となる。

兵庫県立こども病院では2012年に本格的に導入され8名でスタートしたが、2020年現在21名が在籍。

医局に隣接した医局クラーク室で、診療部長の指導の下、診療科からの依頼を受け業務を行っている。2016年5月に病院が移転し電子カルテが導入されて以降、外来診療補助に携わる業務が増し、他部署とのコミュニケーションを図りながら業務に取り組んでいる。

（業務内容）

・外来診療補助

電子カルテへの入力補助、病名登録、診察・検査予約

患者様へのご説明、ご案内 等

診察・手術・検査に関する電話 等

・文書作成補助

診断書、主治医意見書、生命保険会社の手続き書類、紹介状等の作成補助 等

・診療に関するデータ整理、管理に関する事務

新規患者、手術などの台帳管理及び入力、統計 等

・治験資料、学会等からの各種調査資料等の作成、管理に関する事務

・院外、院内における症例登録や統計、調査に関する事務

・研修やカンファレンスのための資料作成等の準備事務

・その他所属長が必要と認める事務

症例検討会、講演会、抄読会等の準備

文献・画像等の取り込み、及び管理

医師宛の外線電話への対応 等

IV 学会・研究・教育活動

1) 書籍

テーマ	所属科	発表者名	単著、共著の別	編者名	書籍名	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
小児救急における鎮静	救急総合診療科 (救急)	松井鋭			今日の小児治療指針 第17版	2	2	医学書院	2020.1
第7回小児のショック	救急総合診療科 (救急)	竹井寛和、 杉中見和、 坂本壮			J-COSMO	243	249	中外医学社	2020.4
骨のエコー	救急総合診療科 (救急)	竹井寛和			治療	445	451	南山堂	2020.4
小児救急	救急総合診療科 (救急)	竹井寛和			レジデントノート	94	105	羊土社	2020.4
第8回子ども虐待	救急総合診療科 (救急)	竹井寛和、 杉中見和、 坂本壮			J-COSMO	517	524	中外医学社	2020.6
急性腹症のエコー	救急総合診療科 (救急)	竹井寛和			小児外科	884	889	東京医学社	2020.8
第9回小児の痙攣ダイジ エスト	救急総合診療科 (救急)	竹井寛和、 杉中見和、 坂本壮			J-COSMO	623	631	中外医学社	2020.8
第10回小児の発熱	救急総合診療科 (救急)	竹井寛和、 杉中見和、 坂本壮			J-COSMO	790	800	中外医学社	2020.10
それゆけ! エコー・レジ デント! 第1回 子どもに やさしい ECoなエコー	救急総合診療科 (救急)	竹井寛和			レジデントノート	2305	2313	羊土社	2020.11
熱傷(軽度)	救急総合診療科 (救急)	竹井寛和			今日の小児治療指針	35	36	医学書院	2020.12
第11回小児の熱傷	救急総合診療科 (救急)	竹井寛和、 杉中見和、 坂本壮			J-COSMO	981	989	中外医学社	2020.12

テーマ	所属科	発表者名	単著、共著の別	編者名	書籍名	開始頁	終了頁	発行元	発行年月	
成人診療科医のための小児リウマチ性疾患移行支援ガイド	リウマチ科	森雅亮、秋岡親司、五十嵐徹、井上祐三朗、梅林宏明、大島至郎、西山進、橋本求、松井利浩、宮前多佳子、八角高裕、井上なつみ、岩田直美、大倉有加、大原亜沙美、岡本圭祐、岡本奈美、金子詩子、木澤敏彦、岸崇之、久保田知洋、小林一郎、小林法元、根田直子、齋藤順平、佐藤賢、清水正樹、謝花幸祐、武井修治、竹崎俊一朗、田中絵里子、富坂美奈子、中岸保夫、中瀬古春奈、檀崎秀彦、西田豊、西村謙一、野澤智、野中由希子、花岡成典、原良紀、松本拓実、水田麻雄、安村純子、八代将登、山出晶子、山口賢一、山崎和子、山崎雄一、山本奈つき、脇口宏之	共著	厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業 小児期および成人移行期小児リウマチ患者の全国調査データの解析と両者の異同性に基づいた全国的「シームレス」診療ネットワーク構築による標準的治療の均てん化研究班 若年性特発性関節炎分担任	成人診療科医のための小児リウマチ性疾患移行支援ガイド				羊土社	

テーマ	所属科	発表者名	単著、共著の別	編者名	書籍名	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
若年性特発性関節炎における生物学的製剤使用の手引き2020年版	リウマチ科	森雅亮、 梅林宏明、 井上なつみ、 大倉有加、 木澤敏毅、 久保田知洋、 謝花幸祐、 中岸保夫、 西村謙一、 水田麻雄、 安村純子、 八代将登、 山出晶子、 脇口宏之、 岡本奈美、 清水正樹、 八角高裕	共著	厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業 小児期および成人移行期 小児リウマチ患者の全国調査データの解析と両者の異同性に基づいた全国的「シームレス」診療ネットワーク構築による標準的治療の均てん化研究班 若年性特発性関節炎分担任	若年性特発性関節炎における生物学的製剤使用の手引き2020年版			羊土社	
生物学的製剤	リウマチ科	中岸保夫	共著	監修)伊藤秀一・森雅亮	小児リウマチ学	262	265	朝倉書店	
肺動脈弓狭窄症(弁下・弁上)	循環器内科	田中敏克	単著		別冊日本臨床 循環器症候群 第3版IV	246	249	日本臨床社	2020年3月
大動脈弓の異常一血管輪を含めて	循環器内科	田中敏克	単著		小児疾患診療のための病態生理 1第6版	336	340	東京医学社	2020年11月
Fontan型手術	循環器内科	城戸佐知子	単著		今日の小児治療指針 第17版	501	502	医学書院	2020年11月
スーパージン抗原疾患	感染症内科	笠井正志	共著	水口雅、市橋光、崎山弘、伊藤秀一	今日の小児治療指針	346	346	医学書院	2020年12月
敗血症	感染症内科	笠井正志	共著	日本小児感染症学会	小児感染免疫学	170	179	朝倉書店	2020年11月
小児症例の閉胸法～胸骨の特徴と個人差に対応する	心臓血管外科	松久弘典	共著	日本心臓血管外科学会	今さら聞けない心臓血管外科基本手技	158	159	南江堂	2020年3月
純型肺動脈閉鎖症	心臓血管外科	松久弘典	共著	瓦谷秀治	別冊 日本臨床 領域別症候群シリーズ No.8 循環器症候群(第3版)	290	294	日本臨床社	2020年3月
PA sling	心臓血管外科	大嶋義博、 前田貢作	共著	瓦谷秀治	別冊 日本臨床 領域別症候群シリーズ No.8 循環器症候群(第3版)	338	341	日本臨床社	2020年3月
小児扁平足の病態・診断・治療	整形外科	薩摩眞一	共著	日本足の外科学会	明日の足診療シリーズI 足の変性疾患・後天性変形の診かた	120	128	全日本病院出版会	2020年12月

テーマ	所属科	発表者名	単著、共著の別	編者名	書籍名	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
肘内障、上腕骨頰上骨折、上腕骨外顆骨折	整形外科	衣笠真紀	共著	水口雅	今日の小児治療指針 第17版	784	785	医学書院	2020年11月
アデノイド増殖症、扁桃肥大	耳鼻咽喉科	大津雅秀	共著	福井次矢、高木誠、小室一成	今日の治療指針2020	1604	1605	医学書院	2020年1月
後部尿道弁(出生前診断例) [内視鏡的切開術]	泌尿器科	杉多良文、大西篤志、春名晶子	共著	田口智章、奥山宏臣	スタンダード小児内視鏡外科手術 押さえておきたい手技のポイント	390	391	メジカルビュー社	2020年5月
開腹膀胱内手術のバリエーション重複腎盂尿管に伴う異所性(膀胱外)尿管瘤に対する膀胱内手術(common sheath reimplantation)	泌尿器科	杉多良文、春名晶子、神野雅	共著	山本新吾、兼松明弘	Urologic Surgery Next 7 小児泌尿器科手術	35	45	メジカルビュー社	2020年10月
小児麻酔	麻酔科	香川哲郎、鹿原史寿子、池島典之、上嶋江利、大西広泰、小西麻意、末田彩、鈴木毅、高辻小枝子、田中康智、廣瀬徹也、藤原孝志、他神戸大学麻酔科	共著	香川哲郎、鹿原史寿子、溝淵知司	臨床小児麻酔ハンドブック 第4版	1	389	診断と治療社	2020年6月
喉頭痙攣	麻酔科	高辻小枝子	共著	川名信、五十嵐あゆ子	すつきりフローチャートで学ぶ小児の麻酔	24	25	克誠堂	2020年12月
口唇口蓋裂の麻酔	麻酔科	松本友里、鹿原史寿子	共著	川名信、五十嵐あゆ子	すつきりフローチャートで学ぶ小児の麻酔	40	41	克誠堂	2020年12月
脳外科疾患の麻酔	麻酔科	鹿原史寿子	共著	川名信、五十嵐あゆ子	すつきりフローチャートで学ぶ小児の麻酔	56	57	克誠堂	2020年12月
小児エコー 検査直前チェックポイント	放射線診断科	藤本雄介	共著	赤坂好宣	小児エコー 検査直前チェックポイント	1	263	金芳堂	2020年6月
小児の呼吸サポート	小児集中治療科	黒澤寛史	単著	富井啓介	呼吸器内科	398	402	科学評論社	2020年4月
どのようにに病態把握すべきか 小児	小児集中治療科	制野勇介、黒澤寛史	共著	佐藤直樹	救急集中治療 循環管理-ガイドライン、スタンダード、論点そして私見-	1155	1161	総合医学社	2020年12月

テーマ	所属科	発表者名	単著、共著の別	編者名	書籍名	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
病態を踏まえた治療をどうするか 小児(先天性心疾患を除く)	小児集中治療科	長井勇樹、黒澤寛史	共著	佐藤直樹	救急集中治療 循環管理 -ガイドライン、スタンダード、論点そして私見-	1250	1256	総合医学社	2020年12月
小児 ARDS と成人 ARDS の管理を比べてみよう	小児集中治療科	青木一憲	単著		みんなの呼吸器 Respicca	81	86	メデイカ出版	
抗菌薬の「なぜ?」にこたえる 重症度は?緊急度を評価しましたか?	小児集中治療科	吉田美苗	単著		小児内科	1325	1332	東京医学社	
ノロウイルス腸炎の小児患者の看護	看護部	中島由佳	共著	Nursing Canvas 編集部	やさしくわかる!臨床につながる!状況設定問題“読み解き”レッスン	117	124	学研メデイカル 秀潤社	2020.9
倫理的感受性を高める看護師教育	看護部 7東	濱田米紀	共著	松岡真里	小児看護と看護倫理	41	48	へるす出版	2020.4
気管支喘息の治療と看護ケアとは	看護部 PICU	吉村尚輝	共著	道又元裕	これならわかる!呼吸器の看護ケア	110	115	ナツメ社	2021.1
テーマ8守秘義務	看護部 外来	中谷扶美	共著	松岡真里	小児看護と看護倫理	166	171	へるす出版	2020.4
母子栄養性疾患「7妊娠高血圧症候群」「新生児・未熟児」「先天性代謝異常症」	栄養管理部	鳥井隆志	共著	中村丁次 足立香代子 川島由起子 監修	ミッフィーの早引き栄養の基本ハンドブック2020年最新改訂版	206	211	エクスナレッジ社	2020年10月

2) 雑誌発表

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
A pediatric case of tocilizumab-resistant TAFRO syndrome treated successfully with rituximab	総合診療科	Minamikawa S, Matsumura O, Sato S, Nakagishi Y, Tanaka R.	Pediatr Blood Cancer	67	12	e28489		2020 Jun 22	2020 Jun 22
Molecular mechanisms determining severity in patients with Pierson syndrome	総合診療科	Minamikawa S, Miwa S, Inagaki T, Nishiyama K, Kaito H, Ninchoji T, Yamamura T, Nagano C, Sakakibara N, Ishimori S, Hara S, Yoshikawa N, Hirano D, Harada R, Hamada R, Matsunoshita N, Nagata M, Shima Y, Nakanishi K, Nagase H, Takeda H, Morisada N, Iijima K, Nozu K.	J Hum Genet	65	4	355	362	2020 Jan 21	2020 Jan 21
Clinical and genetic variability of PAX2-related disorder in the Japanese population	総合診療科	Rossanti R, Morisada N, Nozu K, Kamei K, Horinouchi T, Yamamura T, Minamikawa S, Fujimura J, Nagano C, Sakakibara N, Ninchoji T, Kaito H, Ito S, Tanaka R, Iijima K.	J Hum Genet	65	6	541	549	2020 Mar 16	2020 Mar 16

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Gastrointestinal symptoms as an extended clinical feature of Pierson syndrome: a case report and review of the literature	総合診療科	Nishiyama K, Kurokawa M, Torio M, Sakai Y, Arima M, Tsukamoto S, Obata S, Minamikawa S, Nozu K, Kaku N, Maehara Y, Sonoda KH, Taguchi T, Ohga S.	BMC Med Genet	15	21				2020 Apr 15
Development of an exon skipping therapy for X-linked Alport syndrome with truncating variants in COL4A5	総合診療科	Yamamura T, Horinouchi T, Adachi T, Terakawa M, Takaoka Y, Omachi K, Takasato M, Takaishi K, Shoji T, Onishi Y, Kanazawa Y, Koizumi M, Tomono Y, Sugano A, Shono A, Minamikawa S, Nagano C, Sakakibara N, Ishiko S, Aoto Y, Kamura M, Harita Y, Miura K, Kanda S, Morisada N, Rossanti R, Ye MJ, Nozu Y, Matsuo M, Kai H, Iijima K, Nozu K.	Nat Commun	2	11				2020 Jun 2

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Pathogenic evaluation of synonymous COL4A5 variants in X-linked Alport syndrome using a minigene assay	総合診療科	Horinouchi T, Yamamura T, Minamikawa S, Nagano C, Sakakibara N, Nakanishi K, Shima Y, Morisada N, Ishiko S, Aoto Y, Nagase H, Takeda H, Rossanti R, Ishimori S, Kaito H, Matsuo M, Iijima K, Nozu K.	Mol Genet Genomic Med	8	8	e1342		2020 Jun 16	2020 Jun 16
Comparison of clinical and genetic characteristics between Dent disease 1 and Dent disease 2	総合診療科	Sakakibara N, Nagano C, Ishiko S, Horinouchi T, Yamamura T, Minamikawa S, Shima Y, Nakanishi K, Ishimori S, Morisada N, Iijima K, Nozu K.	Pediatr Nephrol	35	12	2319	2326	2020 Jul 18	2020 Jul 18

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Association between low pH and unfavorable neurological outcome among out-of-hospital cardiac arrest patients treated by extracorporeal CPR: a prospective observational cohort study in Japan.	救急総合診療科(救急)	Okada Y, Kiguchi T, Irisawa T, Yoshiya K, Yamada T, Hayakawa K, Noguchi K, Nishimura T, Ishibe T, Yagi Y, Kishimoto M, Shintani H, Hayashi Y, Sogabe T, Morooka T, Sakamoto H, Suzuki K, Nakamura F, Nishioka N, Matsuyama T, Sado J, Matsui S, Shimazu T, Koike K, Kawamura T, Kitamura T, Iwami T; CRITICAL Study Group Investigators.	J Intensive Care	8			34		2020.3.11

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Impact of Low-Flow Duration on Favorable Neurological Outcomes of Extracorporeal Cardiopulmonary Resuscitation After Out-of-Hospital Cardiac Arrest: A Multicenter Prospective Study.	救急総合診療科(救急)	Matsuyama T, Irisawa T, Yamada T, Hayakawa K, Yoshiya K, Noguchi K, Nishimura T, Ishibe T, Yagi Y, Kiguchi T, Kishimoto M, Shintani H, Hayashi Y, Sogabe T, Morooka T, Sakamoto H, Suzuki K, Nakamura F, Nishioka N, Okada Y, Matsui S, Sado J, Shimazu T, Ohta B, Iwami T, Kitamura T; CRITICAL Study Group Investigators.	Circulation	141	12	1031	1033		2020.3.24

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Poor Long-Term Survival of Out-of-Hospital Cardiac Arrest in Children.	救急総合診療科(救急)	Matsui S, Sobue T, Irisawa T, Yamada T, Hayakawa K, Yoshiya K, Noguchi K, Nishimura T, Ishibe T, Yagi Y, Kiguchi T, Kishimoto M, Shintani H, Hayashi Y, Sogabe T, Morooka T, Sakamoto H, Suzuki K, Nakamura F, Nishioka N, Okada Y, Matsuyama T, Sado J, Shimazu T, Tanaka R, Kurosawa H, Iwami T, Kitamura T, CRITICAL Study Group Investigators.	Int Heart J	61	2	254	262		2020.3.28
Detailed characteristics of acute encephalopathy with biphasic seizure and late reduced diffusion -center consecutive cohort : 18-year data of a single-center consecutive cohort	救急総合診療科(救急)	Yamaguchi H, Nishiyama M, Tokumoto S, Ishida Y, Tomioka K, Aoki K, Seino Y, Toyoshima D, Takeda H, Kurosawa H, Nozu K, Maruyama A, Tanaka R, Iijima K.	J Neurol Sci	411			116684		2020.4.15

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Predictive accuracy of biomarkers for survival among cardiac arrest patients with hypothermia: a prospective observational cohort study in Japan.	救急総合診療科(救急)	Okada Y, Kiguchi T, Irisawa T, Yoshiya K, Yamada T, Hayakawa K, Noguchi K, Nishimura T, Ishibe T, Yagi Y, Kishimoto M, Shintani H, Hayashi Y, Sogabe T, Morooka T, Sakamoto H, Suzuki K, Nakamura F, Nishioka N, Matsuyama T, Matsui S, Shimazu T, Koike K, Kawamura T, Kitamura T, Iwami T.	Scand J Trauma Resusc Emerg Med	28	1		75		2020.8.5

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Development and Validation of a Clinical Score to Predict Neurological Outcomes in Patients With Out-of-Hospital Cardiac Arrest Treated With Extracorporeal Cardiopulmonary Resuscitation.	救急総合診療科(救急)	Okada Y, Kiguchi T, Irisawa T, Yamada T, Yoshiya K, Park C, Nishimura T, Ishibe T, Yagi Y, Kishimoto M, Inoue T, Hayashi Y, Sogabe T, Morooka T, Sakamoto H, Suzuki K, Nakamura F, Matsuyama T, Nishioka N, Kobayashi D, Matsui S, Hirayama A, Yoshimura S, Kimata S, Shimazu T, Ohtsuru S, Kitamura T, Iwami T.	JAMA Netw Open	3	11		e2022920		2020.11.2
Incidence, characteristics, and outcomes of pediatric out-of-hospital cardiac arrest in nursery schools and kindergartens in Japan.	救急総合診療科(救急)	Kiyohara K, Kitamura T, Ayusawa M, Nitta M, Iwami T, Nakata K, Matsui S, Sobue T, Kitamura Y; SPIRITS investigators.	J Cardiol	76	6	549	556		2020.12

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
フローア四徴症術後遠隔期に診断された特発性肺へモジデロシスの一例	救急総合診療科(救急)	山下由理子、長谷川智巳、長井勇樹、制野勇介、青木一憲、津田雅世、田中亮二郎、黒澤寛史	日集中医誌	27	6	453	458		2020
腰痛による股関節内出血および傍腸腰筋腫から高度の貧血と歩行障害を呈した自閉スペクトラム症の6歳男児例	救急総合診療科(救急)	土井圭、上村克徳、張慶哲、倉橋幸也、斎藤敦郎、藤田杏子、津田雅世、長谷川大一郎、小阪嘉之、田中亮二郎	兵庫県小児科医会報	74		2	7		2020
Elevated Cytokine, Chemokine, and Growth and Differentiation Factor-15 Levels in Hemorrhagic Shock and Encephalopathy Syndrome: A Retrospective Observational Study	救急総合診療科(救急)	Nishiyama M, Tokumoto S, Ishida Y, Tomioka K, Aoki K, Seino Y, Toyoshima D, Takeda H, Kurosawa H, Sakuma H, Tada H, Nozu K, Maruyama A, Tanaka R, Iijima K, Nagase H.	Cytokine	137			155324		2021.1
救急外来での鎮静・鎮痛	救急総合診療科(救急)	林卓郎	小児科診療	83	12	1731	1737		2020
脳炎とおもっていたら……	救急総合診療科(救急)	林卓郎	EmerLog(エマログ)	33	5	34	39		2020
小児における鎮痛・鎮静 鎮痛(疼痛コントロール)の実践 救急外来	救急総合診療科(救急)	松井鋭	小児内科	52	7	931	934		2020
Clinical significance of interleukin-18 for the diagnosis and prediction of disease course in systemic juvenile idiopathic arthritis	リウマチ科	Mizutka M, Shimizu M, Inoue N, Ikawa Y, Nakagishi Y, Yasuoka R, Iwata N, Yachie A.	Rheumatology					OXFORD UNIVERSITY PRESS	Epub 2020.11.17

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Comparison of serum biomarkers for the diagnosis of macrophage activation syndrome complicating systemic juvenile idiopathic arthritis during tocilizumab therapy	リウマチ科	Irabu H, Shimizu M, Kaneko S, Inoue N, Mizuta M, Nakagishi Y, Yachie A	Pediatr Res.	88	6	934	939	Lippincott, Williams & Wilkins	2020.12
Tocilizumab modifies clinical and laboratory features of macrophage activation syndrome complicating systemic juvenile idiopathic arthritis	リウマチ科	Shimizu M, Mizuta M, Okamoto N, Yasumi T, Iwata N, Umebayashi H, Okura Y, Kinjo N, Kubota T, Nakagishi Y, Nishimura K, Mohri M, Yoshiro M, Yasumura J, Wakiguchi H, Mori M.	Pediatr Rheumatol Online J.	18	1			BioMed Central	2020.1.10
Cytokine profiles in human parechovirus type 3-induced sepsis-like syndrome	リウマチ科	Shimizu M, Shimizu H, Jinkawa A, Yamamiya M, Shinozaki E, Yokoyama T, Ohta K, Sakumura N, Takakuwa M, Fujita S, Fusagawa S, Nakagishi Y, Nariai E, Yachie A	Pediatr Infect Dis J.	39	2	137	139	Lippincott, Williams & Wilkins	2020.2
Resolution of Epstein-Barr virus-associated hemophagocytic lymphohistiocytosis associated with rapid immune reconstruction after a single course of CHOP therapy	リウマチ科	Chikagawa Y, Hikishima K, Mizumaki H, Sugimori C, Nakagishi Y, Yachie A, Nakao S	Int J Hematol.	112	6	889	893	Springer Singapore	2020.12

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
マツタケアレルギーの診断に好塩基球活性化試験が有用であった小児例	アレルギー科	井上葵子、百々菜月、田中裕也	小児科臨床	73	11	1554	1558	日本小児医事出版社	2020.11
CQ7 小児喘息患者の長期管理において、ダニアレルギーの特異的免疫療法は有用か？	アレルギー科	田中裕也、佐藤幸一郎、鈴木修一、中島陽一、錦戸知喜、平口雪子、三浦太郎、村井宏生、足立雄一	日本小児アレルギー学会誌	34	3	428	433	一般社団法人日本小児アレルギー学会	2020.8
Improvement of opsoclonus after congenital cataract surgery in an infant.	神経内科	Yamaguchi H, Morisada N, Maruyama A, Kosaki K, Nomura K.	Pediatr Int	62	1	108	109		2020 Jan
Empyema necessitatis due to Pseudomonas aeruginosa in a child with cerebral palsy.	神経内科	Nishimura A, Yamaguchi H, Ito Y, Tokumoto S, Toyoshima D, Kasai M, Maruyama A.	J Infect Public Health	13	1	140	142		2020 Jan
Detailed characteristics of acute encephalopathy with biphasic seizures and late reduced diffusion: 18-year data of a single-center consecutive cohort	神経内科	Yamaguchi H, Nishiyama M, Tokumoto S, Ishida Y, Tomioka K, Aoki K, Seino Y, Toyoshima D, Takeda H, Kurosawa H, Nozu K, Maruyama A, Tanaka R, Iijima, K, Nagase H.	J Neurol Sci	411					2020 Apr

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Acute rhabdomyolysis following viral infection with coxsackie A4 in a 50-day-old infant with Fukuyama congenital muscular dystrophy	神経内科	Yamaguchi H, Taniguchi-Ikeda M, Nagase H, Ito Y, Tokumoto S, Toyoshima D, Enkhjargal S, Nishiyama M, Awano H, Kurosawa H, Kasai M, Maruyama A, Iijima K.	J Infect Chemother	26	5	516	519		2020 May
Thiamylal anaesthetic therapy for febrile refractory status epilepticus in children.	神経内科	Ishida Y, Nishiyama M, Yamaguchi H, Tomioka K, Tanaka T, Takeda H, Tokumoto S, Toyoshima D, Maruyama A, Seino Y, Aoki K, Nozu K, Nishimura N, Kurosawa H, Iijima K, Nagase H.	Seizure	80		12	17		2020 Aug
Elevated cytokine, chemokine, and growth and differentiation factor-15 levels in hemorrhagic shock and encephalopathy syndrome: A retrospective observational study.	神経内科	Yamaguchi H, Nishiyama M, Tokumoto S, Ishida Y, Tomioka K, Aoki K, Seino Y, Toyoshima D, Takeda H, Kurosawa H, Sakuma H, Tada H, Nozu K, Maruyama A, Tanaka R, Iijima K, Nagase H.	Cytokine	137					2021 Jan

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Early non-convulsive seizures are associated with the development of acute encephalopathy with biphasic seizures and late reduced diffusion.	神経内科	Maruyama A, Tokumoto S, Yamaguchi H, Ishida Y, Tanaka T, Tomioka K, Nishiyama M, Fujita K, Toyoshima D, Nagase H.	Brain Dev						Epub ahead of print
Hematopoietic stem cell transplantation in solid organ recipients with emphasis on transplant complications: a nationwide retrospective survey on behalf of the JSHCT, transplant complications working group. .Biol	血液腫瘍内科	Shinohara A, Oshima K, Fuji S, Umeda K, Kako S, Kurokawa M, Tsukada N, Kasai M, Kondo T, Hashii Y, Nakamae H, Ikegame K, Kosaka Y, Shimada A, Nawa Y, Makoto Y, Yoshiko A, Fukuda T, Tanaka J, Ogata M.	Biol Blood Marrow Transplant.	26	1	66	75	Nature Publishing Group	2020.1
Disordered hemostasis associated with severely depressed fibrinolysis demonstrated using a simultaneous thrombin and plasmin generation assay during L-asparaginase induction therapy in pediatric acute lymphoblastic leukemia.	血液腫瘍内科	Ishihara T, Nogami K, Ochi S, Ishida T, Kosaka Y, Sawada A, Inoue M, Osone S, Imamura T, Hosoi H, Shima M.	Pediatr Blood Cancer.	67	1	e28016		Wiley	2020.1

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Level of seven neuroblastoma-associated mRNAs detected by droplet digital PCR is associated with tumor relapse/regrowth of high-risk neuroblastoma patients.	血液腫瘍内科	Thwin KKM, Ishida T, Uemura S, Yamamoto N, Lin KS, Tamura A, Kozaki A, Saito A, Kishimoto K, Mori T, Hasegawa D, Kosaka Y, Nino N, Takafuji S, Iijima K, Nishimura N.	J Mol Diagn.	22	2	236	246	Elsevir	2020.2
Risk-adjusted therapy for pediatric non-T cell ALL improves outcomes for standard risk patients: results of JACLS ALL-02.	血液腫瘍内科	Hasegawa D, Imamura T, Yumura-Yagi K, Takahashi Y, Usami I, Suenobu S, Nishimura S, Suzuki N, Hashii Y, Deguchi T, Saito A, Kato K, Kosaka Y, Hirayama M, Iguchi A, Kawasaki H, Hori H, Sato A, Toru T, Nakahata T, Oda M, Hara J, and Horibe K, for the Japan Association of Childhood Leukemia Study Group (JACLS).	Blood Cancer J.	10	2	23		Nature Publishing Group	2020.2

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
A Multicenter, Open-label, Clinical Trial to Assess the Effectiveness and Safety of Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation Using Reduced-intensity Conditioning in Relapsed/refractory Anaplastic Large-cell Lymphoma in Children.	血液腫瘍内科	Kada A, Fukano R, Mori T, Kamei M, Tanaka F, Ueyama J, Sekimizu M, Osumi T, Mori T, Koga Y, Ohki K, Fujita N, Mitsui T, Saito AM, Hashimoto H, Kobayashi R.	Acta Med Okayama.	74	1	89	94		2020.2
Predisposition to prolonged neutropenia after chemotherapy for paediatric acute myeloid leukaemia is associated with better prognosis in the Japanese Paediatric Leukaemia/Lymphoma Study Group AML-05 study.	血液腫瘍内科	Aoki T, Takahashi H, Tanaka S, Shiba N, Hasegawa D, Iwamoto S, Terui K, Moritake H, Nakayama H, Shimada A, Koh K, Goto H, Kosaka Y, Saito AM, Horibe K, Kinoshita A, Tawa A, Taga T, Adachi S, Tomizawa D.	Br J Haematol.					Wiley	2020.4
Clinical Outcomes after Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation in Children with Juvenile Myelomonocytic Leukemia: A Report from the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation	血液腫瘍内科	Yoshida N, Sakaguchi H, Yabe M, Hasegawa D, Hama A, Hasegawa D, Kato M, Noguchi M, Terui K, Takahashi Y, Cho Y, Sato M, Koh K, Kakuda H, Shimada H, Hashii Y, Sato A, Kato K, Atsuta Y, Watanabe K	Biol Blood Marrow Transplant.	26	5	902	910	Nature Publishing Group	2020.5

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Hematopoietic stem cell transplantation for pediatric acute promyelocytic leukemia in Japan.	血液腫瘍内科	Yamamoto S, Tomizawa D, Kudo K, Hasegawa D, Taga T, Yanada M, Kondo T, Nakazawa Y, Eto T, Inoue M, Kato K, Atsuta Y, Ishida H.	Pediatr Blood Cancer.	67	5	e28181		Wiley	2020.5
Clinical practice recommendations for the diagnosis and management of human herpesvirus-6B encephalitis after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation: the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation	血液腫瘍内科	Ogata M, Uchida N, Fukuda T, Ikegame K, Kamimura T, Onizuka M, Kato K, Kobayashi H, Sasahara Y, Sawa M, Sawada A, Hasegawa D, Masuko M, Miyamoto T, Okamoto S	Bone Marrow Transplant.	55	6	1004	1013	Nature Publishing Group	2020.6
Pharmacokinetic analysis for model-supported therapeutic drug monitoring of busulfan in Japanese pediatric hematopoietic stem cell transplantation recipients.	血液腫瘍内科	Kishimoto K, Hasegawa D, Irie K, Oksada A, Tamura A, Yamamoto N, Saito A, Kozaki A, Ishida T, Fukushima S, Kosaka Y.	Pediatr Transplant	24	4	e13696		Wiley	2020.6
C/EBP β isoforms sequentially regulate regenerating mouse hematopoietic stem/progenitor cells	血液腫瘍内科	Sato A, Kamio N, Yokota A, Hayashi Y, Tamura A, Miura Y, Maekawa T, Hirai H	Blood Adv.	4	14	3343	3356	Elsevir	2020.7

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Reduced-intensity conditioning is effective for hematopoietic stem cell transplantation in young pediatric patients with Diamond-Blackfan anemia.	血液腫瘍内科	Koyamaishi S, Kamio T, Kobayashi A, Sato T, Kudo K, Sasaki S, Kanezaki R, Hasegawa D, Muramatsu H, Takahashi Y, Sasahara Y, Hiramatsu H, Kakuda H, Tanaka M, Ishimura M, Nishi M, Ishiguro A, Yabe H, Sarashina T, Yamamoto M, Yuza Y, Hyakuna N, Yoshida K, Kanno H, Ohga S, Ohara A, Kojima S, Miyano S, Ogawa S, Toki T, Terui K, Ito E.	Bone Marrow Transplant.					Nature Publishing Group	2020.9
Pulmonary hypertension related to hereditary folate malabsorption in an infant.	血液腫瘍内科	Miyashita N, Kurosawa H, Yamashita Y, Miki Y, Ishida T.	Pediatr Int.	62	9	1119	1120	Wiley	2020.9
Outcomes of Local Radiation and Intensified Combined Intrathecal Methotrexate and High-dose Chemotherapy for Intracranial Germ Cell Tumors.	血液腫瘍内科	Yamasaki K, Okada K, Soejima T, Kosaka Y, Nagashima T, Hara J.	J Pediatr Hematol Oncol.	42	7	e551	e557	Wolters Kluwer	2020.10

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Landscape of driver mutations and their clinical impacts in pediatric B-cell precursor acute lymphoblastic leukemia.	血液腫瘍内科	Ueno H, Yoshida K, Shiozawa Y, Nannya Y, Iijima-Yamashita Y, Kiyokawa N, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Isobe T, Seki M, Kimura S, Makishima H, Nakagawa MM, Kakiuchi N, Kataoka K, Yoshizato T, Nishijima D, Deguchi T, Ohki K, Sato A, Takahashi H, Hashii Y, Tokimasa S, Hara J, Kosaka Y, Kato K, Inukai T, Takita J, Imamura T, Miyano S, Manabe A, Horibe K, Ogawa S, Sanada M.	Blood Adv.	4	20	5165	5173	Elsevir	2020.10
Low multiplication value of absolute monocyte count and absolute lymphocyte count at diagnosis may predict poor prognosis in neuroblastoma.	血液腫瘍内科	Tamura A, Inoue S, Mori M, Noguchi J, Nakamura S, Saito A, Kozaki A, Ishida T, Sadaoka K, Hasegawa D, Kosaka Y, Miyanishi M.	Front Oncol.	10		572413			2020.10

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
CNS Low-grade Diffusely Infiltrative Tumors With INI1 Deficiency, Possessing a High Propensity to Progress to Secondary INI1-deficient Rhabdoid Tumors.	血液腫瘍内科	Nobusawa S, Nakata S, Nakano Y, Kawamura A, Yoshida M, Tamura A, Hasegawa D, Kosaka Y, Ito I, Watanabe R, Oishi T, Hayashi N, Ishikawa E, Sakamoto N, Okura N, Murakami C, Ichimura K, Hirato J, Yokoo H.	Am J Surg Pathol.	44	11	1459	1468	Wolters Kluwer	2020.11
Attempts to optimize post-induction treatment in childhood acute myeloid leukemia without core binding factors: a report from the Japanese Pediatric Leukemia/Lymphoma Study Group (JPLSG).	血液腫瘍内科	Hasegawa D, Tawa A, Tomizawa D, Watanabe T, Saito MA, Kudo K, Taga T, Iwamoto S, Shimada A, Terui K, Miritake H, Kinoshita A, Takahashi H, Nakayama H, Koh K, Goto H, Kosaka Y, Miyachi H, Horibe K, Nakahata T, Adachi S.	Pediatr Blood Cancer.	67	12	e28692		Wiley	2020.12

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Prognostic and therapeutic factors influencing the clinical outcome of metastatic Ewing sarcoma family of tumors: A retrospective report from the Japan Ewing Sarcoma Study Group	血液腫瘍内科	Umeda K, Miyamura T, Yamada K, Sano H, Hosono A, Sumi M, Okita H, Kamio T, Maeda N, Fujisaki H, Jyoko R, Watanabe A, Hosoya Y, Hasegawa D, Takenaka S, Nakagawa S, Chin M, Ozaki T.	Pediatr Blood Cancer.			e28844		Wiley	2020.12
混合型総肺静脈還流異常症修復術後に遺残垂直静脈を介する症候性門脈体循環シャントを来した1例	循環器内科	矢戸亜由美、 長谷川智巳、 亀井直哉、林賢、 松久弘典、大嶋義博、 田中敏克	日本小児循環器学会雑誌	36	3	263	268		2020.10
Successful balloon valvuloplasty using direct puncture of the heart for pentalogy of Cantrell with complete ectopia cordis, low birth weight, single ventricle and severe pulmonary stenosis.	循環器内科	Tanaka T, Kubo S, Kamei N	Cardiol Young	30	12	1951	1953		2020.10
Mid-term outcomes of cor triatriatum repair: comparison of biventricular physiology and univentricular physiology.	循環器内科	Nagao H, Tanaka T	Cardiol Young	31	2	186	196		2020.11
心臓疾患の移行期医療（周産期-小児循環器-循環器内科-周産期）思春期・移行期の先天性心疾患女性患者 成長過程における心理的問題にどう対応するか（解説）	循環器内科	城戸佐知子	日本女性医学学会雑誌	27	4	600	603		2020.7
中枢神経疾患を契機に発症した小児たこつぼ心筋症	循環器内科	林賢、田中敏克、 三木康暢	日本小児科学会雑誌	124	8	1239	1245		2020.8

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
二重供給を伴う肺動静脈瘻からの出血に難渋した遺伝性出血性毛細血管拡張症	循環器内科	田中敏克、上村和也、三木康暢、松岡道生、亀井直哉、小川禎治、富永健太、城戸佐知子	日本小児科学会雑誌	124	5	832	837		2020.5
小児の一過性意識消失の診断の内訳とその特徴	循環器内科	小川禎治、田中敏克、城戸佐知子	心電図	40	3	28	32		2020.3
High-Takeoff Coronary Artery in Hypoplastic Left Heart Syndrome and Its Variant.	循環器内科	Hayashi K, Matsusima S, Tanaka T, Oshima Y	Ann Thorac Surg.	109	6	465	465		2020.6
Double drainage of total anomalous pulmonary venous connection revealed after surgical repair of a supracardiac total anomalous pulmonary venous connection	循環器内科	Nagao H, Tominaga K, Kamei N, Tanaka T	Clinical Case Reports	8		3012	3016		2020.9
体位性起立頻脈症候群の症状の一時的な急性増悪時の対応について：生理食塩水静注療法・飲水療法を中心に	循環器内科	小川禎治	子どもの心とからだ	29	3	277	280		2020.11
Molecular mechanisms determining severity in patients with Pierson syndrome.	腎臓内科	Minamikawa S, Miwa S, Inagaki T, Nishiyama K, Kaito H, Ninchoji T, Yamamura T, Nagano C, Sakakibara N, Ishimori S, Hara S, Yoshikawa N, Hirano D, Harada R, Hamada R, Matsumoto N, Nagata M, Shima Y, Nakanishi K, Nagase H, Takeda H, Morisada N, Iijima K, Nozu K.	J Hum Genet	65	4	355	362		2020.1

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Crescentic IgA nephropathy in children.	腎臓内科	Shima Y, Nakanishi K, Hama T, Mukaiyama H, Sato M, Tanaka Y, Tanaka R, Kaito H, Nozu K, Sako M, Iijima K, Yoshikawa N.	Pediatr Nephrol	35	6	1005	1014		2020.1
Clinical and genetic variability of PAX2-related disorder in the Japanese population.	腎臓内科	Rossanti R, Morisada N, Nozu K, Kamei K, Horinouchi T, Yamamura T, Minamikawa S, Fujimura J, Nagano C, Sakakibara N, Ninchoji T, Kaito H, Ito S, Tanaka R, Iijima K.	J Hum Genet	65	6	541	549		2020.3
Pathogenic evaluation of synonymous COL4A5 variants in X-linked Alport syndrome using a minigene assay.	腎臓内科	Horinouchi T, Yamamura T, Minamikawa S, Nagano C, Sakakibara N, Nakanishi K, Shima Y, Morisada N, Ishiko S, Aoto Y, Nagase H, Takeda H, Rossanti R, Ishimori S, Kaito H, Matsuo M, Iijima K, Nozu K.	Mol Genet Genomic Med	8	8	e1342			2020.6

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Common risk variants in NPHS1 and TNFSF15 are associated with childhood steroid-sensitive nephrotic syndrome.	腎臓内科	Jia X, Yamamura T, Gbadegesin R, McNulty MT, Song K, Nagano C, Hitomi Y, Lee D, Alba Y, Khor SS, Ueno K, Kawai Y, Nagasaki M, Noiri E, Horinouchi T, Kaito H, Hamada R, Okamoto T, Kamei K, Kaku Y, Fujimaru R, Tanaka R, Shima Y; Research Consortium on Genetics of Childhood Idiopathic Nephrotic Syndrome in Japan, Baek J, Kang HG, Ha JS, Han KH, Yang EM; Korean Consortium of Hereditary Renal Diseases in Children, Abeyagunawardena A, Lane B, Chryst-Stangl M, Esezobor C, Solarin A; Midwest Pediatric Nephrology Consortium (Genetics of Nephrotic Syndrome Study Group), Dossier C, Deschênes G; NEPHROVIR, Vivarelli M, Debiec H, Ishikura K, Matsuo M, Nozu K, Ronco P, Cheong HI, Sampson MG, Tokunaga K, Iijima K.	Kidney Int	98	5	1308	1322		2020.6

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
A rare case of peritonitis in a young woman on peritoneal dialysis.	腎臓内科	Inaguma Y, Kaito H, Tanaka R.	CEN Case Rep	9	4	448	449		2020.6
Genotype-phenotype correlations influence the response to angiotensin-targeting drugs in Japanese patients with male X-linked Alport syndrome.	腎臓内科	Yamamura T, Horinouchi T, Nagano C, Omori T, Sakakibara N, Aoto Y, Ishiko S, Nakanishi K, Shima Y, Nagase H, Takeda H, Rossanti R, Ye MJ, Nozu Y, Ishimori S, Ninchoji T, Kaito H, Morisada N, Iijima K, Nozu K.	Kidney Int	98	6	1605	1614		2020.7
Glomerular galactose-deficient IgA1 expression analysis in pediatric patients with glomerular diseases.	腎臓内科	Ishiko S, Horinouchi T, Fujimaru R, Shima Y, Kaito H, Tanaka R, Ishimori S, Kondo A, Nagai S, Aoto Y, Sakakibara N, Nagano C, Yamamura T, Yoshimura M, Nakanishi K, Fujimura J, Kamiyoshi N, Nagase H, Yoshikawa N, Iijima K, Nozu K.	Sci Rep	20	10	14026			2020.7

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Clinicopathological significance of glomerular capillary IgA deposition in childhood IgA nephropathy	腎臓内科	Shima Y, Nakanishi K, Mukaiyama H, Tanaka Y, Wada T, Tanaka R, Kaito H, Nozu K, Sako M, Iijima K, Yoshikawa N.	Pediatr Nephrol	36	4	899	908		2020.10
An old and new complication in a child with nephrotic syndrome: Questions.	腎臓内科	Inaguma Y, Kaito H, Horinouchi T, Ogawa Y, Yoshida M, Yoshikawa N, Tanaka R.	Pediatr Nephrol						2020.10
An old and new complication in a child with nephrotic syndrome: Answers.	腎臓内科	Inaguma Y, Kaito H, Horinouchi T, Ogawa Y, Yoshida M, Yoshikawa N, Tanaka R.	Pediatr Nephrol						2020.10
造血幹細胞移植後の短期的および長期的腎予後の検討	腎臓内科	稲熊洋祐、貝藤裕史、 斎藤敦郎、 長谷川大一郎、 小坂嘉之、 田中亮二郎	日本小児腎臓病学会雑誌	33	2	115	122		2020.11
【症候・疾患からみる小児の検査】疾患からみる臨床検査の進めかた 急性腎障害が疑われるとき	腎臓内科	貝藤裕史	小児科診療	15		294	298	診断と治療社	2020.4
【症例で学ぶ】腎泌尿器診療ガイドラインの使い方(第4章)小児の腎泌尿器疾患 特発性ネフローゼ症候群	腎臓内科	貝藤裕史	腎と透析	88		160	165	東京医学社	2020.6
小児敗血症	感染症内科	笠井正志	臨床と微生物	47	1	33	38	近代出版	2020.01
こどもの感冒への「薬」の処方	感染症内科	笠井正志	総合診療	30	3	290	294	医学書院	2020.03
小児は特殊か!?	感染症内科	茂木恒俊、笠井正志、 児玉和彦、鉄原健一	総合診療	30	3	274	283	医学書院	2020.03

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
こどもたちの未来のために	感染症内科	笠井正志、児玉和彦、 鉄原健一	総合診療	30	3	265	265	医学書院	2020.03
Urinary tract infection caused by Gardnerella vaginalis in a 2-month- old infant	感染症内科	Mana Hanzawa 1, Masashi Kasai 2, Tomohiro Sameshima 1, Ai Unzaki 1, Shinichi Fukuhara 1	Pediatr Int.	62	4	506	507	日本小児科学会	2020.04
急性胃腸炎	感染症内科	笠井正志	月間薬事	62	7	1224	1230	じほう	2020.7
夜間小児急病センターにおける抗 菌薬適正使用の現状(原著論文)	感染症内科	大竹正悟、日馬由貴、 岡田広、辰巳慧、 森雅人、平本龍吾、 笠井正志	日本小児科学会雑誌	124	8	1208	1213	日本小児科学会	2020.8
A case of polymicrobial bacteremia due to lung abscess after respiratory syncytial virus infection.	感染症内科	Otake S and Yamaguchi T and Imuta N and Nishi J and Kasai M.	Pediatr Int.	62	8	994	996	日本小児科学会	2020.8
休日夜間急患センターで小児の経 口抗菌薬適正使用を推進ー第3回 AMR対策普及啓発活動 厚生労働 大臣賞	感染症内科	笠井正志	AMRCRCホームページ			http://amr.ncgm.go.jp/case-study/012.html		AMRCRC	2020.9
肺切除・気管手術時の術後感染	外科、感染症内 科	藤枝悠希、森田圭一、 大竹正悟、笠井正志、 畠山理	小児外科	52	9	934	937	東京医学社	2020.9
重症度は？ 緊急性を評価しまし たか？	集中治療科、感 染症内科	吉田美苗、笠井正志	小児内科	52	10	1325	1332	東京医学社	2020.10
小児の急性胃腸炎に関するアング ート調査からみえた抗菌薬使用の 実態と課題 (原著論文)	感染症内科	近藤友里子、 大竹正悟、八若博司、 岡藤隆夫、笠井正志	兵庫県小児科医会報	74		23	30	兵庫県小児科医会	2020.10
小児呼吸器感染症とパネル検査の 今後	感染症内科	大竹正悟、笠井正志	小児科臨床	73	10	1411	1415	日本小児医事出版社	2020.10
RSウイルス感染症の臨床ウイルス 学	感染症内科	笠井正志	LISA	27	10	1026	1030	MEDSI メディカル ・サイエンス・イン ターナショナル	2020.10

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
感染性心内膜炎	感染症内科	大竹正悟	小児救命救急・ICUピックアップ④ 感染症			69	76	MEDSI メディカル・サイエンス・インターナショナル	2020.11
2016年から2019年における兵庫県内9医療機関でのRSウイルス感染症による入院動向について(原著論文)	感染症内科	宇都宮剛、大竹正悟、鞍谷沙織、笠井正志	小児感染免疫	2	4	353	361	日本小児感染症学会	2020.11
小児泌尿器科における周術期経口第3世代セファロスポリン系抗菌薬削減及び静注抗菌薬適正使用の効果(原著論文)	感染症内科	渡邊綾子、大竹正悟、磯元啓吾、寺崎展幸、石田達彦、垣尾尚美、笠井正志、福井由美子	医療薬学	46	12	732	738		2020.12
インフルエンザとワクチンと麻酔	感染症内科	笠井正志	LISA	27	12	1247	1249	MEDSI メディカル・サイエンス・インターナショナル	2020.12
感染症教育のこれからー指導者からー「小児専門病院での感染症教育」	感染症内科	笠井正志	MCI Growth Ring			https://growinghealthcare/knowledge/report/201107/henctofth.html		株式会社 エム・シー・アイ	2020.12
学校検尿を契機に診断されたPKHD1遺伝子変異を有する多発性嚢胞腎の1例	臨床遺伝科	森口駿、神田祥一郎、森貞直哉、梶保祐子、張田豊、飯島一誠、岡明	小児科臨床	73	9	1316	1320	日本小児医事出版社	2020.9
同じ変異を有する同胞と表現型の差を認めたWDR35変異によるネフロン癆関連シリオパチーの1例	臨床遺伝科	角田朋大、西岡隆文、柴野貴之、寺崎英佑、前川講平、森貞直哉、飯島一誠、服部益治、竹島泰弘	日本小児腎不全学会雑誌	40		143	147	日本小児腎不全学会	2020.7
遺伝学的に診断できた常染色体劣性多発性嚢胞腎の遺伝型と臨床像	臨床遺伝科	森貞直哉、野津寛大、中西浩一、飯島一誠	発達腎研究会誌	28	1	33	35	発達腎研究会	2020.4
【腎臓病患者の移行期医療-小児科から成人診療科へ】移行期医療と遺伝カウンセリング	臨床遺伝科	森貞直哉、洪本加奈	腎と透析	89	5	813	817	東京医学社	2020.11
【遺伝情報と遺伝カウンセリング】小児科領域別のポイント 腎疾患	臨床遺伝科	森貞直哉、野津寛大、飯島一誠	小児内科	52	8	1067	1070	東京医学社	2020.8

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
急性心不全を契機に発見された頭蓋外胚葉異形成(CED)の姉妹例	臨床遺伝科	齊藤綾子(茨城県立こども病院小児科)、泉維昌、鈴木竜太郎、塚越隆司、林立申、塩野淳子、堀米仁志、稲垣隆介、濱田陸、幡谷浩史、緒方謙太郎、森貞直哉、野津寛大、飯島一誠、須磨崎亮	日本小児腎臓病学会雑誌	33	1	43	50	日本小児腎臓病学会	2020.4
Bardet-Biedl Syndrome Caused by Skipping of SCLT1 Complicated by Microvesicular Steatohepatitis.	臨床遺伝科	Horiuchi K, Kogiso T, Sagawa T, Ito T, Taniyai M, Miura K, Hattori M, Morisada N, Hashimoto E, Tokushige K.	Intern Med	59	21	2719	2724	The Japanese Society of Internal Medicine	2020.11.1
A woman with a dual genetic diagnosis of autosomal dominant tubulointerstitial kidney disease and KBG syndrome.	臨床遺伝科	Tanaka Y, Morisada N, Suzuki T, Ohashi Y, Ye MJ, Nozu K, Tsuruta S, Iijima K.	CEN Case Rep					SpringerNature	2020.10.13
A Japanese boy with NAA10-related syndrome and hypertrophic cardiomyopathy.	臨床遺伝科	Shishido A, Morisada N, Tominaga K, Uemura H, Haruna A, Hanafusa H, Nozu K, Iijima K.	Hum Genome Var.	7		23		SpringerNature	2020.8.17

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Genotype-phenotype correlations influence the response to angiotensin-targeting drugs in Japanese patients with male X-linked Alport syndrome.	臨床遺伝科	Yamamura T, Horinouchi T, Nagano C, Omori T, Sakakibara N, Aoto Y, Ishiko S, Nakanishi K, Shima Y, Nagase H, Takeda H, Rossanti R, Ye MJ, Nozu Y, Ishimori S, Ninchoji T, Kaito H, Morisada N, Iijima K, Nozu K.	Kidney Int.	98	6	1605	1614	Elsevier	2020.7.24
Comparison of clinical and genetic characteristics between Dent disease 1 and Dent disease 2.	臨床遺伝科	Sakakibara N, Nagano C, Ishiko S, Horinouchi T, Yamamura T, Minamikawa S, Shima Y, Nakanishi K, Ishimori S, Morisada N, Iijima K, Nozu K.	Pediatr Nephrol.	35	12	2319	2326	SpringerNature	2020.7.18
A case with somatic and germline mosaicism in COL4A5 detected by multiplex ligation-dependent probe amplification in X-linked Alport syndrome.	臨床遺伝科	Aoto Y, Kise T, Nakanishi K, Nagano C, Horinouchi T, Yamamura T, Ishiko S, Sakakibara N, Shima Y, Morisada N, Iijima K, Nozu K.	CEN Case Rep	9	4	418	422	SpringerNature	2020.6.26

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Pathogenic evaluation of synonymous COL4A5 variants in X-linked Alport syndrome using a minigene assay.	臨床遺伝科	Horinouchi T, Yamamura T, Minamikawa S, Nagano C, Sakakibara N, Nakanishi K, Shima Y, Morisada N, Ishiko S, Aoto Y, Nagase H, Takeda H, Rossanti R, Ishimori S, Kaito H, Matsuo M, Iijima K, Nozu K.	Mol Genet Genomic Med	8	8	1342		Wiley	2020.6.16
Development of an exon skipping therapy for X-linked Alport syndrome with truncating variants in COL4A5.	臨床遺伝科	Yamamura T, Horinouchi T, Adachi T, Terakawa M, Takaoka Y, Omachi K, Takasato M, Takaishi K, Shoji T, Onishi Y, Kanazawa Y, Koizumi M, Tomono Y, Sugano A, Shono A, Minamikawa S, Nagano C, Sakakibara N, Ishiko S, Aoto Y, Kamura M, Harita Y, Miura K, Kanda S, Morisada N, Rossanti R, Ye MJ, Nozu Y, Matsuo M, Kai H, Iijima K, Nozu K.	Nat Commun	11	1	2777		SpringerNature	2020.6.2

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Bardet-Biedl syndrome in two unrelated patients with identical compound heterozygous SCLT1 mutations.	臨床遺伝科	Morisada N, Hamada R, Miura K, Ye MJ, Nozu K, Hattori M, Iijima K.	CEN Case Rep	9	3	260	265	SpringerNature	2020.4.6
Medullary Cystic Kidney Disease and Focal Segmental Glomerulosclerosis Caused by a Compound Heterozygous Mutation in TTC21B.	臨床遺伝科	Hibino S, Morisada N, Takeda A, Tanaka K, Nozu K, Yamakawa S, Iijima K, Fujita N.	Intern Med	59	14	1735	1738	The Japanese Society of Internal Medicine	2020.4.2
Clinical and genetic variability of PAX2-related disorder in the Japanese population.	臨床遺伝科	Rossanti R, Morisada N, Nozu K, Kamei K, Horinouchi T, Yamamura T, Minamikawa S, Fujimura J, Nagano C, Sakakibara N, Ninchoji T, Kaito H, Ito S, Tanaka R, Iijima K.	J Hum Genet	65	6	541	549	SpringerNature	2020.3
Molecular mechanisms determining severity in patients with Pierson syndrome.	臨床遺伝科	Minamikawa S, Miwa S, Inagaki T, Nishiyama K, Kaito H, Ninchoji T, Yamamura T, Nagano C, Sakakibara N, Ishimori S, Hara S, Yoshikawa N, Hirano D, Harada R, Hamada R, Matsunoshita N, Nagata M, Shima Y, Nakanishi K, Nagase H, Takeda H, Morisada N, Iijima K, Nozu K.	J Hum Genet	65	4	355	362	SpringerNature	2020.1.21

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
MPPH syndrome with aortic coarctation and macrosomia due to CCND2 mutations.	臨床遺伝科	Sameshima T, Morisada N, Egawa T, Kugo M, Iijima K.	Pediatr Int.	62	1	115	117	Japan Pediatric Society	2020.1.19
Improvement of opsoelonus after congenital cataract surgery in an infant.	臨床遺伝科	Yamaguchi H, Morisada N, Maruyama A, Kosaki K, Nomura K.	Pediatr Int.	62	1	108	109	Japan Pediatric Society	2020.1.19
Expanding the phenotype of Bardet-Biedl syndrome: Newly diagnosed sibling cases.	臨床遺伝科	Aizawa T, Morisada N, Nozu K, Tandai S, Tanaka H.	Pediatr Int.	62	1	101	103	Japan Pediatric Society	2020.1.15
Inherited salt-losing tubulopathy: An old condition but a new category of tubulopathy.	臨床遺伝科	Nozu K, Yamamura T, Horinouchi T, Nagano C, Sakakibara N, Ishikura K, Hamada R, Morisada N, Iijima K.	Pediatr Int.	62	4	428	437	Japan Pediatric Society	2020.4.13
IGF2 Mutations: Report of Five Cases, Review of the Literature, and Comparison with H19/IGF2:IG-DMR Epimutations	臨床遺伝科	Masunaga Y, Inoue T, Yamoto K, Fujisawa Y, Sato Y, Kawashima- Sonoyama Y, Morisada N, Iijima K, Ohata Y, Namba N, Suzumura H, Kuribayashi R, Yamaguchi Y, Yoshihashi H, Fukami M, Saito H, Kagami M, Ogata T.	J Clin Endocrinol Metab	105	1	116	125	OXFORD	2020.1.1

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
An anterior cricoid split and long-term silastic T-tube stenting for children with severe subglottic stenosis.	小兒外科	Yokoi A, Nakao M, Bitoh Y	Pediatric Surgery International	36	6	697	700	Springer International,	2020.4.22.
【小兒外科領域における感染症-抗菌薬の選択と意義】肺切除・気管手術時の術後感染	小兒外科	藤枝悠希、森田圭一、大竹正悟、笠井正志、畠山理	小兒外科	第52巻	第9号	934	937	東京医学社	2020.9.25
Geometry of cusp and root determines aortic valve function	心臓血管外科	Shunsuke Matsushima, Irem Karliova, Simon Gauer, Shunsuke Miyahara, Hans-Joachim Schäfers	Indian Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery	36	Suppl 1	64	70	Springer	2020.1
Aortic root remodeling in bicuspid and tricuspid aortic valves-long-term results	心臓血管外科	Shunsuke Miyahara, Irem Karliova, Christian Giebels, Ulrich Schneider, Shunsuke Matsushima, Hans-Joachim Schäfers	Indian Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery	36	Suppl 1	81	87	Springer	2020.1
Reexamining remodelling in children	心臓血管外科	Shunsuke Matsushima, Alexander Heß, Julia Renata Lämmerzahl, Irem Karliova, Christian Giebels, Hans-Joachim Schäfers	European Journal of Cardio-Thoracic Surgery	57	6	1091	1097	Oxford University Press	2020.01.23
High-Takeoff Coronary Artery in Hypoplastic Left Heart Syndrome and Its Variant	循環器内科, 心臓血管外科	Ken Hayashi, Shunsuke Matsushima, Toshikatsu Tanaka, Yoshihiro Oshima	The Annals of Thoracic Surgery	109	6	e465	e465	Elsevier	2020.6
小児体外式膜型人工肺装置の現状	心臓血管外科	松久弘典	日本小児循環器学会雑誌	36	2	107	115	日本小児循環器学会	2020.6

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Bicuspidization and Annuloplasty Provide a Functioning Configuration to the Unicuspid Aortic Valve	心臓血管外科	Takashi Igarashi, Shunsuke Matsushima, Atsushi Shimizu, Tristan Ehrlich, Irem Karliova, Hans-Joachim Schäfers	The Annals of Thoracic Surgery	110	1	111	119	Elsevier	2020.7
Computed tomography-based surgical strategy for total anomalous pulmonary venous connection	心臓血管外科	Hironori Matsuhisa, Yoshihiro Oshima, Tomonori Higuma, Shunsuke Matsushima, Shota Hasegawa, Yuson Wada, Michio Matsuoka, Toshikatsu Tanaka	European Journal of Cardio-Thoracic Surgery	58	2	237	245	Oxford University Press	2020.8
Mid-term durability of polytetrafluoroethylene patches in unicuspid aortic valve repair	心臓血管外科	Irem Karliova, Tristan Ehrlich, Shunsuke Matsushima, Sebastian Ewen, Hans-Joachim Schäfers	Interactive CardioVascular and Thoracic Surgery	31	4	555	558	Oxford University Press	2020.8
Switch to Extracorporeal Membrane Oxygenation During Cardiac and Tracheal Repair	心臓血管外科	Shunsuke Matsushima, Hironori Matsuhisa, Keichi Morita, Akiko Yokoi, Kosaku Maeda, Yoshihiro Oshima	The Annals of Thoracic Surgery	110	3	e181	e183	Elsevier	2020.9
混合型総肺静脈還流異常症修復術後に遺残垂直静脈を介する症候性門脈体循環シャントを来した1例	循環器内科・心臓血管外科	宍戸亜由美、 長谷川智巳、 亀井直哉、林賢、 松久弘典、大嶋義博、 田中敏克	日本小児循環器学会雑誌	36	3	263	268	日本小児循環器学会	2020.10
Cusp-based geometric height-oriented repair of a pediatric aortic valve	心臓血管外科	Shunsuke Matsushima, Shota Hasegawa, Hironori Matsuhisa, Yoshihiro Oshima	Multimedia Manual of Cardiothoracic Surgery	online	online	online	online	The European Association for Cardio-Thoracic Surgery	2020.12.3

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Effect of Long-term Administration of Prostaglandin E 1 on Morphologic Changes in Ductus Arteriosus	心臓血管外科	Iwaki R, Matsuhisa H, Minamisawa S, Akaike T, Hoshino M, Yagi N, Morita K, Shinohara G, Kaneko Y, Yoshitake S, Takahashi M, Tsukube T, Oshima Y.	The Annals of Thoracic Surgery	110	6	2088	2095	Elsevier	2020.12
Clinical application of a new ternary polymer, SEC-1 coat™, for pediatriccardiopulmonary bypass circuits: a prospective randomized pilot study	心臓血管外科	Tomomi Hasegawa, Yoshihiro Oshima,Shinji Yokoyama,Asuka Akimoto,Yusuke Misaka and Shota Akiyama	Perfusion	online	online	1	7	SAGE PUBLICATIONS LTD.	2020.
Visualization and Quantification of the Atrioventricular Conduction Axis in Hearts With Ventricular Septal Defect Using Phase Contrast Computed Tomography	心臓血管外科	Yoshitake S, Kaneko Y, Morita K, Hoshino M, Oshima Y, Takahashi M, Anderson RH; SPring 8 Cardiovascular Structure Analyzing Research Group.	J Thorac Cardiovasc Surg	160	2	490	496	Elsevier	2020.8
Selective Lesser Curvature Augmentation with Geometric Study for Repair of Aortic Arch Obstruction	心臓血管外科	Hasegawa S, Matsushima S, Matsuhisa H, Higuma T, Wada Y, Oshima Y.	Ann Thorac Surg	online	online	online	online	Elsevier	2020.11.3

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Management and problems of prolonged survival with hydranencephaly in the modern treatment era.	脳神経外科	Akutsu N, Azumi M, Koyama J, Kawamura A, Taniguchi M, Kohmura E	Childs Nerv Syst.	36	6	1239	1243		2020
頭の形外来と頭蓋形状矯正ヘルメットを用いた頭位斜頭治療	脳神経外科	阿久津宣行、 小山淳二、河村淳史	小児の脳神経	45	2	90	93	なるにあ	2020
小児水頭症に対するETVの再考	脳神経外科	阿久津宣行、 小山淳二、河村淳史	小児の脳神経	45	1	25	29	なるにあ	2020
日常診療に役立つ新生児外科系疾患の知識	脳神経外科	河村淳史	周産期医学	50	2	155	158	東京医学社	2020
CNS Low-grade Diffusely Infiltrative Tumors With INI1 Deficiency. Possessing a High Propensity to Progress to Secondary INI1-deficient Rhabdoid Tumors.	脳神経外科	Nobusawa S, Nakata S, Nakano Y, Kawamura A, Yoshida M, Tamura A, Hasegawa D, Kosaka Y, Ito I, Watanabe R, Oishi T, Hayashi N, Ishikawa E, Sakamoto N, Okura N, Murakami C, Ichimura K, Hirato J, Yokoo H.	Am J Surg Pathol	44		1459	1468		2020
内反足・反張膝（日常診療に役立つ新生児外科系疾患の知識 整形外科）	整形外科	薩摩眞一	周産期医学	50	2	233	236	東京医学社	2020.2
子どもの代表的な疾患④内反足	整形外科	薩摩眞一	整形外科看護	25	10	91	93	MCメデイカ出版	2020.10
スポーツ外傷、障害と鑑別を要する小児科疾患成長期のスポーツ外傷と障害	整形外科	小林大介	関節外科	39	2	142	149	メデイカルビュー社	2020.2
PRPによる関節軟骨のルブリシン(Superficial Zone Protein) 発現	整形外科	坂田亮介	Bone Joint Nerve	10	2	159	164	アークメディア	2020.4
The Predictive value of synovial glucose level in septic arthritis	整形外科	Maki Kinugasa	Journal of pediatric orthopaedics B	29		292	296	Wolters Kluwer Health	2020.3

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
DDHにおけるIHD分類による評価	整形外科	衣笠真紀	日本小児整形外科学会雑誌	29	1	78	80	日本小児整形外科学会	2020
二分脊椎症に伴う麻痺性内足に對し、中足骨骨切りを行った1例	整形外科	衣笠真紀	近畿小児整形外科	32		32	34	近畿小児整形外科懇話会	2020.1
児童虐待に特徴的な身体所見 眼科的特徴	眼科	野村耕治	救急医学	44	11	1430	1434	ヘルス出版	2020.10.30
硝子体播種が主体で成長が緩徐な網膜芽細胞腫の1例	眼科	別所佳世子、野村耕治、中野由美子、柳沢翠芳	眼科臨床紀要	13	1	5	8	眼科臨床紀要会	2020.1.31
オプソクローヌスを合併した先天性白内障の1例	眼科	松野裕樹、野村耕治	眼科臨床紀要	13	5	361	363	眼科臨床紀要会	2020.5.31
すべて見せませす！患者説明・同意書マニユアル 10白内障 小児白内障手術	眼科	松野裕樹	臨床眼科	74	11	180	181	医学書院	2020.10.30
Three-year prospective study on olfaction of patients with Parkinson's disease.	耳鼻咽喉科	Fujio H, Inokuchi G, Kuroki S, Tatehara S, Katsunuma S, Kowa H, Nibu KI.	Auris Nasus Larynx	47	5	899	904	Elsevier B.V.	2020.10
Differences in hearing levels between siblings with hearing loss caused by GJB2 mutations	耳鼻咽喉科	Fujio H, Hosoya M, Nara K, Morimoto N, Sakamoto H, Otsu M, Nakano A, Arimoto Y, Masuda S, Sugiuchi T, Masuda S, Morita N, Ogawa K, Kaga K, Matsunaga T	Auris Nasus Larynx	47	6	983	942	Elsevier B.V.	2020.12
膀胱拡大術、腹壁導尿管路造設を施行したHinman-Allen症候群の2例	泌尿器科	春名晶子、武中良大、大饗政嗣、杉多良文	日本小児泌尿器科学会雑誌	29	1	43	45	日本小児泌尿器科学会	2020.6
急性陰嚢症	泌尿器科	杉多良文、春名晶子、神野雅	小児外科	52	6	623	626	東京医学社	2020.6

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
〈小児泌尿器科プロフェッショナル ルレベルの手術〉異所性尿管瘤重 複腎盂尿管の上腎に機能がある場 合となない場合の手術のストラテジ ー	泌尿器科	杉多良文、春名晶子、 神野雅	臨床泌尿器科	74	7	490	496	グラクソ・スミスク ライン株式会社	2020.6
プラタナス ～私のカルテから～ 絶対に負れない戦い	泌尿器科	杉多良文	週刊日本医事新報	5027		3	3	興和株式会社	2020.8
性分化疾患の診療性分化疾患での 男性外陰部形成術	泌尿器科	杉多良文、神野雅、 春名晶子三田淑恵、 松崎和炯	泌尿器科	12	2	140	146	科学評論社	2020.8
Complete intraureteral stent placement relieves daytime urinary frequency compared with conventional placement in patients with an indwelling ureteral stent:post-hoc analysis of a randomized,controlled trial	泌尿器科	TOMOAKI MATSUZAKI	Scientific Reports	10	1	15892		nature reseach	2020.9
【新生児】 新生児管理の留意点 NICUでの管理：泌尿器系（尿 道下裂）	泌尿器科	杉多良文、神野雅、 春名晶子三田淑恵、 松崎和炯	周産期医学	50	11	1886	1890	アトムメディカル株 式会社	2020.11
日本小児麻酔学会第25回大会印象 記	麻酔科	香川哲郎	臨床麻酔	44	1	100	100	真興交易	2020.1
末梢神経ブロックを用いた小児の 術後鎮痛	麻酔科	香川哲郎、上嶋江利、 藤原孝志、末田彩、 高辻小枝子	日本臨床麻酔学会雑誌	40	2	198	205	日本臨床麻酔学会	2020.3
気管無形成II型にC型食道閉鎖を 合併した新生児の麻酔経験	麻酔科	秋泉春樹、松本祥、 藤原孝志、鈴木毅、 香川哲郎	麻酔	69	8	874	876	克誠堂	2020.8
新生児の術前評価 術前評価で勝 負は決まる	麻酔科	藤原孝志	LISA	27	9	924	930	メディカルサイエン スインターナシヨナ ル	2020.9
先天性胸骨裂に対する胸骨閉鎖術 の麻酔経験	麻酔科	喜多條真穂、 上嶋江利、香川哲郎	日本小児麻酔学会雑誌	26	1	129	132	日本小児麻酔学会	2020.10
NICUの災害対策などに関するア ンケート結果	新生児科	川瀬昭彦、平川英司、 大木茂、本田義信、 芳本誠司、和田和子、 茨聡	日本新生児成育医学会雑誌	32	1	86	90	日本成育医学会	2020.2

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
過去5年間の妊娠34週未満前期破水例の検討 妊娠延長期間、新生児IL-6値の検討	新生児科	船越徹、芳本誠司、吉田牧子	産婦人科の進歩	72	4	381	383	近畿産婦人科学会	2020.10
早産児の黄疸管理 神戸大学の新しい基準を用いて	新生児科	岩谷壮太、平山健太郎、片岡大、松井紗智子、芳本誠司	日本新生児成育医学雑誌	32	2	247	251	日本成育医学会	2020.10
A Novel Method for Measuring Serum Unbound Bilirubin Levels Using Glucose Oxidase-Peroxidase and Bilirubin-Inducible Fluorescent Protein (UnaG): No Influence of Direct Bilirubin	新生児科	Sota Iwatani, Keiji Yamana, Hajime Nakamura, Kosuke Nishida, Takeshi Morisawa, Masami Mizobuchi, Kayo Osawa, Kazumoto Iijima, Ichiro Morioka	Int J Mol Sci.	21	18				2020.9.16
Detection of Bacterial Infection Based on Age-Specific Percentile-Based Reference Curve for Serum Procalcitonin Level in Preterm Infants	新生児科	Noriko Fukuzumi, Kayo Osawa, Itsuko Sato, Sota Iwatani, Kenichiro Ohnuma, Takamitsu Imanishi, Kazumoto Iijima, Jun Saegusa, Ichiro Morioka	Clin Lab	66	1				2020.1.1
Low-dose lipopolysaccharide exposure can increase in vivo bilirubin production rates in newborn mice	新生児科	Sota Iwatani, Danielle R Jacobsen, Ronald J Wong, David K Stevenson	Acta Paediatr	109	8	1551	1559	Wiley	2020.8.1
Gestational Age Dependency of Umbilical Cord Serum IL-6 Levels for Detecting Fetal Inflammation	新生児科	Sota Iwatani, Takao Kobayashi, Sachiko Matsui, Akihiro Hirata, Miwa Yamamoto, Makiko Yoshida, Seiji Yoshimoto, Hideto Nakao	Am J Perinatol					Thieme	2020.11.26

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Successful management of aortic coarctation in a 556 g extremely preterm infant	新生児科	Emiko Takeoka, Sota Iwatani, Seiji Yoshimoto, Yoshihiro Oshima, Hideto Nakao	Pediatr Int	62	10	1199	1201	The Japan Pediatric Society	2020.9.15
Congenital herpes simplex virus infection in a 26-week extremely premature infant	新生児科	Sota Iwatani, Dai Kataoka, Seiji Yoshimoto	Arch Dis Child Fetal Neonatal Ed					BMJ	2020.9.7
High prevalence of cholestasis at a tertiary neonatal intensive care unit	新生児科	Sota Iwatani, Dai Kataoka, Shoko Tamaki, Tomoyuki Yokota, Seiji Yoshimoto	Pediatr Int	62	6	749	751	The Japan Pediatric Society	2020.6
Intrapericardial teratoma presenting hydrops fetalis in a 29-week preterm infant	新生児科	Risa Endo, Sota Iwatani, Dai Kataoka, Yoshitomo Samejima, Seiji Yoshimoto	Pediatr Int	62	9	1106	1108	The Japan Pediatric Society	2020.9
Computational discovery of therapeutic candidates for preventing preterm birth	新生児科	Brian L Le, Sota Iwatani, Ronald J Wong, David K Stevenson, Marina Sirota	JCI Insight	5	3			American Society for Clinical Investigation	2020.2.13
Massive right atrium thrombus in an extremely-low-birthweight infant	新生児科	Dai Kataoka, Sota Iwatani, Takao Kobayashi, Tomoyuki Yokota, Seiji Yoshimoto	Pediatr Int	62	4	500	501	The Japan Pediatric Society	2020.4
A cohort study of the universal neonatal urine screening for congenital cytomegalovirus infection.	産科	Yamada H, Tanimura K, Fukushima S, Fujioka K, Deguchi M, Sasagawa Y, Tairaku S, Funakoshi T, Morioka I.	J Infect Chemother.	26	8	790	794		2020 Aug

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Impact of tocolysis-intent magnesium sulfate and beta-adrenergic agonists on perinatal brain damage in infants born between 28-36 weeks' gestation.	産科	Kino E, Ohhashi M, Kawagoe Y, Sameshima H, Kamitomo M, Suga S, Yasuhi I, Funakoshi T.	J Obstet Gynaecol Res.	46	10	2027	2035		2020 Oct
Qualitative investigation of the factors that generate ambivalent feelings in women who give birth after receiving negative results from non-invasive prenatal testing.	産科	Yotsumoto J, Sekizawa A, Inoue S, Suzumori N, Samura O, Yamada T, Miura K, Masuzaki H, Sawai H, Murotsuki J, Hamanoue H, Kamei Y, Endo T, Fukushima A, Katagiri Y, Takeshita N, Ogawa M, Nishizawa H, Okamoto Y, Tairaku S, Kaji T, Maeda K, Matsubara K, Ogawa M, Osada H, Ohba T, Kawano Y, Sasaki A, Sago H; Japan NIPT Consortium.	BMC Pregnancy Childbirth.	17	20 (1)	112			2020 Feb
A cohort study of maternal screening for congenital Toxoplasma gondii infection: 12 years' experience.	産科	Yamada H, Tanimura K, Deguchi M, Tairaku S, Morizane M, Uchida A, Ebina Y, Nishikawa A.	J Infect Chemother.	25	6	427	430		2019 Jun

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Classification of factors involved in nonreportable results of noninvasive prenatal testing (NIPT) and prediction of success rate of second NIPT.	産科	Suzumori N, Sekizawa A, Takeda E, Samura O, Sasaki A, Akaishi R, Wada S, Hamanoue H, Hirahara F, Kuriki H, Sawai H, Nakamura H, Yamada T, Miura K, Masuzaki H, Yamashita T, Kamei Y, Namba A, Murotsuki J, Tanemoto T, Fukushima A, Haino K, Tairaku S, Matsubara K, Maeda K, Kaji T, Ogawa M, Osada H, Nishizawa H, Okamoto Y, Kanagawa T, Kakigano A, Endo M, Kitagawa M, Ogawa M, Izumi S, Katagiri Y, Takeshita N, Kasai Y, Naruse K, Neki R, Masuyama H, Hyodo M, Kawano Y, Ohba T, Ichizuka K, Nagamatsu T, Watanabe A, Nishikawa N, Hamajima N, Shirato N, Yotsumoto J, Nishiyama M, Koide K, Hirose T, Sago H.	Prenat Diagn.	39	2	100	106		2019 Jan
ちよつとライトな小児腫瘍の画像診断	放射線診断科	赤坂好宣	日本小児放射線学会誌	36	1	2	11	日本小児放射線学会	2020.3.25

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
The Japanese Intensive care Patient Database (JIPAD): A national intensive care unit registry in Japan	小児集中治療科	Irie, H., Okamoto, H., Uchino, S., Endo, H., Uchida, M., Kawasaki, T., Kumasawa, J., Tagami, T., Shigemitsu, H., Hashiba, E., Aoki, Y., Kurosawa, H., Hatakeyama, J., Ichihara, N., Hashimoto, S., Nishimura, M., JIPAD Working Group in the Japanese Society of Intensive Care Medicine	J Crit Care	55		86	94	World Federation of Societies of Intensive and Critical Care Medicine	2020.2
Survey of analgesia and sedation in pediatric intensive care units in Japan	小児集中治療科	Koizumi, T., Kurosawa, H.	Pediatr Int	62	5	535	541	Japan Pediatric Society	2020.5
Pulmonary hypertension related to hereditary folate malabsorption in an infant	小児集中治療科	Miyashita, N., Kurosawa, H., Yamashita, Y., Miki, Y., Ishida, T.	Pediatr Int	62	9	1119	1120	Japan Pediatric Society	2020.9
小児大動脈弓再建術後の声帯エコー	小児集中治療科	吉田美苗、 長谷川智巳、 金子尚樹、黒澤寛史	日集中医誌	27	2	104	108	日本集中治療医学会	2020.2
フロー四徴症術後遠隔期に診断された特発性肺へモシテローシスの一例	小児集中治療科	山下由理子、 長谷川智巳、 長井勇樹、制野勇介、 青木一憲、津田雅世、 田中亮二郎、 黒澤寛史	日集中医誌	27	6	472	476	日本集中治療医学会	2020.6

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
小児声帯麻痺に対する声帯エコー評価の有用性	小児集中治療科	金子尚樹、 長谷川智巳、 吉田美苗、黒澤寛史	日集中医誌	27	6	453	458	日本集中治療医学会	2020.6
末梢静脈挿入式中心静脈カテーテルの血管穿孔を認めた右肺無形成の乳児例	小児集中治療科	長井勇樹、 長谷川智巳、 山本和宏、制野勇介、 青木一憲、黒澤寛史	日集中医誌	27	5	409	410	日本集中治療医学会	2020.5
新興・再興感染症対策小委員会および COVID-19 ワーキンググループ活動中間報告	小児集中治療科	岡田賢司、中野貴司、 大城誠、吉良龍太郎、 清水直樹、細矢光亮、 宮入烈、多屋馨子、 森島恒雄、岡部信彦、 森内浩幸、楠原浩一、 東寛、黒澤寛史、 池山貴也、賀来典之、 川崎達也、齊藤修、 居石崇志、竹内宗之、 西村奈穂、志馬伸朗、 西田修	日児誌	124	5	918	921	日本小児科学会	2020.5
Clinical application of a new ternary polymer, SEC-1 coat™, for pediatric cardiopulmonary bypass circuits: a prospective randomized pilot study	小児集中治療科	Tomomi Hasegawa, Yoshihiro Oshima, Shinji Yokoyama, Asuka Akimoto, Yusuke Misaka, Shota Akiyama	Perfusion	35	8	826	832	SAGE	2020.11
混合型総肺静脈灌流異常症修復術後に遺残垂直静脈を介する症候性門脈体循環シャントを来した1例	小児集中治療科	穴戸亜由美、 長谷川智巳、 亀井直哉、林賢、 松久弘典、大嶋義博、 田中敏克	日小児循環器会誌	36	3	263	268	日本小児循環器学会	2020.10

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Thiamylal anaesthetic therapy for febrile refractory status epilepticus in children	小児集中治療科	Yusuke Ishida, Masahiro Nishiyama, Hiroshi Yamaguchi, Kazumi Tomioka, Tsukasa Tanaka, Hiroki Takeda, Shoichi Tokumoto, Daisaku Toyoshima, Azusa Maruyama, Yusuke Seino, Kazunori Aoki, Kandai Nozu, Noriyuki Nishimura, Hiroshi Kurosawa, Kazumoto Iijima, Hiroaki Nagase	Seizure	80		12	17	European Journal of Epilepsy	2020.8
Detailed characteristics of acute encephalopathy with biphasic seizures and late reduced diffusion: 18-year data of a single-center consecutive cohort	小児集中治療科	Hiroshi Yamaguchi, Masahiro Nishiyama, Shoichi Tokumoto, Yusuke Ishida, Kazumi Tomioka, Kazunori Aoki, Yusuke Seino, Daisaku Toyoshima, Hiroki Takeda, Hiroshi Kurosawa, Kandai Nozu, Azusa Maruyama, Ryojiro Tanaka, Kazumoto Iijima, Hiroaki Nagase	Journal of the Neurological Sciences	411		116684		World Federation of Neurology	2020.4

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Choroid plexus carcinomaの1例	兵庫県立こども病院 1)病理診断科, 2)脳神経外科, 3)血液腫瘍内科, 4)放射線診断科	1)吉田牧子、 2)河村淳史、 2)小山淳二、 2)阿久宣行、 3)中村さやか、 3)岸本健治、 3)長谷川大一郎、 3)小阪嘉之、 4)杉岡勇典、 4)赤坂好宣	日本小児血液・がん学会雑誌	第57巻	第1号	57	57	日本小児血液・がん学会	2020.6.27
『小児専門病院におけるMDRPU対策と今後の課題』	看護部	鎌田直子	WOC Nursing	8	79	21	29	医学出版	
新人看護職員への夜勤導入と支援の実践	看護部 7東	濱田米紀	小児看護	43	4	452	457	へるす出版	
日帰り・短期入院で手術を受ける子どもへの手術看護	看護部 手術室	新井良子	小児看護	43	13	1606	1611	へるす出版	
あなたの「知りたかった！」に答えます！ 新型コロナウイルス対策Q&A68 第8章よくある質問（患者・患者家族・一般の方）7.出勤時、満員電車に乗らざるを得ません・・・。自分はCOPDをもっているの心配です。どうすればよいのでしょうか？	看護部 手術室	新谷茜	INFECTION CONTROL 春期増刊		354	275	280	メディカ出版	
ビジュアル！家族に伝わる赤ちゃんのケアと手技	看護部 NICU,GCU	梁京玉、井谷洋美	with NEO	33	4	82	83	メディカ出版	
小児泌尿器科における周術期第3世代セフトロスポリン系抗菌薬削減および静注抗菌薬適正使用の効果	薬剤部	渡邊稜子、大竹正悟、 磯元啓吾、寺崎展幸、 石田達彦、垣尾尚美、 笠井正志、 福井由美子	医療薬学	第46巻	第12号	732	738	一般社団法人 日本医療薬学会	2020
親と子の腎臓病教室	栄養管理部	鳥井隆志	臨床栄養	Vol.136	No.4	494	495	医歯薬出版	2020.4.1
小児腎臓病患児への移行期医療における管理栄養士の関わり	栄養管理部	鳥井隆志	臨床栄養	Vol.137	No.6	814	819	医歯薬出版	2020.11.1

3) 学会発表

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
ヒトパルボウイルスB19感染による無形成発作をきたした鉄欠乏性貧血の1例	総合診療科	池谷紀衣子、南川将吾、青木萌子、松村治、佐藤聖子、倉橋幸也、阪田美穂、津田雅世、上村克徳、米谷昌彦、宅見晃子、田中亮二郎	第123回	日本小児科学会	web	2020.8.22
反復する尿路感染症罹患児に対して超音波検査が治療方針の選択に有用であった2例	総合診療科	石原陽香、南川将吾、松村治、佐藤聖子、倉橋幸也、津田雅世、上村克徳、宅見晃子、田中亮二郎	第279回	日本小児科学会兵庫県地方会	西宮市	2020.2.1
無菌性髄膜炎の経過中に不完全尿閉を合併した12歳女児例	総合診療科	井上葵子、南川将吾、西村明紘、松村治、佐藤聖子、倉橋幸也、津田雅世、上村克徳、宅見晃子、中岸保夫、田中亮二郎	第281回	日本小児科学会兵庫県地方会	web	2020.9.26
小児尿路感染症に対する救急外来での尿グラム染色の有用性について	救急総合診療科(救急)	鯨島智大、梶原伸介、谷澤直子、染谷真紀、松井鋭、林卓郎、笠井正志、稲熊洋祐、貝藤裕史、田中亮二郎	第28回	日本逆流性腎症フォーラム	神戸市	2020.2.8
蛋白尿・血尿 どう対応するー小児CKDを早期に見つけ管理する	救急総合診療科(救急)	田中亮二郎	第76回	但馬地区小児科懇親会	豊岡市	2020.7.4
小児尿路感染症に対する救急外来での尿グラム染色の有用性について	救急総合診療科(救急)	鯨島智大、梶原伸介、鞍谷沙織、谷澤直子、染谷真紀、松井鋭、林卓郎、田中亮二郎	第123回	日本小児科学会学会集會	神戸市	2020.8.20
誰でもできる！エッジの効いた表在エコー	救急総合診療科(救急)	竹井寛和	第11回	小児救急医学会教育セミナー	Zoom	2020.12.5
本邦の救急外来における小児の鎮静	救急総合診療科(救急)	新田雅彦、福井美保、西原正人、林卓郎	第128回	日本小児科学会学会集會	神戸市	2020.8.21
冷静と情熱の狭間で～事件は誰のために～	救急総合診療科(救急)	林卓郎	第40回	日本中毒学会西日本地方会	神戸市	2020.2.22
誘惑に負けない小児救急～don't think, feel～	救急総合診療科(救急)	林卓郎	第75回	但馬地区小児科懇親会	豊岡市	2020.1.11
成長ホルモン分泌不全症スクリーニングとしてのIGF-1 SD値の検討	代謝内分泌科	永井正志、田中友理佳、三星アカリ、尾崎佳代	第279回	兵庫県地方会	神戸市	2020.2.2
PTH耐性・TSH耐性を有する進行性骨異形成オーバーラップ症候群の1例	代謝内分泌科	尾崎佳代、三星アカリ、永井正志、西山敦史、森貞直哉、飯島一誠	第93回	日本内分泌学会	Web	2020.7.20-8.30
サイトカインプロファイルからみた全身型若年性特発性関節炎およびマクロファージ活性化症候群に対する病態解析.	リウマチ科	水田麻雄、井上なつみ、清水正樹、和田泰三、中岸保夫、谷内江昭宏	第3回	日本免疫不全・自己炎症学会総会・学会集會	東京都	2020.2.16
松茸アレルギーの診断に好塩基球活性化試験が有用であった小児例	アレルギー科	井上葵子、百々菜月、田中裕也	第279回	日本小児科学会兵庫県地方会	神戸市	2020.2.1
Association between Der p 23 and asthma in children sensitized to house dust mite	アレルギー科	Yuya Tanaka, Saori Omae, Taro Ueda, Tamaki Ito, Ikuo Okafuji, Katsuyo Doi, Satoru Tsuruta	69回	JSA/WAO Joint Congress 2020	Web開催 / 京都	2020.9.17-10.20
原因不明の脳性麻痺としてフォローアップされ、遺伝子検査を契機に確定診断に至ったグルコーストランスポーター1(GLUT1)欠損症の一例	神経内科	近藤友里子、間浦奈央子、徳元翔一、豊嶋大作、森貞直哉、丸山あずさ	第279回	日本小児科学会兵庫県地方会	西宮市	2020.2.1

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
軽微な頭部外傷で退行を認めた皮質下囊胞をもつ大頭型白質脳症	神経内科	土井圭、徳元翔一、豊嶋大作、丸山あずさ	第279回	日本小児科学会兵庫県地方会	西宮市	2020.2.1
発熱に伴うけいれん・意識障害小児の長期予後	神経内科	豊嶋大作、徳元翔一、山口宏、石田悠介、富岡和美、西山将広、永瀬裕朗、丸山あずさ	第62回	日本小児神経学会学術集会	WEB/新潟	2020.9.1-9.30
有熱時けいれん/意識障害の発症6時間以内のサイトカインによる予後予測 血清IL-1RA,IL-10の可能性	神経内科	富岡和美、西山将広、山口宏、石田悠介、徳元翔一、豊嶋大作、丸山あずさ、服部有香、菊里嘉展、中川卓、高見勇一、多田弘子、佐久間啓、飯島一誠、永瀬裕朗	第62回	日本小児神経学会学術集会	WEB/新潟	2020.9.1-9.30
けいれん重積型(二相性)急性脳症の初回けいれん時間による臨床像の比較検討	神経内科	山口宏、西山将広、徳元翔一、石田悠介、富岡和美、豊嶋大作、丸山あずさ、飯島一誠、永瀬裕朗	第62回	日本小児神経学会学術集会	WEB/新潟	2020.9.1-9.30
急性脳症の予測基準の有用性の検証(第1報) AESD 予測のために開発された基準の別コホートにおける再検証	神経内科	石田悠介、西山将広、徳元翔一、山口宏、富岡和美、豊嶋大作、丸山あずさ、飯島一誠、永瀬裕朗	第62回	日本小児神経学会学術集会	WEB/新潟	2020.9.1-9.30
急性脳症の予測基準の有用性の検証(第2報) AESD 予測のために開発された基準の別コホートにおける再検証	神経内科	西山将広、石田悠介、徳元翔一、山口宏、富岡和美、豊嶋大作、丸山あずさ、飯島一誠、永瀬裕朗	第62回	日本小児神経学会学術集会	WEB/新潟	2020.9.1-9.30
有熱時けいれんを主訴に入院した小児におけるけいれん時間毎のAESD発症頻度と予後 単一施設の連続症例コホートでの検討	神経内科	徳元翔一、豊嶋大作、丸山あずさ、山口宏、石田悠介、富岡和美、西山将広、飯島一誠、永瀬裕朗	第62回	日本小児神経学会学術集会	WEB/新潟	2020.9.1-9.30
小児けいれん重積治療ガイドライン改訂に向けて 難治性てんかん重積の治療 ミダゾラムまたはバルビレートによる麻酔療法	神経内科	西山将広、永瀬裕朗、丸山あずさ	第62回	日本小児神経学会学術集会	WEB/新潟	2020.8.19
Time course and impact of body weight change early after allogeneic stem cell transplantation in children and adolescents	血液腫瘍内科	Kenji Kishimoto, Daichiro Hasegawa, Sayaka Nakamura, Akihiro Tamura, Aiko Kozaki, Asturo Saito, Toshiaki Ishida, Takeshi Mori, Yoshiyuki Kosaka	The 46th	Annual Meeting of the European Group for Blood and Marrow Transplantation	Web	2020.8.29-9.1
Prevention of CMV infection after allogeneic SCT in children: a single-center retrospective comparison of ganciclovir and letermovir	血液腫瘍内科	Kenji Kishimoto, Daichiro Hasegawa, Sayaka Nakamura, Daisuke Katayama, Takayuki Ichikawa, Naoko Nakatani, Jun Noguchi, Akihiro Tamura, Aiko Kozaki, Atsuro Saito, Toshiaki Ishida, Takeshi Mori and Yoshiyuki Kosaka.	第42回	日本造血細胞移植学会総会	東京都	開催中止
小児専門医療機関における Enterobacter 菌血症の発生状況と抗菌薬感受性	血液腫瘍内科	青木萌子、岸本健治、大竹正悟、中村さやか、長谷川大一郎、笠井正志、小坂嘉之	第123回	日本小児科学会学術集会	神戸市 Web	2020.8.21-23
小児・AYAがんに対する 陽子線治療	血液腫瘍内科	西村明敏、石田敏章、片山大資、中谷尚子、市川貴之、野口集、中村さやか、田村彰広、神前愛子、斎藤敦郎、岸本健治、森健、長谷川大一郎、出水祐介、福光延吉、副島俊典、鈴木毅、小坂嘉之	第123回	日本小児科学会学術集会	神戸市 Web	2020.8.21-23

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
BRAF V600E 変異陽性難治性リスク臓器陽性多臓器型ランゲルハンス細胞組織球症に対してBRAF阻害剤を使用した乳児例	血液腫瘍内科	宮本真知子、中谷尚子、齋藤敦郎、西村明敏、井上翔太郎、東條龍之介、野口隼、中村さやか、田村彰広、神前愛子、石田敏章、森健、長谷川大一郎、小坂嘉之	第82回	日本血液学会学術集会	京都府 Web	2020.10.9-11
髄芽腫と PNET の治療後に生じた膠芽腫の 3 例	血液腫瘍内科	Akihiro Nishimura, Toshiaki Ishida, Machiko Miyamoto, Sayaka Nakamura, Akihiro Tamura, Atsuro Saito, Aiko Kozaki, Takeshi Mori, Daichiro Hasegawa, Yoshiyuki Kosaka	第62回	日本小児血液・がん学会学術集会	Web	2020.11.20-22
当院での縦隔腫瘍の臨床像と麻酔関連合併症についての検討	血液腫瘍内科	Ryunosuke Toujyou, Sayaka Nakamura, Akihiro Tamura, Atsuro Saito, Aiko Kozaki, Toshiaki Ishida, Takeshi Mori, Daichiro Hasegawa, Yoshiyuki Kosaka	第62回	日本小児血液・がん学会学術集会	Web	2020.11.20-22
Brentuximab vedotin と ICE 療法の併用が有効であった再発陽性未分化大細胞リンパ腫の一例	血液腫瘍内科	Shotaro Inoue, Akihiro Tamura, Jun Noguchi, Sayaka Nakamura, Aiko Kozaki, Atsuro Saito, Toshiaki Ishida, Takeshi Mori, Daichiro Hasegawa, Yoshiyuki Kosaka	第62回	日本小児血液・がん学会学術集会	Web	2020.11.20-22
難治例・再発例の肝芽腫に対する放射線治療の有用性と安全性の検討	血液腫瘍内科	Jun Noguchi, Toshiaki Ishida, Akihiro Nishimura, Sayaka Nakamura, Akihiro Tamura, Aiko Kozaki, Atsuro Saito, Takeshi Mori, Daichiro Hasegawa, Yoshiyuki Kosaka	第62回	日本小児血液・がん学会学術集会	Web	2020.11.20-22
Does decentralization become the key to a solution for problems of clinical trials in Children's Hospital? : Current State and Future Perspectives.	血液腫瘍内科	Daichiro Hasegawa	17th	DIA Japan Annual Meeting 2020	Web	2020.11.8-10

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
Comprehensive Genetic Analysis Revealed Myeloid/ Natural Killer (NK) Cell Precursor Acute Leukemia As a Novel Distinctive Leukemia Entity	血液腫瘍内科	Akira Nishimura, Kazuaki Yokoyama, Chika Yamagishi, Toshihiko Imamura, Takuya Naruto, Tomohiro Morio, Yukie Tanaka, Akinori Kanai, Hirotaka Matsui, Naoko Higuchi, Akiko Takada, Haruna Okuno, Shoji Saito, Shuhei Karakawa, Shogo Kobayashi, Daisuke Hasegawa, Hiroyuki Fujisaki, Daiichiro Hasegawa, Kazutoshi Koike, Takashi Koike, Shinya Rai, Katsutsugu Umeda, Hideki Sano, Yujin Sekinaka, Atsushi Ogawa, Akitoshi Kinoshita, Norio Shiba, Mizuka Miki, Fumihiko Kimura, Hideki Nakayama, Yoza Nakazawa, Takashi Taga, Tomohiko Taki, Souichi Adachi, Atsushi Manabe, Katsuyoshi Koh, Yasushi Ishida, Arimobu Tojo, Masatoshi Takagi	62nd	ASH Annual Meeting and Exposition, American Society of Hematology	Web	2020.12.5-8
modified WHO 分類IIIの妊娠産管理	循環器内科	城戸佐知子、船越徹、亀井直哉、田中敏克、 三木康暢、松岡道生、小川慎治、富永健太	第22回	日本成人先天性心疾患学会	東京	2020.1.19
繰り返す気道出血の治療中に脳梗塞を発生したフ ォンタン術後の成人例	循環器内科	田中敏克、三木康暢、堀口祥、林賢、久保慎吾、 松岡道生、亀井直哉、小川慎治、富永健太、 城戸佐知子	第22回	日本成人先天性心疾患学会	東京	2020.1.19
肺動脈弁上狭窄に対する経皮的バルーン血管形成術 の治療成績	循環器内科	堀口祥、田中敏克、林賢、久保慎吾、三木康暢、 松岡道生、亀井直哉、小川慎治、富永健太、 城戸佐知子	第31回	日本Pediatric Interventional Cardiology 学会学術集会	那覇市	2020.1.23
肺静脈ステントの side-cell dilation が奏功した一症例	循環器内科	林賢、田中敏克、堀口祥、久保慎吾、三木康暢、 松岡道生、亀井直哉、小川慎治、富永健太、 城戸佐知子	第31回	日本Pediatric Interventional Cardiology 学会学術集会	那覇市	2020.1.23
カテーテル治療時に気付かれなかった下大静脈狭窄の新生 見2症例	循環器内科	宍戸亜由美、田中敏克、三木康暢、松岡道生、 亀井直哉、小川慎治、富永健太、城戸佐知子	第31回	日本Pediatric Interventional Cardiology 学会学術集会	那覇市	2020.1.24
Amplatzer Duct Occluder II の使用経験 一どのよう な症例に対して使用するのがよいのか？ -	循環器内科	田中敏克、堀口祥、林賢、久保慎吾、三木康暢、 松岡道生、亀井直哉、小川慎治、富永健太、 城戸佐知子	第31回	日本Pediatric Interventional Cardiology 学会学術集会	那覇市	2020.1.24
増化した狭窄した鎖骨下静脈にCovered Stentを留置し た1例	循環器内科	松岡道生、田中敏克、林賢、堀口祥、久保慎吾、 三木康暢、亀井直哉、城戸佐知子、大嶋義博	第31回	日本Pediatric Interventional Cardiology 学会学術集会	那覇市	2020.1.24
末梢性肺動脈狭窄に対するステント内の内膜肥厚の 検討	循環器内科	久保慎吾、田中敏克、堀口祥、林賢、三木康暢、 松岡道生、亀井直哉、小川慎治、富永健太、 城戸佐知子	第31回	日本Pediatric Interventional Cardiology 学会学術集会	那覇市	2020.1.24

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
初期治療に経皮的肺動脈弁形成術を行った純型肺動脈閉鎖・重症肺動脈弁狭窄症の肺動脈弁の中期予後	循環器内科	三木康暢、田中敏克、堀口祥、林賢、久保慎吾、松岡道生、亀井直哉、小川楨治、富永健太、城戸佐知子	第31回	日本 Pediatric Interventional Cardiology 学会学術集会	那覇市	2020.1.25
最近経験した巨大冠動脈瘤を合併した川崎病の2症例	循環器内科	石田貴裕、田中敏克、堀口祥、林賢、久保慎吾、三木康暢、松岡道生、亀井直哉、小川楨治、富永健太、城戸佐知子	第279回	日本小児科学会兵庫県地方会	神戸市	2020.2.1
呼吸循環管理に難渋したHCM合併ASDに対し開窓付き閉鎖術が有効であった一例	循環器内科	田中敏克、林賢、久保慎吾、堀口祥、三木康暢、松岡道生、亀井直哉、小川楨治、富永健太、城戸佐知子	第26回	日本小児肺循環研究会	東京	2020.2.8
小児循環器内科医が施行した心疾患以外の症例に対する血管造影・血管内治療の検討	循環器内科	田中敏克、堀口祥、林賢、久保慎吾、三木康暢、松岡道生、亀井直哉、小川楨治、富永健太、城戸佐知子	第123回	日本小児科学会学術集会	WEB	2020.4.10
高血圧を契機に診断したMidaortic syndromeの女児例	循環器内科	堀口祥、田中敏克、林賢、久保慎吾、三木康暢、松岡道生、亀井直哉、小川楨治、富永健太、城戸佐知子	第123回	日本小児科学会学術集会	WEB	2020.4.10
SCN5A 遺伝子変異が判明した心筋炎後完全房室ブロックの1例	循環器内科	三木康暢、田中敏克、堀口祥、林賢、久保慎吾、松岡道生、亀井直哉、小川楨治、富永健太、城戸佐知子	第123回	日本小児科学会学術集会	WEB	2020.4.11
新生児三尖弁輪径を基準にした純型肺動脈閉鎖・重症肺動脈弁狭窄症に対する治療法の選択:25年の中期成績をもとに	循環器内科	三木康暢、田中敏克、堀口祥、林賢、久保慎吾、松岡道生、亀井直哉、小川楨治、富永健太、城戸佐知子	第56回	日本小児循環器学会総会・学術集会	WEB	2020.11.22
肺静脈の心房への侵入角度と肺静脈狭窄についての検討	循環器内科	松岡道生、田中敏克、堀口祥、林賢、久保慎吾、三木康暢、亀井直哉、小川楨治、富永健太、城戸佐知子	第56回	日本小児循環器学会総会・学術集会	WEB	on demand
生後早期に外科的介入を行った先天性心疾患胎児診断症例の検討	循環器内科	亀井直哉、堀口祥、林賢、久保慎吾、三木康暢、松岡道生、小川楨治、富永健太、田中敏克、城戸佐知子	第56回	日本小児循環器学会総会・学術集会	WEB	on demand
大動脈弁狭窄(AS)に対する経皮的動脈弁形成術(PTAV)の治療成績	循環器内科	堀口祥、田中敏克、林賢、久保慎吾、三木康暢、松岡道生、亀井直哉、小川楨治、富永健太、城戸佐知子	第56回	日本小児循環器学会総会・学術集会	WEB	on demand
フォンタン術後の難治性蛋白漏出性胃腸症へのミドドリン治療	循環器内科	小川楨治、堀口祥、林賢、久保慎吾、三木康暢、松岡道生、亀井直哉、富永健太、田中敏克、城戸佐知子	第56回	日本小児循環器学会総会・学術集会	WEB	on demand
フォンタン術後症例におけるThebesian静脈はよく見られ、かつ遠隔期に発達する	循環器内科	田中敏克、堀口祥、林賢、久保慎吾、三木康暢、松岡道生、亀井直哉、小川楨治、富永健太、城戸佐知子	第56回	日本小児循環器学会総会・学術集会	WEB	on demand
肺葉性肺炎腫合併に対して肺葉切除後に根治し得た先天性心疾患の4例	循環器内科	久保慎吾、田中敏克、堀口祥、林賢、三木康暢、松岡道生、亀井直哉、小川楨治、富永健太、城戸佐知子	第56回	日本小児循環器学会総会・学術集会	WEB	on demand

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
不完全型川崎病と診断された6例	循環器内科	富永健太、堀口祥、林賢、久保慎吾、三木康暢、松岡道生、亀井直哉、小川楨治、田中敏克、城戸佐知子	第56回	日本小児循環器学会 総会・学術集会	WEB	on demand
治療方針に苦慮した心室中隔欠損を合併した拡張型心筋症の1例	循環器内科	堀口祥、田中敏克、日隈智憲、近藤聖耶、永尾宏之、三木康暢、松岡道生、亀井直哉、小川楨治、富永健太、大嶋義博、城戸佐知子	第29回	日本小児心筋疾患学会	WEB	2020.10.10
Thebesian veins are common and progress in adult patients late after Fontan operation	循環器内科	Tanaka T, Miki Y, Ogawa Y, Kido S		2020 AHA	WEB	2020.11.20
成人先天性心疾患セミナー「ACHDと妊娠・出産」症例検討1:フアロー四徴症術後での経験	循環器内科	城戸佐知子	第130回	日本循環器学会近畿地方会	WEB	2020.11.28
ヘッドアップ検査において、体位性頻脈症候群の診断がついた後に血管迷走神経性失神が起こる現象について(小児期・思春期の症例での検討)(これと関連して)ヘッドアップアトリエ検査の最適持続時間	循環器内科	小川楨治、三木康暢、松岡道生、亀井直哉、富永健太、城戸佐知子、田中敏克	第3回	起立不耐症研究会	WEB	2020.11.29
小児尿路感染症に対する救急外来での尿グラム染色の有用性について	腎臓内科	鯉島智大、梶原伸介、鞍谷沙織、谷澤直子、染谷真紀、松井鋭、林卓郎、笠井正志、稲熊洋祐、貝藤裕史、田中亮二郎	第28回	日本逆流性腎症フォーラム	神戸市	2020.2.8
小児における糖鎖不全IgA1免疫染色	腎臓内科	石河慎也、野津寛大、永井貞之、青砥悠哉、柳原菜々、長野智那、堀之内智子、山村智彦、石森真吾、貝藤裕史、田中亮二郎、飯島一誠	第63回	日本腎臓学会学術集会	横浜 web開催	2020.8.19-21
先天性心疾患を合併したDown症候群患者における血清クレアチニン値上昇率に関する検討	腎臓内科	青砥悠哉、貝藤裕史、稲熊洋祐、田中亮二郎	第63回	日本腎臓学会学術集会	横浜 web開催	2020.8.19-21
鉄に着目した、IgA腎症患者の肉眼的血尿発作時における急性腎障害発症メカニズムに関する組織学的検討	腎臓内科	石森真吾、貝藤裕史、田中百合子、松倉裕喜、今井直史、原重雄、野津寛大、飯島一誠	第63回	日本腎臓学会学術集会	横浜 web開催	2020.8.19-21
小児IgA腎症の組織学的軽症例と重症例における多剤併用療法の効果に関する比較	腎臓内科	青砥悠哉、野津寛大、近藤淳、石河慎也、柳原菜々、長野智那、藤村順也、堀之内智子、山村智彦、神吉直宙、石森真吾、島友子、中西浩一、吉川徳茂、貝藤裕史、飯島一誠	第123回	日本小児科学会学術集会	神戸市	2020.8.21-23
小児領域におけるネフローゼ症候群に対するリツキシマブの治療成績と有害事象発現の状況	腎臓内科	齋藤あゆみ、研真梨子、岡本沙央理、磯元啓吾、太田あづさ、垣尾直美、合田泰志、貝藤裕史	第14回	日本腎臓病薬物療法学会学術集会	web開催	2020.12.14-28
RSウイルス感染症にStreptococcus pyogenesとHaemophilus influenzaeの混合菌血症、肺膿瘍を合併した10か月男児の1例	感染症内科	大竹正悟、笠井正志	第31回	日本臨床微生物学会総会・学術集会	金沢市	2020.2.2
Bacteroides fragilis菌血症に対しCefepimeが臨床的に有効かつ感性的であった一例	感染症内科	田中友理佳、大竹正悟、笠井正志	第31回	日本臨床微生物学会総会・学術集会	金沢市	2020.1.31
Gardnerella vaginalisが原因菌と考えられた乳児発熱性尿路感染症	感染症内科	半澤愛、笠井正志	第31回	日本臨床微生物学会総会・学術集会	金沢市	2020.1.31
小児外来での抗菌薬の適正使用を考える(ワークショップ)	感染症内科	木村誠、笠井正志	第68回	日本化学療法学会総会	神戸市	2020.9.14

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
ニューズレターによるフィードバックは休日夜間急病センターの経口抗菌薬適正使用に有効～HAPPY Trial research teamの取り組み～	感染症内科	大竹正悟、宍戸亜由美、木村誠、福田明子、都築慎也、日馬由貴、石田明人、笠井正志	第281回	日本小児科学会兵庫県地方会	Online	2020.9.26
姫路市休日・夜間急病センターにおける小児内服抗菌薬適正使用介入終了後の処方動向	感染症内科	岡田愉、大竹正悟、神吉直宙、吉川誠之、本郷彰裕、久呉真草、明神翔太、笠井正志	第281回	日本小児科学会兵庫県地方会	Online	2020.9.26
休日夜間急病センターで行った抗菌薬適正使用に向けて取り組みの事後アンケート	感染症内科	福田明子、大竹正悟、木村誠、宍戸亜由美、石田明人、笠井正志	第281回	日本小児科学会兵庫県地方会	Online	2020.9.26
小児の中枢神経感染症疑い例に対する抗ウイルス薬適正使用の課題	感染症内科	大竹正悟、笠井正志	第61回	日本臨床ウイルス学会総会・学術集会	Online	2020.10.2
国内の小児入院施設における新生児、早期乳児のパレコウイルスA3感染症の前方視的疫学調査—第1報	感染症内科	相澤悠太、宇田和宏、伊藤健太、庄司健介、大竹正悟、笠井正志、鈴木穂子、渡邊香奈子、齋藤昭彦	第61回	日本臨床ウイルス学会総会・学術集会	Online	2020.10.2
地域AMR(薬剤耐性)対策の実践(教育講演)	感染症内科	笠井正志	第155回	日本小児科学会山梨地方会	Online	2020.10.17
薬剤耐性菌対策の新たな取り組みと今後可能性(シンポジウム)	感染症内科	明神翔太、大竹正悟、笠井正志	第52回	日本小児感染症学会総会・学術集会	Online	2020.11.7
小児感染症教育(シンポジウム)	感染症内科	笠井正志	第52回	日本小児感染症学会総会・学術集会	Online	2020.11.7
2016年から2019年における兵庫県内9医療機関でのRSウイルス感染症による入院動向について	感染症内科	宇都宮剛、大竹正悟、鞍谷沙織、笠井正志	第52回	日本小児感染症学会総会・学術集会	Online	2020.11.7
A female case of antenatal Bartscher's Syndrome with a novel variant in MAGED2 manifesting with severe polyhydramnios and intrauterine fetal death.	臨床遺伝科	Nagasaka M, Yotsumoto Y, Nakago S, Nagano C, Morisada N, Nozu K, Iijima K, Tamaoki T.		The European Society of Human Genetics 2020	Web	2020.6.6
副腎クローゼによる意識障害をきたした原発性副腎不全と診断した5歳男児例	臨床遺伝科	松本泰右、井上翔太郎、坊亮輔、滝本大輔、広田幸穂、飯島智大、蓮崎愛、福原信一、森貞直哉	第281回	日本小児科学会兵庫県地方会	Web	2020.9.26
わが国における常染色体劣性多発性嚢胞腎(ARPKD)の遺伝型と臨床像	臨床遺伝科	森貞直哉、野津寛大、中西浩一、飯島一誠	第123回	日本小児科学会学術集会	Web	2020.8
腎・泌尿器疾患と遺伝カウンスeling・主治医にできることと専門家に任せることの境界を知らう。小児腎疾患の遺伝カウンスeling	臨床遺伝科	森貞直哉	第63回	日本腎臓学会	横浜・Web	2020.8.19-21
PTH耐性・TSH耐性を有する進行性骨異形成オーパーラップ症候群	臨床遺伝科	尾崎佳代、三星アカリ、永井正志、西山教史、森貞直哉、飯島一誠	第93回	日本内分泌学会学術集会	Web	2020.7.20-8.31
FSGSに他臓器合併症を有しTTC21Bの変異が同定された乳児例	臨床遺伝科	原田涼子、濱田陸、泊弘毅、寺野千香子、森貞直哉、野津寛大、緒方謙太郎、飯島一誠、本田雅敬、幡谷浩史	第50回	日本腎臓学会東部学術大会	Web	2020.10
当院精神科における身体症状おおよび関連症候群の統計的特徴	精神科	持田啓、玉岡文子、小笠原さゆり、長谷川弘子、関口典子	第61回	日本児童青年精神医学会総会	WEB	2020.10.24-11.20
A new risk stratification by fetal MRI for prediction of the need of patch closure in isolated congenital diaphragmatic hernia: a multicenter retrospective study.	小児外科	Akiko Yokoi, Seiji Yoshimoto, Yoshimori Akasaka, Toru Fumakoshi, Yusuke Sugioka	第51回	The American Pediatric Surgical Association (APSA) annual meeting 2020	virtual	2020.5.14-7.2

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
外科的視点から見た心疾患患者の在宅呼吸管理-心疾患患者の気管切開の特徴と問題点	小児外科	横井暁子	第123回	日本小児科学会学術集会	神戸	2020.8.21-23
先天性気管狭窄症児の運動能力評価における6分間歩行検査の経験	小児外科	横井暁子	第57回	日本小児外科学会学術集会	東京	2020.9.19-21
The usefulness of olive-oil enema in children with severe chronic constipation	小児外科	Akiko Yokoi, Naoko Kamata,	第53回	The Pacific Association of Pediatric Surgeons (PAPS) 53rd Annual Scientific Meeting	virtual	2020.11.8-12
気道デバイスの工夫	小児外科	横井暁子	第36回	日本小児外科学会秋季シンポジウム	オンデマンド	2020.11.5-26
開腹胆道造影を施行した53例の後方視的検討	小児外科	竹内雄毅、福澤宏明、前田貢作、横井暁子、岩出珠幾、森田圭一、河原仁守、鮫島由友、植村光太郎、藤枝悠希、黒田靖浩	第57回	日本小児外科学会学術集会	東京都	2020.9.19-21
Effects of first cry for patients with congenital diaphragmatic hernia	小児外科	Yuki Takeuchi, Akiko Yokoi	第53回	The Pacific Association of Pediatric Surgeons	virtual	2020.11.8-12
The difference of LPEC operation between consultants and trainees in our institution	小児外科	Yuki Takeuchi, Hiroaki Fukuzawa	第33回	日本内視鏡外科学会総会	横浜市	2021.3.10-13
プロプラノロール内服が著効し、気管切開が回避できた乳児声門下血管腫の一例	小児外科	中谷太一、藤枝悠希、黒田靖浩、高成田祐希、矢下博輝、竹内雄毅、河原仁守、森田圭一、津川二郎、横井暁子、島山理	第56回	日本小児外科学会近畿地方会	京都	2020.08.29
小児食道アカラシアに対する経口内視鏡的筋層切開術(POEM)の有用性と安全性に関する検討	小児外科	中谷太一、尾藤祐子、大川祐一、會田洋輔、宮内玄徳、富岡雄一郎、中井優美子、阪口博哉、阿部洋文、田中心和	第57回	日本小児外科学会学術集会	東京	2020.09.21
先天性気管狭窄症における完全気管軟骨輪の組織学的特徴	小児外科	藤枝悠希、森田圭一、黒田靖浩、竹内雄毅、植村光太郎、鮫島由友、岩出珠幾、河原仁守、福澤宏明、横井暁子、前田貢作	第57回	日本小児外科学会学術集会	東京都	2020.9.19-21
気道管理からみたLPEC法による日帰り腹腔鏡下単径ヘルニア手術の検討	小児外科	黒田靖浩、岩出珠幾、藤枝悠希、竹内雄毅、植村光太郎、鮫島由友、河原仁守、森田圭一、福澤宏明、横井暁子、前田貢作	第57回	日本小児外科学会	東京都千代田区	2020.9.19
The Optimal Timing of Surgery for Neonates with Congenital Diaphragmatic Hernia Who Required Extracorporeal Membrane Oxygenation.	小児外科	Yasuhiro Kuroda, MD ; Akiko Yokoi, MD; Hiroaki Fukuzawa, MD; Yuki Fujieda, MD; Kotaro Uemura, MD; Yuki Takeuchi, MD; Insu Kawahara, MD; Keiichi Morita, MD; Tamaki Iwade, MD; Kosaku Maeda, MD; Yoshitomo Samejima, MD;	53rd	The Pacific Association of Pediatric Surgeons	virtual	2020.nov.8-12
両側 SVC 症例に対するグレン手術	心臓血管外科	松久弘典、大嶋義博、日隈智憲、松島峻介、長谷川翔太、和田栞星	第63回	関西胸部外科学会学術集会	オンライン開催	2020.8.1-31

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
Mitral stenosisによる難治性高血圧に対して、Extra-anatomic bypassが奏功した1例	心臓血管外科	長谷川翔大、和田侑星、松島峻介、日隈智憲、松久弘典、大嶋義博	第63回	関西胸部外科学会学術集会	オンライン開催	2020.8.1-31
術前 sinus venosus ASD, PAPVC と診断した Systemic venous anomaly の1例	心臓血管外科	和田侑星、大嶋義博、松久弘典、日隈智憲、松島峻介、長谷川翔大	第63回	関西胸部外科学会学術集会	オンライン開催	2020.8.1-31
Posterior TGA type DORV に対する original Jatene 手術	心臓血管外科	松久弘典、大嶋義博、日隈智憲、松島峻介、長谷川翔大、和田侑星	第50回	日本心臓血管外科学会学術総会	オンライン開催	2020.8.17-19
Norwood 術後肺動脈狭窄に対するフォントラン手術時肺動脈形成術の検討	心臓血管外科	日隈智憲、大嶋義博、松久弘典、松島峻介、長谷川翔大、和田侑星	第50回	日本心臓血管外科学会学術総会	オンライン開催	2020.8.17-19
側相同心における共通房室弁の心室形態に応じた層別化と弁形成	心臓血管外科	松島峻介、圓尾文子、和田侑星、長谷川翔大、日隈智憲、松久弘典、大嶋義博	第50回	日本心臓血管外科学会学術総会	オンライン開催	2020.8.17-19
大動脈縮窄症、大動脈弓離断症に対する大動脈弓再建の検討 -CT 解析による術式選択-	心臓血管外科	長谷川翔大、和田侑星、松島峻介、日隈智憲、松久弘典、大嶋義博	第50回	日本心臓血管外科学会学術総会	オンライン開催	2020.8.17-19
当院における小児期冠動脈静脈瘻手術の経験	心臓血管外科	和田侑星、長谷川翔大、松島峻介、日隈智憲、松久弘典、大嶋義博	第50回	日本心臓血管外科学会学術総会	オンライン開催	2020.8.17-19
静脈形態がフォントラン手術に及ぼす影響	心臓血管外科	松久弘典、大嶋義博、日隈智憲、松島峻介、長谷川翔大、和田侑星	第73回	日本胸部外科学会定期学術集会	オンライン開催	2020.10.29-11.1
修正大血管転位症に対する hemi-Mustard 法を用いた 1.5心室修復の中期遠隔期成績	心臓血管外科	日隈智憲、大嶋義博、松久弘典、松島峻介、長谷川翔大、和田侑星	第73回	日本胸部外科学会定期学術集会	オンライン開催	2020.10.29-11.1
The clinical outcomes of single ventricle children with airway compression	心臓血管外科	Shota Hasegawa, Yuson Wada, Shunsuke Matsushima, Tomonori Higuma, Hironori Matsuhisa, Yoshihiro Oshima	第73回	日本胸部外科学会定期学術集会	オンライン開催	2020.10.29-11.1
Analysis of the three-dimensional positional relationship of the atrioventricular conduction tissue and anatomical landmarks in heart specimens with tricuspid atresia using phase-contrast CT imaging	心臓血管外科	Yuson Wada, Hironori Matsuhisa, Gen Shimohara, Takuro Tsukube, Kiyozo Morita, Yukihiko Kaneko, Tetsuri Takei, Masashi Takahashi, Shuichi Shiraiishi, Shunsuke Matsushima, Yoshihiro Oshima	第73回	日本胸部外科学会定期学術集会	オンライン開催	2020.10.29-11.1
両方向性グレン手術の変遷と問題点	心臓血管外科・循環器内科	松久弘典、大嶋義博、日隈智憲、松島峻介、長谷川翔大、和田侑星、田中敏克、城戸佐知子	第56回	日本小児循環器学会総会・学術集会	京都・オンライン開催	2020.11.22-24
機能的単心室症に対する体動脈肺動脈シャント手術が房室弁逆流へ与える影響についての検討 -下行大動脈の拡張期逆行性血流からの至適シャント量の推察-	心臓血管外科	日隈智憲、大嶋義博、松久弘典、松島峻介、長谷川翔大、和田侑星	第56回	日本小児循環器学会総会・学術集会	京都・オンライン開催	2020.11.22-24
心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症での境界型右室底形成の対する Tricuspid Valve Recruitment	心臓血管外科	松島峻介、松久弘典、日隈智憲、長谷川翔大、和田侑星、山口眞弘、大嶋義博	第56回	日本小児循環器学会総会・学術集会	京都・オンライン開催	2020.11.22-24
気管・気管支軟化症を合併した単心室患者の治療成績	心臓血管外科	長谷川翔大、和田侑星、松島峻介、日隈智憲、松久弘典、大嶋義博	第56回	日本小児循環器学会総会・学術集会	京都・オンライン開催	2020.11.22-24

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
右肺無形成及び底形成例を伴うPA slingと気管狭窄の治療における問題点	心臓血管外科	和田侑星、長谷川翔大、松島峻介、日隈智憲、松久弘典、大嶋義博	第56回	日本小児循環器学会総会・学術集会	京都・オンライン開催	2020.11.22-24
小児心臓外科医に必要なノンテクニカルスキル	心臓血管外科・循環器内科	松久弘典	第56回	日本小児循環器学会外科系教育セミナー	京都・オンライン開催	2020.11.23
小児頭部外傷に対する脳神経外科医の関わり	脳神経外科	阿久津宣行、小山淳二、河村淳史、甲村英二	第43回	日本脳神経外傷学会学術集会	箱根	2020.3.7
脊髄腫瘍治療の変遷	脳神経外科	小山淳二、阿久津宣行、河村淳史	第79回	日本脳神経外科学会学術総会	岡山市	2020.10.15-10.18
小児水頭症に対する治療方針	脳神経外科	阿久津宣行、小山淳二、河村淳史	第79回	日本脳神経外科学会学術総会	岡山市	2020.10.15-10.18
当院における小児脳脊髄腫瘍に対する陽子線治療の現状	脳神経外科	河村淳史、小山淳二、阿久津宣行、井村準、中原正博	第79回	日本脳神経外科学会学術総会	岡山市	2020.10.15-10.18
シャント離脱を目的とした第三脳室底開窓術	脳神経外科	阿久津宣行、小山淳二、河村淳史	第27回	日本神経内視鏡学会学術集会	和歌山市	2020.11.5
後頭蓋窩上衣腫に対する集学的治療と手術戦略	脳神経外科	小山淳二、阿久津宣行、河村淳史	第48回	日本小児神経外科学会学術集会	松本市	2020.11.22-11.23
小児脳脊髄腫瘍に対する集学的治療における陽子線治療	脳神経外科	河村淳史、小山淳二、阿久津宣行、出水祐介、副島俊典	第48回	日本小児神経外科学会学術集会	松本市	2020.11.22-11.23
Management and problems of prolonged survival with hydranencephaly in the modern treatment era	脳神経外科	Nobuyuki Akutsu, Junji Koyama, Aisufumi Kawamura	第48回	日本小児神経外科学会学術集会	松本市	2020.11.22-11.23
日韓交換留学プログラム ソウル大学小児病院での研修	脳神経外科	阿久津宣行	第48回	日本小児神経外科学会学術集会	松本市	2020.11.22-11.23
The Proton Beam Therapy in Multidisciplinary Therapy for Pediatric Brain and Spinal Tumor at Kobe Children's Hospital with Kobe Proton Center	脳神経外科	Aisufumi Kawamura, Junji Koyama, Nobuyuki Akutsu, Yusuke Demizu, Toshinori Soejima, Yoshiyuki Kosaka	第19回	国際小児脳腫瘍シンポジウム	軽井沢	2020.12.13-12.16
下顎骨両側関節突起骨折の治療に創外固定器を用いた一例	形成外科	小林史明、小野田素大、平山泰樹	第126回	関西形成外科学術集会	大阪市	2020.11.29
先天性頭皮欠損症の創傷管理において人工真皮(商品名インテグラ)を使用し良好な骨形成を誘導しえた一例	形成外科	小野田素大	第12回	日本創傷外科学会総会・学術集会	徳島市	2020.12.10
Ponseti法後10年の予後	整形外科	薩摩眞一、小林大介、坂田亮介、表笠真紀、河本和泉、尾ノ井勇磨	第31回	日本小児整形外科学会	オンライン	2020.12.3-21
先天性内反足—Ponseti法にいたる治療の変遷とこれから—	整形外科	薩摩眞一	-	九州小児整形外科学会	福岡	2020.1.18
小児足部疾患の診断と治療	整形外科	薩摩眞一	第93回	日本整形外科学会	オンライン	2020.6.11-8.31
麻痺性疾患に対する治療戦略	整形外科	小林大介	-	こども生涯支援部 令和元年度 士会員向け研修会	神戸市	2020. 2.16

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
先天性垂直距骨の治療成績	整形外科	坂田亮介、薩摩真一、小林大介、衣笠真紀、河本和泉、劉正夫	第93回	日本整形外科学会	オンライン	2020.6.11-8.31
転落により受傷した大腿骨骨幹部開放骨折症例	整形外科	坂田亮介、薩摩真一、小林大介、衣笠真紀、河本和泉、劉正夫	第65回	近畿小児整形外科懇話会	オンライン	2020.1.25
小児大腿骨骨幹部骨折に対するチタン弾性髓内釘(Titanium Elastic Nail)を用いた治療経験	整形外科	坂田亮介、薩摩真一、河本和泉、尾ノ井勇磨	第135回	中部日本整形外科災害外科	オンライン	2020.10.9-11.10
小児大腿骨骨幹部骨折に対するチタン弾性髓内釘(Titanium Elastic Nail)を用いた治療経験	整形外科	坂田亮介、小林大介、尾ノ井勇磨	第4回	日本リハビリテーション学会秋季学術集会	神戸市	2020.11.20-30
DDH(完全脱臼)に対する牽引整復後の大腿骨頭外方化と臼蓋被覆の経過について	整形外科	坂田亮介、薩摩真一、小林大介、衣笠真紀、河本和泉、尾ノ井勇磨	第31回	日本小児整形外科学会	オンライン	2020.12.3-21
先天性垂直距骨に対する治療の工夫	整形外科	坂田亮介、薩摩真一、小林大介、衣笠真紀、河本和泉	第45回	日本足の外科学会	オンライン	2020.11.26-12.13
Ponsetti法における皮下切離法と直視下切離法の比較	整形外科	衣笠真紀、薩摩真一、小林大介、坂田亮介、河本和泉	第45回	日本足の外科学会学術集会	オンライン	2020.11.26-12.13
先天性脛骨列欠損症(Jones分類1型)の両側例に対し再建手術を行った1例	整形外科	衣笠真紀、薩摩真一、小林大介、坂田亮介、河本和泉、尾ノ井勇磨	第31回	日本小児整形外科学会学術集会	オンライン	2020.12.3-21
Tumeri症候群に伴う発育性股関節形成不全 - その特徴について -	整形外科	河本和泉、小林大介、劉正夫、衣笠真紀、坂田亮介、薩摩真一	第93回	日本整形外科学会学術集会	オンライン	2020.6.11-8.31
片側性DDHの健側に臼蓋形成不全を認めた症例の長期経過について	整形外科	河本和泉、薩摩真一、劉正夫、衣笠真紀、坂田亮介、小林大介	第31回	日本小児整形外科学会学術集会	オンライン	2020.12.3-12.21
小児脳性麻痺の下肢痙縮に対する全身麻酔下ボツリメス毒素注射について	整形外科	尾ノ井勇磨、小林大介、坂田亮介	第4回	日本リハビリテーション医学会 秋季学術集会	神戸市	2020.11.20-22
骨形成不全症V型の一家系:2症例	整形外科、臨床遺伝科	尾ノ井勇磨、小林大介、坂田亮介、衣笠真紀、河本和泉、薩摩真一、森貞直哉、池川志郎、西村玄、OotimajjaMakitie	第32回	日本整形外科学会骨系統疾患研究会	オンライン	2020.12.5
脈絡膜新生血管様の黄斑変性を認めた、道化師魚鱗癖の1例	眼科	松野裕樹、野村耕治	第45回	日本小児眼科学会総会	大阪	2020.6.26
当科の乳幼児聴力検査に要する時間	耳鼻咽喉科	大津雅秀、勝沼紗矢香	第121回	日本耳鼻咽喉科学会学術講演会	岡山市	2020.10.6-7
当科におけるコルネリア・デ・ラング症候群 4例の聴力評価と補聴の経験	耳鼻咽喉科	勝沼紗矢香、大津雅秀	第121回	日本耳鼻咽喉科学会学術講演会	岡山市	2020.10.6-7
3歳未満で施行したアデノイド・口蓋扁桃手術症例の検討	耳鼻咽喉科	大津雅秀、勝沼紗矢香	第15回	日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会	高知市	2020.12.1-2
当院にて軟骨伝導補聴器を導入した先天性片側外耳道閉鎖の小児3症例	耳鼻咽喉科	勝沼紗矢香、大津雅秀	第15回	日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会	高知市	2020.12.1-2
兵庫県における新生児聴覚スクリーニングの現状と課題	耳鼻咽喉科	大津雅秀	第82回	耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会	京都市	2020.12.24-25
就学児におけるVURとOAB	泌尿器科	波越朋也	第28回	日本逆流性腎症フォーラム	神戸市	2020.2.8

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
総排泄腔遺残に対する膈形成術の検討	泌尿器科	春名晶子	第57回	日本小児外科学会学術総会	東京都 (Web)	2020.9.19-21
停留精巣	泌尿器科	杉多良文	第70回	日本泌尿器科学会中部総会	金沢市	2020.11.12
当院における小児精巣腫瘍の臨床的検討	泌尿器科	神野雅	第70回	日本泌尿器科学会中部総会	金沢市	2020.11.12
腎盂尿管移行部通過障害を来した尿管ポリープ8例の臨床的検討	泌尿器科	三田淑恵	第70回	日本泌尿器科学会中部総会	金沢市	2020.11.12
当院における小児上部尿路結石治療の初期経験	泌尿器科	神野雅	第34回	日本泌尿器内視鏡学会総会	岡山県	2020.11.19
当科で試行した小児尿路結石手術初期経験	泌尿器科	松崎和炯	第34回	日本泌尿器内視鏡学会総会	岡山県	2020.11.19
尿管尿管ポリープに対してThulium YAGレーザーで経尿道的尿管腫瘍焼灼術を施行した2例	泌尿器科	松崎和炯	第108回	日本泌尿器科学会総会	神戸市	2020.12.22
総排泄腔遺残の尿路・腔再建・晚期アプローチ	泌尿器科	杉多良文	第108回	日本泌尿器科学会総会	神戸市	2020.12.22
VURと逆流性腎症	泌尿器科	杉多良文	第108回	日本泌尿器科学会総会	神戸市	2020.12.23
兵庫県立がんセンターにおける去勢抵抗性前立腺癌に対するカバジタキセルの使用経験	泌尿器科	三田淑恵	第108回	日本泌尿器科学会総会	神戸市	2020.12.23
総排泄腔遺残に対する膈形成術の検討	泌尿器科	春名晶子	第67回	日本麻酔科学会	Web開催	2020.12.23
18トリソミーの気道管理：61人163症例の経験	麻酔科	長谷川達也、末田彩、小笠原治、祖父江和哉、香川哲郎	第7回	日本区域麻酔学会	Web開催	2020.8
大腿骨内反骨切り術後の抜釘に対する腸骨筋膜下ブロック長軸アプローチの効果	麻酔科	坪井ちづ、香川哲郎、上嶋江利、末田彩	第7回	日本区域麻酔学会	Web開催	2020.8
生直後の肺葉切除術を選択した巨大先天性肺気道奇形の一例	新生児科	合田由香利、岩谷壮太、青木萌子、片岡大、山内貴未、松井紗智子、玉置祥子、横田知之、三村仁美、金子めぐみ、鹿原史寿子、松久弘典、福澤宏明、芳本誠司、中尾秀人	第279回	日本小児科学会兵庫県地方会	西宮市	2020.2.1
UnaGを用いた新たなピルビン測定法	新生児科	岩谷壮太	第22回	新生児呼吸モニタリングフォーラム	長野県大町市	2020.2.13-15
総合周産期母子医療センター移行に伴う一二次搬送入院状況の変化	新生児科	芳本誠司、片岡大、山内貴未、武岡恵美子、松井紗智子、玉置祥子、岩谷壮太、横田知之、三村仁美、中尾秀人	第123回	日本小児科学会学術集会	神戸市 (Web)	2020.8.21-23
集学的治療により救命しえた巨大心嚢内奇形腫の胎児水腫例	新生児科	遠藤理沙、岩谷壮太、玉城倫、片岡大、山内貴未、松井紗智子、玉置祥子、横田知之、三村仁美、藤井宏美、佐野仁志、宮原史子、芳本誠司、中尾秀人	第123回	日本小児科学会学術集会	神戸市 (Web)	2020.8.21-23
神戸市内の総合周産期医療センター2施設における新生児敗血症の発生動向調査	新生児科	生田寿彦、藤岡一路、芳本誠司、飯島一誠	第52回	日本小児感染症学会総会	大阪	2020.11.7-8

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
腫瘍の急速増大により頭部皮膚の自然穿破をきたした頭蓋内未熟奇形腫の一例	新生児科	原田晋二、大山正平、岩谷壮太、長谷部匡毅、平山健太郎、泉絢子、片岡大、生田寿彦、松井紗智子、玉置祥子、横田知之、三村仁美、小山淳二、河村淳史、仲宗根瑠花、藤岡一路、芳本誠司、中尾秀人	第281回	日本小児科学会兵庫県地方会	Web開催	2020.9.26
当センターにおける新生児へリコプター搬送システムの構築	新生児科	中野友理佳、岩谷壮太、平山健太郎、泉絢子、片岡大、大山正平、生田寿彦、松井紗智子、玉置祥子、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人	第281回	日本小児科学会兵庫県地方会	Web開催	2020.9.26
妊娠34週未満前期破水例における妊娠延長期間、胎盤病理と臍帯血中IL-6値の検討	産科	船越徹	第72回	日本産科婦人科学会学術講演会	WEB開催	2020.4.23-26
ヒドロキソクロロキニンによる抗SS-A抗体陽性妊婦での先天性房室ブロックの再発抑制	産科	多施設共同医師主導臨床試験(J-PATCH) 本多泉、馬場慎司、谷垣伸治、薄井里英、増山寿、光井崇、玉田祥子、沖本直輝、長井裕、船越徹、北代祐三、長瀬寛美、伊東宏晃、幸村友季子、成味恵、横川直人、J-PATCH	第72回	日本産科婦人科学会学術講演会	WEB開催	2020.4.23-26
妊娠28週未満胎胎形成例の検討	産科	船越徹	第143回	近畿産科婦人科学会学術集会	WEB開催	2020.10.25-31
ACHDハイリスク患者の妊娠・出産管理 modified WHO分類IIIの妊娠出産管理	循環器内科1)、 産科2)	城戸佐知子1)、船越徹2)、亀井直哉1)、田中敏克1)、三木康暢1)、松岡道生1)、小川禎治1)、富永健太1)	第22回	日本成人先天性心疾患学会学術集会	東京	2020.1.17-19
出生前診断とNIPT	産科	平久進也	令和2年度	兵庫県立こども病院周産期医療センター研修会	WEB開催	2020.12.12
出生前診断	産科	平久進也	第5回	兵庫県立こども病院—理化学研究所生命機能科学研究センター(BDR)ジョイントシンポジウム	神戸市	2020.12.26
浸潤傾向を示した小脳gangliogliomaの一例	放射線診断科	杉岡勇典、赤坂好宣	第56回	日本小児放射線学会	オンライン	2020.8.28-9.11
小児泌尿生殖器救急疾患の画像	放射線診断科	杉岡勇典	第56回	日本医学放射線学会秋季臨床大会	オンライン	2020.10.28-11.26
周産期・新生児期の画像診断	放射線診断科	赤坂好宣	第40回	日本小児病理研究会	オンライン	2020.9.5
前腹壁の異常	放射線診断科	赤坂好宣	第6回	胎児MRI研究会	オンライン	2020.10.11
肝移植を念頭に転院搬送した昏睡型急性肝不全の新生児の一例	小児集中治療科	花見洋太郎、金子尚樹、宮下徳久、青木一憲、黒澤寛史、広田幸穂、山名啓司、森沢猛、米谷昌彦	第279回	日本小児科学会兵庫県地方会	西宮市	2020.2.1
3日間の挿管管理後に高度気管狭窄をきたした女児の1例	小児集中治療科	白澤彩、青木一憲、津川二郎、黒澤寛史	第48回	救急医学会学術集会	岐阜	2020.11.19
タナトフォリック骨異形成症に対しての食道内圧測定を用いた人工呼吸管理戦略	小児集中治療科	白澤彩、青木一憲、制野勇介、黒澤寛史	第42回	日本呼吸療法医学会学術集会	京都	2020.12.21

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
挿管チューブと気管軸との malalignment により換気不全を繰り返した小児例	小児集中治療科	先瀬大、青木一憲、長井勇樹、制野勇介、長谷川智巳、黒澤寛史	第42回	日本呼吸療法医学会学術集会	京都	2020.12.21
「ベーションックレクチャー」 苦手克服！ こどもの呼吸管理	小児集中治療科	青木一憲	第42回	日本呼吸療法医学会学術集会	京都	2020.12.20-21
小児集中治療医から見た小児の終末期	小児集中治療科	制野勇介	第47回	日本集中治療医学会学術集会	非開催	紙上
小児集中治療室における終末期患者への対応の試み	小児集中治療科	山下由理子、制野勇介、長井勇樹、青木一憲、長谷川智巳、黒澤寛史	第47回	日本集中治療医学会学術集会	非開催	紙上
小児集中治療室における尿中 L-FABP の急性腎障害診断マーカーの有用性に関する前向き観察研究	小児集中治療科	制野勇介、長井勇樹、青木一憲、長谷川智巳、黒澤寛史、菅谷健	第47回	日本集中治療医学会学術集会	非開催	紙上
小児声帯麻痺に対する声帯エコー評価の有用性	小児集中治療科	金子尚樹、長谷川智巳、吉田美苗、黒澤寛史	第47回	日本集中治療医学会学術集会	非開催	紙上
重症心身障害児の腕頭動脈気管圧排に対する予防的腕頭動脈離断術の有用性	小児集中治療科	長谷川智巳	第123回	日本小児科学会学術集会	非開催	2020.8.21-23
よりよい小児循環器集中治療の管理体制とは～Cardiac ICUにて心肺蘇生を要した症例を振り返って～(シンポジウム)	小児集中治療科	長谷川智巳	第56回	日本小児循環器学会学術集会	京都	2020.11.23
網膜芽腫治療後に小脳腫瘍を発生した1例	1)病理診断科、 2)血液腫瘍、 3)眼科、 4)脳神経外科、 5)放射線診断科	吉田牧子1)、中村さやか2)、岸本健治2)、長谷川大一郎2)、小阪嘉之2)、野村耕治3)、小山淳二4)、阿久津宣行4)、河村淳史4)、赤坂好宣5)	第109回	日本病理学会総会	Web開催	2020.7.1-31
『小児専門病院における手術室での褥瘡の現状と対策』	看護部	鎌田直子	第22回	日本褥瘡学会	web開催	
『二分脊椎患者への看護実践～皮膚・排泄ケア認定看護師の立場から』	看護部	鎌田直子	第31回	日本小児整形外科学会	web開催	
子ども・家族中心ケアを考えよう	看護部 7東	濱田米紀、竹之内直子、平田美佳	第18回	日本小児がん看護学会学術集会	web開催	2020.11.21
慢性腎疾患のこともと家族のセルフケアを支える看護	看護部 外来	栗林佑季	第30回	日本小児看護学会	Web開催	2020.9.19-30
医療における遊びの研究についての教育人間学的展望	看護部 病棟保育士	奥田早苗	第13回	ホスピタルプレイスペシャリスト国際シンポジウム・研究大会	Web開催	2021.2.10-14
新型コロナウイルスで日常の大変化！ ～遊びを通して感染対策を知らう・やってみよう～	看護部 病棟保育士	田中紀子	第13回	ホスピタルプレイスペシャリスト国際シンポジウム・研究大会	Web開催	2021.2.10-14
今できる事をしめめるように ～HPS養成講座での学びと取り組み～	看護部 病棟保育士	加藤弘子	第13回	ホスピタルプレイスペシャリスト国際シンポジウム・研究大会	Web開催	2021.2.10-14

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
兵庫県立西宮病院の腎移植患者における薬剤情報提供書(トレーシングレポート)を利用した薬薬連携の取組み	薬剤部	太田あづさ、田中智啓、近藤理絵、日生下美紀、西窪奈津子、今井美樹、岸川英史	第56回	日本移植学会総会	web開催	2020.11.1-30
小児領域におけるネフローゼ症候群に対するリツキシマブの治療成績と有害事象発現の状況	薬剤科	齋藤あゆみ、研真梨子、岡本沙央理、磯元啓吾、太田あづさ、垣尾直美、合田泰志、貝藤裕史	第14回	日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会	web開催	2020.12.14-20
小児患者の家族向け抗がん剤治療時の曝露対策パンフレットの作成	薬剤部	池啓伸、研真梨子、平岡有貴子、多々見俊輔、陣田剛志、太田あづさ、垣尾尚美、合田泰志	第42回	日本病院薬剤師会近畿学術大会	web開催	2021.1.30-31
発熱性好中球減少症に対する抗菌薬適正使用支援チームによるケーススタディ&フィードバックの効果	薬剤部	高橋美賀、渡邊稔子、磯元啓吾、太田あづさ、垣尾尚美、大竹正悟、笠井正志、森健、合田泰志	第42回	日本病院薬剤師会近畿学術大会	web開催	2021.1.30-31
急性左中足骨髄炎の8歳男児	救急総合診療科	山内悠輔、倉橋幸也、永尾宏之、西村明紘、張慶哲、藤田杏子、津田雅世、上村克徳、田中亮二郎	第272回	日本小児科学会兵庫県地方会	姫路市	2017.9.30
Comprehensive analysis using target sequencing panel for congenital anomalies of the kidney and urinary tract and nephronophthisis in Japan	臨床遺伝科	Naoya Morisada, Akemi Shono, Kandai Nozu, Ryojiro Tanaka, Kazumoto Iijima		American society of Human Genetics 2017	Orland	2017.10.17-21
脂質異常症の栄養・食事指導	栄養管理部	鳥井隆志	第52回	日本動脈硬化学会総会・学術総会	Web	2020.7.17
医療的ケア児の栄養管理	栄養管理部	鳥井隆志	第2回	兵庫県学校看護師研究会	神戸市	2020.2.1
小児の栄養管理	栄養管理部	鳥井隆志		加古川中央市民病院管理栄養士スキルアップ研修	加古川市	2020.8.31
症例から見る診療放射線技師の読影補助と体制整備の重要性	放射線部	前田啓明		令和元年度近畿地域診療放射線学術大会	京都	2020. 2. 9
造影剤の漏出事例について - 県立病院における実態調査 -	放射線部	前田啓明	第3回	イメージングびあWeb開催	神戸市	2020.10.30

4) 報道

テーマ	所属科	発表者名	報道媒体	報道年月日

5) 実習生・研修生受け入れ状況

①実習生

診療部

学校名	実習名	実習生数	実習期間	実習場所
神戸大学医学部	小児科実習	1	2020.1.6-2020.1.30	感染症内科
兵庫教育大学	公認心理師実習	1	12日間	精神科
神戸総合医療専門学校	言語聴覚士科 長期臨床実習	1	2020.10.12-2020.11.9	"リハビリテーション" ショーン科、耳鼻咽喉科、 7東病棟
神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科		2名	2020.1.8-2020.2.7	歯科外来・他
神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科		2名	2020.10.15-2020.10.23	歯科外来・他
兵庫歯科衛生士学院		2名	2020.9.1-2020.9.29	歯科外来・他

看護部

学校名	実習名	実習生数	実習期間	実習場所
兵庫県立大学看護学部	統合看護 (小児) (実習中止、カンファレンスのみ参加)	8	6/12	We bカンファレンス参加 (7東 5西)
		17	7/7~7/16 (8日間)	病棟 (7東 6東 5西 救急・HCU)
	17	10/5~10/15 (9日間)	病棟 (7東 6東 救急・HCU)	
	17	10/19~10/29 (9日間)	病棟 (7東 6東 5西 救急・HCU)	
	17	11/2~11/12 (8日間)	病棟 (7東 6東 救急・HCU)	
	17	11/16~11/20 (5日間)	病棟 (7東 6東 5東 救急・HCU)	
	17	12/10	We bカンファレンス参加 (7東 6西 5東)	
	3	8/13~9/30 (13日間)	主な病棟 (外来)	
	8	10/19~10/29 (9日間)	病棟 (産科 NICU GCU)	
	8	11/2~11/12 (8日間)	病棟 (産科 NICU GCU)	
	8	11/16~11/20 (5日間)	病棟 (産科 NICU GCU)	

学校名	実習名	実習生数	実習期間	実習場所
兵庫県立総合衛生学院	小児看護学 (看護学科全日制)	4	8/3～8/6 (4日間)	病棟 (5東)
		5	9/7～9/10 (3日間)	病棟 (5東)
		5	9/28～10/1 (4日間)	病棟 (5東)
		5	8/24～8/27 (4日間)	病棟 (5東)
		6	8/31～9/3 (4日間)	病棟 (6東)
		3	9/14～9/17 (4日間)	病棟 (6東)
		3	9/23～9/25 (4日間)	病棟 (6東)
		5	10/19～10/22 (4日間)	病棟 (5東)
		3	1/20	Webカンファレンス参加 (NICU GCU)
		3	1/22	Webカンファレンス参加 (NICU GCU)
神戸常磐大学 神戸常磐短期大学部 姫路大学	総合実習 助産診断・技術学実習Ⅲ (実習中止、カンファレンスのみ参加)	7	7/1 (1日間)	病棟 (7西 6西)
		9	8/6～8/7 (2日間)	病棟 (7東 6東 5西 救急・HCU)
		3	9/29～10/2 (4日間)	病棟 (5西)
		4	10/6～10/9 (4日間)	病棟 (5西)
		4	10/20～10/23 (4日間)	病棟 (5西)
		3	10/27～10/30 (4日間)	病棟 (5西)
		3	11/10～11/13 (4日間)	病棟 (5西)
		4	11/17～11/20 (4日間)	病棟 (5西)
		2	7/6～7/10 (5日間)	病棟 (5東)
		3	7/13～7/17 (5日間)	病棟 (5東)
関西国際大学	統合看護実習 (小児看護学)	2	7/27～7/31 (5日間)	病棟 (5東)
		4	7/27～8/21 (10日間)	病棟 (産科 NICU GCU)
		4	8/3～8/21 (10日間)	病棟 (産科 NICU GCU)
		3	9/28～9/29 (2日間)	病棟 (NICU GCU)
		3	9/30～10/1 (2日間)	病棟 (NICU GCU)
		3	10/5～10/6 (2日間)	病棟 (NICU GCU)
		3	10/7～10/8 (2日間)	病棟 (NICU GCU)
		3	10/12～10/13 (2日間)	病棟 (NICU GCU)
		2	10/14～10/15 (2日間)	病棟 (NICU GCU)
		神戸市看護大学	ウイメンズヘルス看護	4
4	8/3～8/21 (10日間)			病棟 (産科 NICU GCU)
3	9/28～9/29 (2日間)			病棟 (NICU GCU)
3	9/30～10/1 (2日間)			病棟 (NICU GCU)
3	10/5～10/6 (2日間)			病棟 (NICU GCU)
3	10/7～10/8 (2日間)			病棟 (NICU GCU)
3	10/12～10/13 (2日間)			病棟 (NICU GCU)
2	10/14～10/15 (2日間)			病棟 (NICU GCU)

神戸女子大学 小児	成育看護実習Ⅱ(小児)	10	7/27~8/6 (4日間)	病棟 (7西 6西)
		10	9/28~10/8 (4日間)	病棟 (7西 6西)
	課題探求	3	7/27~8/6 (9日間)	病棟 (7西 6西)
		4	9/28~10/8 (9日間)	病棟 (7西 6西)
神戸女子大学 助産	総合実習	3	9/23~9/25 (3日間)	病棟 (産科 NICU GCU)
関西看護医療大学	小児看護学実習	16	9/28~9/30 (3日間)	病棟 (7東 救急・HCU)
兵庫医療大学	小児看護学実習 (実習中止、カンファレンスのみ参加)	11	2/1~2/3 (3日間)	病棟 (7東)
		5	1/21	Webカンファレンス参加 (7西 5東)
甲南女子大学	母子看護実習Ⅱ小児看護学領域 (実習中止、カンファレンスのみ参加)	6	2/15	Webカンファレンス参加 (7西 5東)
		8	9/4	Webカンファレンス参加 (7西 6西)
		8	9/11	Webカンファレンス参加 (7西 6西)
		8	11/13	Webカンファレンス参加 (7西 6西)
		8	11/20	Webカンファレンス参加 (7西 6西)

見学

園田学園女子大学	成育看護学(小児)	29+27	9/7 9/14	
----------	-----------	-------	----------	--

大学院生

学 校 名	実 習 名	実習生数	実習期間	実習場所
神戸市看護科大学大学院	大学院看護学研究科博士前期課程	1	8/18~3/31の内(11日間) 9/11~10/30の内(11日間)	病棟 (NICU GCU 外来 救急・HCU)
	大学院看護学研究科博士前期課程	1	8/18~3/31の内(10日間) 10/19~12/25の内(12日間)	病棟 (NICU GCU 外来 6西)
大阪府立大学大学院看護学研究科	博士前期課程家族看護学分野 家族看護学実習Ⅰ	1	8/24~8/28の内(5日間)	主に外来
	博士前期課程家族看護学分野 専門看護師コース	1	7/20~8/14の内(3日間)	主に外来
神戸女子大学大学院	看護学研究科看護学専攻博士前期課程 小児看護学実習Ⅱ	1	10/12~11/6の内(11日間)	病棟 (5西)

薬剤部

学校名	実習名	実習生数	実習期間	実習場所
神戸学院大学	薬学生実務実習	1	11.25～2.14	薬剤部と主な部署
神戸学院大学	薬学生実務実習	1	7.1～9.15	薬剤部と主な部署
神戸学院大学	薬学生実務実習	3	9.30～12.15	薬剤部と主な部署

栄養管理部

学校名	実習名	実習生数	実習期間	実習場所
同志社女子大学	臨床栄養学及び給食経営管理	2	2/17～3/2	栄養管理部
兵庫県立大学	臨床栄養臨地実習 給食経営管理臨地実習	2	3/2～3/13	栄養管理部
神戸学院大学	管理栄養士臨地実習	2	8/24～9/4	栄養管理部
神戸女子大学	臨床栄養学臨地実習	2	10/5～10/16	栄養管理部
神戸松蔭女子学院大学	臨床栄養学 臨地実習	2	10/19～10/30	栄養管理部

検査・放射線部（検査）

学校名	実習名	実習生数	実習期間	実習場所
神戸常盤大学保健科学部医療検査学科	臨床検査 臨地実習	2	1.14～3.9	検査部
神戸学院大学栄養学部生命栄養学科	臨床検査 臨地実習	2	8.17～9.18	検査部

6) 研修 (2020年)

1) 公開研修会

名称	主催	開催日	時間	場所	院内参加数	院外参加数	合計	テーマ	発表者 / 担当	所属科名
第275回こども病院症例検討会	研修教育委員会	1月9日	17:45-18:30	2階講堂	24	2	26	『学齢期になった発見された高度難聴の一症例』	大津雅秀	耳鼻咽喉科
第276回こども病院症例検討会	研修教育委員会	2月13日	17:45-18:30	2階講堂	15	1	16	『視性刺激遮断による眼振との鑑別を要したオプソクロームスの1例』	松野裕樹	眼科
第278回こども病院症例検討会	研修教育委員会	7月9日	17:45-18:30	2階講堂	20	5	25	『診断に難渋しRb1の遺伝学的検査を行った両側網膜芽細胞腫の一例：当院における網膜芽細胞腫の治療』	宮本真知子 齋藤敦郎	血液・腫瘍内科
第279回こども病院症例検討会	研修教育委員会	10月8日	17:45-18:30	2階講堂	12	2	14	『発熱を伴う貧血を来した5歳男児例』	池谷紀衣子 南川将吾	総合診療科
第281回こども病院症例検討会	研修教育委員会	12月10日	17:45-18:30	2階講堂	23	0	23	『アレルギー検査陰性なのに卵アレルギー?』	百々菜月	アレルギー科
第19回こども病院院内研修会	研修教育委員会	1月23日	17:45-18:30	2階講堂	20	4	24	『小児在宅に関連した社会資源について』	小橋諒子	医療福祉相談員
第20回こども病院院内研修会	研修教育委員会	10月22日	17:45-18:30	2階講堂	18	0	18	『放射線治療、特に陽子線治療について』	副島俊典	放射線治療科
第21回こども病院院内研修会	研修教育委員会	11月12日	17:45-18:30	2階講堂	27	7	34	『おひさまクリニックでの小児在宅医療』	医療法人おひさま会 おひさまクリニック管理 医 荒 隆紀	家族支援・地域医療連携部
第1回初期研修医のための兵庫県立こども病院小児科専門医研修プログラムセミナー (SHaRP)	兵庫県立こども病院小児科専門医研修プログラム部会	2020.2.22	13:30-17:30	兵庫県立こども病院	10	40	50	小児診療に興味がある初期研修医へ向けたセミナー	大竹正悟 小児感染症の原則～おとなとこどもの違い～	感染症内科
第3回 兵庫抗菌薬適正使用のための地域連携研修会	兵庫県立こども病院薬劑部	2020.12.20	10:30-12:15	Online	5	45	50	行政を中心とした地域抗菌薬適正使用と市民教育	大竹正悟	感染症内科
第3回 予防接種基礎講座	予防接種センター	2020.2.22	8:50-12:40	兵庫県立こども病院	10	50	70	予防接種基礎講座	笠井正志他	感染症内科
臨床心理講座	日本臨床心理士会	2020.1.26	10:30-16:30	東京	0	50	50	小児がんの抗がん剤治療による影響、認知の問題を知る	藤井美有	精神科

第5会 北近畿小児救急研究会	豊岡病院但馬救命救急センター	2020.2.8	18:00-21:00	豊岡市	0	50	50	50	地域とPICUのシームレスな連携-PICU医の立場から-	青木一憲	小児集中治療科
特定行為に係る看護師研修	一般社団法人S-QUE研究会	2020.3.11	10:00-12:00	神戸市	0	0	0	0	小児の急性期輸液	青木一憲	小児集中治療科
令和2年度兵庫県立こども病院周産期医療センター研修会	産科・新生児内科	2021.12.12	14:00-17:30	2階講堂	25	75	100	1)GCU病棟におけるベビータッチケアの実際について 2)出生前診断とNIPT 3)NCP�2020の改訂のポイントとSERS-CoV-2流行下での新生児蘇生の留意点	1)井谷洋美、 宮井文美 2)平久進也 3)細野茂春		1)NICU看護師、ベビータッチケアスペシャリスト 2)産科 3)自治医科大学付属さいたま医療センター周産期科新生児部門教授
第275回こども病院症例検討会	研修教育委員会	1月9日	17:45~18:30	2階講堂	24	2	26	『学齢期になった発見された高度難聴の一症例』	大津雅秀	耳鼻咽喉科	
第276回こども病院症例検討会	研修教育委員会	2月13日	17:45~18:30	2階講堂	15	1	16	『視性刺激遮断による眼振との鑑別を要したオプソクローヌスの1例』	松野裕樹	眼科	
第278回こども病院症例検討会	研修教育委員会	7月9日	17:45~18:30	2階講堂	20	5	25	『診断に難渋しRb1の遺伝学的検査を行った両側網膜芽細胞腫の一例：当院における網膜芽細胞腫の治療』	宮本真知子 齋藤敦郎	血液・腫瘍内科	
第279回こども病院症例検討会	研修教育委員会	10月8日	17:45~18:30	2階講堂	12	2	14	『発熱を伴う貧血を来した5歳男児例』	池谷紀衣子 南川将吾	総合診療科	
第281回こども病院症例検討会	研修教育委員会	12月10日	17:45~18:30	2階講堂	23	0	23	『アレルギー検査陰性なのに卵アレルギー?』	百々菜月	アレルギー科	
第19回こども病院院内研修会	研修教育委員会	1月23日	17:45~18:30	2階講堂	20	4	24	『小児在宅に関連した社会資源について』	小橋諒子	医療福祉相談員	
第20回こども病院院内研修会	研修教育委員会	10月22日	17:45~18:30	2階講堂	18	0	18	『放射線治療、特に陽子線治療について』	副島俊典	放射線治療科	
第21回こども病院院内研修会	研修教育委員会	11月12日	17:45~18:30	2階講堂	27	7	34	『おひさまクリニックでの小児在宅医療』	医療法人おひさま会 おひさまクリニック管理医 荒隆紀	家族支援・地域医療連携部	
AST 地域連携研修会	AST	12月20日	10:30~12:15	2階講堂		54	54	地域での小児抗菌薬適正使用の推進	大竹医師	感染症科	

近畿ブロック小児がん相談員研修	近畿ブロック小児がん拠点病院相談支援部会	2月13日	13:30～15:00	Web開催	6	35	41	小児がんにおけるゲノム医療と遺伝性腫瘍	小坂嘉之 森健 石田敏章 森貞直哉 栗林佑季 中谷扶美 谷本江利子 松尾さおり	血液腫瘍内科 臨床遺伝科 看護部 家族支援地域 連携部
-----------------	----------------------	-------	-------------	-------	---	----	----	---------------------	--	---

2) 院内全体研修

名称	主催	開催日	時間	場所	参加数	テーマ	講師 / 発表者	所属
令和2年度第1回院内AST研修会	薬剤部	2020.6.22		e-learning	35	兵庫子どもにおける感染症診療のトリセツ	大竹正悟、 松村治	感染症内科 総合診療科
第1回RST勉強会	呼吸療法委員会	2020.9.18	17:45-18:30	講堂	30	DOPE・用手換気	青木一憲	小児集中治療科
第2回RST勉強会	呼吸療法委員会	2020.10.16	17:45-18:30	講堂	30	DOPE・用手換気	青木一憲	小児集中治療科
医薬品安全使用研修会	薬剤部	12月25日～ 2月14日		safetyplus	190	医薬品の適正使用の推進	垣尾	薬剤部
小児緩和ケア研修	がん相談支援室、 看護部、緩和ケア チーム	10月24日	13:00-16:30	講堂	36	「小児緩和ケア」	松岡真里	京大 大学院医学研 究科 看護部
第1回医療安全研修会	医療安全管理室	5月18日～ 7月31日	30分	各自	846	e-ラーニング ①医療安全の基本を知る「最近の医療安全」 ②心理的安全性①「心理的安全性と現場に 心理的安全性がないとき」	無し	無し
第2回医療安全研修会	医療安全管理室	3月9日～ 3月31日	1時間	各自	全職員 811	各部門の取り組み報告	各部門リスク マネジャー	各部門
第3回院内AST研修会	感染対策 委員会	2月4日 2月6日	17:40-18:20	講堂	86	抗菌薬適正使用 -抗菌薬の光と闇-	大竹正悟 松村治	抗菌薬適正使 用支援チーム
委託職員対象新型コロナウイルス感染症講習会	感染対策 委員会	2月28日	15:00-15:30	講堂	42	新型コロナウイルスCOVID-19	合田由香利 中島由佳	感染対策チーム
新規採用医師感染対策オリエンテーション	感染対策部	4月1日	10:05-10:35	総務部前 会議室	40	小児専門病院の感染対策	笠井正志 大竹正悟	感染対策チーム
新規採用看護師対象 新型コロナウイルス感染症レクチャー	感染対策部	4月1日	11:30-12:00	北館 研修室	60	新型コロナウイルス感染症	笠井正志	感染対策チーム
ER・救急病棟スタッフ対象 新型コロナウイルス感染症レクチャー	感染対策部	4月3日	17:30-18:00	講堂	33	新型コロナウイルス感染症の感染対策	笠井正志	感染対策チーム
院内学級職員対象 新型コロナウイルス感染症レクチャー	感染対策部	4月6日	13:30-14:00	看護部 会議室	12	新型コロナウイルス感染症の感染対策	笠井正志	感染対策チーム

窓口業務職員対象 新型コロナウイルス感染症レクチャー	感染対策部	4月6日	16:30-17:00	北館 研修室	32	新型コロナウイルス感染症の感染対策	笠井正志	感染対策チーム
麻酔科医師対象 防護具着脱演習	感染対策部	4月6日	16:30-17:00	手術室 3	15	新型コロナウイルス感染症対策、防護具着脱演習	新谷茜	感染対策チーム
一般外来スタッフ対象 新型コロナウイルス感染症レクチャー	感染対策部	4月8日	16:30-17:00	外来 計測室	23	新型コロナウイルス感染症の感染対策	笠井正志	感染対策チーム
窓口業務職員対象 新型コロナウイルス感染症レクチャー	感染対策部	4月8日	17:15-17:45	看護部 会議室	23	新型コロナウイルス感染症の感染対策	笠井正志	感染対策チーム
放射線部スタッフ対象 新型コロナウイルス感染症レクチャー	感染対策部	4月10日	16:30-17:00	放射線部 スタッフ室	20	新型コロナウイルス感染症の感染対策	笠井正志	感染対策チーム
第1回院内AST研修会	感染対策部	6月～8月	e-learning	e-learning	286	兵庫子どもにおける感染症診療のトリセツ	大竹正悟 松村治	抗菌薬適正 使用支援チ ーム
第1回全職員対象感染対策研 修会	感染対策部	8月～9月	e-learning	e-learning	763	だからこそ、標準予防策	佐藤聖子 新谷茜	感染対策チーム
新型コロナウイルス研修会	感染対策部	11月9日	e-learning	e-learning	48	COVID-19診療最前線から見た光と影	伊藤雄介	兵庫県立尼 崎総合医療 センター
第2回院内AST研修会	感染対策部	12月～1月	e-learning	e-learning	66	兵庫子どもにおける感染症診療のトリセツ	松村治	総合診療科
第2回兵庫抗菌薬適正使用 のための地域連携研修会 (HART)	感染対策部	12月20日	10:30-12:15	オンライン	51	・行政を中心とした抗菌薬適正使用と市民 教育 ・地域で取り組む小児AMR対策-初期救急 施設の事例をもとに-	大竹正悟 木村誠	抗菌薬適正使 用支援チーム 神戸子ども初期 急病センター
接遇研修	患者サービス向上 等推進委員会 看護師長補佐会	11月17日	17:30-18:30	講堂	63	医療現場における接遇とは	松本真由美	株式会社ソ ラスト
2019年度輸血研修会	輸血療法委員会	1月16日	17:45-18:45	講堂	96	輸血後感染症検査の実施率調査報告 輸血用血液製剤に関する感染症と安全対策	田中桃子 小島正太郎	検査部血液 センター

3) 複数科合同カンファレンス

名称	対象科	開催日	時間	場所	参加数	テーマ	発表者/担当
リハビリ合同カンファレンス	整形外科・リハ科	2020.1.6	16:30-17:30	6東ナースステーション	9名	対象患者に対するリハビリテーションについて	
リハビリ合同カンファレンス	血液腫瘍内科・リハ科	2020.1.20	14:30-15:00	7西スタッフステーション	10名	対象患者に対するリハビリテーションについて	
リハビリ合同カンファレンス	血液腫瘍内科・リハ科	2020.1.20	17:30-18:30	7階カンファレンスルーム	20名	対象患者に対するリハビリテーションについて	
リハビリ合同カンファレンス	新生児内科・リハ科	2020.1.22	14:30-14:40	NICUスタッフステーション	6名	対象患者に対するリハビリテーションについて	
リハビリ合同カンファレンス	新生児内科・リハ科	2020.1.22	14:40-15:00	GCUSタッフステーション	7名	対象患者に対するリハビリテーションについて	
リハビリ合同カンファレンス	血液腫瘍内科・リハ科	2020.1.28	14:00-15:00	7階カンファレンスルーム	10名	対象患者に対するリハビリテーションについて	
リハビリ合同カンファレンス	新生児内科・リハ科	2020.1.29	14:30-14:45	GCUCカンファレンスルーム	6名	対象患者に対するリハビリテーションについて	
リハビリ合同カンファレンス	血液腫瘍内科・リハ科	2020.2.5	16:00-16:40	7階カンファレンスルーム	20名	対象患者に対するリハビリテーションについて	
リハビリ合同カンファレンス	総合診療科・リハ科・地域連携カ	2020.2.13	11:00-16:40	ンファレンスルーム	11名	対象患者に対するリハビリテーションについて	
リハビリ合同カンファレンス	新生児内科・リハ科	2020.2.19	14:30-14:40	NICUスタッフステーション	6名	対象患者に対するリハビリテーションについて	
リハビリ合同カンファレンス	新生児内科・リハ科	2020.2.19	14:40-15:10	GCUSタッフステーション	8名	対象患者に対するリハビリテーションについて	
リハビリ合同カンファレンス	総合診療科・リハ科・地域連携カ	2020.2.26	14:00-14:40	棟	6名	対象患者に対するリハビリテーションについて	
リハビリ合同カンファレンス	整形外科・リハ科	2020.2.26	15:30-16:10	外来Fプロック診察室	4名	対象患者に対するリハビリテーションについて	
リハビリ合同カンファレンス	整形外科・リハ科	2020.2.27	14:30-15:10	6東ナースステーション	10名	対象患者に対するリハビリテーションについて	
リハビリ合同カンファレンス	血液腫瘍内科・リハ科	2020.1.15	13:05-13:25	7階カンファレンスルーム	16名	対象患者に対するリハビリテーションについて	
リハビリ合同カンファレンス	血液腫瘍内科・リハ科	2020.1.22	13:05-13:25	7階カンファレンスルーム	20名	対象患者に対するリハビリテーションについて	
リハビリ合同カンファレンス	血液腫瘍内科・リハ科	2020.2.5	13:10-13:25	7階カンファレンスルーム	14名	対象患者に対するリハビリテーションについて	

リハビリ合同カンファレンス	血液腫瘍内科・リハ科	2020.2.12	13:10-13:20	7階カンファレンスルーム	13名	対象患者に対するリハビリテーションについて	
リハビリ合同カンファレンス	血液腫瘍内科・リハ科	2020.2.17	18:00-18:45	7階カンファレンスルーム	35名	対象患者に対するリハビリテーションについて	
リハビリ合同カンファレンス	血液腫瘍内科・リハ科	2020.2.18	14:15-14:50	7西病棟詰所	10名	対象患者に対するリハビリテーションについて	
リハビリ合同カンファレンス	血液腫瘍内科・リハ科	2020.2.19	13:10-13:30	7階カンファレンスルーム	19名	対象患者に対するリハビリテーションについて	
リハビリ合同カンファレンス	血液腫瘍内科・リハ科	2020.2.26	13:05-13:20	7階カンファレンスルーム	15名	対象患者に対するリハビリテーションについて	
リハビリ合同カンファレンス	血液腫瘍内科・リハ科	2020.3.6	14:15-14:55	7東病棟詰所	13名	対象患者に対するリハビリテーションについて	
リハビリ合同カンファレンス	血液腫瘍内科・リハ科	2020.3.10	14:30-14:50	7西病棟詰所	11名	対象患者に対するリハビリテーションについて	
リハビリ合同カンファレンス	血液腫瘍内科・リハ科	2020.3.11	13:10-13:25	7階カンファレンスルーム	18名	対象患者に対するリハビリテーションについて	
リハビリ合同カンファレンス	血液腫瘍内科・リハ科	2020.3.18	13:10-13:25	7階カンファレンスルーム	19名	対象患者に対するリハビリテーションについて	
リハビリ合同カンファレンス	整形外科・リハ科	2020.4.7	16:45-16:25	6階カンファレンスルーム	10名	対象患者に対するリハビリテーションについて	
リハビリ合同カンファレンス	血液腫瘍内科・リハ科	2020.4.10	14:30-15:00	7階東病棟詰め所	8名	対象患者に対するリハビリテーションについて	
リハビリ合同カンファレンス	血液腫瘍内科・リハ科	2020.5.1	14:30-15:00	7階東病棟詰め所	8名	対象患者に対するリハビリテーションについて	
リハビリ合同カンファレンス	血液腫瘍内科・リハ科	2020.5.12	14:40-15:20	7西スタッフステーション	8名	対象患者に対するリハビリテーションについて	
リハビリ合同カンファレンス	新生児内科・リハ科	2020.5.20	14:40-15:00	GCUスタッフステーション	7名	対象患者に対するリハビリテーションについて	
リハビリ合同カンファレンス	新生児内科・リハ科	2020.5.20	15:00-15:15	NICUスタッフステーション	8名	対象患者に対するリハビリテーションについて	
リハビリ合同カンファレンス	血液腫瘍内科・リハ科	2020.6.5	14:30-15:00	7東スタッフステーション	9名	対象患者に対するリハビリテーションについて	
リハビリ合同カンファレンス	血液腫瘍内科・リハ科	2020.6.9	14:30-15:00	7西スタッフステーション	10名	対象患者に対するリハビリテーションについて	
リハビリ合同カンファレンス	血液腫瘍内科・リハ科	2020.6.24	14:30-15:00	GCUナースステーション	8名	対象患者に対するリハビリテーションについて	
リハビリ合同カンファレンス	新生児内科・リハ科	2020.6.24	14:20-14:30	NICUスタッフステーション	7名	対象患者に対するリハビリテーションについて	
リハビリ合同カンファレンス	血液腫瘍内科・リハ科	2020.7.3	14:20-15:00	7東スタッフステーション	8名	対象患者に対するリハビリテーションについて	

リハビリ合同カンファレンス	血液腫瘍内科・リハ科	2020.7.14	14:30-15:00	7西スタッフス テーション	10名	対象患者に対するリハビリテーションについて
リハビリ合同カンファレンス	新生児内科・リハ科	2020.7.22	14:30-15:00	GPUナースス テーション	7名	対象患者に対するリハビリテーションについて
リハビリ合同カンファレンス	新生児内科・リハ科	2020.7.22	14:20-14:30	NICUスタッフス テーション	6名	対象患者に対するリハビリテーションについて
リハビリ合同カンファレンス	血液腫瘍内科・リハ科	2020.8.21	14:20-15:00	7東スタッフス テーション	6名	対象患者に対するリハビリテーションについて
リハビリ合同カンファレンス	新生児内科・リハ科	2020.8.26	14:20-14:30	NICUスタッフ ステーション	9名	対象患者に対するリハビリテーションについて
リハビリ合同カンファレンス	新生児内科・リハ科	2020.8.26	14:30-15:00	GPUナースス テーション	8名	対象患者に対するリハビリテーションについて
リハビリ合同カンファレンス	血液腫瘍内科・リハ科	2020.9.18	14:30-14:50	7東スタッフス テーション	5名	対象患者に対するリハビリテーションについて
リハビリ合同カンファレンス	小児外科・リハ科	2020.9.16	15:45-16:30	5階カンファレ ンスルーム	15名	対象患者に対するリハビリテーションについて
リハビリ合同カンファレンス	総合診療科・新生児内科・ リハ科	2020.9.23	16:00-16:40	5階カンファレ ンスルーム	17名	対象患者に対するリハビリテーションについて
リハビリ合同カンファレンス	新生児内科・リハ科	2020.9.30	14:20-14:30	NICUスタッフ ステーション	10名	対象患者に対するリハビリテーションについて
リハビリ合同カンファレンス	新生児内科・リハ科	2020.9.30	14:30-15:00	GPUナースス テーション	9名	対象患者に対するリハビリテーションについて
リハビリ合同カンファレンス	血液腫瘍内科・リハ科	2020.10.7	16:10-17:00	7階カンファレ ンスルーム	20名	対象患者に対するリハビリテーションについて
リハビリ合同カンファレンス	血液腫瘍内科・リハ科	2020.10.13	14:40-15:00	7西スタッフス テーション	10名	対象患者に対するリハビリテーションについて
リハビリ合同カンファレンス	血液腫瘍内科・リハ科	2020.10.16	14:30-15:10	7東スタッフス テーション	8名	対象患者に対するリハビリテーションについて
リハビリ合同カンファレンス	血液腫瘍内科・リハ科	2020.11.10	14:30-15:00	7西スタッフス テーション	10名	対象患者に対するリハビリテーションについて
リハビリ合同カンファレンス	血液腫瘍内科・リハ科	2020.11.20	14:30-15:10	7東スタッフス テーション	6名	対象患者に対するリハビリテーションについて
リハビリ合同カンファレンス	総合診療科・リハ科・ 地域連携室	2020.11.24	10:30-11:30	地域連携カン ファレンスルー ム	15名	対象患者に対するリハビリテーションについて
リハビリ合同カンファレンス	新生児内科・リハ科	2020.11.25	14:20-14:37	NICUスタッフ ステーション	10名	対象患者に対するリハビリテーションについて
リハビリ合同カンファレンス	新生児内科・リハ科	2020.11.25	14:40-15:10	GPUスタッフス テーション	10名	対象患者に対するリハビリテーションについて

リハビリ合同カンファレンス	血液腫瘍内科・リハ科	2020.12.4	14:30-15:10	7東スタッフス テーション	10名	対象患者に対するリハビリテーションについて
リハビリ合同カンファレンス	血液腫瘍内科・リハ科	2020.12.8	14:40-15:00	7西スタッフス テーション15 名	6名	対象患者に対するリハビリテーションについて
形成外科言語カンファレンス	形成外科・リハ科・ 歯科口腔外科・看護部	1月27日	16:30-17:00	2階リハビリ 診察室	4	口蓋裂児の今後の治療計画、言語訓練計画
形成外科言語カンファレンス	形成外科・リハ科・ 歯科口腔外科・看護部	2月17日	16:30-17:00	2階リハビリ 診察室	4	口蓋裂児の今後の治療計画、言語訓練計画
形成外科言語カンファレンス	形成外科・リハ科・ 歯科口腔外科・看護部	4月27日	16:30-17:00	2階リハビリ 診察室	4	口蓋裂児の今後の治療計画、言語訓練計画
形成外科言語カンファレンス	形成外科・リハ科・ 歯科口腔外科・看護部	5月25日	16:30-16:50	2階リハビリ 診察室	4	口蓋裂児の今後の治療計画、言語訓練計画
形成外科言語カンファレンス	形成外科・リハ科・ 歯科口腔外科・看護部	6月29日	16:30-17:00	2階リハビリ 診察室	5	口蓋裂児の今後の治療計画、言語訓練計画
形成外科言語カンファレンス	形成外科・リハ科・ 歯科口腔外科・看護部	7月24日	16:30-16:45	2階リハビリ 診察室	5	口蓋裂児の今後の治療計画、言語訓練計画
形成外科言語カンファレンス	形成外科・リハ科・ 歯科口腔外科・看護部	8月31日	16:30-17:00	2階リハビリ 診察室	5	口蓋裂児の今後の治療計画、言語訓練計画
形成外科言語カンファレンス	形成外科・リハ科・ 歯科口腔外科・看護部	9月28日	16:30-17:00	2階リハビリ 診察室	4	口蓋裂児の今後の治療計画、言語訓練計画
形成外科言語カンファレンス	形成外科・リハ科・ 歯科口腔外科・看護部	10月26日	16:30-17:00	2階リハビリ 診察室	5	口蓋裂児の今後の治療計画、言語訓練計画
形成外科言語カンファレンス	形成外科・リハ科・ 歯科口腔外科・看護部	11月30日	16:30-17:00	2階リハビリ 診察室	4	口蓋裂児の今後の治療計画、言語訓練計画
形成外科言語カンファレンス	形成外科・リハ科・ 歯科口腔外科・看護部	12月21日	16:30-17:00	2階リハビリ 診察室	4	口蓋裂児の今後の治療計画、言語訓練計画
聴覚特別支援学校合同カンファレンス	耳鼻科/リハ科/ こばと聴覚特別支援学校	1月15日	15:30-17:00	2階リハビリ 言語室	8	聴覚特別支援学校との情報交換
聴覚特別支援学校合同カンファレンス	耳鼻科/リハ科/ 豊岡聴覚特別支援学校	2月12日	15:30-17:00	2階リハビリ 言語室	8	聴覚特別支援学校との情報交換
耳鼻科補聴器カンファレンス	耳鼻科/リハ科	3月6日	15:00-16:00	耳鼻科処置室	5	補聴器装用児に対する補聴器装用計画について
耳鼻科補聴器カンファレンス	耳鼻科/リハ科	4月8日	15:00-15:40	2階リハビリ 言語室	3	補聴器装用児に対する補聴器装用計画について
耳鼻科補聴器カンファレンス	耳鼻科/リハ科	4月8日	15:00-15:30	耳鼻科処置室	3	補聴器装用児に対する補聴器装用計画について
耳鼻科補聴器カンファレンス	耳鼻科/リハ科	7月8日	15:00-16:00	耳鼻科処置室	5	補聴器装用児に対する補聴器装用計画について

耳鼻科補聴器カンファレンス	耳鼻科/リハ科	8月5日	15:00-15:50	耳鼻科処置室	5	補聴器装用児に対する補聴器装用計画について	産科、 新生児内科
耳鼻科補聴器カンファレンス	耳鼻科/リハ科	9月2日	15:00-15:50	耳鼻科処置室	5	補聴器装用児に対する補聴器装用計画について	
耳鼻科補聴器カンファレンス	耳鼻科/リハ科	9月30日	15:00-16:00	耳鼻科処置室	5	補聴器装用児に対する補聴器装用計画について	
耳鼻科補聴器カンファレンス	耳鼻科/リハ科	11月4日	14:00-15:00	耳鼻科処置室	6	補聴器装用児に対する補聴器装用計画について	
耳鼻科補聴器カンファレンス	耳鼻科/リハ科	12月9日	14:30-15:00	耳鼻科処置室	5	補聴器装用児に対する補聴器装用計画について	
周産期カンファレンス	産科、新生児内科、 小児外科、麻酔科、 病理診断科、 遺伝子診療部、看護師	毎月 (月が休日の場 合は火)	16:00-16:20	NICUカンフ アレックス室ま たは総務前 会議室	18~20	未分娩妊婦の症例提示と新生児の経過報告	
周産期合同カンファレンス	産科、新生児内科、 小児外科、循環器内科、 心臓外科、麻酔科、 病理診断科、看護師	周産期医療カ ンファレンスの 後に	16:20-16:30	NICUカンフ アレックス室ま たは総務前 会議室	24~28	周産期、新生児期に多科に関わり高度医療を要する 症例の情報交換	産科、 新生児内科
産科・感染症内科合同カンファレンス	産科、感染症内科、 看護師	3回/年	17:00-17:30	産科カンファレ ンスルーム	10~12	周産期領域の感染に関する情報交換	感染症内科、 産科
MRIカンファレンス	産科、放射線科、 新生児内科	2回/年	17:00-17:30	産科カンファレ ンスルーム	14~16	胎児MRIを撮影した症例に経過とMRIの読影、その 後の経過	産科、 放射線科
感染スキルアップ研修 看護師用	薬剤部	8月31日	16:00~17:00	会議室	12	知っていたら少し得する抗菌薬のはなし	多々見
EPDSカンファレンス	精神科・産科	3月11日	13:00-14:20	産科カンファ レンス室	6	EPDSで支援の必要な患者について、支援方法に ついて	EPDSチーム
EPDSカンファレンス	精神科・産科	5月27日	15:15-16:00	産科カンファ レンス室	5	EPDSで支援の必要な患者について、支援方法に ついて	EPDSチーム
EPDSカンファレンス	精神科・産科	7月29日	15:00-16:00	産科カンファ レンス室	7	EPDSで支援の必要な患者について、支援方法に ついて	EPDSチーム
EPDSカンファレンス	精神科・産科	9月30日	15:00-15:30	産科カンファ レンス室	7	EPDSで支援の必要な患者について、支援方法に ついて	EPDSチーム
EPDSカンファレンス	精神科・産科	11月25日	15:00-15:45	産科カンファ レンス室	8	EPDSで支援の必要な患者について、支援方法に ついて	EPDSチーム
プレネイタルビジットカンファレンス	産科・新生児・ 循環器科	1月	9:00-9:30	産科カンファ レンス室		プレネイタルビジットの必要な患者の抽出・支 援方法	プレネイタル 担当
プレネイタルビジットカンファレンス	産科・新生児・ 循環器科	2月	9:00-9:30	産科カンファ レンス室		プレネイタルビジットの必要な患者の抽出・支 援方法	プレネイタル 担当
プレネイタルビジットカンファレンス	産科・新生児・ 循環器科	3月	9:00-9:30	産科カンファ レンス室		プレネイタルビジットの必要な患者の抽出・支 援方法	プレネイタル 担当
プレネイタルビジットカンファレンス	産科・新生児・ 循環器科	5月1日	9:00-9:30	産科カンファ レンス室	4	プレネイタルビジットの必要な患者の抽出・支 援方法	プレネイタル 担当

プレネイタルピジットカンファレンス	産科・新生児・ 循環器科	6月5日	9:00-9:30	産科カンファ レンス室	6	プレネイタルピジットの必要な患者の抽出・支 援方法	プレネイタル 担当
プレネイタルピジットカンファレンス	産科・新生児・ 循環器科	7月3日	9:05-9:35	産科カンファ レンス室	6	プレネイタルピジットの必要な患者の抽出・支 援方法	プレネイタル 担当
プレネイタルピジットカンファレンス	産科・新生児・ 循環器科	8月7日	9:00-9:30	産科カンファ レンス室	3	プレネイタルピジットの必要な患者の抽出・支 援方法	プレネイタル 担当
プレネイタルピジットカンファレンス	産科・新生児・ 循環器科	9月4日	9:00-9:30	産科カンファ レンス室	4	プレネイタルピジットの必要な患者の抽出・支 援方法	プレネイタル 担当
プレネイタルピジットカンファレンス	産科・新生児・ 循環器科	10月2日	9:00-9:30	産科カンファ レンス室	5	プレネイタルピジットの必要な患者の抽出・支 援方法	プレネイタル 担当
プレネイタルピジットカンファレンス	産科・新生児・ 循環器科	11月6日	9:00-9:30	産科カンファ レンス室	4	プレネイタルピジットの必要な患者の抽出・支 援方法	プレネイタル 担当
プレネイタルピジットカンファレンス	産科・新生児・ 循環器科	12月4日	9:00-9:30	産科カンファ レンス室	5	プレネイタルピジットの必要な患者の抽出・支 援方法	プレネイタル 担当
二分脊椎外来カンファレンス	脳神経外科 整形外科 泌尿器科 作業療法士 皮膚・排泄ケア認定看護師	1月24日	15:35-15:55	整形外科 ギブス室	11	二分脊椎外来を受診した新規患者および要観察 患者の情報共有 対象患者12名	
二分脊椎外来カンファレンス	脳神経外科 整形外科 泌尿器科 皮膚・排泄ケア認定看護師	5月29日	15:30-15:55	整形外科 ギブス室	6	二分脊椎外来を受診した新規患者および要観察 患者の情報共有 対象患者7名	
二分脊椎外来カンファレンス	脳神経外科 整形外科 泌尿器科 皮膚・排泄ケア認定看護師	7月3日	15:30-16:10	整形外科 ギブス室	15	二分脊椎外来を受診した新規患者および要観察 患者の情報共有 対象患者9名	
二分脊椎外来カンファレンス	脳神経外科 整形外科 泌尿器科 皮膚・排泄ケア認定看護師	8月28日	15:35-16:30	整形外科 ギブス室	8	二分脊椎外来を受診した新規患者および要観察 患者の情報共有 対象患者3名	

4) 部署別勉強会・カンファレンス

名称	主催	開催日	時間	場所	参加数	テーマ	発表者/担当
精神科勉強会	精神科	2020.1.25	10:00-12:00	精神科	10	成人の引きこもり事例/心理検査に拒否感の強い患者の結果解釈について	北田/陰山
精神科勉強会	精神科	2020.8.1	10:00-12:00	精神科	14	バウムテストを発達の視点で検討する	沖村
精神科勉強会	精神科	2020.9.26	10:00-12:00	精神科	14	WPPSI知能検査の検討	藤井
麻酔科カンファレンス	麻酔科	毎日	8:30-9:00	麻酔科医局	20	毎日の麻酔症例についての検討	麻酔科統括
麻酔科重症症例カンファレンス	麻酔科	毎週金曜日	16:30-17:30	麻酔科医局	16	次週の重症症例についての検討	麻酔科統括
麻酔科抄読会	麻酔科	隔週月曜日	8:20-8:40	麻酔科医局	20	重要論文を挙げて紹介する	麻酔科担当 医師
症例検討会	新生児科	毎週火木金	8:00-8:45	新生児科カンファレンス室	10~12	入院症例の検討	新生児グループ
リサーチカンファレンス	新生児科	毎週火木	16:00-16:45	新生児科カンファレンス室	10~12	新規研究の検討、研究進捗状況の報告	新生児グループ
新生児科抄読会	新生児科	毎週月水	8:00-8:45	新生児科カンファレンス室	10~12	英文医学雑誌から新生児関連論文の紹介、速読	新生児グループ
モーニングカンファレンス	産科、看護師	毎日	8:30-8:45	産科病棟詰所	10	当直報告と産科入院症例の状態報告、方針検討、連絡事項	産科
ウィークエンドカンファレンス	産科、看護師	毎金	16:00-16:15	産科病棟詰所	8	産科入院症例の状態報告	産科
産科抄読会	産科	2回/月	16:00-16:20	産科カンファレンスルーム	6~7	英文医学雑誌から産科関連論文の紹介	産科
M&Mカンファレンス	小児集中治療科	2020.1.8	17:00-18:00	CICUカンファレンス室	約10名	劇症型肺炎球菌髄膜炎	金子
M&Mカンファレンス	小児集中治療科	2020.2.5	17:00-18:00	CICUカンファレンス室	約10名	頭蓋内出血	糸数
M&Mカンファレンス	小児集中治療科	2020.2.26	17:00-18:00	CICUカンファレンス室	約10名	末梢血幹細胞採取時のカルシウム推移	村田
M&Mカンファレンス	小児集中治療科	2020.3.3	19:00-20:00	Zoom	約10名	ACS/AKI	市坂/青木
M&Mカンファレンス	小児集中治療科	2020.4.24	19:00-20:00	Zoom	約10名	severe ARDS/HFOV、PICUでの終末期対応	村田/糸数
M&Mカンファレンス	小児集中治療科	2020.5.13	19:00-20:00	Zoom	約10名	CSWI/DI	山本
M&Mカンファレンス	小児集中治療科	2020.6.3	19:00-20:00	Zoom	約10名	ECMOとLung rest	先浜
M&Mカンファレンス	小児集中治療科	2020.7.1	19:00-20:00	Zoom	約10名	脳腫瘍術後に髄膜炎/SAHの血管攣縮	村田/市坂
M&Mカンファレンス	小児集中治療科	2020.8.12	19:00-20:00	Zoom	約10名	抜管失敗症例とSBT	市坂/青木
M&Mカンファレンス	小児集中治療科	2020.9.2	19:00-20:00	Zoom	約10名	adult CHDのVT	市坂
M&Mカンファレンス	小児集中治療科	2020.10.7	19:00-20:00	Zoom	約10名	NECを発症したCoA	當間
M&Mカンファレンス	小児集中治療科	2020.11.4	19:00-20:00	Zoom	約10名	心嚢気腫によるECPR/18trisomyの急変	先浜/山本
M&Mカンファレンス	小児集中治療科	2020.12.9	19:00-20:00	Zoom	約10名	右主気管支食道起始症のECMO管理	伊藤/糸数
リサーチカンファレンス	小児集中治療科	2020.1.8	18:00-19:00	CICUカンファレンス室	約10人	新規研究の検討、研究の進捗状況の確認	山下/制野

リサーチカンファレンス	小児集中治療科	2020.2.5	18:00-19:00	CICUカンファレンス室	約10人	新規研究の検討、研究の進捗状況の確認	青木
リサーチカンファレンス	小児集中治療科	2020.3.3	20:00-21:00	Web	約10人	新規研究の検討、研究の進捗状況の確認	長井
リサーチカンファレンス	小児集中治療科	2020.5.13	20:00-21:00	Web	約10人	新規研究の検討、研究の進捗状況の確認	長井
リサーチカンファレンス	小児集中治療科	2020.6.3	20:00-21:00	Web	約10人	新規研究の検討、研究の進捗状況の確認	長井
リサーチカンファレンス	小児集中治療科	2020.7.1	20:00-21:00	Web	約10人	新規研究の検討、研究の進捗状況の確認	長井、制野
リサーチカンファレンス	小児集中治療科	2020.8.12	20:00-21:00	Web	約10人	新規研究の検討、研究の進捗状況の確認	糸数、村田、宮下
リサーチカンファレンス	小児集中治療科	2020.10.7	20:00-21:00	Web	約10人	新規研究の検討、研究の進捗状況の確認	先濱
リサーチカンファレンス	小児集中治療科	2020.11.11	19:00-20:00	Web	5人	新規研究の検討、研究の進捗状況の確認	山下
リサーチカンファレンス	小児集中治療科	2020.12.9	20:00-21:00	Web	約10人	新規研究の検討、研究の進捗状況の確認	先濱、長井
集中治療科 マニアルカンファレンス	小児集中治療科	2020.4.15	20:00-21:00	Web	15	呼吸関連	各自
集中治療科 マニアルカンファレンス	小児集中治療科	2020.5.20	20:00-21:00	Web	15	呼吸関連	各自
集中治療科 マニアルカンファレンス	小児集中治療科	2020.6.17	20:00-21:00	Web	15	呼吸関連	各自
集中治療科 マニアルカンファレンス	小児集中治療科	2020.7.15	19:00-21:00	Web	15	循環関連	各自
集中治療科 マニアルカンファレンス	小児集中治療科	2020.8.19	19:00-21:00	Web	15	循環関連	各自
集中治療科 マニアルカンファレンス	小児集中治療科	2020.9.16	19:00-21:00	Web	15	循環関連	各自
集中治療科 マニアルカンファレンス	小児集中治療科	2020.10.21	19:00-21:00	Web	15	中枢神経	各自
集中治療科 マニアルカンファレンス	小児集中治療科	2020.11.18	19:00-21:00	Web	15	中枢神経	各自
集中治療科 マニアルカンファレンス	小児集中治療科	2020.12.16	19:00-21:00	Web	15	中枢神経	各自
人工呼吸勉強会	小児集中治療科	2020.3.18	17:00-20:00	集中治療医控室	7	Mechanical Ventilation Chapter38, 39, 40	長井、制野、青木
重症家族ケアグループ 主催勉強会	家族ケアG	2020.7.7	17:30-18:30	北館	30	小児医療における親の決定権	制野
重症家族ケアグループ 主催勉強会	家族ケアG	2020.10.13	17:30-18:30	北館	30	患者にとって何が最善か	制野
先天性心疾患勉強会	小児集中治療科	2020.4.15	19:00-20:00	集中治療医控室	10	Critical care of children with heart disease	糸数・白澤
先天性心疾患勉強会	小児集中治療科	2020.5.20	19:00-20:00	集中治療医控室	10	Critical care of children with heart disease	先濱・市坂
先天性心疾患勉強会	小児集中治療科	2020.6.17	19:00-20:00	集中治療医控室	10	Critical care of children with heart disease	村田・山本

先天性心疾患勉強会	小児集中治療科	2020.7.15	19:00-20:00	集中治療医控室	10	Critical care of children with heart disease	系数・先賓
先天性心疾患勉強会	小児集中治療科	2020.8.12	8:45-9:15	集中治療医控室	10	Critical care of children with heart disease	伊藤
先天性心疾患勉強会	小児集中治療科	2020.8.26	8:45-9:15	集中治療医控室	10	Critical care of children with heart disease	花見
先天性心疾患勉強会	小児集中治療科	2020.9.23	8:45-9:15	集中治療医控室	10	Critical care of children with heart disease	當間
先天性心疾患勉強会	小児集中治療科	2020.9.14	8:45-9:15	集中治療医控室	10	Critical care of children with heart disease	山本
先天性心疾患勉強会	小児集中治療科	2020.10.28	8:45-9:15	集中治療医控室	10	Critical care of children with heart disease	村田
先天性心疾患勉強会	小児集中治療科	2020.11.11	8:45-9:15	集中治療医控室	10	Critical care of children with heart disease	制野
蘇生シミュレーション	小児集中治療科	2020.1.17	17:30-19:00	PICU内	約10名	蘇生シミュレーション	黒澤・青木・ 宮下・山本
蘇生シミュレーション	小児集中治療科	2020.1.28	17:30-19:00	PICU内	約10名	蘇生シミュレーション	黒澤・青木・ 宮下・山本
蘇生シミュレーション	小児集中治療科	2020.2.13	17:30-19:00	PICU内	約10名	蘇生シミュレーション	黒澤・青木・ 宮下・山本
蘇生シミュレーション	小児集中治療科	2020.2.20	17:30-19:00	PICU内	約10名	蘇生シミュレーション	黒澤・青木・ 宮下・山本
蘇生シミュレーション	小児集中治療科	2020.3.14	17:30-19:00	PICU内	約10名	蘇生シミュレーション	黒澤・青木・ 宮下・山本
蘇生シミュレーション	小児集中治療科	2020.3.23	17:30-19:00	PICU内	約10名	蘇生シミュレーション	黒澤・青木・ 宮下・山本
蘇生シミュレーション	小児集中治療科	2020.6.22	17:30-19:00	PICU内	約10名	蘇生シミュレーション	黒澤・青木・ 宮下・山本・ 當間
蘇生シミュレーション	小児集中治療科	2020.6.29	17:30-19:00	PICU内	約10名	蘇生シミュレーション	黒澤・青木・ 宮下・山本・ 當間
蘇生シミュレーション	小児集中治療科	2020.7.14	17:30-19:00	PICU内	約10名	蘇生シミュレーション	黒澤・青木・ 宮下・山本・ 當間
蘇生シミュレーション	小児集中治療科	2020.7.17	17:30-19:00	PICU内	約10名	蘇生シミュレーション	黒澤・青木・ 宮下・山本・ 當間
蘇生シミュレーション	小児集中治療科	2020.7.30	17:30-19:00	PICU内	約10名	蘇生シミュレーション	黒澤・青木・ 宮下・山本・ 當間
蘇生シミュレーション	小児集中治療科	2020.8.17	17:30-19:00	PICU内	約10名	蘇生シミュレーション	黒澤・青木・ 宮下・山本・ 當間

蘇生シミュレーション	小児集中治療科	2020.8.27	17:30-19:00	PICU内	約10名	蘇生シミュレーション	黒澤・青木・ 宮下・山本・ 當間
蘇生シミュレーション	小児集中治療科	2020.9.14	17:30-19:00	PICU内	約10名	蘇生シミュレーション	黒澤・青木・ 宮下・山本・ 當間
蘇生シミュレーション	小児集中治療科	2020.9.24	17:30-19:00	PICU内	約10名	蘇生シミュレーション	黒澤・青木・ 宮下・山本・ 當間
蘇生シミュレーション	小児集中治療科	2020.10.14	17:30-19:00	PICU内	約10名	蘇生シミュレーション	黒澤・青木・ 宮下・山本・ 當間
蘇生シミュレーション	小児集中治療科	2020.10.19	17:30-19:00	PICU内	約10名	蘇生シミュレーション	黒澤・青木・ 宮下・山本・ 當間
蘇生シミュレーション	小児集中治療科	2020.11.19	17:30-19:00	PICU内	約10名	蘇生シミュレーション	黒澤・青木・ 宮下・山本・ 當間
RSTラウンド・カンファ レンス	RST(呼吸ケアサ ポートチーム)	第1、3金曜日	10:30-11:30	3F カンファレンス1	5~6	RSTラウンド症例・コンサルテーション症例についての 検討、RSTマニュアル作成および検討	RST担当者
薬剤部勉強会	薬剤部	1月16日	17:30~18:30	薬剤部	15	症例検討会	
薬剤部勉強会	薬剤部	2月17日	17:30~18:30	薬剤部	14	症例検討会	
薬剤部勉強会	薬剤部	3月16日	17:30~18:30	薬剤部	12	症例検討会	
薬剤部勉強会	薬剤部	6月15日	17:30~18:30	薬剤部	14	症例検討会	
薬剤部勉強会	薬剤部	7月16日	17:30~18:30	薬剤部	12	症例検討会	
薬剤部勉強会	薬剤部	8月19日	17:30~18:30	薬剤部	12	症例検討会	
薬剤部勉強会	薬剤部	9月15日	17:30~18:30	薬剤部	14	症例検討会	
薬剤部勉強会	薬剤部	10月13日	17:30~18:30	薬剤部	13	症例検討会	
薬剤部勉強会	薬剤部	11月4日	17:30~18:30	薬剤部	16	製品勉強会「バクスミー」	
薬剤部勉強会	薬剤部	11月9日	17:30~18:30	薬剤部	12	症例検討会	
薬剤部勉強会	薬剤部	11月19日	17:30~18:30	薬剤部	15	製品勉強会「ルムジュエ」	
薬剤部勉強会	薬剤部	12月8日	17:30~18:30	薬剤部	17	感染制御 勉強会	
薬剤部勉強会	薬剤部	12月9日	17:30~18:30	薬剤部	13	症例検討会	
薬剤部勉強会	薬剤部	12月24日	17:30~18:30	薬剤部	15	製品勉強会「アネレム」	
要胎CSSシミュレーション	産科・OP室・ 新生児科	6月4日	13:30-14:30	産科・OP室・新生児	30	要胎予定CSのシミュレーション	産科担当者

超緊急帝王切開のシミュレーション	産科/OP室	11月	15:00-16:00	産科・OP室・新生児	40	超緊急帝王切開のシミュレーション	産科災害担当
パルスオキシメーター(N-B S) 勉強会	ME	7月17日	13:00~16:40	各病棟	70	新機種導入に向けた取り扱い説明	ME木場
Spectra Optia装置勉強会	PICU	8月27日	15:30~16:00	PICU	10	Spectra Optia装置取り扱い説明	ME木場
人工心肺勉強会	手術室	9月23日	15:40~17:00	手術室	11	人工心肺とは	ME川相
ハートスターXL+勉強会	ME	11月11日	14:00~15:00	各病棟	18	新機種導入に向けた取り扱い説明	ME橋本
在宅呼吸器勉強会	6 E	1月26日	9:00~10:00	6 E	6	トリロジー取り扱い説明	ME橋本
検査部研修会	検査部	1月9日	16:00-17:00	検査部会議室	10	成育医療センター見学報告・ISO勉強会	ハ衫
検査部看護部合同研修	検査部・看護部	1月28日	16:30-17:00	採血室	19	採血室患者急変時シミュレーション	鎌田看護師
検査部研修会	検査部	2月4日	15:30-16:05	検査部会議室	12	小児採血のコツタイ研修報告	大竹医師 (感染症内科)
検査部研修会	検査部	3月9日	16:00-16:30	検査部会議室	12	臨地実習報告	神戸常盤大学 学生
検査部研修会	検査部	6月13日	8:45-17:30	講堂	25	ISO 15189:2012 規格解説研修会	積水メディカル 刈谷文雄
検査部研修会	検査部	7月2-3日	16:00-16:30	検査部会議室	30	ISO 15189 予備訪問 是正処置報告	山内
検査部研修会	検査部	7月28日	16:30-16:55	検査部会議室	14	救急医療における脳死患者の対応セミナーに参加して	藤本
検査部研修会	検査部	8月20日	17:45-19:00	検査部会議室	6	血性止血勉強会 (WEBセミナー)	シズメックス
検査部研修会	検査部	9月28日	16:00-16:30	検査部会議室	15	新生児医療におけるIL-6測定の有用性	岩谷医師 (新生児内科)
検査部研修会	検査部	9月29日	16:00-16:30	検査部会議室	9	KYT (シャント造設患者の採血)	山内
検査部研修会	検査部	10月20-21日	16:00-16:30	検査部会議室	26	マネジメントレビュー報告会	千田・山内
検査部研修会	検査部	10月29日	17:30-18:45	検査部会議室	13	ISO 15189審査報告と是正処置の原因究明方法	ハ衫(こころの 医療センター)
検査部研修会	検査部	11月2日	16:00-16:35	検査部会議室	10	ISO 15189審査報告と是正処置の原因究明方法	山内・嵯峨
検査部研修会	検査部	11月25-27日	16:00-17:00	検査部会議室	29	ISO 15189初回審査指摘事項の規格要求事項を理解する	千田・山内・ 嵯峨
検査部研修会	検査部	12月14-16日	16:00-17:00	PCR室	15	フィルムアレイの操作方法と時間外の運用について	山本正子
検査部研修会	検査部	12月22日	16:00-16:30	検査部会議室	15	実例から見た精度管理報告書の書き方特定要因図の作成 および利用方法	野口・藤本
検査部研修会	検査部	12月23日	16:00-16:30	検査部会議室	7	KYT (検査オーダーキャンセル処理)	山内
放射線部勉強会	放射線部	5月29日	16:30~17:30	放射線部	5	最新MRI装置について(1)	山下哲也
放射線部勉強会	放射線部	6月5日	16:30~17:30	放射線部	5	最新MRI装置について(2)	山下哲也
放射線部勉強会	放射線部	7月22日	16:30~17:30	放射線部	5	線量管理ソフトの使用説明について	時 克志
放射線部勉強会	放射線部	7月31日	16:30~17:00	看護部会議室	10	MRI検査における金属探知機の操作使用説明について	廣瀬悦子
放射線部勉強会	放射線部	8月17日	8:40~8:50	放射線部	8	パニック画像報告について	爰河恵理

看護部部署内勉強会（2020年度）

名称	主催	開催日	時間	場所	参加数	テーマ	発表者/担当
院内BLS講習会	院内BLSWG	2020.3.18	17:30-18:30	北館会議室	30	院内BLS 指導者養成コース	青木/吉村Ns/ 藤原Ns
ファシリテーション勉強会	6西看護師	2020.8.25	17:30-18:30	北館会議室	30	シミュレーションにおけるファシリテーションスキル	宮下/青木
RST・看護部呼吸障害ケア部会主催勉強会	RST・呼吸障害 ケア部会	2020.9.18	17:30-18:30	北館会議室	30	DOPEと換気デバイス実習	青木/吉村Ns
RST・看護部呼吸障害ケア部会主催勉強会	RST・呼吸障害 ケア部会	2020.10.16	17:30-18:30	講堂	30	DOPEと換気デバイス実習	青木/吉村Ns

V ボランティア

令和2年度 ボランティア受け入れ状況

ボランティアの状況

ボランティア	内容	活動頻度	活動人数	活動場所
神戸市生活指導研究会	看護用品、医療材料、保育材料などの作成	1～2/月 (7～11月)	3人	ボランティア室

イベントボランティアの状況

イベントボランティア	内容	活動頻度	活動人数	活動場所
認定特定非営利活動法人 クリニクラウン協会	DVDによる動画配信 「クラニクラウンビデオレター」No.1 No.2	2回	院内スタッフによる 放映	外来、病棟
ワンダアートプロダクション 代表 高橋雅子	「ハッピードールプロジェクト」 「ハッピードール」の制作を通して、患者・家族 の心を応援する”	1回	院内保育士が協力	一般病棟
公益財団法人 神戸市民文化振興財団	「病院が美術館に アート展 in こども病院」の 開催 ザ・ロケット・ゴールド・スター氏の作品展	1回 11/18～12/18	3人 + アーティスト	外来
兵庫県立こども病院 げんきガエル音楽隊	「げんきガエル音楽隊クリスマス会」 演奏の様子の動画を作成し、希望される病室で 上映会を実施”	1回	6人	一般病棟、産科病棟、外来

※今年度は、新型コロナウイルス感染症のため、患者に接触する個人ボランティア、イベントボランティアは活動の制限を行った。

